令和３年度

講 義 計 画 書

（シラバス）

鹿児島県立短期大学

総　　目　　次

1	教養科目（人文，社会，自然，総合）	1
2	教養科目（外国語科目）	11
3	教養科目（スポーツ・健康科目）	41
4	教養科目（情報科目）	45
5	日本語日本文学専攻専門科目	51
6	英語英文学専攻専門科目	76
7	生活科学科共通科目	115
8	食物栄養専攻専門科目	117
9	生活科学専攻専門科目	137
10	第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）	160
11	経済専攻専門科目	173
12	経営情報専攻専門科目	187
13	第二部商経学科教養科目（教養一般）	197
14	第二部商経学科教養科目（外国語科目）	203
15	第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）	208
16	第二部商経学科教養科目（情報科目）	209
17	第二部商経学科専門科目	211
18	商経学科の演習・実習科目	240
19	教職に関する科目	243
20	司書教諭に関する科目	275

文学科　日本語日本文学専攻

【教養科目】

（人文）

日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 3
社会学 …… 4
生活と経済 …… 4
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 5
物理の世界 …… 6
生物の科学 …… 6
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 7

（総合）

平和論 …… 8
環境問題 …… 8
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 9
社会活動 …… 10
企業研修 …… 10

（外国語科目）

英語Ⅰ（A） …… 11
英語Ⅰ（A） …… 11
英語Ⅱ（A） …… 16
英語Ⅱ（A） …… 16
英語Ⅲ（D） …… 22
英語Ⅲ（E） …… 23
英語Ⅲ（F） …… 23
英語Ⅲ（G） …… 24
英語Ⅲ（H） …… 24
英語Ⅳ（A） …… 25
英語Ⅳ（B） …… 25
英語Ⅳ（F） …… 27
英語Ⅳ（G） …… 28
異文化コミュニケーション（英語） …… 29
異文化コミュニケーション（中国語） …… 29
中国語Ⅰ（A） …… 32
中国語Ⅰ（B） …… 32
中国語Ⅰ（H） …… 35
中国語Ⅱ（A） …… 36
中国語Ⅱ（B） …… 36
中国語Ⅱ（H） …… 39
中国語Ⅲ …… 40
中国語Ⅳ …… 40

（スポーツ・健康科目）

スポーツ・健康論 …… 41
生涯スポーツ実習Ⅰ（A） …… 41
生涯スポーツ実習Ⅱ（A） …… 43

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（A） …… 45
情報リテラシーⅡ（A） …… 48

【専門科目】

（専門基礎科目）

日本文学概論 …… 51
言語学概論 …… 51

（日本語学科目）

日本語学概論 …… 52
日本語教育概論 …… 52
日本語史 …… 53
日本文法論 …… 53
日本語学講義 …… 54
日本語学講読Ⅰ …… 54
日本語学講読Ⅱ …… 55
日本語学演習Ⅰ･Ⅲ …… 55
日本語学演習Ⅱ …… 56
日本語学演習Ⅳ･Ⅵ …… 56
日本語学演習Ⅴ …… 57
日本語表現法 …… 57
日本語表現法演習 …… 58
対照言語学 …… 58

（日本文学「古典」科目）

日本文学講義Ⅰ …… 59
日本文学講読Ⅰ …… 59
日本文学講読Ⅱ …… 60
日本文学講読Ⅲ …… 60
日本文学演習Ⅰ・Ⅲ …… 61
日本文学演習Ⅱ …… 61

（日本文学「近代」科目）

日本文学史・近代Ⅰ …… 62
日本文学史・近代Ⅱ …… 62
日本文学講義Ⅱ …… 63
日本文学講読Ⅳ …… 63
日本文学講読Ⅴ …… 64
日本文学講読Ⅵ …… 64
日本文学講読Ⅶ …… 65
日本文学演習Ⅳ・Ⅵ …… 65
日本文学演習Ⅴ …… 66

（地域文学・中国文学科目）

南九州の文学 …… 66
中国文学史Ⅰ …… 67
中国文学史Ⅱ …… 67
中国文学講読Ⅰ …… 68
中国文学講読Ⅱ …… 68
中国文学演習Ⅰ …… 69
中国文学演習Ⅱ …… 69
中国文学演習Ⅲ …… 70

（卒業研究）

卒業研究Ⅰ・Ⅱ …… 70

（関連科目）

比較文化 …… 71
英文学史 …… 71
米文学史 …… 72
読書と豊かな人間性 …… 72
情報メディアの活用 …… 73
書道Ⅰ …… 74
書道Ⅱ …… 74
書道Ⅲ …… 75
書道Ⅳ …… 75

【教職に関する科目】

教職入門 …… 243
教育原理 …… 244
教育心理学 …… 245～246
特別支援教育概論 …… 247
教育行政学概論 …… 248
教育課程論 …… 249～250
国語科教育法Ⅰ …… 251
国語科教育法Ⅱ …… 252
道徳教育指導論 …… 260
総合的な学習の時間の指導法 …… 262
特別活動指導論 …… 263
教育方法学概論 …… 265
生徒指導論 …… 266～267
進路指導論 …… 268
教育相談 …… 269～270
教職実践演習（中） …… 271
教育実習 …… 273

【司書教諭に関する科目】

学校経営と学校図書館 …… 275
学習指導と学校図書館 …… 275
読書と豊かな人間性 …… 276
情報メディアの活用 …… 276

文学科　英語英文学専攻

【教養科目】

（人文）

日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 3
社会学 …… 4
生活と経済 …… 4
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 5
物理の世界 …… 6
生物の科学 …… 6
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 7

（総合）

平和論 …… 8
環境問題 …… 8
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 9
社会活動 …… 10
企業研修 …… 10

（外国語科目）

英語Ⅲ（A） …… 21
英語Ⅲ（B） …… 21
英語Ⅲ（C） …… 22
英語Ⅲ（D） …… 22
英語Ⅲ（E） …… 23
英語Ⅲ（F） …… 23
英語Ⅲ（G） …… 24
英語Ⅲ（H） …… 24
英語Ⅳ（A） …… 25
英語Ⅳ（B） …… 25
英語Ⅳ（C） …… 26
英語Ⅳ（D） …… 26
英語Ⅳ（E） …… 27
英語Ⅳ（F） …… 27
英語Ⅳ（G） …… 28
異文化コミュニケーション（英語） …… 29
異文化コミュニケーション（中国語） …… 29
ドイツ語Ⅰ …… 30
ドイツ語Ⅱ …… 30
フランス語Ⅰ …… 31
フランス語Ⅱ …… 31
中国語Ⅰ（B） …… 32
中国語Ⅰ（G） …… 35
中国語Ⅰ（H） …… 35
中国語Ⅱ（B） …… 36
中国語Ⅱ（G） …… 39
中国語Ⅱ（H） …… 39
中国語Ⅲ …… 40
中国語Ⅳ …… 40

（スポーツ・健康科目）

スポーツ・健康論 …… 41
生涯スポーツ実習Ⅰ（B） …… 41
生涯スポーツ実習Ⅱ（B） …… 43

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（B） …… 45
情報リテラシーⅡ（B） …… 48

【専門科目】

（専門基礎科目）

スタディスキルズ …… 76
コミュニケーション概論 …… 77
英語学概論 …… 77
英文学概論 …… 78
比較文化 …… 79

（コミュニケーション科目）

オーラルコミュニケーションⅠ …… 80～82
オーラルコミュニケーションⅡ …… 84～85
オーラルコミュニケーションⅢ …… 85～86
オーラルコミュニケーションⅣ …… 87
英語表現法Ⅰ …… 88
英語表現法Ⅱ …… 89
英語表現法Ⅲ …… 90
英語コミュニケーション演習Ⅰ …… 91
英語コミュニケーション演習Ⅱ …… 91
英語コミュニケーション演習Ⅲ …… 92
通訳入門Ⅰ …… 92
通訳入門Ⅱ …… 93

（英語学科目）

英文法 …… 93
英語史 …… 94
英語音声学 …… 94
講読演習Ⅰ …… 95
基礎演習Ⅰ …… 95～96
英語学演習 …… 96～97

（英米文学科目）

英文学史 …… 97
米文学史 …… 98
比較文学 …… 98
英米文学講読Ⅰ …… 99
英米文学講読Ⅱ …… 100
英米文学講読Ⅲ …… 100
講読演習Ⅱ …… 101
基礎演習Ⅱ …… 101～102
英米文学演習 …… 102～103

（比較文化科目）

イギリス事情 …… 104
アメリカ事情 …… 104
ヨーロッパ事情 …… 105
講読演習Ⅲ …… 105
基礎演習Ⅲ …… 106
比較文化演習 …… 106

（関連科目）

対照言語学 …… 107
言語学概論 …… 107
日本語学概論 …… 108
日本文学史Ⅰ …… 108
日本文学史Ⅱ …… 109
日本語教育概論 …… 109
国際経済論 …… 110
国際関係論 …… 110
検定対策講座Ⅰ …… 111
検定対策講座Ⅱ …… 112

（卒業研究）

卒業研究 …… 112～114

【教職に関する科目】

教職入門 …… 243
教育原理 …… 244
教育心理学 …… 245～246
特別支援教育概論 …… 247
教育行政学概論 …… 248
教育課程論 …… 249～250
英語科教育法Ⅰ …… 252～254
英語科教育法Ⅱ …… 254～255
道徳教育指導論 …… 259
総合的な学習の時間の指導法 …… 262
特別活動指導論 …… 263
教育方法学概論 …… 265
生徒指導論 …… 266～267
進路指導論 …… 268
教育相談 …… 269～270
教職実践演習（中） …… 271
教育実習 …… 273

【司書教諭に関する科目】

学校経営と学校図書館 …… 275
学習指導と学校図書館 …… 275
読書と豊かな人間性 …… 276
情報メディアの活用 …… 276

生活科学科　食物栄養専攻

【教養科目】

（人文）

文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 3
社会学 …… 4
生活と経済 …… 4
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 5
物理の世界 …… 6
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 7

（総合）

平和論 …… 8
環境問題 …… 8
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 9
社会活動 …… 10
企業研修 …… 10

（外国語科目）

英語Ⅰ（C） …… 13
英語Ⅰ（C） …… 13
英語Ⅱ（C） …… 18
英語Ⅱ（C） …… 18
英語Ⅲ（A） …… 21
英語Ⅲ（B） …… 21
英語Ⅲ（C） …… 22
英語Ⅳ（A） …… 25
英語Ⅳ（B） …… 25
英語Ⅳ（F） …… 27
英語Ⅳ（G） …… 28
異文化コミュニケーション（英語） …… 29
異文化コミュニケーション（中国語） …… 29
フランス語Ⅰ …… 31
フランス語Ⅱ …… 31
中国語Ⅰ（F） …… 34
中国語Ⅰ（H） …… 35
中国語Ⅱ（F） …… 38
中国語Ⅱ（H） …… 39

（スポーツ・健康科目）

生涯スポーツ実習Ⅰ（C） …… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（C） …… 43

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（C） …… 46
情報リテラシーⅡ（C） …… 49

【専門科目】

（生活科学科目）

生活科学概論 …… 115
生活経営学 …… 115
人間関係論 …… 116
社会福祉論 …… 116

（基礎科目）

〈食物に関する科目〉

食品学Ⅰ …… 117
食品学Ⅱ …… 117
食品学実験 …… 118
食品衛生学 …… 118
食品衛生学実験 …… 119
食品加工学 …… 119
調理学 …… 120
調理学実習Ⅰ …… 120
調理学実習Ⅱ …… 121
調理学実習Ⅲ …… 121

〈消化・吸収・代謝に関する科目〉

栄養学総論 …… 122
栄養学各論 …… 122
栄養学実習 …… 123
解剖生理学 …… 123
解剖生理学実験 …… 124
生化学Ⅰ …… 124
生化学Ⅱ …… 125
生化学実験 …… 125

〈健康と運動に関する科目〉

健康と運動 …… 126
健康管理概論 …… 126
公衆衛生学 …… 127
運動生理学 …… 127

（応用科目）

〈給食の管理に関する科目〉

給食管理 …… 128
給食管理実習Ⅰ …… 128
給食管理実習Ⅱ …… 129
給食管理実習Ⅲ …… 129

〈栄養の指導〉

栄養教育論 …… 130
栄養指導論Ⅰ …… 130
栄養指導論Ⅱ …… 131
栄養指導論実習Ⅰ …… 131
栄養指導論実習Ⅱ …… 132
公衆栄養学 …… 132
栄養情報処理 …… 133

〈臨床関連科目〉

臨床栄養学Ⅰ …… 133
臨床栄養学Ⅱ …… 134
臨床栄養学実習 …… 134
病理学 …… 135

〈栄養教諭関連科目〉

学校栄養教育論 …… 135

（その他）

化学概論 …… 136
生物概論 …… 136

【教職に関する科目】

教職入門 …… 243
教育原理 …… 244
教育心理学 …… 245～246
特別支援教育概論 …… 247
教育行政学概論 …… 248
教育課程論 …… 249～250
道徳教育の指導法 …… 261
特別活動論 …… 263
教育方法学概論 …… 264
生徒指導論 …… 266～267
教育相談 …… 269～270
教職実践演習（栄養教諭） …… 272
栄養教育実習 …… 273
栄養教育実習の事前事後の指導 …… 274

生活科学科　生活科学専攻

【教養科目】

（人文）

文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 3
社会学 …… 4
生活と経済 …… 4
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 5
物理の世界 …… 6
生物の科学 …… 7
食生活と健康 …… 7

（総合）

現代人権論 …… 8
鹿児島学 …… 8
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 9
社会活動 …… 10
企業研修 …… 10

（外国語科目）

英語Ⅰ（B） …… 12
英語Ⅰ（B） …… 12
英語Ⅱ（B） …… 17
英語Ⅱ（B） …… 17
英語Ⅲ（A） …… 21
英語Ⅲ（B） …… 21
英語Ⅲ（C） …… 22
英語Ⅳ（A） …… 25
英語Ⅳ（B） …… 25
英語Ⅳ（F） …… 27
英語Ⅳ（G） …… 28
異文化コミュニケーション（英語） …… 29
異文化コミュニケーション（中国語） …… 29
フランス語Ⅰ …… 31
フランス語Ⅱ …… 31
中国語Ⅰ（G） …… 35
中国語Ⅰ（H） …… 35
中国語Ⅱ（G） …… 39
中国語Ⅱ（H） …… 39

（スポーツ・健康科目）

スポーツ・健康論 …… 41
生涯スポーツ実習Ⅰ（D） …… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（D） …… 44

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（D） …… 46
情報リテラシーⅡ（D） …… 49

【専門科目】

（専門基礎系）

生活科学概論 …… 115
生活化学 …… 137
衣生活学 …… 137
住生活学 …… 138
人間関係論 …… 116

色彩学 …… 138
ビジュアルデザイン論Ⅰ …… 139
ファッション造形基礎 …… 138

（ライフデザイン系）

生活経営学 …… 115
社会福祉論 …… 116
生活文化 …… 140
生活化学実験 …… 141
食物と栄養 …… 141
調理学 …… 142
調理実習 …… 142
保育学 …… 143
卒業研究Ａ …… 143～144

（ファッションデザイン系）

ファッションデザイン論 …… 144
ファッション造形Ⅰ …… 145
ファッション造形Ⅱ …… 145

ファッションビジネス …… 146
卒業研究Ｂ …… 146

（ビジュアルデザイン系）

ビジュアルデザイン基礎Ⅰ …… 147
ビジュアルデザイン基礎Ⅱ …… 147
ビジュアルデザイン論Ⅱ …… 148
ビジュアルデザインⅠ …… 148
ビジュアルデザインⅡ …… 149
卒業研究Ｃ …… 149

（建築デザイン系）

住居史 …… 150
住居・インテリア設計学 …… 150
設計製図Ⅰ …… 151
設計製図Ⅱ …… 151
住居構造学Ⅰ …… 152
住居構造学Ⅱ …… 152
住居環境学 …… 153
住居環境学演習 …… 153
建築材料学 …… 154
建築生産 …… 154
建築法規 …… 155
ＣＡＤ設計 …… 155
建築史 …… 156
ＣＡＤ設計特講 …… 156
設計製図Ⅲ …… 157
設計製図Ⅳ …… 157
空間デザイン論 …… 158
空間デザインⅠ …… 158
空間デザインⅡ …… 159
卒業研究Ｄ …… 159

【教職に関する科目】

教職入門 …… 243
教育原理 …… 244
教育心理学 …… 245～246
特別支援教育概論 …… 247
教育行政学概論 …… 248
教育課程論 …… 249～250
家庭科教育法Ⅰ …… 256～257
家庭科教育法Ⅱ …… 258
道徳教育指導論 …… 259
総合的な学習の時間の指導法 …… 262
特別活動指導論 …… 263
教育方法学概論 …… 265
生徒指導論 …… 266～267
進路指導論 …… 268
教育相談 …… 269～270
教職実践演習（中） …… 271
教育実習 …… 273

【司書教諭に関する科目】

学校経営と学校図書館 …… 275
学習指導と学校図書館 …… 275
読書と豊かな人間性 …… 276
情報メディアの活用 …… 276

被服材料学 ····· 140

商経学科　経済専攻

【教養科目】

（人文）

文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 3
社会学 …… 4
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 5
物理の世界 …… 6
生物の科学 …… 6
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 7

（総合）

平和論 …… 8
環境問題 …… 8
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 9

（外国語科目）

英語Ⅰ（D） …… 14
英語Ⅰ（D） …… 14
英語Ⅰ（D） …… 15
英語Ⅰ（D） …… 15
英語Ⅱ（D） …… 19
英語Ⅱ（D） …… 19
英語Ⅱ（D） …… 20
英語Ⅱ（D） …… 20
英語Ⅲ（D） …… 22
英語Ⅲ（E） …… 23
英語Ⅲ（F） …… 23
英語Ⅲ（G） …… 24
英語Ⅲ（H） …… 24
英語Ⅳ（C） …… 26
英語Ⅳ（D） …… 26
英語Ⅳ（E） …… 27
英語Ⅳ（F） …… 27
英語Ⅳ（G） …… 28
異文化コミュニケーション（英語） …… 29
異文化コミュニケーション（中国語） …… 29
中国語Ⅰ（C） …… 33
中国語Ⅰ（E） …… 34
中国語Ⅰ（H） …… 35
中国語Ⅱ（C） …… 37
中国語Ⅱ（E） …… 38
中国語Ⅱ（H） …… 39
中国語Ⅲ …… 40
中国語Ⅳ …… 40

（スポーツ・健康科目）

スポーツ・健康論 …… 41
生涯スポーツ実習Ⅰ（E） …… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（E） …… 43～44

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（E） …… 47
情報リテラシーⅡ（E） …… 50

【専門科目】

（専門基礎科目）

〈基礎理論〉

情報社会論 …… 160
現代社会論 …… 160
社会哲学 …… 161
経済学 …… 161
文化と社会（かごしまと世界） …… 162
消費者問題 …… 162
行政法 …… 163
経済政策 …… 163
社会政策 …… 164
民法 …… 164
商法 …… 165
産業心理学 …… 165
会計学総論 …… 166
簿記論Ⅰ …… 166
経営学総論 …… 167

〈情報基礎〉

情報科学概論 …… 167
文書作成実習 …… 168
統計学 …… 169
応用文書処理 …… 169
ＰＣデータ活用 …… 170
ＰＣデータ活用実習 …… 170
ＰＣアプリケーション実習 …… 172

（専攻専門科目）

〈経済理論〉

日本経済論 …… 173
財政学 …… 174
農業経済論 …… 175
金融論 …… 175
経済学史 …… 176
経済学特講Ⅰ …… 176
経済学特講Ⅱ …… 177
法学特講 …… 177
簿記論Ⅱ …… 178

〈国際環境〉

国際経済論 …… 178
アジア経済論 …… 179
国際関係論 …… 179
比較文化 …… 180
アジア事情 …… 180
ヨーロッパ経済事情 …… 181
国際経済特講Ⅰ …… 181
国際経済特講Ⅱ …… 182

〈地域政策〉

地域経済論 …… 182
地域産業政策 …… 183
地方自治論 …… 184
高齢者福祉 …… 184
労働法 …… 185
地域研究特講 …… 185
地方自治法 …… 186

〈演習・実習〉

基礎演習 …… 240～241
演習Ⅰ …… 240～241
演習Ⅱ …… 240～241
卒業研究 …… 240～241
社会活動 …… 242
企業研修 …… 242

商経学科　経営情報専攻

【教養科目】

（人文）

文学の世界 …… 1
日本の歴史 …… 1
こころの科学 …… 2
芸術論 …… 2

（社会）

日本国憲法 …… 3
法学概論 …… 3
社会学 …… 4
キャリアデザイン …… 5

（自然）

数学の世界 …… 5
物理の世界 …… 6
生物の科学 …… 6
化学の世界 …… 7
食生活と健康 …… 7

（総合）

平和論 …… 8
環境問題 …… 8
かごしま教養プログラム …… 9
かごしまフィールドスクール …… 9

（外国語科目）

英語Ⅰ（D）…… 14
英語Ⅰ（D）…… 14
英語Ⅰ（D）…… 15
英語Ⅰ（D）…… 15
英語Ⅱ（D）…… 19
英語Ⅱ（D）…… 19
英語Ⅱ（D）…… 20
英語Ⅱ（D）…… 20
英語Ⅲ（D）…… 22
英語Ⅲ（E）…… 23
英語Ⅲ（F）…… 23
英語Ⅲ（G）…… 24
英語Ⅲ（H）…… 24
英語Ⅳ（C）…… 26
英語Ⅳ（D）…… 26
英語Ⅳ（E）…… 27
英語Ⅳ（F）…… 27
英語Ⅳ（G）…… 28
異文化コミュニケーション（英語）…… 29
異文化コミュニケーション（中国語）…… 29
中国語Ⅰ（D）…… 33
中国語Ⅰ（E）…… 34
中国語Ⅰ（H）…… 35
中国語Ⅱ（D）…… 37
中国語Ⅱ（E）…… 38
中国語Ⅱ（H）…… 39
中国語Ⅲ …… 40
中国語Ⅳ …… 40

（スポーツ・健康科目）

スポーツ・健康論 …… 41
生涯スポーツ実習Ⅰ（F）…… 42
生涯スポーツ実習Ⅱ（F）…… 43～44

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（F）…… 47
情報リテラシーⅡ（F）…… 50

【専門科目】

（専門基礎科目）

〈基礎理論〉

情報社会論 …… 160
現代社会論 …… 160
社会哲学 …… 161
経済学 …… 161
文化と社会（かごしまと世界） …… 162
消費者問題 …… 162
行政法 …… 163
経済政策 …… 163
社会政策 …… 164
民法 …… 164
商法 …… 165
産業心理学 …… 165
会計学総論 …… 166
簿記論Ⅰ …… 166
経営学総論 …… 167

〈情報基礎〉

情報科学概論 …… 167
文書作成実習 …… 168
統計学 …… 169
応用文書処理 …… 169
ＰＣデータ活用 …… 171
ＰＣデータ活用実習 …… 171
ＰＣアプリケーション実習 …… 172

（専攻専門科目）

〈経営理論〉

簿記論Ⅱ …… 187
経営管理論 …… 187
経営組織論 …… 188
労務管理論 …… 188
管理会計論 …… 189
原価計算 …… 189
国際経営論 …… 190
経営学特講Ⅰ …… 190
比較経営論 …… 191

〈情報分析〉

会計情報論 …… 191
企業行動科学 …… 192
経営戦略論 …… 192
財務会計論 …… 193
マーケティング論 …… 193

〈情報活用〉

経営工学 …… 194
応用データ活用 …… 194
プログラミング …… 195
簿記論Ⅲ …… 195
情報論特講 …… 196

〈演習・実習〉

基礎演習 …… 240～241
演習Ⅰ …… 240～241
演習Ⅱ …… 240～241
卒業研究 …… 240～241
社会活動 …… 242
企業研修 …… 242

第二部商経学科

【教養科目】

（教養一般）

人間と文化 …… 197
日本の歴史 …… 197
日本文学・古典 …… 198
こころの科学 …… 198
比較文化 …… 199
アジア文化論 …… 199
日本国憲法 …… 200
ライフプランニング …… 200
環境問題 …… 201
かごしま教養プログラム …… 201
かごしまフィールドスクール …… 202
キャリアデザイン …… 202

（外国語科目）

英語Ⅰ（A） …… 203
英語Ⅰ（B） …… 203
英語Ⅱ（A） …… 204
英語Ⅱ（B） …… 204
異文化コミュニケーション（英語） …… 205
異文化コミュニケーション（中国語） …… 205
中国語Ⅰ（A） …… 206
中国語Ⅰ（B） …… 206
中国語Ⅱ（A） …… 207
中国語Ⅱ（B） …… 207

（スポーツ・健康科目）

生涯スポーツ実習Ⅰ …… 208
生涯スポーツ実習Ⅱ …… 208

（情報科目）

情報リテラシーⅠ（A） …… 209
情報リテラシーⅠ（B） …… 209
情報リテラシーⅡ（A） …… 210
情報リテラシーⅡ（B） …… 210

【専門科目】

（専門基礎科目）

〈基礎理論〉

情報社会論 …… 211
社会哲学 …… 211
経済学 …… 212
行政法 …… 212
経済政策 …… 213
社会政策 …… 213
民法 …… 214
商法 …… 214
産業心理学 …… 215
会計学総論 …… 215
簿記論Ⅰ …… 216
経営学総論 …… 216

〈情報基礎〉

情報科学概論 …… 217
文書作成実習 …… 217
統計学 …… 218
応用文書処理 …… 218
ＰＣデータ活用 …… 219
ＰＣデータ活用実習 …… 219
ＰＣアプリケーション実習（A） …… 220
ＰＣアプリケーション実習（B） …… 220

（専門応用科目）

〈経済理論〉

日本経済論 …… 221
財政学 …… 222
農業経済論 …… 223
金融論 …… 223
経済学史 …… 224
経済学特講 …… 224

〈地域と国際〉

国際経済論 …… 225
アジア経済論 …… 225
国際関係論 …… 226
アジア事情 …… 226
ヨーロッパ経済事情 …… 227
地域経済論 …… 227
地域産業政策 …… 228
地方自治論 …… 228
高齢者福祉 …… 229
労働法 …… 229
国際経済特講 …… 230
地域研究特講 …… 230
地方自治法 …… 231

〈経営理論〉

簿記論Ⅱ …… 231
経営管理論 …… 232
経営組織論 …… 232
労務管理論 …… 233
管理会計論 …… 233
国際経営論 …… 234
比較経営論 …… 234

〈情報分析・活用〉

会計情報論 …… 235
企業行動科学 …… 235
経営戦略論 …… 236
経営工学 …… 236
応用データ活用 …… 237
プログラミング …… 237
財務会計論 …… 238
情報論特講 …… 238
マーケティング論 …… 239

〈演習・実習〉

基礎演習 …… 240～241
演習Ⅰ …… 240～241
演習Ⅱ …… 240～241
卒業研究 …… 240～241
社会活動 …… 242
企業研修 …… 242

１　教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	**文学の世界**	担当者	轟義昭，小林朋子，土肥克己
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】世界の文学 【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか？この授業では，3人の教員がイギリス，アメリカ，中国の3カ国を中心に，時間を超え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。 【到達目標】様々な作品を読み解き，文学作品に親しみを持ってもらう。各国の文学作品について考える。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし（プリント資料配付） (2)　その他必要に応じて授業時に指示する		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション，イギリス文学：C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』 第 2回　イギリス文学：J.スイフト『ガリヴァー旅行記』 第 3回　イギリス文学：W.シェイクスピア『リア王』 第 4回　イギリス文学：J.オーステイン『嵐が丘』（1） 第 5回　イギリス文学：J.オーステイン『嵐が丘』（2） 第 6回　アメリカ文学：アメリカ先住民の文学とブラッドフォード 第 7回　アメリカ文学：フランクリン『自叙伝』 第 8回　アメリカ文学：アメリカン・ルネッサンス 第 9回　アメリカ文学：人種系文学 第10回　アメリカ文学：自己の探求 第11回　中国の文学：三国志の魅力（1） 第12回　中国の文学：三国志の魅力（2） 第13回　中国の文学：三国志の魅力（3） 第14回　中国の文学：三国志の魅力（4） 第15回　中国の文学：日本での三国志		
授業外学習(予習・復習)	授業で紹介された作品を読む。(事前でも事後でも可)		
成績評価の方法	期末レポートの提出（70点），および講義に関する毎回の意見・感想等（30点）で評価します。レポートは3人の教員が出した課題から2つを選んで書くことになります。		

(注) 文学科を除く
(注) 受講者が45人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**日本の歴史**	担当者	甫尾　達哉
	〔履修年次〕　1年、2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本の歴史。日本史上の重要な学説、発見、思想、資料を学ぶ。 【概要】高等学校までの「日本史」では学ばないこと、深く学ぶ機会がなかったことをトピック的に取り上げ、日本の歴史についての関心を呼び起こすための授業。日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考える。 【到達目標】 日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考え、私たちが歴史と切り離された存在ではなく、歴史的な存在であることを深く理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　騎馬民族征服説（1）　日本史を学ぶ意義は何か 第 2回　騎馬民族征服説（2）　日本の国家はいつ成立したか 第 3回　騎馬民族征服説（3）　日本国家の成立契機は何か 第 4回　稲荷山古墳出土鉄剣銘文（1）銘文発見の経緯 第 5回　稲荷山古墳出土鉄剣銘文（2）銘文の釈読 第 6回　稲荷山古墳出土鉄剣銘文（3）銘文発見の歴史学的意義 第 7回　古代の罪と罰（1）　平城宮跡から出た墨書土器 第 8回　古代の罪と罰（2）　日本律の科刑軽減 第 9回　古代の罪と罰（3）　贈答と賄賂 第10回　中世の悪口　罵倒のことばに見る日本の中世社会 第11回　絵巻を読む（1）　絵巻とは何か 第12回　絵巻を読む（2）　描かれた中世の人びとのしぐさ 第13回　絵巻を読む（3）　女性の一人旅 第14回　古文書を読む（1）　正倉院文書の残された休暇願・借用書 第15回　古文書を読む（2）　戦国時代の古文書		
授業外学習(予習・復習)	予習：配布プリントにあらかじめ目を通す。復習：配布プリントを参照しながら授業内容を見返す		
成績評価の方法	筆記試験（１００%）		
実務経験について	1983年より鹿児島大学に日本史担当専任教員として勤務。		

(注) 受講者が72人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**こころの科学**	担当者	安部　幸志
	〔履修年次〕　1年，2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】科学的学問としての心理学について理解し、その方法論や心理学的知見の応用について知識を深める。受講生の多くは青年期に位置するため、思春期・青年期の心理学や親世代に当たる成人期以降の心理にも着目して講義を展開する。 【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。 【到達目標】①現代社会におけるこころの問題を理解するために、実証科学としての心理学に対する理解を深める。 ②身近な問題としてのこころの健康やその予防・維持に関する知識を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎事プリントによる資料を配布する。 (2)　①鹿取 廣人他著『心理学　第5版』東京大学出版会，2015年　②サトウ タツヤ ・渡邊 芳之著『心理学・入門―心理学はこんなに面白い』有斐閣，2011年		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　心理学とは：科学としての心理学 第 3回　こころの進化：動物にもこころはあるか 第 4回　こころの発達：赤ちゃんの心理 第 5回　こころの発達：人間の発達、青年期の心理 第 6回　こころの発達：中年期と女性の心理 第 7回　こころの発達：老年期の心理 第 8回　性格：血液型と認知バイアス 第 9回　知能：頭が良いのは遺伝か環境か　感覚・知覚 第10回　感覚・知覚 第11回　記憶の不思議 第12回　災害と心理 第13回　社会と心理 第14回　心理療法 第15回　ストレス		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業内課題（20%）、グループワーク（20%）、試験（60%）		
実務経験について	国立研究所にて保健医療に関する研究に従事した経験をもとに現代社会で求められる理論的・実践的知識を教授する。		

（注）受講者が130人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**芸術論**	担当者	北　一浩
	〔履修年次〕　1・2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。 【概要】芸術の中でも難解といわれる20世紀以降の現代アート（造形芸術）を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。 【到達目標】さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2)　参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　現代アートとは？　西洋美術史、現代アート、ルネサンス 第 3回　伝統と違うから興味ない？　アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像、 第 4回　美しいとは思えないのだけれど？　パブロ・ピカソ、アビニヨンの娘たち 第 5回　何が描いてあるかわからない　ワシリー・カンディンスキー、コンポジションⅣ 第 6回　上手だとは思えないのだけれど？　エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー、ストリートシーン ベルリン 第 7回　これがアートといえるの？　マルセル・デュシャン、泉 第 8回　そんなに値打ちがあるものなの？　ピエト・モンドリアン、コンポジションⅢ 第 9回　わかったような、わからないような　ルネ・マグリット、光の帝国 第10回　何なのか、意味がわからない　マーク・ロスコ、無題 第11回　アートとアートでないものの違いって？　アンディー・ウォーホール、ブリロボックス 第12回　許せる？許せない？　リチャード・セラ、傾いた狐 第13回　きれいなのに汚い？　アンドレス。セラーノ、ピス・クライスト 第14回　名作はあなたが見つけるもの　菅亮平、an actor 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	毎講義ごとのレポート（60%）　講義内で行うワーク（40%）		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務　フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動		

（注）受講者が130人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**日本国憲法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕　1,2 年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権，基本的人権の尊重，平和主義を体系的に理解した上で，日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。 【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに，基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年，その価値が問い直されている一方，新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では，国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権，平和に崇高な価値をおき，その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義，個人の尊厳の原理に基づき，個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として，人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。 【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し，政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　佐伯仁志他編，『ポケット六法（令和 3 年度版）』，有斐閣		
授業スケジュール	第 1 回　憲法概論　・国民主権，基本的人権の尊重，平和主義，権力分立主義の理念について 第 2 回　基本権総論　・私人間の人権保障，基本権の享有主体性，二重の基準の理論について 第 3 回　幸福追求権　・幸福追求権，人間の尊厳，プライバシーの権利，法の下の平等について 第 4 回　精神的自由権(1)　・思想・良心の自由，信教の自由，政教分離の原則について 第 5 回　精神的自由権(2)　・表現の自由，検閲の禁止，知る権利，通信の秘密，報道の自由について 第 6 回　精神的自由権(3)　・集会・結社の自由，検閲の禁止，LRA の基準，学問の自由，大学の自治について 第 7 回　経済的自由権　・職業選択の自由，居住・移転の自由，国籍離脱の自由，財産権について 第 8 回　受益権　・裁判を受ける権利，請願権，国家賠償請求権，刑事補償請求権について 第 9 回　社会権(1)　・生存権，環境権，教育を受ける権利，教育の自由について 第 10 回　社会権(2)　・勤労権，労働基本権，争議権，参政権，選挙権について 第 11 回　国会(1)　・国権の最高機関の意味，唯一の立法機関の意味，衆議院の優越について 第 12 回　国会(2)　・国会議員の地位，議員の特権，国会の活動，国会と議院の権能について 第 13 回　内閣　・内閣の地位，内閣総理大臣の権限，国務大臣の権限，内閣の責任について 第 14 回　裁判所　・最高裁判所の権限，統治行為論，違憲審査制について 第 15 回　財政　・財政民主主義，租税法律主義，国費支出議決主義，公金支出の禁止について		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。		

(注) 受講者が 72 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**法学概論**	担当者	疋田　京子
	〔履修年次〕　1 年，2 年	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】　法学入門 生まれてから死ぬまでの間、日々の生活の中で経験する可能性のある法律問題について、概観します。 【概要】「法律家は悪しき隣人」という法諺もあるように、中立性・客観性・合理性を追求する法は、日常の感覚からすると何かよそよそしいもののように感じるかもしれません。しかし、法律は私たちの日常に深くかかわっています。 【到達目標】様々な角度から法の事象に触れることによって、日常生活の中にある出来事にどう対処すればよいか、その基本的な判断力を磨くことを目指します。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　資料を配布する (2)　授業中にテーマごとの参考文献を紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：法の世界のプロローグ 第 2回　人生初期の法（1）法的な意味での人の始期と終期 第 3回　人生初期の法（2）法律の中の「子ども」 第 4回　人生初期の法（3）子どもをとりまく社会環境 第 5回　人生中期の法（1）国民主権と民主主義 第 6回　人生中期の法（2）私たちと裁判―法が在ること、法が実現されることは違う 第 7回　人生中期の法（3）消費生活と法：契約の成立から終了まで 第 8回　人生中期の法（4）職業生活と法：労働法の基本と多様な働き方 第 9回　人生中期の法（5）パートナーシップと法 第 10 回　人生中期の法（6）事故と法：不法行為法の基本 第 11 回　人生中期の法（7）犯罪と法：刑法とは何か 第 12 回　人生終期の法（1）高齢化と法：社会保障、成年後見制度、 第 13 回　人生終期の法（2）終末期と法：安楽死・尊厳死・脳死と臓器移植 第 14 回　発展的課題と法：グローバル化と法 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習を中心に，配布資料を熟読してください。		
成績評価の方法	最終レポート（80%）＋授業ごとのコメント（20%）		

(注) 受講者が 130 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	社会学	担当者	西原　誠司
	〔履修年次〕　1年，2年	授業外対応	メール・Line で連絡。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】Love　&　Peace の社会学――ベルリンの壁崩壊後の社会現象を科学する。 【概要】ベルリンの壁・ソ連邦の崩壊によって、米ソ冷戦体制は終結し、多くの人々が平和な世界の到来を予想した。だが、現実には、湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、9.11 同時多発テロを契機としたアフガン・イラク侵略戦争、ウクライナ紛争、シリア内戦、イスラム国の台頭、アフリカにおける部族紛争、米国における黒人青年射殺等々、むしろ平和な世界から遠ざかっているように思える。この講義ではこのような国際的な社会現象がおこる諸原因を科学的に分析・解明しその解決の方向性を探る。 【到達目標】世界の様々な人間と社会にかかわる諸現象をみずみずしい感性でとらえ、科学的に分析する能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、２０１５年） (2)　池田香代子&マガジンハウス『世界がもし１００人の村だったら　２　』（マガジンハウス，２００２年6月）		
授業スケジュール	第　1回　はじめに――日・中・韓の緊張とヘイトスピーチを考える 第　2回　ベルリンの壁崩壊と米・ソ冷戦体制の終結の世界史的意味を考える 第　3回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　① 第　4回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　② 第　5回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　③ 第　6回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　④ 第　7回　民族紛争・国家間紛争を暴力で解決しない新しいシステムの誕生――ＥＵの新しい実験　⑤ 第　8回　なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか――９．１１後のアメリカ社会を考える　① 第　9回　なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか――９．１１後のアメリカ社会を考える　② 第 10 回　なぜ、アメリカは戦争をやめられないのか――９．１１後のアメリカ社会を考える　③ 第 11 回　EU 加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩　① 第 12 回　EU 加盟をめざすモダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩　② 第 13 回　「イスラム国」／ウクライナ／アフリカの部族紛争 第 14 回　非暴力主義の系譜と世界平和――ガンジー／キング牧師／チャップリン／ネルソンマンデラ／ジョンレノン 第 15 回　おわりに――東アジア共同体・北東アジア共同体の可能性をさぐる。		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。		
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出 50%）および筆記試験（50%）。		

（注）受講生が 62 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	生活と経済	担当者	山口　祐司
	〔履修年次〕　1、2年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 現代の私たちはもはや自給自足だけでは生きていけず、コンビニやスーパー、レストラン、あるいは身の周りのものを作るメーカーといったさまざまな企業やそこで働く人たちに頼って生きています。また私たち自身誰かのために働きます。この意味で経済は人間社会の基礎です。この授業では生活にかかわる身近な経済問題を手がかりに経済の見方の基礎を学んでいきます。 【概要】 人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか（第2～3回）。消費者としての視点から、モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ（第4～6回）。労働者としての視点から、賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ（第7～10回）。市民としての視点から、税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ（第11～14回）。 【到達目標】 身近なことから経済のニュースへの関心をもつこと。企業の役割や課題を知ること。労働や社会保障にかんして、社会的役割、個人の権利、日本の実態について知識を身につけること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　講義時に提示		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　人間社会と経済の発展 第　3回　戦後日本の経済発展と現在 第　4回　生産と消費（1）ものづくり 第　5回　生産と消費（2）サービス 第　6回　生産と消費（3）社会的存在としての企業 第　7回　労働と賃金（1）賃金とは何か 第　8回　労働と賃金（2）働きすぎの日本社会 第　9回　労働と賃金（3）失業、不安定就労、貧困問題 第 10 回　労働と賃金（4）人間らしい労働への取り組み 第 11 回　税と社会保障（1）日本における税負担の構造 第 12 回　税と社会保障（2）税制度の公平性 第 13 回　税と社会保障（3）社会保障制度の役割 第 14 回　税と社会保障（4）日本における社会保障の貧困 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。		
成績評価の方法	期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%）		

（注）商経学科を除く

（注）受講者が 62 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**キャリアデザイン**	担当者	担当教員
	〔履修年次〕　1年	〔学期〕	通年
	〔単位〕　1	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　講義
テーマ及び概要	【テーマ】1年生が就職活動を始める前に，卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。 【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため，個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウ・ハウの伝授にとどまらず，キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方，企業社会の理解，企業選択に対して知っておくべきことや，退職や転職，再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて，将来，自らのキャリアパスを再デザインし，マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。 【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　適宜紹介		
授業スケジュール	◆5月19日（水）（特設時間を利用） 第1回　「総論」　キャリア・キャリアデザインとは ◆6月16日（水）（特設時間を利用） 第2回　「職業の見つけ方Ⅰ」　自己分析の仕方 ◆7月14日（水）（特設時間を利用） 第3回　「職業の見つけ方Ⅱ」　企業研究の仕方 ◆9月22日（木）3限 第4回　「職業の見つけ方Ⅲ」　企業・団体が求める人材と専門技能について ◆9月22日（木）4限 第5回　「職業の見つけ方Ⅳ」　先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆10月20日（水）（特設時間を利用） 第6回　「仕事と生活の擁護」 ◆11月10日（水）（特設時間を利用） 第7回　「キャリアプランの拡張Ⅰ」　自分を生かす転職について ◆12月22日（水）（特設時間を利用） 第8回　「キャリアプランの拡張Ⅱ」　プロフェッショナルになろう ※　3年度の講師については適宜掲示する。		
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出（100%）		

授業科目	**数学の世界**	担当者	愛甲　正
	〔履修年次〕　1年，2年	授業外対応	講義終了時及びメールによる（アドレスは講義中に告知）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 数学を愉しむ 【概要】 小学校の算数や中学校・高等学校の数学で学習した知識等を活用し，数学のよさや美しさなどを実感することによって，数学を愉しむことを目的とする。 【到達目標】 ・基礎的な数学的知識を理解する。 ・数学的に考えることを愉しむことができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　講義中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス 第　2回　n進法 第　3回　九九表 第　4回　ロッカー問題 第　5回　ハノイの塔 第　6回　黄金比 第　7回　敷き詰め 第　8回　はと目返し 第　9回　ポリオミノ 第10回　正三角形を折る 第11回　一裁ち折り紙 第12回　一筆書き 第13回　結び目 第14回　問題をつくろう 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート（60%）＋　授業ごとに実施する小テスト（40%）		
実務経験について	小学校にて講師として勤務		

（注）受講者が45人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**物理の世界**	担当者	藤井　伸平
	〔履修年次〕　1年，2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。 【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが，きれいな色がついていたことを覚えていますか? 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか? このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。 【到達目標】物理学を身近に感じる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし（適宜プリントを配布） (2)　適宜授業中に紹介		
授業スケジュール	第 1回　講義の概要、基本的な量について 第 2回　身近な現象 ・・・大気圧を感じる 第 3回　身近な現象 ・・・地球の大きさ・丸さを感じる 第 4回　身近な現象 ・・・まさつを感じる 第 5回　身近な現象 ・・・水の特異な性質について 第 6回　身近な現象 ・・・ろうそくの炎について 第 7回　力学・・・釣り合いとてこの原理を感じる 第 8回　力学・・・無重量状態を感じる 第 9回　力学・・・慣性を感じる 第10回　熱学・・・断熱膨張を感じる 第11回　熱学・・・気化熱を感じる 第12回　電磁気学・・・分極を感じる 第13回　電磁気学・・・磁場を感じる 第14回　振動・波動・・・光の屈折を感じる 第15回　まとめ （理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	(A)授業ごとの小レポート（50%）、(B)課題レポート（50%）。（詳細については第1回目の講義で説明します。）		

（注）受講生が 62 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**生物の科学**	担当者	塔筋　弘章
	〔履修年次〕　1年，2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】細胞・遺伝・進化 【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製（増殖）・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。 本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化について学びます。 【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　適宜指示		
授業スケジュール	第 1回　生物の基本構造：化学成分と細胞 第 2回　代謝：エネルギー産生のしくみ 第 3回　DNA からタンパク質へ：転写と翻訳、遺伝子の調節 第 4回　バイオテクノロジー：遺伝子組換えと制限酵素 第 5回　細胞分裂（1）：細胞分裂と細胞周期 第 6回　細胞分裂（2）：減数分裂と受精、発生 第 7回　遺伝の基礎：メンデルの法則 第 8回　染色体と遺伝子：遺伝と確率、連鎖、遺伝地図 第 9回　突然変異：変異原、遺伝子の修復、発がん 第10回　環境ホルモン：内分泌攪乱因子と遺伝子の発現 第11回　進化論：ラマルクとダーウィン 第12回　生物の進化（1）：遺伝子の変化、単細胞から多細胞へ 第13回　生物の進化（2）：動物の進化 第14回　生物の進化（3）：恐竜から鳥へ 第15回　生物の進化（4）：猿人からヒトへ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		
実務経験について	鹿児島県総合教育センター短期研修講座講師、鹿児島大学教員免許状更新講習講師		

（注）生活科学科食物栄養専攻を除く

（注）受講者が 45 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**化学の世界**	担当者	木下　朋美・古川那由太
	〔履修年次〕　1年, 2年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】身近なものや現象を通して，私たちの生活の中で，化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。 【概要】物質の科学である化学は，自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により，私たちの暮らしを豊かにしている。一方で，化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており，化学を学ぶことは，身の回りの物質についての知識を得，理解を深めるだけでなく，私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりの視点から，身の回りの物質や現象，茶の化学について，講義を行う。（第1~9回：木下，第10~15回：古川　担当） 【到達目標】化学的視点から，課題を探求し，解決していくための基本的な能力を培う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協		
授業スケジュール	第　1回　様々な茶を生み出した歴史　鹿児島と茶 第　2回　緑茶の違いを作り出す　製造方法と栽培方法ー茶成分（アミノ酸，ポリフェノール，カフェイン等）への影響（1） 第　3回　緑茶の違いを作り出す　製造方法と栽培方法ー茶成分（アミノ酸，ポリフェノール，カフェイン等）への影響（2） 第　4回　緑茶に付加価値をつける　流通と仕上げ加工（ブレンド・火入れ）-アミノカルボニル反応 第　5回　味をも作り出す　香りの特性と役割 - 香気成分と受容体 第　6回　緑茶の味は淹れ方次第　溶出成分の特徴（急須とペットボトル）-茶成分の品質への影響 第　7回　緑茶の味は淹れ方次第　溶出成分の特徴（実習） 第　8回　紅茶・烏龍茶の製造方法と品質-ポリフェノール，香気成分等 第　9回　茶の品質を見極める　官能検査と化学成分（実習） 第10回　化学の基礎（化学とは、元素とその種類、大気の成分） 第11回　物質の性質（密度、状態変化、物質の状態を決める力） 第12回　原子と原子の結びつき（原子、イオン結合、共有結合、極性、金属結合） 第13回　様々な化学変化（化学反応、酸と塩基、酸化と還元） 第14回　生体を構成する物質（生体物質の分類と性質、糖質、脂質、たんぱく質、核酸） 第15回　化学がもたらす恩恵（ノーベル賞、ノーベル化学賞を受賞した日本人）		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	レポート（100%）		

(注) 生活科学科生活科学専攻を除く
(注) 受講者が62人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**食生活と健康**	担当者	亀井勇統・多田司・木下朋美・古川那由太
	〔履修年次〕　1.2年いずれでも履修可	授業外対応	
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 健康な食生活を送るためにはどうしたらよいのか。 【概要】 バランスの取れた食事、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報も少なくない。本科目では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。 【到達目標】 健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　適宜紹介		
授業スケジュール	第　1回　食品の二次機能　色・味・香り（木下） 第　2回　食品ごとの調理特性（木下） 第　3回　食品と衛生（木下） 第　4回　食中毒（木下） 第　5回　健康な食生活：食品に含まれる栄養素とその特性（多田） 第　6回　健康な食生活：健康・栄養情報とのつきあい方1（多田） 第　7回　健康な食生活：健康・栄養情報とのつきあい方2（多田） 第　8回　食物と生活：栄養の欠乏症（亀井） 第　9回　食物と生活：食物の機能性（亀井） 第10回　食物と生活：食物の機能性試験の方法（亀井） 第11回　食物と生活：特定保健用食品の開発（亀井） 第12回　育種と健康：古典的な品種改良（古川） 第13回　育種と健康：遺伝子組換え食品（古川） 第14回　口腔と健康：口内環境正常化（古川） 第15回　口腔と健康：味覚を変える食品（古川）		
授業外学習(予習・復習)	プリントや参考文献にて学習する。		
成績評価の方法	授業ごとのレポート及び小テスト（70%）、授業態度（30%）を基準に総合的に評価する。 担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事（亀井）		

(注) 受講者が130人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**平和論**	担当者	福田忠弘、疋田京子
	〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは、国際社会や日本国内で生起した諸問題について、平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。 【概要】平和論で取り上げるテーマは多岐にわたるが、本講義では「積極的平和」というキーワードをもとに、紛争、安全保障、平和構築、戦争と女性、日本国憲法の「平和主義」などを取りあげる。 【到達目標】平和とは単に戦争がない状態を指すのではなく、人間が自由にその能力を発揮できる状態を指すことを理解できることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　多賀秀敏編『平和学から世界を見る』（成文堂、2020 年）。 (2)　講義中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1 回　ガイダンス：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する（福田） 第 2 回　暴力の多様性：暴力という概念について（福田） 第 3 回　安全保障：21 世紀における平和と安全保障（福田） 第 4 回　ベトナム戦争：枯葉剤被害（福田） 第 5 回　平和構築：紛争後の社会をどのように構築するか（福田） 第 6 回　核兵器：被爆者の視点から（福田） 第 7 回　反核兵器政策：平和首長会議を中心に（福田） 第 8 回　沖縄と平和：戦後日米関係における沖縄（福田） 第 9 回　戦時下の性暴力：戦時下の性暴力不処罰の歴史（疋田） 第 10 回　戦争と女性：総力戦体制下における女性の動員（疋田） 第 11 回　日本国憲法「平和主義」の歴史的意味：憲法 9 条と 24 条（疋田） 第 12 回　日米同盟と米韓同盟：同盟の日韓比較（福田） 第 13 回　東アジアの平和：分断体制をいかに乗り越えるか（福田） 第 14 回　国際協力：今後の国際協力について（福田） 第 15 回　まとめ：平和の多様性について（福田）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	学期末に課すレポート（100%）によって評価する。		

（注）受講生が 72 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**環境問題**	担当者	井村隆介・榮村奈緒子・淺海真弓・岡村雄輝
	〔履修年次〕　1 年，2 年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を様々な角度から考える 【概要】自然史（井村），森林科学（榮村），生活科学(淺海)，経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える 【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。 (2)　國部克彦（編集），神戸 CSR 研究会（編集）『CSR の基礎』，中央経済社。		
授業スケジュール	第 1 回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等 第 2 回　鹿児島の自然史（1）鹿児島と気候変動 第 3 回　鹿児島の自然史（2）鹿児島の地震と火山 第 4 回　鹿児島の自然史（3）鹿児島の植生史 第 5 回　鹿児島の自然史（4）鹿児島の自然と人 第 6 回　森林科学（1）：動物と植物の相互作用 第 7 回　森林科学（2）：獣害 第 8 回　森林科学（3）：外来種 第 9 回　生活科学（1）：衣生活と環境問題（衣服廃棄・リサイクルの現状と課題） 第 10 回　生活科学（2）：食生活と環境問題（食品廃棄物の現状と課題） 第 11 回　生活科学（3）：地球環境に配慮した生活（私たちの生活の中でできる取り組み） 第 12 回　経済社会（1）：企業と公害（1） 第 13 回　経済社会（2）：企業と公害（2） 第 14 回　経済社会（3）：企業のグローバル化とその影響（1） 第 15 回　経済社会（4）：企業のグローバル化とその影響（2）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	各講師の課題（20～30 点）×4＝100 点満点とする		

（注）受講生が 72 人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	**かごしま教養プログラム**	担当者	県内７大学等の担当教員
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	通年
	〔単位〕　2	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　講義
テーマ及び概要	【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローカルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。３日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。 【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　未定		
授業スケジュール	第　1回　令和２年度実施概要（令和３年度については未定）遠隔授業で実施 日程 ： ８月１９日（水）～２１日（金） 場所 ： 鹿児島大学 定員 ： 県内４大学等の学生 ２６人		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	・発表とレポートを合わせて評価する。従って，どちらか一方がかけた場合は，評価対象外とする。 ・レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は，評価対象外とする。		

(注)「日本文学概論」（日本語日本文学専攻），「スタディスキルズ」（英語英文学専攻），「生活科学概論」（生活科学科），「基礎演習」（商経学科）の履修が条件となります。

授業科目	**かごしまフィールドスクール**	担当者	県内７大学等の担当教員
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	通年
	〔単位〕　2	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　実習
テーマ及び概要	【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。 この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローカルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通した理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通した総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。 【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。 ②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。 ③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　未定		
授業スケジュール	第　1回　令和２年度実施概要（令和３年度については未定）中止		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	・発表とレポートを合わせて評価する。従って，どちらか一方がかけた場合は，評価対象外とする。 ・レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は，評価対象外とする。		

(注)「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	**社会活動**	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕　年次指定なし	〔学期〕	通年
	〔単位〕　2～4	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　実習
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は，非営利組織を中心とした研修先において，実際の現場での体験を得ることにより，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて，社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定（事前指導のなかで指示する） (2)　未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	第　1回　事前指導：主に前期を中心に研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研　　修：主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

（注）商経学科を除く

授業科目	**企業研修**	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕　1年	〔学期〕	通年
	〔単位〕　2	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　実習
テーマ及び概要	【テーマ】この科目は，一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は，民間企業を中心に県庁，病院などの研修先において，現場で就業体験を行い，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて，社会人としての課題，企業運営，職務遂行に必要な知識・技術を理解し，働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定（事前指導のなかで指示する） (2)		
授業スケジュール	事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義，研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研　　修：主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

（注）商経学科を除く

２　教養科目（外国語科目）

授業科目	**英語Ⅰ（A）**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。 【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」（意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法）を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。 【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』　成美堂 刊 (2)　授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　Please to meet you. ＜be 動詞＞ 第 3回　Do you remember me? ＜一般動詞（現在）＞ 第 4回　I spoke to Ms. Hayashi yesterday. ＜一般動詞（過去）＞ 第 5回　When does the meeting start? ＜疑問詞＞ 第 6回　Can you meet me at the airport? ＜助動詞１＞ 第 7回　Feel free to ask me anytime. ＜文の種類、命令文＞ 第 8回　I'm thinking about quitting my job. ＜進行形＞ 第 9回　I'll give her your message. ＜未来形＞ 第 10 回　I haven't received the latest figures. ＜現在完了形＞ 第 11 回　The cafeteria is closed today. ＜受動態＞ 第 12 回　We expect higher sales in China. ＜比較＞ 第 13 回　I'd like to check in. ＜助動詞２＞ 第 14 回　How about going to the theater? ＜動名詞＞ 第 15 回　I like to travel a lot. ＜to 不定詞＞		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験（70%）、提出物（10%）、授業への取組み態度（20%）で評価する。		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	**英語Ⅰ（A）**	担当者	新福　豊実
	〔履修年次〕　1	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。 【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。 【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Marc Helgesen et al.『English Firsthand (5th Edition) Level 1』 Pearson Longman (2)　授業時に適宜指示する。		
授業スケジュール	第 1回　Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero) 第 2回　Meeting people/introducing yourself. (Unit 1) 第 3回　Describing people – personality and character (Unit 2) 第 4回　Schedules and frequency – personal schedule (Unit 3) 第 5回　Stating locations - describing differences between two places (Unit 4) 第 6回　Giving directions – following map directions (Unit 5) 第 7回　Describing personal experiences (Unit 6) 第 8回　Review/reflection/feedback 第 9回　Abilities and interests – exchanging job skills information (Unit 7) 第 10 回　Invitations and preferences – identifying entertainment information (Unit 8) 第 11 回　Future plans and predictions – identifying vacation plans and activities (Unit 9) 第 12 回　Shopping – understanding prices and inferring shopping decisions (Unit 10) 第 13 回　Describing processes – food and cooking (Unit 11) 第 14 回　Music – Giving opinions about music (Unit 12) 第 15 回　Review/reflection/feedback		
授業外学習(予習・復習)	毎時、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験（40%）小テスト・復習テスト（30%）課題（20%）ポートフォリオ（10%）		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	**英語Ⅰ（B）金曜４限**	担当者	あべ松　伸二
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】様々な日常会話を通して、基本的な英語運用能力を養成する。 【概要】様々な場面での会話を聞いて、リスニング力を高めるとともに、有用表現を学ぶ。　またロールプレイを通してスピーキング力を高める。 【到達目標】コミュニケーション力をつけるために、リスニング力とスピーキング力を向上させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　金子光茂 , Richard H. Simpson　『A CHECKBOOK FOR ENGLISH YOU NEED 』南雲堂 (2)　随時プリント資料		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション　／Booking Accommodation　（宿泊の予約） 第 2回　Booking Accommodation　（宿泊の予約） 第 3回　Taking Photos　（写真を撮る） 第 4回　At a Restaurant　（レストランで） 第 5回　Let's Stay Healthy　（健康や体調） 第 6回　まとめ（重要語彙，有用表現など） 第 7回　Television　（テレビ） 第 8回　Sports　（スポーツ）　〃 第 9回　Confirmation（確認する） 第10回　Taking a Taxi　（タクシーに乗る） 第11回　まとめ（重要語彙，有用表現など） 第12回　On the Plane　（機内で） 第13回　Meeting at the Airport　（空港での出迎え） 第14回　〃 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%) ＋ 提出物等(30%)		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	**英語Ⅰ（B）金曜5限**	担当者	あべ松　伸二
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】様々な日常会話を通して、基本的な英語運用能力を養成する。 【概要】様々な場面での会話を聞いて、リスニング力を高めるとともに、有用表現を学ぶ。　またロールプレイを通してスピーキング力を高める。 【到達目標】コミュニケーション力をつけるために、リスニング力とスピーキング力を向上させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　金子光茂 , Richard H. Simpson　『A CHECKBOOK FOR ENGLISH YOU NEED 』南雲堂 (2)　随時プリント資料		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション　／Booking Accommodation　（宿泊の予約） 第 2回　Booking Accommodation　（宿泊の予約） 第 3回　Taking Photos　（写真を撮る） 第 4回　At a Restaurant　（レストランで） 第 5回　Let's Stay Healthy　（健康や体調） 第 6回　まとめ（重要語彙，有用表現など） 第 7回　Television　（テレビ） 第 8回　Sports　（スポーツ）　〃 第 9回　Confirmation（確認する） 第10回　Taking a Taxi　（タクシーに乗る） 第11回　まとめ（重要語彙，有用表現など） 第12回　On the Plane　（機内で） 第13回　Meeting at the Airport　（空港での出迎え） 第14回　〃 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%) ＋ 提出物等(30%)		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	**英語Ⅰ（C）**	担当者	新福　豊実
	〔履修年次〕　1	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。 【概要】日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。 【到達目標】日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Marc Helgesen et al.『English Firsthand (5th Edition) Level 1』 Pearson Longman (2)　授業時に適宜指示する。		
授業スケジュール	第 1回　Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero) 第 2回　Meeting people/introducing yourself. (Unit 1) 第 3回　Describing people – personality and character (Unit 2) 第 4回　Schedules and frequency – personal schedule (Unit 3) 第 5回　Stating locations - describing differences between two places (Unit 4) 第 6回　Giving directions – following map directions (Unit 5) 第 7回　Describing personal experiences (Unit 6) 第 8回　Review/reflection/feedback 第 9回　Abilities and interests – exchanging job skills information (Unit 7) 第 10回　Invitations and preferences – identifying entertainment information (Unit 8) 第 11回　Future plans and predictions – identifying vacation plans and activities (Unit 9) 第 12回　Shopping – understanding prices and inferring shopping decisions (Unit 10) 第 13回　Describing processes – food and cooking (Unit 11) 第 14回　Music – Giving opinions about music (Unit 12) 第 15回　Review/reflection/feedback		
授業外学習(予習・復習)	毎時、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験（40%）小テスト・復習テスト（30%）課題（20%）ポートフォリオ（10%）		

(注) 教職必修，食物栄養専攻

授業科目	**英語Ⅰ（C）**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。 【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」（意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法）を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。 【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊 (2)　授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　Please to meet you. ＜be 動詞＞ 第 3回　Do you remember me? ＜一般動詞（現在）＞ 第 4回　I spoke to Ms. Hayashi yesterday. ＜一般動詞（過去）＞ 第 5回　When does the meeting start? ＜疑問詞＞ 第 6回　Can you meet me at the airport? ＜助動詞１＞ 第 7回　Feel free to ask me anytime. ＜文の種類、命令文＞ 第 8回　I'm thinking about quitting my job. ＜進行形＞ 第 9回　I'll give her your message. ＜未来形＞ 第 10回　I haven't received the latest figures. ＜現在完了形＞ 第 11回　The cafeteria is closed today. ＜受動態＞ 第 12回　We expect higher sales in China. ＜比較＞ 第 13回　I'd like to check in. ＜助動詞２＞ 第 14回　How about going to the theater? ＜動名詞＞ 第 15回　I like to travel a lot. ＜to 不定詞＞		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験（70%）、提出物（10%）、授業への取組み態度（20%）で評価する。		

(注) 教職必修，食物栄養専攻

授業科目	**英語Ⅰ（D）**	担当者	松元　貴子
	〔履修年次〕　1	授業外対応	授業終了後。または、メールにて。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】英語を総合的に学び、主にライティイングとスピーキングを通して、表現する力を鍛える。 【概要】ライティング活動を通して、アイディアの出し方、パラグラフの構成力を習得する。 スピーキング活動を通して、英語の音声を理解し、実践する。 ペア活動・グループ活動を通して、相手に伝わる、そして、相手を動かす表現を習得する。 【到達目標】構成力のあるライティングができる。自分の書いた文をもとに、スピーキングができる。 ペアワークでの会話を２，３分続けることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　適宜紹介する。		
授業スケジュール	第１回　オリエンテーション 第２回　How to organize a paragraph / Brainstorming 第３回　Explaining about yourself and people 1 第４回　Explaining about yourself and people 2 第５回　Let's talk about yourself and people 第６回　Describing about your experience 1 第７回　Describing about your experience 2 第８回　Let's talk about your experience 第９回　Presentation project preparation 1 第 10 回　Presentation project preparation 1 第 11 回　Presentation project preparation 1 第 12 回　Group presentation 第 13 回　Preparation and review for final 第 14 回　Final presentation or interview 1 第 15 回　Final presentation or interview 2		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への取り組み（２５%）＋ 提出物（２５%）＋ グループ発表・プレゼンテーション発表（５０%）		

（注）経済専攻，経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅰ（D）　月曜３限**	担当者	石原　知英
	〔履修年次〕　1	授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解 【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。 【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で 3 分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら自分の考えを英語で話すことができる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する (2)　適宜紹介する		
授業スケジュール	第１回　授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明） 第２回　Informative Presentation 1: 時系列で述べる 第３回　Informative Presentation 2: 場所について述べる 第４回　Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる 第５回　Informative Presentation 4: 分類する 第６回　Informative Presentation 5: 定義する 第７回　Informative Presentation 6: 多角的に説明する 第８回　中間プレゼンテーションと振り返り 第９回　Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する 第 10 回　Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する 第 11 回　Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する 第 12 回　Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する 第 13 回　Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる 第 14 回　Persuasive Presentation 6: 比較して主張する 第 15 回　最終プレゼンテーションと振り返り		
授業外学習(予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句および例文の確認（復習）		
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト 20%、振り返りシート 20%） クラスでの発表課題（中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%）		

（注）経済専攻，経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅰ（D）月曜4限**	担当者	石原　知英
	〔履修年次〕　1	授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解 【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。 【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で 3 分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら自分の考えを英語で話すことができる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する (2)　適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1 回　授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明） 第 2 回　Informative Presentation 1: 時系列で述べる 第 3 回　Informative Presentation 2: 場所について述べる 第 4 回　Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる 第 5 回　Informative Presentation 4: 分類する 第 6 回　Informative Presentation 5: 定義する 第 7 回　Informative Presentation 6: 多角的に説明する 第 8 回　中間プレゼンテーションと振り返り 第 9 回　Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する 第 10 回　Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する 第 11 回　Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する 第 12 回　Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する 第 13 回　Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる 第 14 回　Persuasive Presentation 6: 比較して主張する 第 15 回　最終プレゼンテーションと振り返り		
授業外学習(予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句および例文の確認（復習）		
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト 20%、振り返りシート 20%） クラスでの発表課題（中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%）		

（注）経済専攻，経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅰ（D）**	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕　1 年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは、ナチュラルスピードの英語の聞き取りに慣れ親しむとともに、日常会話で役立つ表現や語彙を身につけていくことです。 【概要】　授業の前半では、洋楽で英語の音になじむことからスタートし、音声変化についての学習、リピーティングなどの口頭練習で、「ナチュラルな英語を聞き取るコツ」、「英語らしく発音するコツ」をつかんでいきます。 授業の後半では、アメリカ旅行と留学を題材にしたビデオ教材で、ナチュラルスピードの口語英語の聞き取りに徐々に慣れるとともに、旅行や日常生活で使われる英会話表現や語彙を場面ごとに学習していきます。 さらにコースの後半では応用編として映画を利用したリスニング演習に取り組みます。 【到達目標】会話展開が予測可能な場面、またはなじみのある場面において、相手の情報や考えを理解でき、相手に誤解を生じない程度の発音で、簡潔に対応できる英語力の習得を目標とします。		
(1)テキスト	(1)　Hiroto Ohyagi & Timothy Kiggell 著, *Viva! San Francisco*　出版社：マクミラン・ランゲージハウス		
授業スケジュール	＜毎回、LL 教室を使用します＞ 第　1 回　授業ガイダンス：授業内容と進め方について　/　ナチュラルな英語の特徴と聞き取り 第　2 回　Do you have a reservation, Ma'am?: ホテルでのチェックインに使う表現 第　3 回　Would you like soup or salad?：レストランでのチェックインに使う表現 第　4 回　Could you repeat that?：道順を尋ねる時に使う表現 第　5 回　Where's fitting room?：ショッピングに使う表現 第　6 回　Good to see you!：挨拶に使う表現 第　7 回　I enjoyed my stay.：ホテルでのチェックアウトに使う表現 第　8 回　You are one of the family now.：ホームスティ先で使う表現 第　9 回　I want to help.：申し出る・申し出を受ける表現 第 10 回　Would you like to join us?：人を誘う・誘いに応じる表現 第 11 回　Let's keep in touch, OK?：別れに使う表現 第 12 回　映画を利用したリスニング演習：その（1） 第 13 回　映画を利用したリスニング演習：その（2） 第 14 回　映画を利用したリスニング演習：その（3） 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストのための復習		
成績評価の方法	授業への取り組み（30%）＋　復習のための小テスト（20%）＋　定期試験(50%)		

（注）経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	パトリック・ゴーラム　Patrick Gorham
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension. 【概要】Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating. 【到達目標】The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills 第 2回　Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with 第 3回　Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions 第 4回　Unit 8: Using different verb patterns 第 5回　Quiz (1) and Discussion 第 6回　Unit 9: Talking about Future plans and Activities 第 7回　Unit 9: Using Future tense; Making predictions 第 8回　Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items 第 9回　Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers 第 10回　Quiz (2) and Discussion 第 11回　Unit 11: Giving instructions 第 12回　Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past 第 13回　Unit 12: Expressing opinions; Discussing music 第 14回　Unit 12: Using Simple past vs Present perfect 第 15回　Final Exam		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Quizzes 60%,　Final Exam 40%		
実務経験について	高等学校で教員（ALT）として勤務		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ(A)	担当者	ジョン・トレマーコ　John Tremarco
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】Everyday Conversation. 【概要】This course will build upon the students' previous studies.　They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation. 【到達目標】To improve students' conversational skills.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　English with Hit Songs,　Author(s): T. Kadoyama & S. Capper　Publisher: Seibido (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations.（導入ーコースの目標についての説明） 第 2回　Unit 1: My heart will go on 第 3回　Unit 2: Open arms 第 4回　Unit 3: Life 第 5回　Unit 4: Don't look back in anger 第 6回　Unit 5: A whole new world 第 7回　Unit 6: I don't want to miss a thing 第 8回　Unit 7: Review Unit 1 第 9回　Unit 8: The stranger 第 10回　Unit 9: Hey Now 第 11回　Unit 10: Every time I close my eyes 第 12回　Unit 11: Kiss of life 第 13回　Unit 12: All I want for Christmas is you 第 14回　Unit 13: Livin'la vida loca 第 15回　Unit 14: Review of Unit 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Classroom Contribution　20%　Groupwork/Homework 40%　Final Test 40%		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ（B）	担当者	ルイーズ･ケネディ・中村　Louise Kennedy Nakamura
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening , vocabulary and grammar. skills. 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction to the class 第 2回　Getting to know the classmates 第 3回　Daily　Routines 第 4回　Describing　Appearance 第 5回　Describing　Appearance 第 6回　Clothes / Fashion 第 7回　Personality　Traits 第 8回　Review 第 9回　Making Requests 第 10回　Hobbies / Interests 第 11回　Movies 第 12回　Movies 第 13回　Travel Plans 第 14回　Travel Plans 第 15回　Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.		
成績評価の方法	Grade : test×２＝５０％　Homework, quizzes and class participation　＝５０％		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ（B）	担当者	ガルシア・アロヨ　ホルヘ　García Arroyo Jorge
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	By email
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook. 【概要】Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book. 【到達目標】Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, *English Firsthand 1*, Fifth Edition, Pearson (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction to the course. Unit 1. Hobbies and interests . Self-introductions. 第 2回　Unit 1. Pair talk . Using *simple present* . Unit review. 第 3回　Unit 2. Appearance adjectives. Describing your friends. 第 4回　Unit 2. Pair talk. Differences between *have* and *be* in *simple present* . Unit review. 第 5回　Unit 3. Daily activities and routines. Making a date. 第 6回　Unit 3. Pair talk. Using adverbs of frequency. Unit Review. 第 7回　Unit 4. Locations. Negotiating with a parent. 第 8回　Unit 4. Pair talk. Using prepositions with *there is* and *there are*. Unit review. 第 9回　Unit 5. Giving directions. Asking for directions. 第 10回　Unit 5. Pair talk. Using imperative form with prepositions. Unit review. 第 11回　Unit 6. Important events in life, past experiences. Talk about a trip you took. 第 12回　Unit 6. Pair talk. Using the past tense: irregular verbs. Unit review. 第 13回　Unit 7. Types of Jobs. What do you do? 第 14回　Unit 7. Pair talk. Using the *simple present* to ask about jobs and skills. Unit review 第 15回　Course review.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class activities (40%) Final presentation (60%)		
実務経験について	I have been teaching this class since 2018.		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ（C）	担当者	ガルシア・アロヨ　ホルヘ　García Arroyo Jorge
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	By email
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook. 【概要】Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book. 【到達目標】Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, *English Firsthand 1*, Fifth Edition, Pearson (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction to the course. Unit 1. Hobbies and interests . Self-introductions. 第 2回　Unit 1. Pair talk . Using *simple present* . Unit review. 第 3回　Unit 2. Appearance adjectives. Describing your friends. 第 4回　Unit 2. Pair talk. Differences between *have* and *be* in *simple present* . Unit review. 第 5回　Unit 3. Daily activities and routines. Making a date. 第 6回　Unit 3. Pair talk. Using adverbs of frequency. Unit Review. 第 7回　Unit 4. Locations. Negotiating with a parent. 第 8回　Unit 4. Pair talk. Using prepositions with *there is* and *there are*. Unit review. 第 9回　Unit 5. Giving directions. Asking for directions. 第 10回　Unit 5. Pair talk. Using imperative form with prepositions. Unit review. 第 11回　Unit 6. Important events in life, past experiences. Talk about a trip you took. 第 12回　Unit 6. Pair talk. Using the past tense: irregular verbs. Unit review. 第 13回　Unit 7. Types of Jobs. What do you do? 第 14回　Unit 7. Pair talk. Using the *simple present* to ask about jobs and skills. Unit review 第 15回　Course review.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class activities (40%) Final presentation (60%)		

（注）教職必修，食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ（C）	担当者	ホープ・内尾　Hope Uchio
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension. 【概要】Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating. 【到達目標】The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills 第 2回　Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with 第 3回　Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions 第 4回　Unit 8: Using different verb patterns 第 5回　Quiz (1) and Discussion 第 6回　Unit 9: Talking about Future plans and Activities 第 7回　Unit 9: Using Future tense; Making predictions 第 8回　Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items 第 9回　Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers 第 10回　Quiz (2) and Discussion 第 11回　Unit 11: Giving instructions 第 12回　Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past 第 13回　Unit 12: Expressing opinions; Discussing music 第 14回　Unit 12: Using Simple past vs Present perfect 第 15回　Final Exam		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Quizzes 60%,　Final Exam 40%		
実務経験について	高等学校で教員（ALT）として勤務		

（注）教職必修，食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ（D） 月曜３限	担当者	グレゴリー・ダン　Gregory Dunne
	〔履修年次〕　１年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and abroad. 【概要】Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English in short conversation and brief presentations. 【到達目標】Emphasis will be placed on developing the students ability, and confidence, to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　*Listen Up, Talk Back, Book 1. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press)* (2)		
授業スケジュール	第 1 回　Introduction of the course and key topics 第 2 回　Meeting New People 第 3 回　Home 第 4 回　Family 第 5 回　Transportation in the City 第 6 回　Shopping 第 7 回　Celebrations 第 8 回　Review Quiz 第 9 回　Volunteering 第 10 回　Staying Well 第 11 回　Pets 第 12 回　Free Time Activities 第 13 回　Music 第 14 回　Review of key units in class groups 第 15 回　Final Oral Review Practice in pairs		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In class short presentations 30%　Short vocabulary tests 20%　Mid Term Quiz 20%　Final Oral Quiz 30%		

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ（D）	担当者	ルイーズ･ケネディ・中村　Louise Kennedy Nakamura
	〔履修年次〕　１年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening , vocabulary and grammar. skills. 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1 回　Introduction to the class 第 2 回　Getting to know the classmates 第 3 回　Daily　Routines 第 4 回　Describing　Appearance 第 5 回　Describing　Appearance 第 6 回　Clothes / Fashion 第 7 回　Personality　Traits 第 8 回　Review 第 9 回　Making Requests 第 10 回　Hobbies / Interests 第 11 回　Movies 第 12 回　Movies 第 13 回　Travel Plans 第 14 回　Travel Plans 第 15 回　Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.		
成績評価の方法	Grade : test× 2＝５０％　Homework, quizzes and class participation ＝５０％		

(注) 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅱ（D） 月曜４限**	担当者	グレゴリー・ダン　Gregory Dunne
	〔履修年次〕　1 年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and abroad. 【概要】Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English in short conversation and brief presentations. 【到達目標】Emphasis will be placed on developing the students ability, and confidence, to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　*Listen Up,Talk Back, Book 1. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press)* (2)		
授業スケジュール	第 1 回　Introduction of the course and key topics 第 2 回　Meeting New People 第 3 回　Home 第 4 回　Family 第 5 回　Transportation in the City 第 6 回　Shopping 第 7 回　Celebrations 第 8 回　Review Quiz 第 9 回　Volunteering 第 10 回　Staying Well 第 11 回　Pets 第 12 回　Free Time Activities 第 13 回　Music 第 14 回　Review of key units in class groups 第 15 回　Final Oral Review Practice in pairs		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In class short presentations 30%　Short vocabulary tests 20%　Mid Term Quiz 20%　Final Oral Quiz 30%		

（注）経済専攻、経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅱ（D）**	担当者	アンドルー・ダニエルズ　Andrew Daniels
	〔履修年次〕　1 年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course aims to help students develop speaking strategies in basic English conversation situations. Working around units from a set textbook, students will be encouraged to give their own opinions as well as finding out the views of their classmates through participating in group discussions. 【概要】Students will work on listening and speaking skills to develop their confidence in familiar scenarios. 【到達目標】Emphasis will be on trying to reduce unnatural silence and practicing transitional or filler words to create natural, friendly conversations that students can reproduce easily.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Talk Time (Student Book 2)　by Susan Stempleski　(Oxford University Press) (2)		
授業スケジュール	第 1 回　Introduction of the course and key topics 第 2 回　Jobs 第 3 回　Daily Activities 第 4 回　Weekend Activities 第 5 回　Music 第 6 回　Vacations 第 7 回　Cities 第 8 回　Review Quiz 第 9 回　Uniforms 第 10 回　Clothes 第 11 回　Fashion 第 12 回　Cooking 第 13 回　Places around Town 第 14 回　Houses 第 15 回　Pair Practice on key topics 第 16 回　Final Oral Review		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In class short presentations 30% Short vocabulary tests 20% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 30%		

（注）経済専攻，経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅲ（A）**	担当者	未定
	〔履修年次〕 1，2年	授業外対応	
	〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

（注）食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	**英語Ⅲ（B）**	担当者	未定
	〔履修年次〕 1，2年	授業外対応	
	〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

（注）日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅲ(C)**	担当者	あべ松　伸二
	〔履修年次〕1，2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕後期　〔単位〕1単位　〔必修／選択〕選択（注）　〔授業形態〕演習		
テーマ及び概要	【テーマ】様々な題材の英文を読むことを通じて、日本語訳に頼った英文読解から脱却し、英文そのものを楽しむ力を養う。また、英語を読む際に必要なストラテジーを段階的に身につける。さらに、英文読解の最も基礎的な力である語彙力増強のトレーニングも随時行う。 【概要】主に、パラグラフの構造を理解し、英文読解に必要なストラテジーを習得する。また、わからない単語の意味を辞書に頼ることなく文脈や前後関係から推測するなどのスキルを練習する。 【到達目標】英文を読む楽しさを味わうことができる。 英文のパラグラフ構造を理解し、概要・要点を大まかに把握することができる。 わからない単語の意味を、文脈や前後関係から推測するスキルを修得できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　卯城祐司／中川知佳子／Mari Le Pavoux 著 /　*Reader's Ark Basic*　(金星堂) (2)　特になし		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　Unit 01　Check Your Level: 語彙力・速読力のチェック 第 3回　〃 第 4回　Unit 02　Experience Pre-Reading Activities: visual aids, title, background information etc. 第 5回　〃 第 6回　Unit 03　Identifying the Main Idea <1>: topic sentence (top) 第 7回　〃 第 8回　Unit 04　Identifying the Main Idea <2>: topic sentence (bottom) 第 9回　〃 第10回　Unit 05　Identifying the Main Idea <3>: topic sentence (middle) 第11回　〃 第12回　Unit 06　Understanding Supporting Details 第13回　Unit 07　Using Signal Words to Predict Ideas <1>: sentence to sentence 第14回　Unit 08　Using Signal Words to Predict Ideas <2>: discourse 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（７０%）＋　提出物等(30%)		

(注) 食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	**英語Ⅲ(D)**	担当者	未定
	〔履修年次〕　1，2年	授業外対応	
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 期末試験		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

(注) 経済専攻，経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅲ（E）**	担当者	未定
	〔履修年次〕　1，2年	授業外対応	
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅲ（F）**	担当者	新福　豊実
	〔履修年次〕　1，2年	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】文化、社会、旅、科学など様々なテーマの英文を読み、読解力を高める。合理的かつ的確に英文を読み、正確な情報を得る方法を学ぶ。 【概要】日本語を介さず英文を理解するための基本的なスキルの習得を目指す。併せて語彙の増強、文法の確認、パラグラフリーディングの演習、リスニングの演習などを行う。TOEIC や英語検定の出題形式に沿った問題演習を行い、各種検定試験のスコア UP も目指す。 【到達目標】英検準2級程度の英文を出来るだけ日本語を介さずに理解することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Paul MacIntyre, *Reading Explorer 1*　2nd Edition (Cengage Learning) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Course Orientation 第 2回　Unit 1: Amazing Animals 第 3回　Unit 2: Travel and Adventure 第 4回　Unit 3: The Power of Music 第 5回　Unit 4: Into Space 第 6回　Unit 5: City Living 第 7回　Unit 6: Small Worlds 第 8回　Review I 第 9回　Unit 7: When Dinosaurs ruled 第10回　Unit 8: Stories and Storytellers 第11回　Unit 9: Unusual Jobs 第12回　Unit 10: Uncover the Past 第13回　Unit 11: Legends of the Sea 第14回　Unit 12: Vanished! 第15回　Review II		
授業外学習(予習・復習)	毎回、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験（40%）小テスト・復習テスト（40%）課題（20%）		

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ（G）	担当者	ルイーズ・ケネディ・中村　Louise Kennedy Nakamura
	〔履修年次〕　1，2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is an everyday English communications course.　It will build help to improve students' English speaking and listening skills , along with their confidence and willingness to speak English. 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction to the class 第 2回　Vacations 第 3回　Last Weekend 第 4回　Food 第 5回　Food 第 6回　Jobs 第 7回　Jobs 第 8回　Review 第 9回　Health 第10回　Giving Advice 第11回　Christmas 第12回　Rules / Obligation 第13回　Rules / Obligation 第14回　Future Plans 第15回　Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online　ESL listening websites		
成績評価の方法	Grade : test×２＝５０％　Homework，quizzes　and　class participation　＝５０％		

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ（H）	担当者	ルイーズ・ケネディ・中村　Louise Kennedy Nakamura
	〔履修年次〕　1，2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is an everyday English communications course.　It will build help to improve students' English speaking and listening skills , along with their confidence and willingness to speak English. 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction to the class 第 2回　Vacations 第 3回　Last Weekend 第 4回　Food 第 5回　Food 第 6回　Jobs 第 7回　Jobs 第 8回　Review 第 9回　Health 第10回　Giving Advice 第11回　Christmas 第12回　Rules / Obligation 第13回　Rules / Obligation 第14回　Future Plans 第15回　Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online　ESL listening websites		
成績評価の方法	Grade : test×２＝５０％　Homework，quizzes　and　class participation　＝５０％		

(注) 日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(A)	担当者	ニコライ・ギュレメトヴ　Nikolay Gyulemetov
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中級レベルの英語をつかいながら自分の意見を伝えること。　. Expressing your opinion about different topics in English. 【概要】様々なトピックについて考えて、話し合って、発表して、自分のコミュニケーション力を強める。 教科書、映像、プリントなどをつかう。 We will use the textbook, handouts and videos in our class and discussions. 【到達目標】グループワークや発表による英語コミュニケーションのスキルアップ。文法、語彙、聞き取り・読解の練習をしながら discussion を行います。 Our goal is to practice grammar, vocabulary, reading and listening in order to improve our communication skills.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定　（プリントを配布する場合もある） (2)		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション・説明　Orientation and objectives 第 2回　クラスワーク　（文法、語彙）　Grammar and vocabulary 第 3回　クラスワーク　（発表をする方法）　Making a presentation 第 4回　グループワーク 1　Group work, preparation for presentation 第 5回　グループ発表 1　First presentation 第 6回　クラスワーク　（コミュニケーション力）　Communication skill 第 7回　クラスワーク　（ディスカッション力）　Discussion skill 第 8回　クラスワーク　（スピーチ力）　Speech skill 第 9回　グループワーク 2　Group work, preparation for presentation 第 10 回　グループ発表 2　Second presentation 第 11 回　クラスワーク　（classmate のインタビュー）　Interview your classmate! 第 12 回　クラスワーク　（文法、語彙）　Grammar and vocabulary 2 第 13 回　クラスワーク　（聞き取り・読解力）　Listening and Reading skills 第 14 回　クラスワーク　（コース復習）　Revision of all topics covered. 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（60%）＋グループ発表 30＋作文（宿題―10%）を基準に，総合的に評価する。		

（注）日本語日本文学専攻，食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	ジョン・トレマーコ　John Tremarco
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，中級程度（レベルで言えば，TOEIC 500～650 英検 2 級）のコミュニケーション能力の育成にある。 【概要】このコースでは，英語で様々なトピックを議論するために必要とされる技能（スキル）を受講生が身に付けることができるようにする。そのために，受講生は自分自身の意見を英語で表明したり，英語で述べられる他者の意見を尊重したりして，大半の時間を英語での作業遂行活動に費やすことになる。 【到達目標】コミュニケーション能力の 4 つの要素（文法能力，社会言語能力，談話能力，方略的能力）をそれぞれ密接に絡めながら，日常生活で必要とされる英語の理解力と表現力を向上させることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　English with Pop Hits,　Author: T. Kadoyama & S. Capper　Publisher: Seibido (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations.（導入－コースの目標についての説明） 第 2回　Unit 1: Complicated 第 3回　Unit 2: S.O.S 第 4回　Unit 3: You are Not Alone 第 5回　Unit 4: Don't Wanna Lose You 第 6回　Unit 5: How Crazy Are You? 第 7回　Unit 6: Sunday Morning 第 8回　Unit 7: I Want It That Way 第 9回　Unit 8: Suddenly I see 第 10 回　Unit 10: Save The Best For Last 第 11 回　Unit 11: Last Christmas 第 12 回　Unit 12: Torn 第 13 回　Unit 13: La La Means I Love You 第 14 回　Unit 14: With You 第 15 回　Course Review followed by an end of term test in week 16 The pace and range of topics may well differ from those set above; how much will depend on the characteristics of the class. 授業の進み具合やトピックの順番は、クラスのレベルや態度により、上記の授業計画と多少異なることもある。		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Classroom Contribution　20%　Groupwork/Homework 40%　Final Test 40%		

（注）日本語日本文学専攻，食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	**英語Ⅳ（C）**	担当者	グレゴリー・ダン　Gregory Dunne
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The course also aims to encourage the students' creativity in developing conversations of their own. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and abroad. 【概要】Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English with confidence in conversation and brief presentations. Students will also have the opportunity to create their own conversations, communicating more freely within the language structures being introduced in class. 【到達目標】Emphasis will be placed on developing the students ability and confidence to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　*Listen Up, Talk Back, Book 2. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press)* (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction of the course and key topics 第 2回　Campus Life 第 3回　Health Care 第 4回　My Favorite Things 第 5回　International Travel 第 6回　Weather 第 7回　Education 第 8回　Review Quiz 第 9回　Exploring a New City 第10回　Learning English 第11回　Money 第12回　The Environment 第13回　News 第14回　Review of key units in class groups 第15回　Final Oral Review Practice in pairs		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In class short presentations 30%　Short vocabulary tests 20%　Mid Term Quiz 20%　Final Oral Quiz 30%		

（注）経済専攻、経営情報専攻

授業科目	**英語Ⅳ（D）**	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは、映画を利用して、英語圏の人々が日常生活で使用している「生きた自然な英語」に触れながら、リスニング・スピーキングを中心に英語でのコミュニケーションに必要な力をつけていくことです。 【概要】　授業では、映画『ゴースト』(サスペンス・ラブストーリー）を教材として使用し、毎回、予習プリントによる語彙の学習、音声変化の学習の後、ストーリーを楽しみながらリスニング演習に取り組むとともに、日常生活で使われる口語表現を学習していきます。さらに日・英セリフの対比や日本語セリフ作成練習で表現力を高めていきます。 また、この授業では、各自「ポートフォリオ」(「学習ファイル」と「学習の記録」）を作成し、毎回、リフレクションシートの記入をすることで自己の取り組みを振り返りながら自律的に英語学習を進めていきます。		
	【到達目標】日常生活のなじみある場面において、ナチュラルスピードの自然な英語での発話の意図を理解できる英語力、それに簡潔に対応できる　/　自分の意思で表現できる英語力の習得を目標とします。		
(1)テキスト	(1)　教師作成のプリントを毎回使用します。		
授業スケジュール	＜毎回、LL 教室を使用します＞ 第 1回　授業ガイダンス：映画を使った英語学習/　映画の英語　/　授業内容と進め方について 第 2回　The Loft：友人同士の会話（新居） 第 3回　Unchained Melody：同僚との会話（オフィス） 第 4回　Propose：恋人同士の会話（路上） 第 5回　Eternal Good-bye：友人同士の会話（自宅） 第 6回　Spiritual Adviser：初対面の相手との会話（自宅） 第 7回　The Truth：初対面の相手との会話（カフェ） 第 8回　At Molly's Apartment：知人との会話（自宅） 第 9回　The Police Station：警察官との会話（警察） 第10回　Rita Miller：顧客との会話（銀行） 第11回　Revenge：友人との会話（自宅） 第12回　The Penny：知人との会話（自宅） 第13回　Re-union：知人との会話（自宅） 第14回　Last Chance：恋人同士の会話 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストのための復習、毎回の予習プリント		
成績評価の方法	リフレクションシート（30%）＋　復習のための小テスト（20%）＋ 定期試験（50%）		

（注）経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ（E）	担当者	新福　豊実
	〔履修年次〕　2	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能を総合的に高め、実用的な英語運用能力の向上を目指す。 【概要】会話、リスニング、語彙、発音、文法、読解、英作文の練習をバランスよく行い、自己表現と意思疎通の手段として基本的な英語の習得を目指す。多文化共生に向けて異文化についての知識も深める。 【到達目標】学校生活、社会生活、旅行、ビジネスの現場などで英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Joan Saslow and Arlen Allen Ascher,「Top Notch 1 Split Edition A」(Third Edition) Pearson (2)　授業時に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　UNIT 1 Preview & Lesson 1: Getting Acquainted (1) 第 2回　UNIT 1 Lesson 2 & 3: Getting Acquainted (2) 第 3回　UNIT 1 Lesson 4 & Unit Review: Getting Acquainted (3) 第 4回　UNIT 2 Preview & Lesson 1: Going Out (1) 第 5回　UNIT 2 Lesson 2 & 3: Going Out (2) 第 6回　UNIT 2 Lesson 4 & Unit Review: Going Out (3) 第 7回　REVIEW 1 第 8回　UNIT 3 Preview & Lesson 1: The Extended Family (1) 第 9回　UNIT 3 Lesson 2 & 3: The Extended Family (2) 第 10回　UNIT 3 Lesson 4 & Unit Review: The Extended Family (3) 第 11回　UNIT 4 Preview & Lesson 1: Food and Restaurants (1) 第 12回　UNIT 4 Lesson 2 & 3: Food and Restaurants (2) 第 13回　UNIT 4 Lesson 4 & Unit Review: Food and Restaurants (3) 第 14回　UNIT 5 Lesson 1 -4: Technology and You 第 15回　REVIEW 2		
授業外学習(予習・復習)	毎回、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験（40%）小テスト・復習テスト（40%）課題（20%）		

(注) 経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(F)	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは，英検２級取得を目指せるように，受講者の語彙力を増やし，英文法を再確認させ，長文読解のコツを身に付けさせて，英語学習への意欲を高める。 【概　要】授業では，高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させる。テキストは毎回１章ずつ進むので，予習が必要となる。担当者はプリントを用いてヒントを与え，受講者自身に間違った箇所をチェックさせる。その上で解説を試みる（学習意欲を高める工夫）。また，LL 教室を利用し，リスニング問題にも取り組めるようにする。 【到達目標】英検２級の取得を目指せるような英語力を身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　坂部俊行，岡島徳昭，W.ノエル『英検２級　合格への道』南雲堂 適宜，プリントによる問題も配布 (2)		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），プリント学習（受講生のレベルを確認） 第 2回　Lesson 1（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択） 第 3回　Lesson 2（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の内容一致選択，会話の内容一致選択） 第 4回　Lesson 3（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択） 第 5回　Lesson 4（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択） 第 6回　Lesson 5（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の内容一致選択，会話の応答文選択），**小テスト（１回目）** 第 7回　Lesson 6（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択） 第 8回　Lesson 7（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択） 第 9回　Lesson 8（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の内容一致選択，会話の内容一致選択） 第 10回　Lesson 9（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択），**小テスト（２回目）** 第 11回　Lesson 10（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択） 第 12回　Lesson 11（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の応答文選択） 第 13回　Lesson 12（語句空所補充，短文中の語句整序，長文の語句空所補充と内容一致選択，会話の内容一致選択） 第 14回　実践形式の練習：筆記とリスニング，**小テスト（３回目）** 第 15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習は各課の問題を解いて授業に臨む準備，復習は小テストの準備		
成績評価の方法	筆記試験（50%），予習を含む授業への取り組み（30%），小テスト（20%）		

(注) 全専攻の学生が選択できる

授業科目	**英語 Ⅳ（G）**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時，適宜（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】アカデミックな英語に慣れる。 【概要】論説記事などを読みながら，構文と論理の組み立てを追いながら，英文を正確に読む練習をする。 実用英語技能検定試験２級程度の読解問題を正しく解ける力を養成することを目標とする。 【到達目標】構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし。 (2)　随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス 第 2回　ピダハンの子育て (1) 第 3回　ピダハンの子育て (2) 第 4回　ピダハンの子育て (3) 第 5回　試験(1)，哲学とは何か?(1) 第 6回　哲学とは何か?(2) 第 7回　試験(2)，なぜある種の男性はグレタさんでスイッチが入るのか？ (1) 第 8回　なぜある種の男性はグレタさんでスイッチが入るのか？ (2) 第 9回　なぜある種の男性はグレタさんでスイッチが入るのか？ (3) 第 10 回　試験(3)，世間話の機能(1) 第 11 回　世間話の機能 (2) 第 12 回　世間話の機能 (3) 第 13 回　世間話の機能 (4) 第 14 回　試験 (4)，文法と単語の復習 第 15 回　まとめと試験		
授業外学習(予習・復習)	予習２時間以上，復習１時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験（60%）＋ 課題（15%)＋ 授業への参加状況（25%）		

（注）全専攻の学生が選択できる

授業科目	**異文化コミュニケーション（英語）**	担当者	英語担当教員全員
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可	〔学期〕	通年
	〔単位〕　2単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　実習
テーマ及び概要	【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。 【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち，滞在期間中，基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。 2019年度の実績 日程：9月4日～9月17日 参加者：31名 研修費用：約38万円（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の朝・昼食費等） 【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく，ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え，理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)		
授業スケジュール	事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。 海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。 事後指導：帰国後に総括。		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）　とハワイでの研修状況（50%）で評価する。		

授業科目	**異文化コミュニケーション（中国語）**	担当者	中国語担当教員全員
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも可	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　通年　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。 【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は，わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は，中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中，基礎的な実用中国語を習得し，さらに，南京農業大学の学生と交流し，中国の文化習慣などについて直接体験します。 中国語を用いて活動するため，あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。 ※2019年度中国研修の実績 ・日程：9月7日（土）～21日（土）［15日間］ ・参加者：11名（日本語日本文学専攻3名，英語英文学専攻4名，経済専攻1名，経営情報専攻2名，第二部商経学科1名） ・費用：約16万円（ビザ，往復航空券，授業料，宿泊費，南京市内・市外の見学費用など） 【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)		
授業スケジュール	事前指導　受講希望者に3～5回行います。 ［1］南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明， ［2］海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明， ［3］課題（レポート作成）の指示などです。 海外研修　休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか，さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。 事後指導　帰国後に総括します。		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%），および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。		

授業科目	ドイツ語Ⅰ	担当者	竹内　宏
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応（アポイントメント必要）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】現在ヨーロッパでは，ＥＵ（ヨーロッパ連合，つまりヨーロッパの統一）という歴史的大実験が進行中で，ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また，ドイツ語は１億2000 万弱の母国語人口を擁し，ヨーロッパに限れば最大の言語と言うことができます。このように，社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら，ドイツ語を学習します。揺れるＥＵの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。 【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが，「習うより慣れろ」をモットーに，授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。 【到達目標】１年間の学習で，自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け，ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　B.ヴォンデ　他著『ベルリンに夢中』同学社 (2)　在間進　他『アクセス独和辞典　第３版』三修社		
授業スケジュール	第　1回　ドイツ及びドイツ語圏について、文字、アルファベット 第　2回　アルファベットと読み方・あいさつ 第　3回　第１課　動詞の現在人称変化 第　4回　第１課 第　5回　第１課 第　6回　第２課　名詞の性・数、格変化 第　7回　第２課 第　8回　第３課　複数形 第　9回　第３課 第10回　第４課　強変化動詞、命令形、人称代名詞 第11回　第４課 第12回　第４課 第13回　第５課　前置詞 第14回　第５課 第15回　復習と試験の説明		
授業外学習(予習・復習)	１回の授業につき、予習１時間、復習１時間が必要		
成績評価の方法	筆記試験 80%，授業への参加状況 20%		
実務経験について	通訳（法廷通訳を含む）、翻訳経験多数		

（注）英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ	担当者	竹内　宏
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールによる。場合により非常勤講師室にて対応（アポイントメント必要）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】現在ヨーロッパでは，ＥＵ（ヨーロッパ連合，つまりヨーロッパの統一）という歴史的大実験が進行中で，ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また，ドイツ語は１億2000 万弱の母国語人口を擁し，ヨーロッパに限れば最大の言語と言うことができます。このように，社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら，ドイツ語を学習します。揺れるＥＵの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。 【概要】ほとんどの人にとっては初めて習う外国語ですが，「習うより慣れろ」をモットーに，授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。 【到達目標】１年間の学習で，自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け，ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　B.ヴォンデ　他著『ベルリンに夢中』同学社 (2)　在間進　他『アクセス独和辞典　第３版』三修社		
授業スケジュール	第　1回　前期の復習 第　2回　第６課　冠詞類、kein と nicht 第　3回　第６課 第　4回　第６課 第　5回　第７課　分離動詞と非分離動詞、接続詞 第　6回　第７課 第　7回　第７課 第　8回　第８課　話法の助動詞 第　9回　第８課 第10回　第８課 第11回　第９・10課　動詞の三基本形、過去と現在完了 第12回　第９・10課 第13回　第９・10課 第14回　復習と試験の説明 第15回　復習と試験の説明		
授業外学習(予習・復習)	１回の授業につき、予習１時間、復習１時間が必要		
成績評価の方法	筆記試験 80%，授業への参加状況 20%		
実務経験について	通訳（法廷通訳を含む）、翻訳経験多数		

（注）英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語Ⅰ	担当者	梁川　英俊
	〔履修年次〕　英語英文学専攻は１年次，生活科学科は２年次	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】フランス語の基礎を学びます。 【概要】フランス語はフランスのみならず，ベルギー，スイス，カナダ，中東，アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語，イタリア語，ポルトガル語などとの共通点も多く，これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し，英語の語彙の 3 分の１はフランス語に由来すると言われています。もちろん，ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です。 【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で，簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでし ょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『クロワッサン：　基礎からわかるフランス語』（朝日出版社） (2)　適宜指示する		
授業スケジュール	第　1回　授業全体の説明，アルファベットの発音など 第　2回　Leçon 1 第　3回　Leçon 1 第　4回　Leçon 2 第　5回　Leçon 2 第　6回　Leçon 3 第　7回　Leçon 3 第　8回　Leçon 4 第　9回　Leçon 4 第 10 回　Leçon 5 第 11 回　Leçon 5 第 12 回　Leçon 6 第 13 回　Leçon 6 第 14 回　まとめ　1 第 15 回　まとめ　2		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）		

（注）英語英文学専攻は１年次，生活科学科は２年次

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	梁川　英俊
	〔履修年次〕　英語英文学専攻は１年次，生活科学科は２年次	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】フランス語の基礎を学びます。 【概要】フランス語はフランスのみならず，ベルギー，スイス，カナダ，中東，アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連やEUなどの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語，イタリア語，ポルトガル語などとの共通点も多く，これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し，英語の語彙の 3 分の１はフランス語に由来すると言われています。もちろん，ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です。 【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で，簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでし ょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『クロワッサン：　基礎からわかるフランス語』（朝日出版社） (2)　適宜指示する		
授業スケジュール	第　1回　Leçon 7 第　2回　Leçon 7 第　3回　Leçon 8 第　4回　Leçon 8 第　5回　Leçon 9 第　6回　Leçon 9 第　7回　Leçon 10 第　8回　Leçon 10 第　9回　Leçon 11 第 10 回　Leçon 11 第 11 回　Leçon 12 第 12 回　Leçon 12 第 13 回　まとめ 1 第 14 回　まとめ 2 第 15 回　まとめ 3		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋小テスト（30%）		

（注）英語英文学専攻は１年次，生活科学科は２年次

授業科目	中国語Ⅰ（A）	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語に親しむ。 【概要】 この授業では，中国語の発音を身につけ，ロールプレイ，ゲームなど様々な教室活動を通して，中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】 中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり，簡単な日常あいさつ，自己紹介ができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12 課』同学社 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習 第 2回　発音（1）：単母音と声調の導入，練習 第 3回　発音（2）：複母音の導入，練習 第 4回　発音（3）：子音の導入，練習 第 5回　発音（4）：子音の練習、発音のまとめ 第 6回　動詞是の使い方 第 7回　姓の言い方，尋ね方。フルネームの言い方，尋ね方 第 8回　これまでの復習 第 9回　動詞文の導入と練習 第 10 回　動詞文の練習、疑問文の練習 第 11 回　二つ以上の動詞からなる連動文 第 12 回　希望や願望を表す助動詞「想」の導入，練習 第 13 回　留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14 回　全体の復習 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テスト（40%）と中国に関する発表またはレポート（10%）、口頭試験（50%）で評価する		

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ（B）	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールによる（ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中国語と中国について学ぶ（1） 【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回 10 分程度のビデオを視聴します。 【到達目標】中国語検定準 4 級程度（後期終了時の目標）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社） (2)　辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第 1回　発音（1） 第 2回　発音（2） 第 3回　発音（3） 第 4回　名前を中国語で言う、覚えておきたい表現 第 5回　「あいさつする」第 1 課 第 6回　「名前を尋ねる」第 2 課 第 7回　「食べたいものを尋ねる」第 3 課 第 8回　「近況を尋ねる」第 4 課 第 9回　第 1 課～第 4 課の復習 第 10 回　「予定を尋ねる」第 5 課 第 11 回　「場所を尋ねる」第 6 課 第 12 回　「注文する」第 7 課 第 13 回　「値段の交渉をする」第 8 課 第 14 回　第 5 課～第 8 課の復習 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の CD を使った発音練習をすることが望ましい		
成績評価の方法	期末試験（50%）、授業への貢献度（50%）		

(注) 日本語日本文学専攻，英語英文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(C)	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールによる（ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中国語と中国について学ぶ(1) 【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回10分程度のビデオを視聴します。 【到達目標】中国語検定準4級程度（後期終了時の目標）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』(白水社) (2)　辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	第 1回　発音 (1) 第 2回　発音 (2) 第 3回　発音 (3) 第 4回　名前を中国語で言う、覚えておきたい表現 第 5回　「あいさつする」第1課 第 6回　「名前を尋ねる」第2課 第 7回　「食べたいものを尋ねる」第3課 第 8回　「近況を尋ねる」第4課 第 9回　第1課～第4課の復習 第10回　「予定を尋ねる」第5課 第11回　「場所を尋ねる」第6課 第12回　「注文する」第7課 第13回　「値段の交渉をする」第8課 第14回　第5課～第8課の復習 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付のCDを使った発音練習をすることが望ましい		
成績評価の方法	期末試験（50%）、授業への貢献度（50%）		

(注) 経済専攻
(注) 受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ（D）	担当者	三木　夏華
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了時に対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース 【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。 【到達目標】 1　ピンイン、声調記号が読めるようになる。 2　自己紹介など簡単な会話能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『しゃべっていいとも　中国語』朝日出版社　陳淑梅、劉光赤　著 (2)　授業で紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　発音、声調 第 2回　発音、声調 第 3回　発音、声調 第 4回　発音、声調 第 5回　人称代名詞、名前の言い方 第 6回　会話練習、ヒアリング 第 7回　“的”、“是”について 第 8回　会話練習、ヒアリング 第 9回　動詞述語文、連動文 第10回　会話練習、ヒアリング 第11回　指示代名詞、“有”構文 第12回　会話練習、ヒアリング 第13回　“在”構文、方位詞 第14回　会話練習、ヒアリング 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。		
成績評価の方法	期末試験５０%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況５０%		

(注) 経営情報専攻
(注) 受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(E)	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介ＤＶＤや、期間中１回は中国映画を鑑賞する予定です。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション　中国語について　教科書の使い方 第 2回　発音篇（1）　ピンイン、声調、母音、複合母音、子音 第 3回　発音篇（2）　鼻母音、声調変化、発音まとめ 第 4回　第0課　名前について話す 第 5回　第1課（1）　身分や出身について話す 第 6回　第1課（2）　身分や出身について話す 第 7回　第2課（1）　身の回りの物や人について話す 第 8回　第2課（2）　身の回りの物や人について話す 第 9回　第3課（1）　年齢や学年、所有について話す 第10回　第3課（2）　年齢や学年、所有について話す 第11回　第4課（1）　時間や一日の行動について話す 第12回　第4課（2）　時間や一日の行動について話す 第13回　第5課（1）　性質や状態、天候について話す 第14回　第5課（2）　性質や状態、天候について話す 第15回　前期のまとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

(注) 経済専攻，経営情報専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(F)	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】単語で作文Ⅰ 【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい，それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして，書かずに口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば，外国語もそれほど難しくはないものです。 【到達目標】中国語検定準4級，漢語水平考試HSK筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)　関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方について 第 2回　声調と母音 第 3回　子音 第 4回　発音のまとめ 第 5回　表記の規則 第 6回　クラス名簿，あいさつ(1) 第 7回　クラス名簿，あいさつ(2) 第 8回　数字，お金，時刻(1) 第 9回　数字，お金，時刻(2) 第10回　数字，お金，時刻(3) 第11回　簡単な動詞の文(1) 第12回　簡単な動詞の文(2) 第13回　意思表示，誘いかけ(1) 第14回　意思表示，誘いかけ(2) 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	作文と小テスト50%，定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(G)	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕　1年，2年（注）	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介ＤＶＤや、期間中１回は中国映画を鑑賞する予定です。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション　中国語について　教科書の使い方 第 2回　発音篇（1）　ピンイン、声調、母音、複合母音、子音 第 3回　発音篇（2）　鼻母音、声調変化、発音まとめ 第 4回　第0課　名前について話す 第 5回　第1課（1）　身分や出身について話す 第 6回　第1課（2）　身分や出身について話す 第 7回　第2課（1）　身の回りの物や人について話す 第 8回　第2課（2）　身の回りの物や人について話す 第 9回　第3課（1）　年齢や学年、所有について話す 第10回　第3課（2）　年齢や学年、所有について話す 第11回　第4課（1）　時間や一日の行動について話す 第12回　第4課（2）　時間や一日の行動について話す 第13回　第5課（1）　性質や状態、天候について話す 第14回　第5課（2）　性質や状態、天候について話す 第15回　前期のまとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書に指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

(注) 英語英文学専攻は1年次，生活科学専攻は2年次
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(H)	担当者	陳　躍
	〔履修年次〕　1年，2年（注）	授業外対応	授業終了後及びメールによる（アドレスは講義中に告知）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。前期はその前半部分の学習に当てる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 (2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1回　我是上海人 第 2回　我叫王平 第 3回　这里是南京路 第 4回　现在几点了? 第 5回　今天是星期几? 第 6回　你家有几口人? 第 7回　没关系（映画） 第 8回　香港的夏天热吗?（映画） 第 9回　四川菜很好吃　（中間テスト） 第10回　我经常散步 第11回　牌价是多少? 第12回　汉语难不难? 第13回　我没吃蒜 第14回　我想去超市 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０%にする。　残り５０%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次，生活科学科は2年次
(注) 受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ（A）	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる。 【概要】 この授業では，中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ，引き続き中国語の基本構文を導入し，中国語を聞いて，話す力を伸ばす。さらに，中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し，中国語による家族構成の紹介や，簡単な買い物ができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12 課』同学社 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習 第 2回　動詞「有」の導入，練習 第 3回　動詞「在」の導入，練習 第 4回　「有」と「在」の応用練習 第 5回　年月日、曜日の言い方の練習 第 6回　助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習 第 7回　助動詞を使った文の応用練習 第 8回　復習（1）これまでの内容の復習 第 9回　形容詞述語文の導入，練習 第 10 回　時刻の言い方の導入，練習 第 11 回　形容詞述語文の応用練習 第 12 回　お金の言い方の導入，練習 第 13 回　量詞の導入，練習 第 14 回　復習（4）：全体の復習 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テスト（40%）と中国に関するレポート（10%）、口頭試験（50%）で評価する		

(注) 日本語日本文学専攻

(注) 受講登録が 30 人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ（B）	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールによる（ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中国語と中国について学ぶ (2) 【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。 【到達目標】中国語検定準 4 級程度（後期終了時の目標）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社） (2)　授業中に適宜指示します。		
授業スケジュール	第 1回　前期試験の解説など 第 2回　第 1 課～第 8 課の復習 第 3回　「出来事を尋ねる 1」第 9 課 第 4回　「出来事を尋ねる 2」第 10 課 第 5回　「希望を尋ねる」第 11 課 第 6回　「行き方を尋ねる」第 12 課 第 7回　「経験を尋ねる」第 13 課 第 8回　第 9 課～第 13 課の復習 第 9回　「相手の都合を尋ねる」第 14 課 第 10 回　「比較する」第 15 課 第 11 回　「条件・情報を尋ねる」第 16 課 第 12 回　「進行状況を尋ねる」第 17 課 第 13 回　「別れを告げる」第 18 課 第 14 回　第 14 課～第 18 課の復習 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の CD を使った発音練習をすることが望ましい		
成績評価の方法	期末試験（50%）、授業への貢献度（50%）		

(注) 日本語日本文学専攻，英語英文学専攻

(注) 受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(C)	担当者	尾崎　孝宏
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールによる（ozakit@leh.kagoshima-u.ac.jp）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中国語と中国について学ぶ(2) 【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。 【到達目標】中国語検定準4級程度（後期終了時の目標）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる　コミュニケーション中国語』（白水社） (2)　授業中に適宜指示します。		
授業スケジュール	第 1回　前期試験の解説など 第 2回　第1課～第8課の復習 第 3回　「出来事を尋ねる1」第9課 第 4回　「出来事を尋ねる2」第10課 第 5回　「希望を尋ねる」第11課 第 6回　「行き方を尋ねる」第12課 第 7回　「経験を尋ねる」第13課 第 8回　第9課～第13課の復習 第 9回　「相手の都合を尋ねる」第14課 第10回　「比較する」第15課 第11回　「条件・情報を尋ねる」第16課 第12回　「進行状況を尋ねる」第17課 第13回　「別れを告げる」第18課 第14回　第14課～第18課の復習 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付のCDを使った発音練習をすることが望ましい		
成績評価の方法	期末試験（50%）、授業への貢献度（50%）		

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ（D）	担当者	三木　夏華
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了時に対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】前期の中国語Ⅰに続く入門コース 【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。 道の尋ね方、買い物の仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。 【到達目標】中国語検定準４級，漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級のレベルにまで到達することを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『しゃべっていいとも　中国語』朝日出版社　陳淑梅、劉光赤　著 (2)　授業で紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方 第 2回　会話練習、ヒアリング 第 3回　値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方 第 4回　会話練習、ヒアリング 第 5回　年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型 第 6回　会話練習、ヒアリング 第 7回　時刻の言い方、語気助詞の“了” 第 8回　会話練習、ヒアリング 第 9回　時間の長さの言い方、完了の“了” 第10回　会話練習、ヒアリング 第11回　前置詞、助動詞１ 第12回　会話練習、ヒアリング 第13回　動詞の進行を表す表現、助動詞２ 第14回　会話練習、ヒアリング 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。		
成績評価の方法	期末試験５０%＋授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況５０%		

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が３０人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介ＤＶＤや中国映画（1回）を鑑賞します。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	第 1回　第6課（1）　趣味や好み、できることについて話す 第 2回　第6課（2）　趣味や好み、できることについて話す 第 3回　第7課（1）　住んでいる場所や家族について話す 第 4回　第7課（2）　住んでいる場所や家族について話す 第 5回　第8課（1）　場所や存在について話す 第 6回　第8課（2）　場所や存在について話す 第 7回　第9課（1）　交通手段や希望について話す 第 8回　第9課（2）　交通手段や希望について話す 第 9回　第10課（1）　動作の発生や進行について話す 第10回　第10課（2）　動作の発生や進行について話す 第11回　第11課（1）　過去の出来事や値段について話す 第12回　第11課（2）　過去の出来事や値段について話す 第13回　中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第14回　中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第15回　授業まとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

(注) 経済専攻，経営情報専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】単語で作文Ⅱ 【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい，それを使って作文をします。やや複雑な文にして，基本的に書かずに口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず，相手に気持ちを伝えることを大切にします。 【到達目標】中国語検定準4級，漢語水平考試HSK筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部分の学習に当てます。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)　関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第 1回　連続動作，意向確認（1） 第 2回　連続動作，意向確認（2） 第 3回　なに？ どこ？ だれ？（1） 第 4回　なに？ どこ？ だれ？（2） 第 5回　モノ（1） 第 6回　モノ（2） 第 7回　場所（1） 第 8回　場所（2） 第 9回　状態（1） 第10回　状態（2） 第11回　態度，ある瞬間（1） 第12回　態度，ある瞬間（2） 第13回　1年間の復習（1） 第14回　1年間の復習（2） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	作文と小テスト50%，定期試験50%		

(注) 食物栄養専攻
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	**中国語Ⅱ(G)**	担当者	中筋　健吉
	〔履修年次〕　1年，2年（注）	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】初級中国語の学習を行います。 【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介ＤＶＤや中国映画（1回）を鑑賞します。 【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	第 1回　第6課（1）　趣味や好み、できることについて話す 第 2回　第6課（2）　趣味や好み、できることについて話す 第 3回　第7課（1）　住んでいる場所や家族について話す 第 4回　第7課（2）　住んでいる場所や家族について話す 第 5回　第8課（1）　場所や存在について話す 第 6回　第8課（2）　場所や存在について話す 第 7回　第9課（1）　交通手段や希望について話す 第 8回　第9課（2）　交通手段や希望について話す 第 9回　第10課（1）　動作の発生や進行について話す 第10回　第10課（2）　動作の発生や進行について話す 第11回　第11課（1）　過去の出来事や値段について話す 第12回　第11課（2）　過去の出来事や値段について話す 第13回　中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第14回　中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第15回　授業まとめ ＊スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋授業中に実施する小テスト（10%）＋授業での発言内容（40%）		

(注) 英語英文学専攻は1年次，生活科学専攻は2年次
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数制限をする場合があります。

授業科目	**中国語Ⅱ（H）**	担当者	陳　躍
	〔履修年次〕　1年，2年（注）	授業外対応	授業終了後，メールによる（アドレスは講義中に告知）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち，70分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 (2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1回　来我家玩吧 第 2回　我打算去旅行 第 3回　没看过，听过 第 4回　我能参加 第 5回　我记一下 第 6回　我们边走边谈 第 7回　好像借给小李了（中間テスト） 第 8回　我不会打日文（映画） 第 9回　你知道号码吗？（映画） 第10回　什么都可以 第11回　被谁偷走了呢? 第12回　让你久等了 第13回　有没有单间? 第14回　我说得不好 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０%にする。　残り５０%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次，生活科学科は2年次
(注) 受講登録が30人を超えたときは，人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅲ	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語の体系を把握する。 【概要】 この授業は，中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験４級程度の語彙，文法の獲得を目指し，中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また，後半では自律的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に，グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。 【到達目標】 中国語検定試験４級を取得することを目指すと同時に今後自律的に中国語を学習していく方法を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：授業の概要説明および1年次に習った内容の復習 第 2回　年齢の言い方と尋ね方 第 3回　前置詞「在」（～で～をする）の導入，練習 第 4回　完了の「了」の導入，練習 第 5回　時間量の言い方の導入，練習 第 6回　文末詞「了」の導入，練習 第 7回　場所の言い方の導入，練習 第 8回　必要の「得」:「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入，練習 第 9回　これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。 第10回　中国語で寸劇①：シナリオの作成 第11回　中国語で寸劇②：シナリオの修正 第12回　中国語で寸劇③：シナリオの決定，台本を読む練習 第13回　中国語で寸劇④：台本を読む練習，通し稽古 第14回　中国語で寸劇⑤：発表 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テスト（50%）、口頭試験（50%）で評価する		

（注）生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中国語で本を読む 【概要】中国のラジオドラマの台本を読みます。台本ですので自然な会話文を学べます。発音を特に重視しますので，十分に予習・復習してから受講してください。 【到達目標】中国語検定４級レベル，漢語水平考試 HSK 筆記２級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方について 第 2回　発音の復習（1） 第 3回　発音の復習（2） 第 4回　発音の復習（3） 第 5回　発音の復習（4） 第 6回　講読（1） 第 7回　講読（2） 第 8回　講読（3） 第 9回　講読（4） 第10回　講読（5） 第11回　講読（6） 第12回　講読（7） 第13回　講読（8） 第14回　講読（9） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習・復習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。		

（注）生活科学科を除く

３　教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	**スポーツ健康論**	担当者	西迫　貴美代
	〔履修年次〕　2年次	授業外対応	随時　nisizako@k-kentan.ac.jp
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】本講義は、心身の基本的機能やその適応能力について理解し、健康づくりに重要な三つのポイントである運動･栄養･休養の内容を中心に、ライフスタイルのあり方について学習することを主な目的とする。 【概要】導入段階において、過去の健康にかかわる現象を題材とし、「変わらないもの」と「変わったもの」を浮き彫りにする内容を取り扱い、社会と個人の健康問題の関連についての関心を高め、様々な健康ブームの現象の背景を探究する能力を獲得させたい。さらに毎回の講義では、日常生活を浮き彫りにするワークを取り入れ、自分に適した健康づくりやライフスタイルを形成するための知識と技能を身につけるための方法を提案する。 【到達目標】 1)日常生活における健康の重要性について知識を深める 2)生活習慣による健康阻害要因について理解する(社会的健康問題と個人的健康問題との関連) 3)運動習慣と健康との関係について理解する 4)運動、栄養、休養などを柱とした望ましいライフスタイルを形成するためのポイントを理解する 5)自ら健康管理をすることの重要性を理解し、その方法を身につける(運動・栄養・休養のバランス)		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎回、講義資料を配布する。 (2)　毎回の講義の参考文献を紹介する。興味関心をもった文献を是非読んでもらいたい。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（講義の進め方、スポーツ･健康科目講義の意義） 第 2回　健康施策の変遷とその背景について（健康観の変遷を探る） 第 3回　健康と休養（生活リズムと睡眠） 第 4回　健康と運動1（運動の必要性について） 第 5回　健康と運動2（ダイエットと運動処方） 第 6回　健康と栄養（ダイエットと食事） 第 7回　ライフスタイルを考える 第 8回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	講義中に配布する参考資料は必ず読むこと		
成績評価の方法	毎回のワークレポート提出（60%1回-7回まで）＋レポート1回（10%）＋筆記試験(8回目 30%)		
実務経験について	高等学校及び養護学校にて教員として勤務		

(注) 教職必修

(注) 食物栄養専攻を除く全専攻対象 7.5 回

授業科目	**生涯スポーツ実習Ⅰ（A）･（B）**	担当者	道向　良
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり（体力づくり、仲間づくり） 【概要】ラケットスポーツとして主にテニスをとりあげ、ダブルスのゲームができるようになることを目標とする。ペアまたはグループで段階的に練習することを通して、各自の能力に応じた動きや技術、さらにはプレイスタイルを模索していく。体力づくりや仲間づくりを意識しながら全体を構成していく。 【到達目標】 ダブルスのゲームが円滑にできるようになる。体力をつけ、仲間をつくる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　必要に応じてプリントを配布する (2)		
授業スケジュール	第 1回　グループ分け、ラケッティング、種々の基本動作 第 2回　基本のストローク（基礎と応用）、ボール・トスの練習、スキルチェック1 第 3回　ラリーを続ける、ミニゲーム、 第 4回　グループ練習1（左右打ち）、ミニゲーム 第 5回　グループ練習2（前後打ち）、ミニゲーム 第 6回　ボレーの基本練習、ミニゲーム 第 7回　サーブとレシーブの基本練習、スキルチェック2 第 8回　ダブルス・ルールの理解（ポイントとゲーム） 第 9回　ダブルスゲーム1（チーム内での対抗戦）　振り返り1 第10回　ダブルスゲーム2（同等ペアとの対抗戦）　振り返り2 第11回　課題練習（自主的に練習を組み立てよう） 第12回　ファイナル・コンペティション（団体戦）1 第13回　ファイナル・コンペティション（団体戦）2、スキルチェック3 第14回　ファイナル・コンペティション（個人戦）1 第15回　ファイナル・コンペティション（個人戦）2　振り返りのレポート ※　シューズや帽子などは各自適切なものを準備すること。		
授業外学習(予習・復習)	各種運動を日頃から実践し、身体の感覚を新鮮に保っておくこと		
成績評価の方法	運動能力全般（40%）、授業への参加状況（30%）、グループにおける協力関係、リーダーシップ（30%）		

(注) 教職必修

(注) (A) 日本語日本文学専攻, (B) 英語英文学専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ（C）(D)(E)(F)	担当者	西迫　貴美代
	〔履修年次〕　1	授業外対応	随時　nisizako@k-kentan.ac.jp
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修(注)　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。 【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。（後期はラケット種目を履修する） 【到達目標】 1）バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する 2)バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する 3)自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる 4)他者と協力して、チームを組織し、運営することができる 5)自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる		
(1)テキスト (2)参考文献	各人の学習ノートを準備する。(毎回提出)　なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある（E F の場合）。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。その他適時資料を配布する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション（からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク） 第　2回　バレーボールの歴史　試しのゲーム　アタックからの学習について理解する 第　3回　Aアタックのタイミングの理解と習熟　2対2の簡易ゲーム 第　4回　2：2の簡易ゲームから3：3のゲームへ　アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する) 第　5回　3：3の簡易ゲームから4：4のゲーム　(攻撃の作戦を立てる　チームでの練習計画を立て実施する) 第　6回　4：4の簡易ゲームから８：８のゲームへ（コートの広さとアタックの守備との関係　防御の作戦を立てる　） 第　7回　6：6のゲーム　(簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える) 第　8回　6：6のゲーム(バレーボール大会)　※チーム人数については調整の可能性有り 第　9回　バスケットボールの歴史　試しのゲーム　(シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する) 第10回　バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど）　簡易ゲーム 第11回　2：0の練習　2：1の練習　2：2の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する） 第12回　各チームで練習（3：3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す） 第13回　2：2から3：3の練習　オールコートでのゲームの展開　5：5　にむけて 第14回　3：3の練習から5：5の練習へ　(ポジションの確認　攻撃・守備の作戦を立てる) 第15回　5：5ゲーム　(バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認　審判の役割)		
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること		
成績評価の方法	毎回の学習ノート記入回数及び内容60%(自己評価記入も含む)＋スキルテスト40%(種目毎)を基準に総合的に評価する		
実務経験について	高等学校及び養護学校にて教員として勤務		

(注) 教職必修

(注)　(C) 食物栄養専攻　、(D) 生活科学専攻、(E)経済専攻、(F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ(E)(F)	担当者	徳田　修司
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり，仲間づくり 【概要】ラケットスポーツとして本授業ではテニスをとりあげ，ダブルスのゲームが出来るようになることを目標として段階的に学習していく。ペアまたはグループで練習することを主とし，お互いの技術レベルに応じて協力しながら動きや技術を習得する。このような学習課程の中で体力の必要性，仲間との上手な協力関係を学び，実生活でも応用できるようになることを目指す。 【到達目標】 1)ダブルスのゲームが出来ること。試合の進め方，ルールを覚える。 2)ラケットスポーツを通した，健康・体力づくり，仲間づくりの方法を修得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　特に必要なし (2)　必要なし　※必要に応じて，資料は配付する。		
授業スケジュール	第　1回　グループ分け。ボール投げとキャッチ。ラケットを使ったボール打ち。ラケットの持ちかたと打球。 第　2回　ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとフォアハンドストローク。順回転、逆回転。 第　3回　ボール投げとキャッチ。ペアでのボール出しとバックハンドストローク。順回転、逆回転。 第　4回　ボール投げとキャッチ。グループで正確な距離のコントロールの練習。順回転。 第　5回　ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとフォアハンドボレー。 第　6回　ラケット打ちとキャッチ。ペアでボール出しとバックハンドボレー。 第　7回　ラケット打ちとキャッチ。グループで正確なボレー（方向）の練習。 第　8回　ネットを挟んで短い距離でのボール出しとストローク・ボレー。 第　9回　ネットを挟んで長い距離でのボール出しとストローク・ボレー。 第10回　ネットを挟んで短い距離での連続したストロークの練習。 第11回　ネットを挟んで長い距離での連続したストロークの練習。 第12回　サーブを打ってみる。いろいろな打ち方で，正確に打つこと。 第13回　正式のコートより狭くしたコートでのダブルスのゲームに挑戦。 第14回　正式のコートの広さでダブルスのゲームに挑戦する。 第15回　授業のまとめと評価		
授業外学習（予習・復習）	学校で実習した身体を動かすことを生活の中で活用し，習慣化することを目指す。		
成績評価の方法	技術の上達度（60～80%），授業への参加状況（40～20%）		

(注)（E）経済専攻，（F）経営情報専攻

授業科目	**生涯スポーツ実習Ⅱ（A）(B)(E)(F)**	担当者	西迫　貴美代
	〔履修年次〕　1	授業外対応	随時　nisizako@k-kentan.ac.jp
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修(注)　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。 【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。（後期はラケット種目を履修する） 【到達目標】 1）バレーボール・バスケットボールの歴史･ルールを理解する 2)バレーボール･バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する 3)自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる 4)他者と協力して、チームを組織し、運営することができる 5)自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる		
(1)テキスト (2)参考文献	各人の学習ノートを準備する。(毎回提出)　なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある（E F の場合)。主に体育館で実施するので体育館シューズと運動にふさわしい服装を準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。その他適時資料を配布する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション（からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク） 第　2回　バレーボールの歴史　試しのゲーム　アタックからの学習について理解する 第　3回　Aアタックのタイミングの理解と習熟　2対2の簡易ゲーム 第　4回　2：2の簡易ゲームから3：3のゲームへ　アタックのバリエーションを習得(トスの違いを理解する) 第　5回　3：3の簡易ゲームから4：4のゲーム　(攻撃の作戦を立てる　チームでの練習計画を立て実施する) 第　6回　4：4の簡易ゲームから８：８のゲームへ（コートの広さとアタックの守備との関係　防御の作戦を立てる　） 第　7回　6：6のゲーム　(簡易ゲームで利用したルールの採用など、ルールについて考える) 第　8回　6：6のゲーム(バレーボール大会)　※チーム人数については調整の可能性有り 第　9回　バスケットボールの歴史　試しのゲーム　(シュート確立調査からバスケットボールの特徴について理解する) 第10回　バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど）　簡易ゲーム 第11回　2：0の練習　2：1の練習　2：2の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する) 第12回　各チームで練習（3：3において、各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す) 第13回　2：2から3：3の練習　オールコートでのゲームの展開　5：5　にむけて 第14回　3：3の練習から5：5の練習へ　(ポジションの確認　攻撃・守備の作戦を立てる) 第15回　5：5ゲーム　(バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認　審判の役割)		
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること		
成績評価の方法	毎回の学習ノートの提出(自己評価記入も含む)状況およびスキルテスト(種目毎)を元に総合的に評価する		
実務経験について	高等学校及び養護学校にて教員として勤務		

(注)教職必修

(注)（A）日本語日本文学専攻,（B）英語英文学専攻（E）経済専攻,（F）経営情報専攻

授業科目	**生涯スポーツ実習Ⅱ（C)(D)**	担当者	道向　良
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	西迫先生を通して
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1 単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 スポーツは長い歴史をもつ。各種スポーツの習得はそれぞれの歴史を通してそこに刻み込まれてきた社会的・精神的・身体的諸価値を体験、追求する意義をもち、わたしたちの成長・発達、生活におおいに貢献する。本講義では、今日ではすべてのひとにとって「権利」であるとされるスポーツについて確かな認識に裏づけられた技能に習熟することによって、生涯にわたって生活の質を維持・向上することのできる基礎的素養の獲得を目ざしたい。 【概要】 教材として硬式テニスを採用する(雨天時は体育館で。卓球に切り替えることもある)。生涯にわたってスポーツを享受できるために不可欠な認識（わかる）を深め広げ、さらに生涯にわたって、自らの技能習熟（できる）を見通せる能力を形成する。 【到達目標】 1、 生涯にわたりテニス（主としてダブルスゲーム）を楽しめる主体を形成する そのために 2、テニスの歴史、技術構造を理解する 3、その理解に基づいて自他の技能における達成度合いや挑戦課題を発見し、課題達成の道筋を探求する 4、この課題達成の過程において他者との協力やリーダーシップ、忍耐性、身体に関する諸能力を向上させる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第2回~　1. テニスの世界への誘い（様々な操作・運用をとおした、ボール、ラケット、コートへの慣れ） 第14回　2. テニスにおける基本的技能（グランドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等)、ペアとの連携、相手への対応能力の習熟と向上。 3. テニスにおけるゲーム運営（ルール、戦術・戦略、試合運営等）についての理解・習熟 丁寧な説明による理解の進展をはかり、以上の学習課題について、段階的、らせん的な学習指導を展開する。 なお、習熟段階に遅れのみられる受講生には時間を設定し復習指導を行うので心配はいらない。 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	機会があれば、前時に学習した内容を実践確認しておくことが望ましい		
成績評価の方法	出席（50%)、授業への積極的な参加（20%)、技能の理解・習熟段階（30%）を総合的に評価する		

（注）教職必修　（注）（C）食物栄養専攻

<table>
<tr><td rowspan="3">授業科目</td><td colspan="2">生涯スポーツ実習Ⅱ（E)(F)</td><td>担当者</td><td>西谷　憲明</td></tr>
<tr><td>〔履修年次〕　　1年</td><td>授業外対応</td><td>西迫先生を通して</td></tr>
<tr><td>〔学期〕　後期　〔単位〕</td><td>1 単位　〔必修／選択〕</td><td>必修（注）　〔授業形態〕　実習</td></tr>
<tr><td>テーマ及び概要</td><td colspan="3">【テーマ】
スポーツは長い歴史をもつ。各種スポーツの習得はそれぞれの歴史を通してそこに刻み込まれてきた社会的・精神的・身体的諸価値を体験、追求する意義をもち、わたしたちの成長・発達、生活におおいに貢献する。本講義では、今日ではすべてのひとにとって「権利」であるとされるスポーツについて確かな認識に裏づけられた技能に習熟することによって、生涯にわたって生活の質を維持・向上することのできる基礎的素養の獲得を目ざしたい。
【概要】
教材として硬式テニスを採用する(雨天時は体育館で。卓球に切り替えることもある)。生涯にわたってスポーツを享受できるために不可欠な認識（わかる）を深め広げ、さらに生涯にわたって、自らの技能習熟（できる）を見通せる能力を形成する。
【到達目標】
1)生涯にわたりテニス（主としてダブルスゲーム）を楽しめる主体を形成する　そのために
2)テニスの歴史、技術構造を理解する
3)その理解に基づいて自他の技能における達成度合いや挑戦課題を発見し、課題達成の道筋を探求する
4)この課題達成の過程において他者との協力やリーダーシップ、忍耐性、身体に関する諸能力を向上させる</td></tr>
<tr><td>(1)テキスト
(2)参考文献</td><td colspan="3">(1)
(2)</td></tr>
<tr><td>授業スケジュール</td><td colspan="3">第1回　オリエンテーション
第2回～　1.テニスの世界への誘い（様々な操作・運用をとおした、ボール、ラケット、コートへの慣れ）
2.テニスにおける基本的技能（グランドストローク、ボレー、スマッシュ、サービス等)、ペアとの連携、相手への対応能力の習熟と向上。
～第14回　3.テニスにおけるゲーム運営（ルール、戦術・戦略、試合運営等）についての理解・習熟
上記１～３の課題内容について丁寧な説明による理解の進展をはかり、以上の学習課題について、段階的、らせん的な学習指導を展開する。なお、習熟段階に遅れのみられる受講生には時間を設定し復習指導を行うので心配はいらない。
第15回　まとめ</td></tr>
<tr><td>授業外学習(予習・復習)</td><td colspan="3">機会があれば、前時に学習した内容を実践確認しておくことが望ましい</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="3">授業への参加状況（50%)、授業への積極的な参加（20%)、技能の理解・習熟段階（30%）を総合的に評価する</td></tr>
</table>

（注）教職必修　（注）（D）生活科学専攻,（E）経済専攻,（F）経営情報専攻

４　教養科目（情報科目）

授業科目	**情報リテラシーⅠ（A）**	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得 【概要】学内メールの送受信方法を習得し，メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフトMicrosoft Word及びExcelの基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Webによる情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ，ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。 【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて，他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019』FOM出版 (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション，電子メール 第　2回　電子メール，第1章Wordさあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第　3回　第2章Word文書を作成しよう 第　4回　第3章Wordグラフィック機能を使ってみよう 第　5回　第4章Word表のある文書を作成しよう 第　6回　レポート作成に役立つWORDの機能　（プリント） 第　7回　Webによる情報検索　（プリント） 第　8回　Webによる情報検索(2)　（プリント） 第　9回　ファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念）及びファイルの検索　（プリント） 第10回　第5章Excelさあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第11回　第6章Excelデータを入力しよう 第12回　第7章Excel表を作成しよう 第13回　第8章Excelグラフを作成しよう 第14回　Excel練習問題 第15回　まとめ（Word・Excel・情報検索）		
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。		
成績評価の方法	3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	**情報リテラシーⅠ（B）**	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得 【概要】学内メールの送受信方法を習得し，メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフトMicrosoft Word及びExcelの基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Webによる情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ，ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。 【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて，他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019』FOM出版 (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション，電子メール 第　2回　電子メール，第1章Wordさあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第　3回　第2章Word文書を作成しよう 第　4回　第3章Wordグラフィック機能を使ってみよう 第　5回　第4章Word表のある文書を作成しよう 第　6回　レポート作成に役立つWORDの機能　（プリント） 第　7回　Webによる情報検索　（プリント） 第　8回　Webによる情報検索(2)　（プリント） 第　9回　ファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念）及びファイルの検索　（プリント） 第10回　第5章Excelさあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第11回　第6章Excelデータを入力しよう 第12回　第7章Excel表を作成しよう 第13回　第8章Excelグラフを作成しよう 第14回　Excel練習問題 第15回　まとめ（Word・Excel・情報検索）		
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。		
成績評価の方法	3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

（注）教職必修，英語英文学専攻

授業科目	**情報リテラシーⅠ（C）**	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得 【概要】学内メールの送受信方法を習得し，メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフトMicrosoft Word及びExcelの基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Webによる情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ，ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。 【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて，他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM出版 (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション，電子メール 第　2回　電子メール，第1章Wordさあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第　3回　第2章Word文書を作成しよう 第　4回　第3章Wordグラフィック機能を使ってみよう 第　5回　第4章Word表のある文書を作成しよう 第　6回　レポート作成に役立つWORDの機能　（プリント） 第　7回　Webによる情報検索　（プリント） 第　8回　Webによる情報検索(2)　（プリント） 第　9回　ファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念）及びファイルの検索　（プリント） 第10回　第5章Excelさあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第11回　第6章Excelデータを入力しよう 第12回　第7章Excel表を作成しよう 第13回　第8章Excelグラフを作成しよう 第14回　Excel練習問題 第15回　まとめ（Word・Excel・情報検索）		
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。		
成績評価の方法	3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

（注）食物栄養専攻

授業科目	**情報リテラシーⅠ（D）**	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得 【概要】学内メールの送受信方法を習得し，メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフトMicrosoft Word及びExcelの基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Webによる情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ，ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。 【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて，他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM出版 (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション，電子メール 第　2回　電子メール，第1章Wordさあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第　3回　第2章Word文書を作成しよう 第　4回　第3章Wordグラフィック機能を使ってみよう 第　5回　第4章Word表のある文書を作成しよう 第　6回　レポート作成に役立つWORDの機能　（プリント） 第　7回　Webによる情報検索　（プリント） 第　8回　Webによる情報検索(2)　（プリント） 第　9回　ファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念）及びファイルの検索　（プリント） 第10回　第5章Excelさあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第11回　第6章Excelデータを入力しよう 第12回　第7章Excel表を作成しよう 第13回　第8章Excelグラフを作成しよう 第14回　Excel練習問題 第15回　まとめ（Word・Excel・情報検索）		
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。		
成績評価の方法	3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	**情報リテラシーⅠ（E）**	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。 【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2019』FOM 出版」 (2)　プリント		
授業スケジュール	第 1回　パソコンの基本操作　：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成 第 2回　文字の入力　：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3回　文章の入力　：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存 第 4回　文書の作成　：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動 第 5回　文書の編集　：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など） 第 6回　通知状の作成　：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について 第 7回　表の作成　：表の挿入、表への文字入力、表の選択 第 8回　表の編集　：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更 第 9回　表の活用　：課題文書作成（表を含む文書） 第 10 回　グラフィック機能の利用　：ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定 第 11 回　図形描画　：図解について、図形の作成・編集 第 12 回　案内状の作成　：課題文書作成（案内状）、文書管理について 第 13 回　レポートの作成　：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第 14 回　社外文書作成　：案内状など 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師		

（注）経済専攻

授業科目	**情報リテラシーⅠ（F）**	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。 【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2019』FOM 出版」 (2)　プリント		
授業スケジュール	第 1回　パソコンの基本操作　：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成 第 2回　文字の入力　：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3回　文章の入力　：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存 第 4回　文書の作成　：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動 第 5回　文書の編集　：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など） 第 6回　通知状の作成　：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について 第 7回　表の作成　：表の挿入、表への文字入力、表の選択 第 8回　表の編集　：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更 第 9回　表の活用　：課題文書作成（表を含む文書） 第 10 回　グラフィック機能の利用　：ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定 第 11 回　図形描画　：図解について、図形の作成・編集 第 12 回　案内状の作成　：課題文書作成（案内状）、文書管理について 第 13 回　レポートの作成　：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第 14 回　社外文書作成　：案内状など 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師		

（注）経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ（A）	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。 【概要】情報リテラシーは，専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに，セキュリティーやマナー，ルールといった知識を学び，情報化社会に対応する能力を身につける科目である。Ⅱ では，Ⅰ で学んだ基礎のうえにたち，その応用を図るともに，情報化社会における社会と ICT の関わりやその問題点などについても考える。 【到達目標】情報機器を活用し，ネットを安全かつ効率的に利用することができる。 また，ICT 関連のニュースを理解し，中学生にもわかるように説明できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 奥村晴彦，森本尚之『改訂第４版 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方，コンピューターとのつきあい方，コンピューターの基本用語 第 2回 文字入力，文字コード，コマンドライン 第 3回 ネットの利用，情報の調べ方・まとめ方 第 4回 電子メールとセキュリティ，SNS 第 5回 お絵かきソフトとファイルの基本操作 第 6回 文書作成の基本 第 7回 文書作成の応用 第 8回 表計算ソフトの基本 第 9回 表計算ソフトの応用，計算精度 第 10 回 プレゼンテーション 第 11 回 Web による情報発信 第 12 回 情報とセキュリティー，情報と法律 第 13 回 プログラミング R によるデータ処理 (1) 第 14 回 プログラミング R によるデータ処理 (2) 第 15 回 中学校での「情報教育」の動向について		
授業外学習(予習・復習)	次回の学習範囲を指示するので，事前によく読んでおく。また，毎週のニュースに関する課題にメールで答えること。		
成績評価の方法	課題レポートの成績(50%)＋毎時紹介する ICT 関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%)		
実務経験について	なし。		

（注）教職必修，日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ（B）	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】課題の探求・解決・表現（出力）のすべてにおいて重要なツールとなる情報処理能力を身につける。 【概要】情報リテラシーは，専門教育を効率的かつ効果的におこなうための手法を学ぶとともに，セキュリティーやマナー，ルールといった知識を学び，情報化社会に対応する能力を身につける科目である。Ⅱ では，Ⅰ で学んだ基礎のうえにたち，その応用を図るともに，情報化社会における社会と ICT の関わりやその問題点などについても考える。 【到達目標】情報機器を活用し，ネットを安全かつ効率的に利用することができる。 また，ICT 関連のニュースを理解し，中学生にもわかるように説明できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 奥村晴彦，森本尚之『改訂第４版 基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社 (2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方，コンピューターとのつきあい方，コンピューターの基本用語 第 2回 文字入力，文字コード，コマンドライン 第 3回 ネットの利用，情報の調べ方・まとめ方 第 4回 電子メールとセキュリティ，SNS 第 5回 お絵かきソフトとファイルの基本操作 第 6回 文書作成の基本 第 7回 文書作成の応用 第 8回 表計算ソフトの基本 第 9回 表計算ソフトの応用，計算精度 第 10 回 プレゼンテーション 第 11 回 Web による情報発信 第 12 回 情報とセキュリティー，情報と法律 第 13 回 プログラミング R によるデータ処理 (1) 第 14 回 プログラミング R によるデータ処理 (2) 第 15 回 中学校での「情報教育」の動向について		
授業外学習(予習・復習)	次回の学習範囲を指示するので，事前によく読んでおく。また，毎週のニュースに関する課題にメールで答えること。		
成績評価の方法	課題レポートの成績(50%)＋毎時紹介する ICT 関連ニュースやテキストの内容に関する筆記試験の成績(50%)		
実務経験について	なし。		

（注）教職必修，英語英文学専攻

授業科目	**情報リテラシーⅡ（C）**	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得 【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフトMicrosoft Word及びExcel，PowerPointを習得し、必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために，日商PC検定3級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。 デジタル化に伴うメリット・デメリット，情報セキュリティを守る技術等，ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。 【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて，簡単なビジネス文書が作成できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM出版 (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　Microsoft Word及びExcelの基本操作の復習 第　2回　第10章PowerPoint さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第　3回　第11章PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう 第　4回　第12章PowerPoint スライドショーを実行しよう 第　5回　第13章アプリ間でデータを共有しよう 第　6回　Word練習問題（グラフィック中心）　（プリント） 第　7回　Word練習問題（表中心）　（プリント） 第　8回　Word練習問題　（プリント） 第　9回　第9章Excel データを分析しよう 第10回　Excel練習問題（関数中心）　（プリント） 第11回　Excel練習問題（グラフ中心）　（プリント） 第12回　Excel練習問題　（プリント） 第13回　ビジネス実務を想定した問題演習　（プリント） 第14回　ビジネス実務を想定した問題演習　（プリント） 第15回　まとめ（PowerPoint・Word・Excel）		
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。		
成績評価の方法	3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

（注）食物栄養専攻

授業科目	**情報リテラシーⅡ（D）**	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得 【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフトMicrosoft Word及びExcel，PowerPointを習得し、必要な情報を収集・選択・加工し，受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために，日商PC検定3級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。 デジタル化に伴うメリット・デメリット，情報セキュリティを守る技術等，ICT利活用に関する基本的な知識を習得する。 【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて，簡単なビジネス文書が作成できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM出版 (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　Microsoft Word及びExcelの基本操作の復習 第　2回　第10章PowerPoint さあ，はじめよう（概要，起動と終了，画面構成） 第　3回　第11章PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう 第　4回　第12章PowerPoint スライドショーを実行しよう 第　5回　第13章アプリ間でデータを共有しよう 第　6回　Word練習問題（グラフィック中心）　（プリント） 第　7回　Word練習問題（表中心）　（プリント） 第　8回　Word練習問題　（プリント） 第　9回　第9章Excel データを分析しよう 第10回　Excel練習問題（関数中心）　（プリント） 第11回　Excel練習問題（グラフ中心）　（プリント） 第12回　Excel練習問題　（プリント） 第13回　ビジネス実務を想定した問題演習　（プリント） 第14回　ビジネス実務を想定した問題演習　（プリント） 第15回　まとめ（PowerPoint・Word・Excel）		
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題（単元の復習問題）を実施すること。		
成績評価の方法	3回の課題（60%）と期末試験（40%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務、会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

（注）教職必修，生活科学専攻

授業科目	**情報リテラシーⅡ（E）**	担当者	刈屋　美枝子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】　学習におけるWindowsパソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーションに習熟する。 【概要】　情報リテラシーII（E）と（F）は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて経済・経営情報の2専攻を合わせて中級（経験者：E）と初級（初心者：F）に分けてクラス編成する。Windowsパソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】初心者クラスは、Windowsパソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、スマートフォンと連携させながら応用レベルまで使いこなせるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　随時、資料ファイルを配信。		
授業スケジュール	第　1回　Windowsパソコンの基本的な使い方　タイピング練習ソフトの紹介 第　2回　電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携 第　3回　Windowsパソコンでのファイルの基本操作 第　4回　電子メールの応用　　授業アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など） 第　5回　パソコンによる効率的な検索 第　6回　インターネット検索　　第1回課題 第　7回　画像ファイルの扱い方･･･さまざまなアプリの選択 第　8回　画像ファイルの扱い方･･･画像の加工・編集 第　9回　画像を利用したワープロ文書作り（1） 第10回　画像を利用したワープロ文書作り（2）第2回課題 第11回　ファイルの応用的処理･･･圧縮・解凍 第12回　ファイルの応用的処理･･･その他のユーティリティソフト 第13回　インターネットを利用したデータのやり取り･･･パソコンとスマートフォンの連携 第14回　インターネットの活用･･･クラウドの利用 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。		
成績評価の方法	2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価		
実務経験について	本学でのパソコン講師歴20年以上、実務翻訳業20年（鹿児島商工会議所会員）		

授業科目	**情報リテラシーⅡ（F）**	担当者	刈屋　美枝子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】　学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。 【概要】　情報リテラシーII（E）と（F）は、授業開始前にパソコン使用経験に応じて経済・経営情報の2専攻を合わせて中級（経験者：E）と初級（初心者：F）に分けてクラス編成する。Windowsパソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール（学校指定メール）、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。 【到達目標】初心者クラスは、Windowsパソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、スマートフォンと連携させながら応用レベルまで使いこなせるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　随時、資料ファイルを配信。		
授業スケジュール	第　1回　Windowsパソコンの基本的な使い方　タイピング練習ソフトの紹介 第　2回　電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携 第　3回　Windows PCでのファイルの基本操作 第　4回　電子メールの応用　　授業アンケート（パソコン使用歴、授業への希望など） 第　5回　パソコンによる効率的な検索 第　6回　インターネット検索　　第1回課題 第　7回　画像ファイルの扱い方･･･さまざまなアプリの選択 第　8回　画像ファイルの扱い方･･･画像の加工・編集 第　9回　画像を利用したワープロ文書作り（1） 第10回　画像を利用したワープロ文書作り（2）第2回課題 第11回　ファイルの応用的処理･･･圧縮・解凍 第12回　ファイルの応用的処理･･･その他のユーティリティソフト 第13回　インターネットを利用したデータのやり取り･･･パソコンとスマートフォンの連携 第14回　インターネットの活用･･･クラウドの利用 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。		
成績評価の方法	2回の課題（60%）と実技試験（40%）の総合評価		
実務経験について	本学パソコン講師歴20年以上、実務翻訳業20年（鹿児島商工会議所会員）		

５　日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	**日本文学概論**	担当者	木戸 裕子・竹本 寛秋
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。 【概要】 大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では，１．古典文学研究に必要な文献学，書誌学の初歩とくずし字の読み方，２．主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩，３．大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で，日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。 【到達目標】 本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し，変体仮名（くずし字）の基本的な読み方を身につける。 演習や２年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方，論理的なレポートの書き方を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社（担当者：木戸） プリント（担当者：竹本）		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い、ノートの取り方。 第 2回 古典文学を学ぶとは、仮名史について：くずし字の読み方１ 第 3回 文献学（写本と板本），書誌学について：くずし字の読み方２ 第 4回 古典の季節観と暦：くずし字の読み方３ 第 5回 古典文学研究の方法１：くずし字小テスト 第 6回 古典文学研究の方法２：くずし字の読み方４ 第 7回 古典における比較文学 中国古典文学との関わり：くずし字の読み方５ 第 8回 総括１：前半のまとめ 第 9回 近代文学を学ぶとは：文学理論について 第10回 「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて 第11回 「作者」とは何か：作者／作品／テクストについて 第12回 「語り」とは何か：ナラトロジーについて 第13回 「物語」とは何か： 物語の構造について 第14回 論文の書き方 第15回 総括２：後半のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業で指示する課題など。		
成績評価の方法	毎時間提出するミニレポート（感想文等）２０% 講義期間中の提出課題又は小テスト３０% 試験５０%（竹本担当分はレポート５０%）の合計で評価する。		

（注）教職必修

授業科目	**言語学概論**	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】 この授業では，言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論および語用論，さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。 【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に，身近なことばと私たちの生活，社会の関連について理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か，授業の概要説明 第 2回 音声学・音韻論（1）：調音音声学，子音・母音 第 3回 音声学・音韻論（2）：モーラ，音節① 第 4回 音声学・音韻論（3）：モーラ，音節② 第 5回 音声学・音韻論（4）：連濁，枝分かれ制約 第 6回 形態論（1）：派生，複合など単語を生み出す仕組み 第 7回 形態論（2）：メンタルコーパス 新語、流行語 第 8回 意味論（1）：単語の意味 第 9回 意味論（2）：類義語と対義語 第10回 語用論（1）：発話行為論① 第11回 語用論（2）：発話行為論② 第12回 語用論（3）： 発話機能と語学教育 第13回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第14回 これまでの復習 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	授業での発言や参加度、宿題：50%，期末試験：50%		

授業科目	**日本語学概論**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年（注）	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2	〔必修／選択〕 必修（注）	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで，また，日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも，必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。 【概要】日本語学の各研究分野について概観するが，日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項についてはパソコン教室（※）で自分の声を分析しながら考察を行う。また，日本語においては文字・表記の問題も重要である。 【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。		
(1)テキスト	(1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房		
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 日本語学とは：国語／日本語 と 国語学／日本語学 （※印はパソコン教室で実施。） 第 2回 現代日本語の音声と音韻1：音声の研究，音声器官，音声記号 ※ 第 3回 現代日本語の音声と音韻2：音の分類，音素分析 ※ 第 4回 現代日本語の音声と音韻3：現代日本語の母音・子音 ※ 第 5回 現代日本語の音声と音韻4：音節・モーラ，アクセント ※ 第 6回 現代日本語の音声と音韻5：イントネーション ※ 第 7回 文字・書記：現代日本語の文字と書記法，国語施策，舊漢字 第 8回 現代日本語の文法1：文法の諸領域，形態論 第 9回 現代日本語の文法2：統語論，意味論 第10回 現代日本語の文法3：語用論 第11回 現代日本語の語彙1：単語，語彙，語彙論 第12回 現代日本語の語彙2：単語の語彙的性質（語彙的カテゴリー），単語の基本度（基幹語彙） 第13回 文章論と談話分析：文章と談話，文章論，談話分析 第14回 現代語における文体差，言葉の変異と諸方言 第15回 コーパスと統計，理論的研究とは？		
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し，学習課題を考察してくること。		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)		

（注）日本語日本文学専攻では，1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では，2年次 選択科目。

授業科目	**日本語教育概論**	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 1年（注）	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2	〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ。 【概要】 この授業では，日本語教育に初めて接する人を対象として，日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢，教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境，言語（外国語）習得の仕組み，日本語教育の教授法等を解説する。 【到達目標】 ・日本語教育に関する基礎知識を身につけ，日本語教育に興味を持ち，その全体像を把握できること。 ・グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し，より広い視野と多様な見方を持つようになること。		
(1)テキスト	(1) プリントを配布する。		
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第 2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化，定住外国人の増加，ボランティア教室 第 3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第 4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析 第 5回 教師の役割②シラバス・デザイン 第 6回 教材分析 第 7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ 第 8回 教授法②：授業見学 第 9回 教授法③：授業見学の振り返り 第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方 第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習 第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク 第13回 授業の計画と実施④文化を教える 第14回 評価法：熟達度テスト 到達度テスト 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので，復習が必要である。		
成績評価の方法	授業での参加度や提出物：50%，期末レポート：50%		

（注）日本語日本文学専攻は1年，英語英文学専攻は2年。

授業科目	**日本語史**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2	〔必修／選択〕 必修（注）	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】日本語の史的変遷について学ぶ。 【概要】古代から現代に至る各時代の日本語について，音韻・文字・文法など各分野にわたり，資料を読みながら，史的変遷を概観する。「日本語学概論」を履修していない場合は，テキストのうち現代語に関する部分をよく読んでおくこと。 【到達目標】日本語の歴史について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。		
(1)テキスト	(1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房		
(2)参考文献	(2) 古典辞典いずれか1冊を毎回持参すること（電子辞書・辞書アプリでも可能）。		
授業スケジュール	第 1回 時代区分と資料 ：音声資料（昔のレコード），古辞書，古典文学作品 第 2回 文字・書記：漢字の借用，表語文字から表音文字へ，書記法の発達 第 3回 音韻の歴史変化1：上代特殊仮名遣い，ハ行子音の歴史変化 第 4回 音韻の歴史変化2：ア行・ヤ行・ワ行の歴史変化，サ行・ザ行・タ行・ダ行の歴史変化 第 5回 音韻の歴史変化3：頭音法則とその周辺 第 6回 音韻の歴史変化4：アクセントの歴史的研究―資料と方法論 第 7回 古代語音声の復元：源氏物語，上代歌謡 第 8回 文法の歴史変化1：動詞の形態的変化 第 9回 文法の歴史変化2：統語的変化，意味変化 第10回 文法の歴史変化3：語形変化と語義変化 第11回 語と語彙の歴史的変化1：“語源”，出自から見た語彙，体系としての語彙とその変遷 第12回 語と語彙の歴史的変化2：語構成と造語，語形変化・語義変化 第13回 語と語彙の歴史的変化3：語の位相とその意識，〈食事〉を示す語彙体系とその変遷 第14回 文体史，文体差の史的事情 第15回 日本語学史		
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し，学習課題を考察してくること。		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績(20%)		

（注）教職必修。

授業科目	**日本文法論**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2	〔必修／選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【テーマ】近代以降の主な文法学説について学び，日本語の文法について考察する。 【概要】中学校で習った（はずの）「口語文法」は，あまり役に立つとも思えない。しかし，文法研究を一生の仕事とした人がいるのだから，意外に面白いのかもしれない。また，外国語教育では，より実態に近い（役に立つ）文法理論も必要だ。 この講義では，毎年，日本語の文法について書かれた新刊書1冊を取り上げ，考察を加えていく。講義方式ではあるが，輪読形式や中学校の教育実習に関する話題も交えて進めていくので，気軽に参加してほしい。 【到達目標】日本語の文法について書かれた新書を理解し，文法に関して議論ができる。		
(1)テキスト	(1) 庵 功雄 『やさしい日本語　多文化共生社会へ』岩波新書		
(2)参考文献	(2) 庵功雄ほか編『「やさしい日本語」は何を目指すか ―多文化共生社会を実現するために』ココ出版		
授業スケジュール	第 1回 学校文法の確認：中学校国語「口語文法」の内容について再確認 第 2回 主な文法学説1：大槻文彦／国語元年，山田孝雄／陳述 第 3回 主な文法学説2：松下大三郎／断句，橋本進吉／文節 第 4回 主な文法学説3：時枝誠記／文章論，三上章／主語廃止論 第 5回 テキストについての検討(1) 第 6回 テキストについての検討(2) 第 7回 テキストについての検討(3) 第 8回 テキストについての検討(4) 第 9回 テキストについての検討(5) 第10回 テキストについての検討(6) 第11回 テキストについての検討(7) 第12回 テキストについての検討(8) 第13回 テキストについての検討(9) 第14回 テキストについての検討(10) 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	次回の学習範囲を指示するので，事前によく読んでおくこと。		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)		

授業科目	**日本語学講義**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】1年次に学んだ日本語学概論，日本語史で扱った諸問題について韓国語（朝鮮語）の概要を学ぶことをとおして，改めて考察し日本語をより深く理解する。 【概要】日本では，6 年以上勉強した英語と比較して「日本語は特殊」と思い込む人が多そうだが，文法構造や漢字の受容，敬語法などの面において，日本語にそっくりで微妙に違う韓国語を知ると，目から鱗が落ちるはずだ。K-POP 視聴あり。 【到達目標】日本語と韓国語の似ている点・異なる点を指摘することができる。ハングルの仕組みや（だいたいの）発音がわかる。また，日本語の起源に関する議論について，怪しい点が指摘できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 野間秀樹『ハングルの誕生 音から文字を創る』，『韓国語をいかに学ぶか』平凡社新書		
授業スケジュール	第 1回 「ハングル」とは：誕生日，構造 第 2回 日本語と韓国語1：口蓋音化，音節構造 第 3回 日本語と韓国語2：「清音／濁音」対「平音／激音／濃音」 第 4回 日本語と韓国語3：漢字音，固有語・漢字語・外来語 第 5回 日本語と韓国語4：品詞分類，助詞 第 6回 日本語と韓国語5：助動詞（語尾），サ変動詞・形容動詞（ 외래어・形容詞），活用 第 7回 日本語と韓国語6：代名詞と指示語，コソアドの体系 第 8回 日本語と韓国語7：擬声語・擬態語 第 9回 日本語と韓国語8：色彩形容詞 「空の青」「海のあを」 第10回 日本語と韓国語9：待遇表現（敬語，文体） 第11回 日本語と韓国語10：数詞，助数詞 第12回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」1：記紀歌謡・万葉集と郷歌 第13回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」2：数詞 第14回 日本語の歴史と「古代朝鮮語」3：トンデモ学説について 第15回 言語の起源・日本語の起源はどこまでわかっているか，まとめ		
授業外学習(予習・復習)	次回の学習範囲を指示するので，日本語の事例について事前に調べておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験（簡単なハングルの読み書き，日本語との類似点・相違点，日本語の起源とのかかわり等について出題する）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容（20%）		

授業科目	**日本語学講読Ⅰ**	担当者	松尾 弘徳
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	メールによる（連絡先は授業中に告知する）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】日本語学の研究方法を学ぶ 【概要】日本語学という学問分野がどんなことを問題をとして取り扱うのか、という基本的なスタンスをこの授業では学びます。受講学生は毎回授業時までに予習課題を提出、授業では学生が提出した回答や例文を引用しながら、日本語のしくみを考えます。 【到達目標】普段話したり書いたりしている日本語を客観的にながめることができるようになることが最終的な目標です。 多くの具体的事例を取り上げ、日本語について深く考える場にしたいと考えています。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 (2) 授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方の説明 第 2回 語彙1－ことばの性差 第 3回 語彙2－ことばの地域差 第 4回 語彙3－意味用法の変化と若者語 第 5回 音声1－日本語のリズム 第 6回 音声2－鹿児島方言のアクセント 第 7回 語用論1－語用論入門 第 8回 語用論2－配慮表現 第 9回 語用論3－比喩とはなにか 第10回 語用論4－メタファーを考える 第11回 文法1－アニマシー 第12回 文法2－「あいづち」「いいよどみ」に潜む文法 第13回 文法3－とりたて詞 第14回 文法4－方言文法の変化 第15回 まとめと試験 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。		
授業外学習(予習・復習)	受講者全員に対し、授業前に提出してもらう予習課題が予習に、授業後に提出してもらうコメントカードが復習に該当します。		
成績評価の方法	評価基準は下の通り。 メールによる予習課題の提出：20% 学期末試験：80% なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。		

授業科目	**日本語学講読Ⅱ**	担当者	松尾　弘徳
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールによる（連絡先は事業中に告知する）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】現代日本語にみられる諸現象を「歴史的に」考える 【概要】ある言葉遣いを聞いたとき、ある人物像が頭に浮かぶ、ということがあります。これを「役割語」と呼ぶことにします。 学生の皆さんにも同様の調査を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告していただきます。 授業では小説やマンガ、あるいはアニメなどの用例を紹介しながら、役割語に関する考察をすすめてゆきます。 【到達目標】教員による講義と、学生の研究発表を並行しながら、言葉と歴史の関わりを明らかにしてゆきたいと考えます。 この授業を通じて、①歴史認識　②日本語学の研究方法　③プレゼンテーションスキル　などを学ぶことになります。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキストは指定せず、毎回プリントを配布します。 (2)　授業の中で必要に応じて紹介してゆきます。		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方の説明 第 2回　「正しい日本語」とはなにもの？ 第 3回　副詞「全然」の語史 第 4回　役割語とは何か 第 5回　研究発表準備① 第 6回　研究発表準備② 第 7回　「博士」のことば（研究発表①） 第 8回　博士語の成立 第 9回　標準語と非標準語（1）「田舎者」のことば（研究発表②） 第10回　標準語と非標準語（2）「標準語」の成立と展開 第11回　「中国人」のことば（研究発表③） 第12回　異人たちのことば 第13回　さまざまな役割語（研究発表④） 第14回　役割語とステレオタイプ 第15回　講義内容のまとめ　以上の予定ですが、受講人数・進行状況次第で変更の可能性があります。		
授業外学習(予習・復習)	受講者全員に対し、授業前に提出してもらう予習課題が予習に、授業後に提出してもらうコメントカードが復習に該当します。		
成績評価の方法	評価基準は下の通り。学期末の試験は行いません。 メールによる予習課題の提出：50%　研究発表と発表概要の提出：50% なお、初回授業時に詳しいガイダンスを行いますので、受講希望者は必ず出席してください。		

授業科目	**日本語学演習Ⅰ，Ⅲ**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕　Ⅰは1年，Ⅲは2年	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】大正時代から昭和初期の言語を考察する。 【概要】レコード・蓄音機が普及し，ラジオ放送が始まった大正時代から昭和初期は，真の「共通語」が生まれた時代とも言える。その時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。 【到達目標】Ⅰ 大正時代から昭和初期の言語を考察する資料を探すことができる。 Ⅲ 大正時代から昭和初期の言語の資料を探し出し，さまざまに考察することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。 (2)　塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂		
授業スケジュール	第 1回　導入：国立国会図書館デジタルコレクション，同「歴史的音源」 第 2回　〃：SP 盤レコードと文句集 第 3回　演習：学生による発表 2年生担当 第 4回　〃：〃 第 5回　〃：〃 第 6回　〃：〃 第 7回　〃：〃 第 8回　演習：学生による発表 1年生担当（2年生が補助） 第 9回　〃：〃 第10回　〃：〃 第11回　〃：〃 第12回　〃：〃 第13回　〃：〃 第14回　〃：〃 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	発表担当の際には（追加の補充調査を含めて）15 時間程度を充てるものとする。		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)＋それ以外の授業中の発言(20%)＋試験の成績(40%)		

授業科目	**日本語学演習Ⅱ**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】大正時代から昭和初期の言語を考察する。 【概要】レコード・蓄音機が普及し，ラジオ放送が始まった大正時代から昭和初期は，真の「共通語」が生まれた時代とも言える。その時代の言語を知る資料にはどのようなものがあるのかをさぐるのがこの演習である。 【到達目標】Ⅰ 大正時代から昭和初期の言語を考察する資料を探す出し，その価値が指摘できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。 (2) 塩田雄大『現代日本語史における放送用語の形成の研究』三省堂		
授業スケジュール	第 1回 導入：今学期の進め方 第 2回 演習：学生による発表 第 3回 〃 ：〃 第 4回 〃 ：〃 第 5回 〃 ：〃 第 6回 〃 ：〃 第 7回 〃 ：〃 第 8回 〃 ：中間まとめ 第 9回 〃 ：学生による発表 第10回 〃 ：〃 第11回 〃 ：〃 第12回 〃 ：〃 第13回 〃 ：〃 第14回 〃 ：〃 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	発表担当の際には（追加の補充調査を含めて）8 時間程度を充てるものとする。		
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績(40%)＋それ以外の授業中の発言(20%)＋試験の成績(40%)		

授業科目	**日本語学演習Ⅳ，Ⅵ**	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 Ⅳは1年，Ⅵは2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】 毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める，2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める 【到達目標】 演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。 第 2回 語用論，社会言語学の分野の研究について 第 3回 配慮を考えるときの視点①（2年生担当） 第 4回 配慮を考えるときの視点②（2年生担当） 第 5回 配慮を考えるときの視点③（2年生担当） 第 6回 日本語の配慮の多面性①（1年生担当） 第 7回 日本語の配慮の多面性②（1年生担当） 第 8回 卒論中間報告（2年生） 第 9回 役割語①（2年生担当） 第10回 役割語②（2年生担当） 第11回 談話分析（1年生） 第12回 会話分析（1年生） 第13回 卒論計画発表（1年生） 第14回 卒論発表練習（2年生） 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語学演習Ⅴ	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1	〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習	
テーマ及び概要	【テーマ】 語用論，社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。 【概要】 毎回，担当者がテキストの内容をまとめて，発表し，他の受講生は，テキストをあらかじめ熟読し，疑問点や問題点について質問し，担当者を中心にディスカッションを行う，といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め，論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。 【到達目標】 演習を行いながら，語用論，社会言語学に対する理解を深める，簡単な学術的レポートが作成できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　授業の概要を説明し，各回の担当者を決める。 第 2回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 3回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 4回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 5回　レポート作成指導① 第 6回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 7回　レポート作成指導② 第 8回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第 9回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第10回　レポート作成指導③ 第11回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第12回　レポート作成指導④ 第13回　担当者による発表：担当者が語用論，社会言語学の文献を読み，内容をまとめて発表する。 第14回　レポートに基づく口頭発表 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	レポート：50%，発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		

授業科目	日本語表現法	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2	〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義	
テーマ及び概要	【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。 【概要】発表，面接，論文，エッセーなどの課題にグループで取り組みながら，ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示し，意見を的確に伝える方法を考察する。表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。 この授業は講義方式であるが，実際には後期の日本語表現法演習と一体として進めていくので，一部演習も織り込んでいく。その意味で，日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。 【到達目標】簡単な口頭発表が適切にできる。また，原稿用紙を適切に使って簡単なレポートが書ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。教職課程履修者は筆順・教科書体も必要。		
授業スケジュール	第 1回　導入：自己紹介 第 2回　地図：班分け，グループごとに動画を確認して意見交換，地図を口頭で説明し，略地図を書く 第 3回　漢字：地図の答え合せ，難読語をどう調べるか，送り仮名，印刷標準字体・手書き文字の字形，漢字の課題 第 4回　ネット利用：課題の解答確認，ドメイン，電子メール利用の注意点，ネットで調べる，図書館資料を OPAC で 第 5回　調査方法：論文を調べる，新聞を調べる，引用・書誌情報，希望調査 第 6回　調査開始：班分けの発表，リーダー選出，図書館調査・ネット調査，本時の到達点を報告 第 7回　調査実施：引き続き課題についての調査を行う，本時までの到達点を報告 第 8回　図表：統計などの数字の扱い，図表の読み方と説明の仕方 第 9回　中間報告：口頭発表と質疑 第10回　レポート：文形・文体，現代語表記と原稿のきまり，文章の構成 第11回　レポート：第1 回提出 第12回　レポート：わかりやすく書くには 第13回　レポート：補充調査 第14回　レポート：第2 回提出 第15回　まとめ，表現の自由と人権		
授業外学習(予習・復習)	ネット調査，図書館調査，ポスター作成など，毎回授業のなかで指示する。		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)＋グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)＋随時行う表記に関する小テストの成績(20%)		

（注）教職必修

授業科目	**日本語表現法演習**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 演習		
テーマ及び概要	【テーマ】ことば（音声言語および文章表現）によって，事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を，演習を通して学ぶ。 【概要】日本語表現法の講義での学習を生かしながら，課題に対するレポートを作成し，口頭発表を行う。 この授業は演習方式であるが，実際には前期の日本語表現法と一体として進めていくので，一部講義も織り込んでいく。その意味で，日本語表現法と併せて受講することが望ましい。 【到達目標】資料を調べて，口頭発表やレポート作成が適切にできる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 国語辞典（電子辞書，スマホアプリも可）←毎時必ず持参すること。教職課程履修者は筆順・教科書体も必要。		
授業スケジュール	第 1回 参考文献：参考文献を読む 第 2回 参考文献：参考文献を引用する 第 3回 プレゼンテーション：何を使うか 第 4回 課題レポート1：作成 第 5回 課題レポート1：発表 第 6回 課題レポート1：討論 第 7回 課題レポート2：作成 第 8回 課題レポート2：発表 第 9回 課題レポート2：討論 第10回 課題レポート3：作成 第11回 課題レポート3：発表 第12回 課題レポート3：討論 第13回 試験レポート：資料収集 第14回 試験レポート：テーマに関する討論 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	ネット調査，図書館調査，レポート作成など，毎回授業のなかで指示する。		
成績評価の方法	筆記試験の成績(50%)＋グループ討論や発表等の授業中の発言(30%)＋随時行う表記に関する小テストの成績(20%)		

授業科目	**対照言語学**	担当者	楊 虹
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。 【概要】 この授業では，対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語，中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して，それぞれの特徴を明らかにし，日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また，言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。 【到達目標】 日本語と外国語（英語，中国語）の主な共通点と相違点を理解し，実際の言語データを使って分析することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か，授業の概要説明 第 2回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第11回 日英中の対照（１０）：言語行動に関する比較① 第12回 日英中の対照（１１）：言語行動に関する比較② 第13回 発表準備 第14回 学生による発表 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度：30%，発表：30%，レポート：40%		

授業科目	**日本文学講義Ⅰ**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】女性と漢文学ー一条朝を中心としてー 【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを「漢字を書き散らしているけれど、よくみれば足りない点が多い」といい、自分自身は漢字の一の字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。果たして平安朝の女性にとって漢詩文とはどういう存在だったのか、紫式部以外の一条朝の女性について考える。 【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の日本漢詩文について興味を持つ。 平安時代の女性の生き方を考える。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　服藤早苗『平安朝　女の生き方』小学館　　ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：平安時代の漢詩文 第 2回　女性と漢詩文：一条朝以前 第 3回　紫式部の場合：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」 第 4回　清少納言の場合：『枕草子』1「香炉峰の雪は」 第 5回　清少納言の場合：『枕草子』2「ふみは文選、博士の申文」 第 6回　赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌1 第 7回　赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌2「法華経和歌」 第 8回　選子内親王？：『発心和歌集』1 第 9回　選子内親王？：『発心和歌集』2 第10回　一条朝後の物語：『浜松中納言物語』平安人が想像した唐 第11回　一条朝後の物語：『唐物語』故事と物語1 第12回　一条朝後の物語：『唐物語』故事と物語2 第13回　和歌と漢詩：題を詠むということ 第14回　女性と漢詩文：一条朝以後 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する		
成績評価の方法	授業の感想ミニレポート（毎回）20%　レポート80%		

授業科目	**日本文学講読Ⅰ**	担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕　1,2年どちらでも履修可	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】『萬葉集』巻二十の講読を通して上代文学に親しむ 【概　要】『萬葉集』の中でも，巻十七から巻二十は大伴家持の歌日記的な巻といわれている。 巻二十は天平勝宝5年3月から天平宝字3年正月までの約6年間の記録である。この間、家持の庇護者であり家持が尊敬してやまなかった元正上皇、聖武天皇、橘諸兄が相次いで亡くなるなど、家持にとって激動の歳月の記録である。また、巻二十の約半分を占めるのは『萬葉集』の中でも特異な位置を占める防人歌である。 これらを受講生の輪読の形式で読み進め、上代人が歌に託した思いを読み取りたい。 【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び，上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。自分の担当箇所の資料を作り他の受講者の前で発表する力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　伊藤博『萬葉集釈注（十）』集英社文庫 (2)　渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：『萬葉集』について（編者，諸本，万葉仮名など） 第 2回　巻二十について：教員による模範演習 第 3回　『萬葉集』巻二十輪読その1：天平勝宝5年の歌 第 4回　『萬葉集』巻二十輪読その2：天平勝宝6年の歌1 第 5回　『萬葉集』巻二十輪読その3：天平勝宝6年の歌2 第 6回　『萬葉集』巻二十輪読その4：天平勝宝7年の防人歌1 第 7回　『萬葉集』巻二十輪読その5：天平勝宝7年の防人歌2 第 8回　『萬葉集』巻二十輪読その6：天平勝宝7年の防人歌3 第 9回　『萬葉集』巻二十輪読その7：天平勝宝7年の歌 第10回　『萬葉集』巻二十輪読その8：天平勝宝8年の歌1 第11回　『萬葉集』巻二十輪読その9：天平勝宝8年の歌2 第12回　『萬葉集』巻二十輪読その10：天平勝宝9年の歌 第13回　『萬葉集』巻二十輪読その11：天平宝字元年の歌 第14回　『萬葉集』巻二十輪読その12：天平宝字2年の歌 第15回　まとめ：『萬葉集』最後の歌		
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『万葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。		
成績評価の方法	輪読担当５０％　　レポート５０％		

授業科目	**日本文学講読Ⅱ**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名（くずし字）の読み方の基礎を身につける。 【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本（写真版）を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。 【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。 基本的な変体仮名が読めるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　片桐洋一編『伊勢物語　慶長十三年刊　嵯峨本第一種』和泉書院　『字典かな』笠間書院 (2)　角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫，渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院		
授業スケジュール	第 1回　はじめに：『伊勢物語』について（書名、主人公など） 第 2回　初段１：昔男の登場　変体仮名の読み方１ 第 3回　初段２：和歌と語りの関係 変体仮名の読み方２ 第 4回　三段：二条后の物語その１　変体仮名の読み方３ 第 5回　四段：二条后の物語その２　変体仮名の読み方４ 第 6回　五段：二条后の物語その３　変体仮名の読み方小テスト１ 第 7回　六段１：二条后の物語その４ 第 8回　六段２：二条の后の物語その５ 第 9回　七・八段：東下りその１　浅間の山 第10回　九段１：東下りその２　八橋・宇津の山 第11回　九段２：東下りその３　富士の山・隅田川 第12回　六九段１：伊勢の斎宮その１　歴史との関わり　変体仮名の読み方小テスト２ 第13回　六九段２：伊勢の斎宮その２　漢文学との関わり 第14回　一六段：男の友情 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。		
成績評価の方法	小テスト２０％　筆記試験８０％		

授業科目	**日本文学講読Ⅲ**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】日本文学講読Ⅱに引き続き、中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書　源氏物語』の影印本を使って読み、平安期の物語の理解を深めると共に、その後の享受のあり方について考える。 【概要】講読Ⅲでは毎年『源氏物語』の一巻を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「桐壺」を読む。 「桐壺」は、源氏物語の始まりの巻であり、高校の古典の授業でも冒頭部が取り上げられることが多いが、実際に全体を読んだ学生は少ないだろう。主人公光源氏がいかにして誕生したか、そして物語の展開がどのように方向づけられているかを考えたい。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書　源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。 【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成と登場人物について考える。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　藤岡　忠美　編『首書　源氏物語　帚木・空蝉』和泉書院 (2)　ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫　『源氏物語の鑑賞と基礎知識　帚木』至文堂		
授業スケジュール	第 1回　はじめに：『源氏物語』とは　作者紫式部について 第 2回　『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について 第 3回　「帚木」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。 第 4回　「帚木」輪読：その１　担当の役割説明 第 5回　「帚木」輪読：その２ 第 6回　「帚木」輪読：その３ 第 7回　「帚木」輪読：その４ 第 8回　補足説明：紫式部と「博士の娘」 第 9回　「帚木」輪読：その５ 第10回　「帚木」輪読：その６ 第11回　「帚木」輪読：その７ 第12回　「帚木」輪読：その８ 第13回　「帚木」輪読：その９ 第14回　「帚木」輪読：その10 第15回　まとめ：平安時代物語としての『源氏物語』		
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。		
成績評価の方法	輪読担当５０％　筆記試験５０％		

授業科目	**日本文学演習Ⅰ，Ⅲ**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　Ⅰは1年，Ⅲは2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。 【概要】本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Ⅰと2年生の日本文学演習Ⅲを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習Ⅱと同じく『四条宮下野集』である。 【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。　平安時代の文学状況を理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント、『字典かな』 (2)　片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院		
授業スケジュール	第 1回　2年生によるオリエンテーション： 四条宮下野集について 第 2回　グループワーク1：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方 第 3回　グループワーク2：翻字と解釈の実習 第 4回　四条宮下野集を読む：1 第 5回　四条宮下野集を読む：2 第 6回　四条宮下野集を読む：3 第 7回　四条宮下野集を読む：4 第 8回　四条宮下野集を読む：5 第 9回　四条宮下野集を読む：6 第10回　四条宮下野集を読む：7 第11回　四条宮下野集を読む：8 第12回　四条宮下野集を読む：9 第13回　四条宮下野集を読む：10 第14回　四条宮下野集を読む：11 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備		
成績評価の方法	日本文学演習Ⅰ　担当時外発言　20%　レポート80% 日本文学演習Ⅲ　担当時外発言　20%　担当発表80%		

授業科目	**日本文学演習Ⅱ**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。 あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。 【概要】昨年度に引き続き、『四条宮下野（しじょうのみやしもつけしゅう))』を読む。四条宮下野は摂関期、藤原頼道の娘で後冷泉天皇皇后であった四条宮こと藤原寛子に仕えた女房である。その家集『四条宮下野集』は後冷泉後宮、なかでも四条宮寛子のもとでの華やかな宮廷生活が描かれ、『枕草子』的な家集と言われている。さまざまな和歌とエピソードを読むことで平安時代の貴族の文化、交友関係に着いて考えたい。 【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント、『字典かな』 (2)　片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：前年度の内容の確認 第 2回　四条宮下野集について： 第 3回　四条宮下野集を読む：1 第 4回　四条宮下野集を読む：2 第 5回　四条宮下野集を読む：3 第 6回　四条宮下野集を読む：4 第 7回　四条宮下野集を読む：5 第 8回　四条宮下野集を読む：6 第 9回　四条宮下野集を読む：7 第10回　四条宮下野集を読む：8 第11回　四条宮下野集を読む：9 第12回　四条宮下野集を読む：10 第13回　四条宮下野集を読む：11 第14回　四条宮下野集を読む：12 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備		
成績評価の方法	担当発表80%、担当時以外の発言（質問、意見など）20%		

授業科目	**日本文学史・近代Ⅰ（隔年開講）**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1，2年共通	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，明治期の歴史的変遷を理解する。 【概要】 「日本文学史・近代Ⅰ」では，主に明治期の文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。 【到達目標】 日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち，自己の問題意識に従い考えを述べることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　安藤宏『日本近代小説史　新装版』（中公選書） (2)　適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か 第 2回　概論：「近代」とは何か　―夏目漱石，森鴎外，北村透谷― 第 3回　概論：「小説」概念の成立　―坪内逍遙― 第 4回　明治の文学1：近世と近代文学　―戯作，漢文体，翻訳小説，政治小説― 第 5回　明治の文学2：「国語」と近代文学　―速記，表記の改革，文体の改革― 第 6回　明治の文学3：詩歌の改良　―新体詩の出現― 第 7回　明治の文学4：言文一致小説　―二葉亭四迷― 第 8回　明治の文学5：写実主義と写生(1)　―尾崎紅葉，硯友社の文学― 第 9回　明治の文学6：写実主義と写生(2)　―正岡子規― 第10回　明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌　―森鴎外，島崎藤村― 第11回　明治の文学8：自然主義の小説(1)　―島崎藤村― 第12回　明治の文学9：自然主義の小説(2)　―田山花袋― 第13回　明治の文学10：反自然主義の小説　―夏目漱石― 第14回　明治の文学11：口語自由詩　―川路柳虹，相馬御風― 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%）		

（注）教職必修

授業科目	**日本文学史・近代Ⅱ（隔年開講）**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1，2年共通	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，大正から現代までの変遷を理解する。 【概要】 「日本文学史・近代」では，主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。 【到達目標】 日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち，自己の問題意識に従い考えを述べることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　安藤宏『日本近代小説史　新装版』（中公選書） (2)　適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　概論：大正・昭和以降の「文学」の問題　―メディアの変革と「文学」― 第 2回　大正の文学1：大正文壇と私小説　―白樺派，新思潮派― 第 3回　大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立 第 4回　昭和の文学1：新感覚派・前衛詩 第 5回　昭和の文学2：主知主義文学 第 6回　昭和の文学3：プロレタリア文学 第 7回　昭和の文学4：文芸復興の時代　―転向文学，日本浪漫派，四季派― 第 8回　昭和の文学5：戦争と文学 第 9回　昭和の文学6：昭和二十年代の文学　―戦後文学の出発― 第10回　昭和の文学7：昭和三十年代の文学　―第三の新人の登場― 第11回　昭和の文学8：昭和四十年代の文学　―三島由紀夫の死― 第12回　昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学　―村上龍，村上春樹― 第13回　昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向　―塚本邦雄，岡井隆，寺山修司― 第14回　現代の文学：現代文学のゆくえ 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%）		

（注）教職必修

授業科目	日本文学講義Ⅱ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本近代の詩を読む 【概要】 今、日本で一般に「詩」と呼ばれるものは、明治以降、日本の西洋化とともに作られた、比較的新しいジャンルです。日本近現代の詩の歴史を，実際の作品を読み解きながら振り返り，多様な日本の「詩」の世界を考えます。 【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　大岡信『蕩児の家系―日本現代詩の歩み』（思潮社），他授業中に紹介する		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：日本の詩を読むために 第 2回　北村透谷『楚囚之詩』 第 3回　島崎藤村『若菜集』 第 4回　薄田泣菫『白羊宮』 第 5回　高村光太郎『道程』 第 6回　高村光太郎『道程』 第 7回　萩原朔太郎『月に吠える』 第 8回　萩原朔太郎『氷島』 第 9回　前半のまとめ 第10回　大手拓次『藍色の墓』 第11回　宮澤賢治『春と修羅』 第12回　宮澤賢治『春と修羅』 第13回　中原中也『山羊の歌』 第14回　中原中也『山羊の歌』 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読。		
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード（40%），レポート（60%）		

授業科目	日本文学講読Ⅳ	担当者	丹羽　謙治
	〔履修年次〕　1年・2年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中近世の「地獄もの」絵草紙の講読 【概要】中世末から近世にかけて作られた地獄を舞台とし草紙を読む。中世・近世のひとびとがどのように想像力を膨らませて物語・草紙を作成したのかを、地獄を舞台にした草紙を二種とりあげ検討する。 【到達目標】中世・近世の宗教観を知るとともに、物語や登場人物に関する基本的な知識を身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する (2)　宮腰直人編『義経地獄破り』（勉誠出版）		
授業スケジュール	第 1回　導入１（日本文学の中の近世） 第 2回　導入２（版本と写本について） 第 3回　「仏鬼軍」（一～五丁） 第 4回　「仏鬼軍」（六～十丁） 第 5回　「仏鬼軍」（十一～十五丁） 第 6回　「仏鬼軍」（十六～二十丁） 第 7回　「仏鬼軍」（二十一丁～二十六丁） 第 8回　「義経地獄破り」発端　修行者の苦しみ 第 9回　「義経地獄破り」義経と弁慶との出会い 第10回　「義経地獄破り」戦の準備 第11回　「義経地獄破り」鬼との合戦（一）門破り 第12回　「義経地獄破り」鬼との合戦（二）三途の川の先陣 第13回　「義経地獄破り」論功行賞・極楽往生 第14回　「義経地獄破り」浅間権現　結末 第15回　まとめ―近世における地極ものの展開―		
授業外学習(予習・復習)	配布するテキストを事前に読む（予習）。授業後にテキストの内容や構成について考察する（復習）。		
成績評価の方法	期末試験		

授業科目	**日本文学講読Ⅴ**	担当者	丹羽謙治
	〔履修年次〕　1年・2年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】浄瑠璃と歌舞伎 【概要】浄瑠璃の傑作『仮名手本忠臣蔵』の場面を取り上げ、解説を施しながら読み進める。一部、ビデオの観賞を行い、浄瑠璃と歌舞伎の舞台芸能としての本質的な差違について考察する。 【到達目標】古典芸能に関する基礎的な知識を得る。「忠臣蔵」に関する正しい知識を得る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する (2)　『浄瑠璃集』（新潮日本古典集成）		
授業スケジュール	第 1回　赤穂事件の概要 第 2回　赤穂事件の劇化・草紙化 第 3回　『仮名手本忠臣蔵』（寛延元年（1748年）初演）の成立 第 4回　大序 第 5回　二段目 第 6回　三段目 第 7回　四段目 第 8回　五段目 第 9回　六段目 第10回　五段目・六段目の歌舞伎と浄瑠璃 第11回　七段目（一） 第12回　七段目（二） 第13回　八段目 第14回　十一段目（討ち入り） 第15回　忠臣蔵の後世への影響		
授業外学習(予習・復習)	テキストを事前に呼んで内容を理解しておくこと（予習）。授業で扱えなかった部分を含めてテキストを再度読み味わう（復習）		
成績評価の方法	期末試験		

授業科目	**日本文学講読Ⅵ**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本近代の文学テクストを，様々な角度から検討する 【概要】 日本近代の詩、短歌、小説を，様々な観点から読み解く。小説の方法論，言語表現の仕組み，時代毎の価値観などを理解し，テクストについて根拠を持って検討できるようになるとともに，現代を対象化する視点を身につける。 【到達目標】 「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。 テクストを基にした妥当な読みを提示でき，問題意識を持って，報告にまとめることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス 第 2回　梶井基次郎「檸檬」 第 3回　結核の時代と文学 第 4回　芥川龍之介「蜜柑」 第 5回　科学技術と文学 第 6回　有島武郎「カインの末裔」 第 7回　日本の国境と日本文学 第 8回　前半のまとめ 第 9回　萩原朔太郎「猫町」 第10回　心理学と文学 第11回　宮澤賢治「猫の事務所」 第12回　原稿、草稿と文学 第13回　太宰治「道化の華」 第14回　「語り」からテクストを読み解く 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。		
成績評価の方法	毎回のミニレポート（40%），レポート（60%）		

授業科目	日本文学講読Ⅶ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 小説を分析するための様々な方法論について学ぶ 【概要】 文学研究の基礎的な方法論を身につける。文学研究においても，客観的な妥当性のもとに結論を導き出す方法論が，様々に蓄積されてきた。それらの方法論を学び，様々な文学テクストに応用することで，素朴な感想にとどまらない読みの可能性を見出し，客観的，論理的に考察し，文章として表現する能力を身につける。 【到達目標】 文学研究に必要となる，テクスト読解の方法を実践できる。 テクストを基にした妥当な読みを提示し，客観的，論理的な考察のもとに，報告にまとめることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』慶應義塾大学出版会 (2)　適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：授業の進め方、感想と研究の違い 第 2回　志賀直哉「小僧の神様」：語り手・テクスト・焦点化 第 3回　夢野久作「瓶詰地獄」：テクストの「空白」 第 4回　太宰治「葉桜と魔笛」：一人称の語り 第 5回　中島敦「文字禍」：テクストと時代背景 第 6回　井伏鱒二「朽助のゐる谷間」：本文校異 第 7回　川端康成「水月」：三人称の語り 第 8回　有吉佐和子「亀遊の死」：小説と歴史 第 9回　川上弘美「蛇を踏む」：固有名詞の問題 第10回　久米正雄「不死鳥」：小説と挿絵 第11回　堀辰雄「風立ちぬ」：小説の受容の問題 第12回　倉田由美子「暗い旅」：論争について 第13回　資料調査について 第14回　文学史について 第15回　全体のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。		
成績評価の方法	毎回のミニレポート（30%），レポート（60%）		

授業科目	日本文学演習Ⅳ，Ⅵ	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　Ⅳは1 年，Ⅵは2 年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 近現代文学の代表的な作品を取り上げ，研究的視点からテクストを検討する。 【概要】 明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ，研究的視点から検討する。１年生はテキストの中から対象を選び発表する。２年生は関心のある作家について発表する。 【到達目標】 文学研究の方法論を身につけ，根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い，テクストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ，ディスカッションすることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　紅野敏郎，千葉俊二他編『日本近代短編小説選』岩波文庫 (2)　適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：授業の進め方，担当者の決定 第 2回　文学研究の方法：研究の多様な方法論について 第 3回　資料の扱い方：資料の収集方法，資料の検討方法について 第 4回　口頭発表（1） 第 5回　口頭発表（2） 第 6回　口頭発表（3） 第 7回　口頭発表（4） 第 8回　口頭発表（5） 第 9回　前半のまとめ 第10回　口頭発表（6） 第11回　口頭発表（7） 第12回　口頭発表（8） 第13回　口頭発表（9） 第14回　口頭発表（１０） 第15回　全体のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。		
成績評価の方法	口頭発表等（70%），討議での発言・参加（30%）		

授業科目	**日本文学演習Ⅴ**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本近現代における文学作品を対象として，論文作成の方法を身につける 【概要】 明治以降の日本近代文学作品について，論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し，論点を発見して論理的な考察を行い，他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために，さまざまな文学理論について解説を行う。 【到達目標】 日本近代文学の作品について，選択したテキストから論点を発見し，論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し，自己の発表に生かすことができる。発表をもとに，ディスカッションすることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：授業の進め方，研究論文を作成する意義 第 2回　対象となる作品の決定，文学理論について 第 3回　発表資料の作成，発表の方法，ディスカッションの方法について 第 4回　口頭発表（1） 第 5回　口頭発表（2） 第 6回　口頭発表（3） 第 7回　口頭発表（4） 第 8回　口頭発表（5） 第 9回　前半のまとめ 第10回　口頭発表（6） 第11回　口頭発表（7） 第12回　口頭発表（8） 第13回　口頭発表（9） 第14回　論文作成の方法について 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。		
成績評価の方法	口頭発表，ディスカッションでの発言（40%），レポート（60%）		

授業科目	**南九州の文学（隔年開講）**	担当者	三嶽　公子
	〔履修年次〕　1，2年	授業外対応	講義終了後、あるいは時間を合わせて、いつでも対応します。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】南九州の豊かさを、文学作品を通して知る。 南九州を舞台とした文学作品を読みながら、離島を含む南九州の風土の豊かさと、その土地で生きることへの希望を汲み取る。南九州における自然と人間のかかわりや、そこから湧き出る物語について学習する。 【概要】南九州を舞台とした文学作品をできるだけ広範囲に、各地域ごとに読む。作品そのものに触れ、そこから立ち上がる風景や人々の生き方について味わい、考える。同時に、２１世紀を生きる、これからの生き方へのヒントを探る。 【到達目標】「わたしの好きな鹿児島の１冊」ができるように。 南九州ゆかりの文学作品に触れることで、自分の感受性を磨き、心に残る物語や言葉を自分の宝物にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業ごとに講師が作成したプリントを配布します。テキストは、特に購入する必要はありません。 (2)　「みたけきみこと読む　かごしまの文学」（K&Yカンパニー　2007年）		
授業スケジュール	第 1回　鹿児島文学マップで仮想文学散歩 第 2回　桜島句碑めぐり 第 3回　森瑤子「アイランド」と与論島 第 4回　一色次郎「青幻記」と沖永良部 第 5回　梨木香歩「海うそ」と架空の南島 第 6回　椋鳩十「片耳の大鹿」と屋久島 第 7回　林芙美子「浮雲」と屋久島 第 8回　山尾三省「アニミズムという希望」と屋久島 第 9回　島尾敏雄「島の果て」と奄美・加計呂麻島 第10回　梅崎春生「桜島」と「幻化」の坊津 第11回　向田邦子「鹿児島感傷旅行」と城山・磯・天保山 第12回　海音寺潮五郎「二本の銀杏」と伊佐 第13回　石牟礼道子「苦海浄土」と水俣 第14回　やしまたろうの絵本「村の樹」「道草いっぱい」「からすたろう」の根占三部作 第15回　まとめとレポート作成補助		
授業外学習(予習・復習)	授業中は、作品の一部だけを読むので、予習・復習として、取り上げる作品の全体を読む。		
成績評価の方法	授業ごとのレポート（小テスト）50%＋学期末提出のレポート（50%）		
実務経験について	月の舟自由大学学長　ＮＰＯ法人かごしま文化研究所副理事長　きりしま月の舟主宰		

授業科目	**中国文学史Ⅰ**	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学史 【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し，そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。 【到達目標】中国文学の存在意義，社会とのかかわりを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)　前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方について 第 2回　詩経 (1) 第 3回　詩経 (2) 第 4回　詩経 (3) 第 5回　楚辞 (1) 第 6回　楚辞 (2) 第 7回　楚辞 (3) 第 8回　諸子 (1) 第 9回　諸子 (2) 第10回　諸子 (3) 第11回　辞賦 (1) 第12回　辞賦 (2) 第13回　辞賦 (3) 第14回　辞賦 (4) 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験100%		

授業科目	**中国文学史Ⅱ**	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学史 【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し，そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。 【到達目標】中国文学の存在意義，社会とのかかわりを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)　前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会		
授業スケジュール	第 1回　楽府 (1) 第 2回　楽府 (2) 第 3回　楽府 (3) 第 4回　五言詩 (1) 第 5回　五言詩 (2) 第 6回　五言詩 (3) 第 7回　志怪小説 (1) 第 8回　志怪小説 (2) 第 9回　志怪小説 (3) 第10回　近体詩 (1) 第11回　近体詩 (2) 第12回　近体詩 (3) 第13回　伝奇 (1) 第14回　伝奇 (2) 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験100%		

授業科目	**中国文学講読Ⅰ**	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】漢文の文法 【概要】短い漢文を使って，漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文（白文）を能動的に読む力を養うために，構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。 【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして，漢文の基本的な構文・句法を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方について 第 2回　基本文型（1） 第 3回　基本文型（2） 第 4回　基本文型（3） 第 5回　基本文型（4） 第 6回　基本文型（5） 第 7回　基本文型（6） 第 8回　副詞 第 9回　基本文型の連続 第10回　フレーズ（1） 第11回　フレーズ（2） 第12回　フレーズ（3） 第13回　フレーズ（4） 第14回　フレーズ（5） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	小テスト50%，定期試験50%		

（注）教職必修

授業科目	**中国文学講読Ⅱ**	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】漢文学の基礎 【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき，知っていると役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し，構文・句法についての訓練も同時におこないます。 【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして，漢文に関連する基礎知識を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方について 第 2回　漢字（1） 第 3回　漢字（2） 第 4回　漢字（3） 第 5回　漢字（4） 第 6回　漢字（5） 第 7回　漢文（1） 第 8回　漢文（2） 第 9回　漢文（3） 第10回　漢文学（1） 第11回　漢文学（2） 第12回　中国文学（1） 第13回　中国文学（2） 第14回　中国文学（3） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	小テスト50%，定期試験50%		

（注）教職必修

授業科目	**中国文学演習Ⅰ**	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】白居易の作品を読む 【概要】白居易の作品集のなかから，仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので，そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。 【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方について 第 2回　講読（1） 第 3回　講読（2） 第 4回　講読（3） 第 5回　講読（4） 第 6回　講読（5） 第 7回　講読（6） 第 8回　講読（7） 第 9回　講読（8） 第10回　講読（9） 第11回　講読（10） 第12回　講読（11） 第13回　講読（12） 第14回　講読（13） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	**中国文学演習Ⅱ**	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文 【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり，素材選択から調査，分析，構想，発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島の漢文石碑を調査し，漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。 【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方について 第 2回　文献調査の基礎（1） 第 3回　文献調査の基礎（2） 第 4回　論文の読み方 第 5回　石碑調査（1） 第 6回　石碑調査（2） 第 7回　石碑調査（3） 第 8回　石碑調査（4） 第 9回　石碑調査（5） 第10回　プレゼン練習（1） 第11回　プレゼン練習（2） 第12回　プレゼン練習（3） 第13回　プレゼン練習（4） 第14回　プレゼン練習（5） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。		
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	**中国文学演習Ⅲ**	担当者	土肥　克己
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する 【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み，整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ，発表の技術や論文の形式，構成，発想を身につけていきます。 【到達目標】専門性を高め，学問的に探求する姿勢を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回　授業の進め方について 第 2回　論文整理と発表 (1) 第 3回　論文整理と発表 (2) 第 4回　論文整理と発表 (3) 第 5回　論文整理と発表 (4) 第 6回　論文整理と発表 (5) 第 7回　論文整理と発表 (6) 第 8回　論文整理と発表 (7) 第 9回　論文整理と発表 (8) 第10回　論文整理と発表 (9) 第11回　論文整理と発表 (10) 第12回　論文整理と発表 (11) 第13回　論文整理と発表 (12) 第14回　論文整理と発表 (13) 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	関係論文を調査し，発表に備えてください。		
成績評価の方法	予習と質疑応答100%。定期試験は実施しません。		

授業科目	**卒業研究Ⅰ，Ⅱ**	担当者	専攻教員全員
	〔履修年次〕　2年	〔学期〕	前期，後期
	〔単位〕　各1単位	〔必修／選択〕	必修　〔授業形態〕　演習
テーマ及び概要	【テーマ】卒業論文の作成 【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は，日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと，それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し，成果を卒業論文として提出します。 1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し，2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ，冬期には，卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。 教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け，みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。 【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に紹介します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回　Ⅰ　オリエンテーション：卒業論文の進め方　Ⅱ　論文作成：その1 第 2回　論文作成：その1　論文作成：その2 第 3回　論文作成：その2　論文作成：その3 第 4回　論文作成：その3　論文作成：その4 第 5回　論文作成：その4　論文作成：その5 第 6回　論文作成：その5　論文作成：その6 第 7回　論文作成：その6　論文作成：その7 第 8回　論文作成：その7　論文作成：その8 第 9回　論文作成：その8　論文作成：その9 第10回　論文作成：その9　論文作成：その10 第11回　論文作成：その10　論文作成：その11 第12回　論文作成：その11　論文作成：その12 第13回　論文作成：その12　論文作成：その13 第14回　論文作成：その13　論文作成：その14 第15回　まとめ　まとめ		
成績評価の方法	Ⅰ：中間報告100% Ⅱ：卒業論文75%，口頭発表25%		

授業科目	比較文化	担当者	小林朋子
	〔履修年次〕 2年（注）	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。 【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人たちとのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、「グローバル化」による影響が私たちの身のまわりにあふれているのと同じように、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とどのような<関係性＝コミュニケーション>を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。受講者は、本講義を通して、どのように「常識」が「あたりまえ」とされているのかを深く考え、マクロな視点から社会事象を捉えられる思考力を養成する。講義を通して単に知識を得るだけでなく、個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。また講義終盤では、地域に暮らす外国人や留学生と交流の時間を設ける。自身の文化をどのように発信すれば、ゲスト・スピーカーと適切に交流できるのか、受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。 【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007 年） (2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010 年）、八代京子他著『異文化トレーニング―ボーダレス社会を生きる[改訂版]』（三修社、2009 年）、八代京子他著『異文化コミュニケーション・ワークブック』（三修社、2001 年）		
授業スケジュール	第 1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か 第 2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）： グローバリゼーションの意味 第 3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し 第 4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間 第 5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界 第 6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー 第 7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと 第 8回 異文化コミュケ―ションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか 第 9回 異文化コミュニケーターとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史 第 10 回 異文化コミュニケーターとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？ 第 11 回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応 第 12 回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ―自分のことば、他者のことば 第 13 回 異文化交流会（1）：異文化コミュケーションの実践 1 第 14 回 異文化交流会（2）：異文化コミュニケーションの実践 2 第 15 回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュケ―ション」に向けて		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備ノートを含む）（20%）、最終レポート（40%）		

（注）日本語日本文学専攻は 2 年選択，英語英文学専攻は 1 年選択（教職必修）

授業科目	英文学史	担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕 2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】18 世紀～20 世紀における「小説」の流れを概観する。 【概要】まず，文学史のテキストに潜んでいる問題点を考える。次に，18 世紀～20 世紀における主要な作家と作品を取り上げて，「小説」の流れを概観し，18 世紀の特徴，19 世紀の特徴，20 世紀の特徴を理解させる。また，受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために，指定した映像作品を鑑賞してもらい，「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。 【到達目標】18 世紀の小説の特徴，19 世紀の小説の特徴，20 世紀の小説の特徴を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂 (2) サブテクストは講義中に指定する。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション（講義方式の説明，文学史のテキストに潜む問題点の探求） 第 2回 18 世紀の小説（1）：18 世紀の小説とその周辺に関する諸問題（J. バニヤン，D. デフォー，J. スイフト，S. リチャードソン） 第 3回 18 世紀の小説（2）：18 世紀の小説における H. フィールディング，L. スターン，T. G. スモレットの役割 第 4回 18 世紀の小説（3）：18 世紀後半のゴシック小説（H. ウォルポール） 第 5回 19 世紀初頭の小説：J. オースティンの小説 第 6回 18 世紀～19 世紀初頭の小説に関する小テスト，19 世紀の小説（1）：19 世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴 第 7回 19 世紀の小説（2）：C. ディケンズの小説 第 8回 19 世紀の小説（3）：W. M. サッカレーの小説，ブロンテ姉妹（シャーロット，エミリー，アン）の小説 第 9回 19 世紀の小説（4）：ダーウィニズムの影響，19 世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説（T. ハーディ） 第 10 回 19 世紀（ビクトリア朝）の小説に関する小テスト，20 世紀の小説（1）：20 世紀小説の特徴 第 11 回 20 世紀の小説（2）：D. H. ロレンスの小説 第 12 回 20 世紀の小説（3）：V. ウルフの小説，H. G. ウェルズの小説 第 13 回 20 世紀の小説（4）：H. ジェイムズの小説，E. M. フォスターの小説 第 14 回 20 世紀の小説に関する小テスト，映像課題に関する発表会 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査 3 回（プリント），復習は小テスト（3 回）の準備		
成績評価の方法	筆記試験（60%），講義中の小テスト／授業への取り組み（30%），課題レポート分(10%)		

（注）日本語日本文学専攻は選択，英語英文学専攻は必修。

授業科目	**米文学史**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流 【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ることで、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業内では作品についてのディスカッションの時間を設け、グループごとにプレゼンテーションを行う。 ＊授業には必ず英和辞典を持参すること。 【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　井上謙治著　『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、 2004年） (2)　授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション―ネイティブ・アメリカンの詩 第 2回　信仰とアメリカ―ピューリタン文学と理性の文学（1） 第 3回　信仰とアメリカ―ピューリタン文学と理性の文学（2） 第 4回　「驚異」の世界―ロマン主義の勃興 第 5回　アメリカン・ルネッサンス―ロマン主義の隆盛（1） 第 6回　アメリカン・ルネッサンス―ロマン主義の隆盛（2） 第 7回　「金めっき時代」―リアリズムの勃興 第 8回　危機と革新―リアリズムの展開 第 9回　繁栄と解放の文学―ロスト・ジェネレーション 第10回　世界へ向けて―モダニズムの文学 第11回　戦後文学の出発―第2次世界大戦と冷戦 第12回　自我をつくろう―人種系文学（1） 第13回　自我をつくろう―人種系文学（2） 第14回　自己の探求―ポスト・モダニズムの文学 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%）		

（注）日本語日本文学専攻は選択，英語英文学専攻は必修。

授業科目	**読書と豊かな人間性**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。 【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。 【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトークなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　立田　慶裕編著『読書教育の方法―学校図書館の活用に向けて―』学文社 (2)　「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニマシオン」全国学校図書館協議会、		
授業スケジュール	第 1回　読書教育とは何か：発達に応じた読書 第 2回　読書教育の担い手：学校図書館を支える人々 第 3回　学校図書館の歴史：制度としての学校図書館 第 4回　読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携 第 5回　読書教育の方法１：就学前・学校全体 第 6回　読書教育の方法２：教科と読書教育 第 7回　小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ 第 8回　中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的天球の融合 第 9回　公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション 第10回　発達を支える読書：特別支援教育との関係 第11回　読書活動１：読書案内、ブックトーク、ブックリスト 第12回　読書活動２：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング 第13回　読書活動３：パネルシアター、紙芝居 第14回　実演１：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど 第15回　実演２：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど		
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。		
成績評価の方法	課題提出（50%）と、授業第14回、15回での実演（50%）		

（注）司書教諭資格必修

授業科目	**情報メディアの活用**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び，学校図書館での活用方法について考える。 【概要】 テクノロジーの発展により高度情報化した現代において，情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており，その中で，司書教諭は多様なメディアについて理解し，活用する能力を持つことが期待される。授業においては，情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき，様々なメディアの特性を知って，効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。 【到達目標】 現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し，説明できる。 学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し，説明できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社，適宜プリントを配布する。 (2)　なし		
授業スケジュール	第 1回　高度情報化社会と人間　：情報化社会と司書教諭の役割 第 2回　情報メディアの歴史的変遷 第 3回　学校教育と情報メディア 第 4回　情報メディアの種類と特性 第 5回　情報メディアの選択　：状況に応じた選択の必要と留意点 第 6回　視聴覚メディアの活用 第 7回　情報メディアの活用１：コンピュータの活用と運用 第 8回　教育メディアの活用２：教育用ソフトウェアの活用 第 9回　情報メディアの活用３：データベースと情報検索 第10回　情報メディアの活用４：インターネットと情報検索 第11回　情報メディアの活用５：インターネットによる情報発信 第12回　情報セキュリティ 第13回　ネットワーク環境と学校教育 第14回　学校図書館メディアと著作権 第15回　まとめ：情報メディア活用の課題と将来		
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読，授業で課す課題の調査など。		
成績評価の方法	授業での課題（30%），期末試験（70%）		

（注）司書教諭資格必修

授業科目	**書道Ⅰ**	担当者	松元　徳雄
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】楷書・行書・かなの特徴と書法 【概要】書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり，実に興味深い。 しかし，現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが，筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。 本講座では，書体の変遷について概要を学び，実技へと移行する。まず，書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書，さらにかなの基本へと進む。 【到達目標】楷書・行書・かなの書き方を習得する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第 1回　書について（書体の特徴とその変遷） 第 2回　楷書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第 3回　〃　〃 第 4回　〃　〃 第 5回　〃　（細字の書き方） 第 6回　〃　〃 第 7回　行書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第 8回　〃　〃 第 9回　〃　〃 第10回　〃　（細字の書き方） 第11回　〃　〃 第12回　かなの特徴と書き方　（いろは単体） 第13回　〃　〃 第14回　〃　（連綿とその応用） 第15回　〃　〃		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

（注）教職必修

授業科目	**書道Ⅱ**	担当者	松元　徳雄
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の古典学習 【概要】中学校の書写教育の現況を通覧するとともに教材と同じ課題を練習し，その執筆法を習得する。さらに，書の基本である楷書の古典を通して，その造型と運筆の要領を学ぶ。また，日常生活において最も多用されている行書の巧みな筆法を学習する。 【到達目標】中学校におけ書写教育の概要を簡単に説明できること。さらに楷書・行書の特徴とその運筆の技法を古典を通して取得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第 1回　中学校における書写教育について 第 2回　中学校で学ぶ楷書の基本とその応用 第 3回　〃 第 4回　楷書の古典（九成宮醴泉銘） 第 5回　〃　〃 第 6回　〃　（始平公造像記） 第 7回　〃　（孫秋生造像記） 第 8回　中学校で学ぶ行書の基本とその応用 第 9回　〃 第10回　中学校で学ぶ漢字と仮名の調和 第11回　行書の古典（蘭亭叙） 第12回　〃　〃 第13回　〃　（苕渓詩巻） 第14回　〃　（呉昌碩詩稿） 第15回　〃　（風信帖）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

（注）教職必修

授業科目	**書道Ⅲ**	担当者	松元　徳雄
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】草書・隷書・篆書の特徴とその運筆の技法 【概要】　書道Ⅲでは草書・隷書・篆書の３つの書体について学習する。草書は日常生活においてはほとんど目にする文字ではないが，芸術性が高く，書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。隷書は今から 1800 年位前に生まれた書体であるが，日常よく目にする文字である。隷書は独特な技法と造型のおもしろさを理解してもらう。篆書は中国最古の文字であり，その典型とされる小篆のユニークな字形や運筆の技法を学ぶ。 【到達目標】草書・隷書・篆書の＜ツメル＞特徴とその運筆の技法を古典を通して習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第 1回　草書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第 2回　草書の古典（書譜） 第 3回　〃　〃 第 4回　〃　（擬山園帖） 第 5回　〃　〃 第 6回　隷書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第 7回　隷書の古典（曹全碑） 第 8回　〃　〃 第 9回　〃　（礼器碑） 第 10 回　〃　〃 第 11 回　篆書の特徴とその書法（基本点画の書き方） 第 12 回　篆書の古典（泰山刻石） 第 13 回　〃　〃 第 14 回　〃　（趙之謙篆書対聯） 第 15 回　〃　〃		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

授業科目	**書道Ⅳ**	担当者	松元　徳雄
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】自用印並びに創作作品の制作とかなの古典学習 【概要】書道学習の集大成として創作にチャレンジする。まず，自分の名を刻した印を制作し，漢字と調和体の創作作品に押印する。書の楽しさと魅力を味わってもらうことを目的とする。後半は日本の書を代表するかな（古筆）の臨書学習を通して，その芸術性と文学の特徴を学ぶ。かなは漢字がくずされて発生したものであるが，日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追究したい。かながいかに大切な文字であるか，実感してもらうのも目的の一つである。 【到達目標】漢字と調和体の創作作品が書けるようになることとかな古典の学習によりその魅力を習得すること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　青山杉雨編『改訂　書道の古典Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第 1回　作品制作（篆刻―自用印） 第 2回　〃　〃 第 3回　〃　〃 第 4回　〃　〃 第 5回　〃（漢字作品―４字熟語） 第 6回　〃　〃 第 7回　〃　〃 第 8回　〃（調和体作品） 第 9回　〃　〃 第 10 回　かなの古典（高野切第１種） 第 11 回　〃　〃 第 12 回　〃（高野切第３種） 第 13 回　〃　〃 第 14 回　〃（寸松庵色紙） 第 15 回　〃　〃		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品（100%）		

６　英語英文学専攻専門科目

授業科目	**スタディスキルズ**	担当者	小林　朋子　遠峯　伸一郎　轟　義昭
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成 【概要】大学での専門的「勉強」は，受動的に知識を吸収するだけでは不十分で，あるテーマについて疑問を持ち（批判的検討能力），それについて論理的に議論を展開し，自らその問題に対して「解答」を与えること（問題解決能力）が求められます。この講義では，その種の能力に達するために必要な基礎的学習技術―「聴く」「読む」「調べる」「整理する」「まとめる」「書く」「伝える」―を段階的に学んでいき，あるテーマについて論理的な論述を展開したレポートを作成できるようにします。 【到達目標】与えられたテーマについて自らの意見を持ち，その意見を論理的に展開できるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　（轟）　学習技術研究会　『知へのステップ　第5版－大学生からのスタディ・スキルズ』　くろしお出版 （小林）学習技術研究会　『知へのステップ　第5版－大学生からのスタディ・スキルズ』　くろしお出版 （遠峯）なし。 (2)　随時紹介		
授業スケジュール	第　1回　イントロダクション：「生徒」から「学生」へ 第　2回　「聴く」と「読む」：積極的な聞き手と読み手になるために 第　3回　「深く読む」：論旨や要点を整理して分析的に進む 第　4回　論文ってどんなもの？：基礎編1―よく使われる語と表現，引用 第　5回　論文ってどんなもの？：基礎編2―よく使われる文の形，句読点，表記規則 第　6回　「調べる」と「整理する」：大学図書館とインターネットを用いた効率的な情報検索の仕方 第　7回　本論の役割：論拠提示，結論提示 第　8回　結びの役割：総括する，展望提示 第　9回　図表・資料に関する表現：使用する資料を示す，図表を用いて説明する 第10回　レポート作成の第一歩（テーマ設定から結びに至る展開術の確認） 第11回　レポート作成の実践（その一） 第12回　レポート作成の実践（その二） 第13回　レポート作成の実践（その三） 第14回　発表用スライドの作成：パワーポイントの活用 第15回　プレゼンテーション		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	レポート（60%），プレゼンテーション（10%），授業時の取り組み（30%）		

授業科目	**コミュニケーション概論**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	オフィスアワーおよびEdmodo
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語で学ぶ異文化コミュニケーション入門，CLIL（Content and Language Integrated Learning） 【概要】 この授業は，領域統合型の言語活動を実践する授業です。テーマに関連する様々なトピックを扱いながら，多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。 【到達目標】(1)英語で書かれた資料から，必要な情報を読み取ることができる。(2)英語の説明を聞いて，概要や要点を理解することができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに，自分の意見やその理由を加えて書いたり，口頭で説明したりすることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Vincent, P. (2017). *Speaking of intercultural communication*. Nan'un-do. (2)　Stringer M. D. & Cassiday, A. P. (2009). *52 activities for improving cross-cultural communication*. Intercultural Press.		
授業スケジュール	第 1回　Course Introduction（授業の進め方と課題の取り組み方の説明，初回アンケート） 第 2回　Communication 第 3回　Culture 第 4回　Nonverbal Communication 第 5回　Communicating Clearly 第 6回　Culture and Values 第 7回　Culture and Perception 第 8回　Diversity 第 9回　Stereotypes 第10回　Culture Shock 第11回　Culture and Change 第12回　Talking about Japan 第13回　Becoming a Global Person 第14回　Final Presentation (1) 第15回　Final Presentation (2)		
授業外学習(予習・復習)	予習（発表準備含む）2時間以上必要である。		
成績評価の方法	毎回の授業でのプレゼンテーション30%　Final Presentation 30%　レポート課題40%で評価する。		

（注）教職必修

授業科目	**英語学概論**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】英語学諸分野の概説 【概要】英語を題材に，音声学・音韻論，形態論，意味論，統語論，語用論の各分野を概観する。 【到達目標】音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論，語用論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して，英語の例を分析できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし。 (2)　大名力 (2014)『英語の文字・綴り・発音のしくみ』研究社，東京。その他随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス，英語学とは何か 第 2回　音声学・音韻論(1)　英語の母音・子音 第 3回　音声学・音韻論(2)　音素と異音、綴りと発音の対応 第 4回　音声学・音韻論(3)　英語のアクセントとイントネーション 第 5回　音声学・音韻論(4)　英語の音変化と音脱落 第 6回　形態論(1)　形態素 第 7回　形態論(2)　複合語 第 8回　形態論(3)　その他の語形成過程 第 9回　統語論(1)　句や文の組み立てに見る規則性 第10回　統語論(2)　文構造の再帰性 第11回　統語論(3)　動詞を中心とする構文　時制、相、態 第12回　統語論(4)　冠詞・名詞を中心とする構文　定性 第13回　意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義 第14回　意味論(2) 比喩 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上，復習3時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験（40%）＋ 小テスト（40%）＋ 授業内活動への積極的な参加（20%）		

（注）教職必修

授業科目	**英文学概論**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】「詩」「劇」「散文」「小説」の作品を読む。作品に潜む問題点を考える能力（探求能力）を身に付ける。 【概要】「詩」「劇」「散文」「小説」のジャンルから具体的に作品を取り上げて鑑賞し，作品の問題点を探求していく。作品に関する基本的な事項については，1回目に配布したプリント「講義内容&資料」に基づいて予習させ，授業中に確認していく。問題点の探求においては，グループ活動をとおして受講生とのディスカッションを取り入れ，他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努める（受講生は発言が求められるので，前もってテキストをしっかり読んでおく必要がある）。また，授業で学習した詩（ソネット）を応用し，課題（任意課題）に取り組む機会を与えることで，「大衆文化のなかのイギリス文学」という視点で文学作品を捉えられる可能性を教える。 【到達目標】イギリス文学の詩，劇，散文，小説に作品を鑑賞し，それぞれのジャンルに使用されている英語表現を理解する。作品に潜む問題点を探求しながら，多様な文化的・歴史的・社会的背景を理解する。イギリス文学の代表的な詩，劇，散文，小説における5つの作品を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　W.シェイクスピア作　小田島雄志訳　『リア王』　白水Uブックス C.ディケンズ作　村岡花子訳　『クリスマス・キャロル』　新潮文庫 エミリー・ブロンテ作　鴻巣友季子訳　『嵐が丘』　新潮文庫　＊プリント使用あり（原文の利用） (2)　高橋源次『英文学概論』（南雲堂），高柳俊一・中野記偉『英文学の世界』（大修館書店）		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション（「英文学概論」はどういう学問か，15回の講義で何を学ぶかについての説明） 第　2回　詩の鑑賞と問題点の探求：G.チョーサー『カンタベリー物語』（中世イギリスの社会的文化的背景の理解など） 第　3回　劇の鑑賞と問題点の探求（1）：W. シェイクスピア『リア王』（シェイクスピア劇の理解など） 第　4回　劇の鑑賞と問題点の探求（2）：W. シェイクスピア『リア王』（グロスター親子の役割／道化の役割） 第　5回　劇の鑑賞と問題点の探求（3）：W. シェイクスピア『リア王』（コーディリアの死の役割と意義） 第　6回　劇／詩の鑑賞と問題点の探求（4）：W. シェイクスピア『リア王』（まとめ）と『ソネット集』（詩の特徴の理解） 第　7回　散文の鑑賞と問題点の探求（1）：J.スイフト『ガリヴァー旅行記』（散文英語の特徴，映像利用による作品の理解） 第　8回　散文の鑑賞と問題点の探求（2）：J.スイフト『ガリヴァー旅行記』（作品のテーマと魅力及び作者の主張探求など） 第　9回　散文の鑑賞と問題点の探求（3）：J.スイフト『ガリヴァー旅行記』（大衆文化における『ガリヴァー旅行記』） 第10回　小説の鑑賞と問題点の探求（1）：C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』（19世紀イギリスの時代背景の理解など） 第11回　小説の鑑賞と問題点の探求（2）：E.ブロンテ『嵐が丘』（事前に鑑賞させた映画に関するディスカッションなど） 第12回　小説の鑑賞と問題点の探求（3）：E.ブロンテ『嵐が丘』（テーマに基づく物語の内容理解） 第13回　小説の鑑賞と問題点の探求（4）：E.ブロンテ『嵐が丘』（愛と復讐の問題点を探求） 第14回　小説の鑑賞と問題点の探求（5）：E.ブロンテ『嵐が丘』（小説英語の特徴の理解，『嵐が丘』の世界のまとめなど） 第15回　まとめ（5つの作品を学習したことを振り返って「英語文学を学ぶ」ことの意味を考える）		
授業外学習(予習・復習)	第1回目に配布する「講義内容&資料」に記載した指示に従い，予習・宿題・課題に取り組むこと。任意課題の取り組み（ソネット18番と映画『恋におちたシェイクスピア』，ソネット116番と映画『いつか晴れた日に』）		
成績評価の方法	筆記試験（50%），課題提出・宿題・予習を含む授業への取り組み（50%）　＊任意課題提出者は別途評価		

（注）教職必修

授業科目	**比較文化**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。 【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人たちとのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、「グローバル化」による影響が私たちの身のまわりにあふれているのと同じように、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とどのような<関係性＝コミュニケーション>を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。受講者は、本講義を通して、どのように「常識」が「あたりまえ」とされているのかを深く考え、マクロな視点から社会事象を捉えられる思考力を養成する。講義を通して単に知識を得るだけでなく、個人あるいはグループによるワークを織り交ぜながら、異文化と接したときにどう対処すべきなのかを具体的に考えてみる。また講義終盤では、地域に暮らす外国人や留学生と交流の時間を設ける。自身の文化をどのように発信すれば、ゲスト・スピーカーと適切に交流できるのか、受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。 【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年） (2)　池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）、八代京子他著『異文化トレーニング―ボーダレス社会を生きる[改訂版]』（三修社、2009年）、八代京子他著『異文化コミュニケーション・ワークブック』（三修社、2001年）		
授業スケジュール	第　1回　異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か 第　2回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバリゼーションの意味 第　3回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し 第　4回　空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間 第　5回　「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界 第　6回　女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー 第　7回　異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと 第　8回　異文化コミュケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか 第　9回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史 第10回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？ 第11回　異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応 第12回　異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ―自分のことば、他者のことば 第13回　異文化交流会（1）：異文化コミュケーションの実践1 第14回　異文化交流会（2）：異文化コミュニケーションの実践2 第15回　異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュケーション」に向けて		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備ノートを含む）（20%）、最終レポート（40%）		

（注）教職必修

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅠ**	担当者	ガルシア・アロヨ　ホルヘ　García Arroyo Jorge
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	By coming to my office or by email.
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course is focused on enhancing the student's basic speaking skills so that they can express themselves in many situations in life and give short, simple presentations. 【概要】Students will express their ideas and discuss about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing. 【到達目標】In this course students will acquire and use a significant variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, they will learn essential points for making a presentation such as intonation, pronunciation, body language, etc.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Antonia Clare, JJ Wilson. *Speakout pre-intermediate*. 2nd edition. Pearson Education (2)		
授業スケジュール	第　1回　Introduction to the course. Warm-up activities: Why do you study English? 第　2回　Unit 1. Speaking: Talking about relationships (family, friends, classmates, pets, etc.). Grammar review: *Past simple*. 第　3回　Unit 1. Communication Skills: Stressed verbs and the pronunciation of *past simple* endings (*-ed)*. Unit 1 review. 第　4回　Unit 1 short presentation. Introduce a family member or a friend and tell a funny story experienced with her/him/. 第　5回　Unit 2. Speaking: Talking about work and types of jobs. Grammar review: *present simple* and *continuous*. 第　6回　Unit 2 Communication skills: intonation; express likes and dislikes. Unit 2 review 第　7回　Unit 2 short presentation. Your dreamed job. 第　8回　Unit 3. Speaking: Talking about food; food and recipe vocabulary. 第　9回　Unit 3. Communication skills: how to present a recipe. Unit 3 review. 第10回　Unit 3 short presentation. Recipe. The students will present a recipe. 第11回　Unit 4. Speaking: talking about what we do in our free time. Grammar review: *present continuous* and the *be going to* future. 第12回　Unit 4. Communication skills: stress in compound nouns; how to make a phone call in English. Unit 4 review. 第13回　Unit 4. Short presentation. Phone call. The students perform a phone call in English. 第14回　Unit 5. Speaking: Our story. Talking about some great, scary, rare or curious situation we experienced. Grammar review: *past simple* and *past continuous*. 第15回　Unit 5. Communication skills: intonation of questions; stressed syllables. Review of unit 5. 第16回　Unit 5 short presentation. The best day of your life. 第17回　Unit 6. Speaking: City or countryside? Discussion about the advantages and disadvantages concerning living in the city or in the countryside. While discussing the students learn vocabulary and expressions to talk about problems of living in the city or in the countryside. 第18回　Unit 6. Communication skills: express agreement and disagreement; intonation to express certainty and uncertainty. Unit 6 review. 第19回　Unit 6. Short presentation. My city: candidate for the next Olympic Games. 第20回　Unit 7. Speaking. Music. Talking about our favorite music. While discussing the students learn about collocations and some prepositions related to them. 第21回　Unit 7. Communication skills: pronunciation of some difficult words; the rhythm in complex sentences. Unit 7 review. 第22回　Unit 7. Short presentation. My favorite singer or band 第23回　Unit 8. Speaking: Pop Culture. Talking about our favorite book, comic-book, TV series, movie or videogame. 第24回　Unit 8. Communication skills: polite intonations and contrastive stress. Unit 8 review. 第25回　Unit 8. Short presentation. This is my movie/book/game. 第26回　Unit 9. Speaking: Would you like to be famous? Talking about fame. Grammar review: the conditionals. 第27回　Unit 9. Communication skills: polite intonation when making requests. Unit 9 review. 第28回　Unit 9. Short presentation. The cost of fame. 第29回　Preparation for the final presentation. 第30回　Review of the course.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%) final presentation (40%).		

(注) 週2回, 教職必修

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅠ**	担当者	ジェイムズ・マレー　James Murray
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】Class time will be centered on the study and practice of language pattrns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work. 【到達目標】The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Miles Craven, *Breakthrough Plus 2, 2nd Edition,* Macmillan Education (ISBN: 9781380001115) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction / Conversation Activities 第 2回　Speaking: Talking about Daily Life and Routines 第 3回　Pronunciation:　Linking words 第 4回　Listening:　Listen for Details 第 5回　Presentation (1) Preparation 第 6回　Presentation (1) 第 7回　Speaking: Talking about Likes and Dislikes 第 8回　Pronunciation:　Sentence Stress 第 9回　Listening:　Predicting What Will Be Said 第 10 回　Conversation Activities 第 11 回　Presentation (2) Preparation 第 12 回　Presentation (2) 第 13 回　Speaking:　Making Requests /　Responding to Requests 第 14 回　Pronunciation:　Linking Sounds 第 15 回　Test (1) / Conversation Activities 第 16 回　Speaking: Talking about Hoobies and Interests 第 17 回　Pronunciation:　Past Forms 第 18 回　Listening:　Listen for Keywords 第 19 回　Presentation (3) Preparation 第 20 回　Presentation (3) 第 21 回　Speaking:　Talking about Something That Happened To You 第 22 回　Pronunciation:　"Schwa" 第 23 回　Listening:　Listen for Specific Information 第 24 回　Conversation Activities 第 25 回　Presentation (4) Preparation 第 26 回　Presentation (4) 第 27 回　Speaking:　Talking about Important Celebrations 第 28 回　Pronunciation:　Shortening Words 第 29 回　Listening:　Listen for Context 第 30 回　Test (2)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%),　Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)		

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅠ**	担当者	ニコライ・ギュレメトヴ　Nikolay Gyulemetov
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.		
	【概要】Classes will include speaking practice, group and pair discussions, presentations (short speeches and Power Point) as well as expanding the textbook topics by watching and discussing relevant videos and materials.		
	【到達目標】The goal of this course is to help students communicate in English more fluently by discussing different topics and sharing their opinions in a confident, effective way.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Richard R. Day, J. Shawles. J. Yamanaka, *Impact Issues 2*, Pearson (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction: plans for the term and getting to know each other. 第 2回　Unit 1 First Impressions 第 3回　Unit 2 Traffic Jam 第 4回　Unit 2 CONTINUED. 第 5回　Unit 3 Who need the local language?. 第 6回　Unit 3 CONTINUED 第 7回　Unit 4 Getting Ahead 第 8回　Unit 5 Forever Single 第 9回　Unit 6 What are friends for? 第 10回　Unit 7 What's for Dinner?; 第 11回　Unit 7 CONTINUED. 第 12回　Unit 8 Cyber Bullying 第 13回　Unit 9 Taking Care of Father 第 14回　Unit 9 CONTINUED. 第 15回　Unit 10 Why go to school? 第 16回　Unit 11 An International Relationship 第 17回　Unit 12　Too little, too late 第 18回　Unit 12 CONTINUED. 第 19回　Unit 13 Ben and Mike 第 20回　Unit 14 Government Control 第 21回　Special Practice Lesson 1 第 22回　Special Practice Lesson 2 第 23回　Unit 15 Living Together 第 24回　Unit 16 Size Discrimination 第 25回　Unit 20 A Mother's Story 第 26回　Watch/discuss a documentary about social problems, crime and punishment. 第 27回　Special practice lesson 3: TOEFL Speaking exercise 第 28回　Special practice lesson 4: TOEFL Speaking exercise (continued) 第 29回　FINAL TEST- Every student has 10-15 minutes to present their work and answer questions about it. 第 30回　FINAL TEST: CONTINUED- Feedback on students' performance, extra questions, feedback from students.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業への取り組み（20%）、Quizzes / in-class presentations / test クイズ／授業での発表・試験（80%）		

（注）週2回，教職必修

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅡ**	担当者	ガルシア・アロヨ　ホルヘ　García Arroyo Jorge
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	By Coming to my office or by email
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course focused on improving the students' communicative skills in English. 【概要】The students will express their point of view and ideas on different topics from the text book. Through this the students will learn the necessary expressions, vocabulary and other language patterns (such as body language and pronunciation) that will allow them to communicate fluently in English. 【到達目標】The main goal of this course is to provide the students with the necessary communicative tools to make them gain confidence, naturalness and spontaneity when speaking in English.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Antonia Clare, JJ Wilson, *Speakout. Intermediate*. Pearson Education (2)		
授業スケジュール	第　1回　Introduction to the course. Warm-up activity: why do you think English is important nowadays? 第　2回　Unit 1. Speaking: talking about an important news event (national and international). Review on *past simple* and *present perfec*t 第　3回　Unit 1. Communication skills: difference between say and tell; pronunciation of *have*, *had*, *was* (weak forms); intonation: sounding interested. 第　4回　Unit 1. Presentation: reporting news. 第　5回　Unit 2. Speaking: Talking about technology. How new technologies are changing our lives. Review on future (*will* tense). 第　6回　Unit 2. Communication skills: time markers (idioms); fast speech (*going to* future); linking in connected speech. 第　7回　Unit 2. Presentation: The students will choose a new technology related to communication (social networks, smartphone, etc.) and they will explain why they use it and its good and bad points. 第　8回　Unit 3. Speaking: talking about amazing jobs. Review on modal verbs (obligation) and *used to* and *simple conditional* tense 第　9回　Unit 3. Communication skills: intonation (emphasis); fast speech *(have to)*; sentence stress. 第10回　Unit 3. Presentation: The students will search for an amazing job in the internet, then they talk about that job. 第11回　Unit 4. Talking about emotions. Review on real and hypothetical conditionals 第12回　Unit 4. Communication skills: pronouns (weak forms); connected speech (*would*); intonation: giving bad news. 第13回　Unit 4. Presentation: The students will choose an important event in their lives and will describe it and explain the emotions they felt about it. 第14回　Unit 5. Speaking: Talking about success. What is necessary to achieve success? Review on *present perfect* VS *present continuous* 第15回　Unit 5. Communication Skills: present and past ability; clarifying opinions; word stress: contractions. 第16回　Unit 5. Presentation: The students will talk about the greatest achievement they did so far. 第17回　Unit 6. Speaking: When life was better, now or in the past? Review on passive voice 第18回　Unit 6. Vocabulary (history); collocations (periods of time); pausing for effect. 第19回　Unit 6. Presentation: the students will explain their favorite historical event. 第20回　Unit 7. What are the problems the world is facing today? Review on reported speech. 第21回　Unit 7. Communication skills: vocabulary (the environment); word building: prefixes. 第22回　Unit 7. Presentation: The students in groups will give some solutions to the problems of the world. Unit 8. Speaking: Talking about books and movies. Review on relative clauses and quantifiers. 第23回　Unit 8. Communication skills: verb phrases; stress pattern: short phrases. 第24回　Unit 8. Presentation: The students will talk about a movie or a book they like. 第25回　Unit 9. Speaking: Talking about the cultural differences between Japan and abroad. Review on comparatives and superlatives. 第26回　Unit 9. Communication skills: syllable stress; intonation: question tags and polite requests. Unit 9. Presentation: The students try to explain Japanese culture to a foreigner. 第27回　Unit 10. Speaking: talking about communities. 第28回　Unit 10. Communication skills: Compound nouns (stress); pausing for effect; linking words 第29回　Unit 10. Presentation: The students describe their neighborhood. 第30回　Review of the course.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%) final presentation (40%).		

(注) 週2回

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅡ**	担当者	ジェイムズ・マレー　James Murray
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】Class time will be centered on the study and practice of language pattrns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work. 【到達目標】The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Miles Craven, *Breakthrough Plus 3, 2nd Edition,* Macmillan Education (ISBN: 9781380001139) (2)		
授業スケジュール	第　1回　Introduction 第　2回　Unit 1-Lifestyles (Memories): Conversation, Grammar, Pronunciation 第　3回　Unit 1 (continued)-Pair practices discussing past activities, listening activities 第　4回　Unit 1 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第　5回　Unit 1 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第　6回　Unit 2-Life Changes (talking about major life events): Conversation, Grammar, Pronunciation 第　7回　Unit 2 (continued)-Pair practices discussing life events, listening activities 第　8回　Unit 2 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第　9回　Unit 2 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第 10 回　Unit 3-Viewpoints (expressing opinions): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 11 回　Unit 3 (continued)-Pair practices to practice expressing opinions & responding, listening activities 第 12 回　Unit 3 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 13 回　Review 1: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 1-3 第 14 回　Student presentations for Unit 1-3 themes/evaluation 第 15 回　Unit 4-Problems: Conversation, Grammar, Pronunciation 第 16 回　Unit 4 (continued)-Pair practices to practice talking about problems, listening activities 第 17 回　Unit 4 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 18 回　Unit 4 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第 19 回　Unit 5-Thinking Ahead (predicting the future): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 20 回　Unit 5 (continued)-Pair practices to practice future tense, listening activities 第 21 回　Unit 5 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 22 回　Unit 5 (continued)-Presentations of student short talks/evaluation 第 23 回　Unit 6-Imagine! (speculating/using conditionals): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 24 回　Unit 6 (continued)-Pair practices for practicing conditionals, listening activities 第 25 回　Unit 6 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks 第 26 回　Review 2: Listening & grammar review, planning a presentation for Units 4-6 第 27 回　Student presentations for Unit 4-6 themes/evaluation 第 28 回　Unit 7-My World (talking about people/places/things): Conversation, Grammar, Pronunciation 第 29 回　Unit 7 (continued)-Pair practices to talk about the world today, listening activities 第 30 回　Unit 7 (continued)-Listening exercises, vocabulary expansion, preparation of unit short talks		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (30%), Quizzes / Presentation / Test クイズ・授業での発表・試験 (70%)		

(注) 週2回

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅡ**	担当者	ニコライ・ギュレメトヴ　Nikolay Gyulemetov
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English. 【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。 【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Impact Issues 2,　by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman (2)　（プリントを配布する場合もある）		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション Orientation, selection of units to use (12 out of 20) 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回　Week 2 to Week 10 : Work with the units selected 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回　Oral Presentation: スピーチ 第 12回 第 13回　Week 12 and 13: Finish the textbook 第 14回　Oral Presentation: グループ発表 第 15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス（60%）＋発表・スピーチ　(40%）による評価します。		

（注）週2回

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅢ**	担当者	ガルシア・アロヨ　ホルヘ　García Arroyo Jorge
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	By coming to my office or by email
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course is focused on enhancing the student's oral communication skills so that they will be able to express themselves in several situations and give short speeches. 【概要】Students will express their ideas about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing. 【到達目標】In this course students will acquire and use a wide variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, emphasis will also be placed on important factors when giving a speech such as intonation, pronunciation, body language, etc.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Antonia Clare, JJ Wilson. *Speakout intermediate plus*. 2nd edition. Pearson Education. (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction to the course. Warm-up activity: why are you interested in speaking English? 第 2回　Unit 1. Speaking: talking about fears and phobias. Review on making suggestions. 第 3回　Unit 1. Communication skills. Stress patterns: responses; Verb + preposition 第 4回　Unit 1. Presentation: the students talk about scary stories they know 第 5回　Unit 2. Speaking: talking about lifestyles. Review on passive and causative *have*. 第 6回　Unit 2. Communication skills. Everyday objects; stress: causative *have*.; connected speech: linking 第 7回　Unit 2. Presentation: the students describe their lifestyles, outlining its good and bad points (if any). 第 8回　Unit 3. Speaking: talking about health. Review on passive reporting structures. 第 9回　Unit 3. Communication skills. Vocabulary: health; disagreeing politely: how to debate. 第 10回　Unit 3. Presentation: the students present some healthy advices to introduce in our life. 第 11回　Unit 4. Speaking: is the Smartphone that necessary? Review on questions forms (indirect questions) and *present perfect simple* and *continuous*. 第 12回　Unit 4. Communication skills. Intonation (statement, questions); intonation (sound enthusiastic). 第 13回　Unit 4. Presentation: the students will present an anecdote related to the use of the smartphone and social media networks. 第 14回　Review of the course. 第 15回　Preparation for the final presentation.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class presentations (60%) Final presentation (40%)		

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅢ**	担当者	ジェイムズ・マレー　James Murray
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills. 【概要】Class time will be centered on the study and practice of language pattrns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work. 【到達目標】The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Miles Craven, *Breakthrough Plus 3, 2nd Edition,* Macmillan Education (ISBN: 9781380001139) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction / Conversation Practice 第 2回　Speaking: Talking about People, Places, and Things. 第 3回　Pronunciation: Intonation.　/　Listening: Listen for Details. 第 4回　Presentation (1) Preparation 第 5回　Presentation (1)　/　Conversation Practice 第 6回　Speaking: Talking about Experiences 第 7回　Pronunciation: Expressing Emotion.　/　Listening: News Reports. 第 8回　Test (1)　/　Conversation Practice 第 9回　Presentation (2) Preparation 第 10回　Presentation (2)　/　Conversation Practice 第 11回　Speaking: Talking about Opinions. 第 12回　Pronunciation: -ed endings.　/ Listening: Identifying the Topic 第 13回　Presentation (3) Preparation 第 14回　Presentation (3)　/　Conversation Practice 第 15回　Test (2)　/　Conversation Practice		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%),　Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)		

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅢ**	担当者	アンドルー・ダニエルズ　Andrew Daniels
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course will focus on a number of interesting topics from the textbook and allow students the chance to express themselves in pairs and group situations. 【概要】Students will work on listening skills, speaking skills and develop their ability to give impromptu short speeches on topics from the text by using key vocabulary patterns 【到達目標】The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Inspire 2　by Hartmannn, Douglas and Boon　Cengage learning (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction of key topics from the first half of the textbook 第 2回　Festivals 第 3回　Food 第 4回　Cities 第 5回　Jobs (Part-time) 第 6回　Jobs　(Unusual) 第 7回　Review Quiz of first half of semester 第 8回　Music 第 9回　Traditional Instruments 第 10回　Travel　(Abroad) 第 11回　Travel　(Domestic) 第 12回　Life Dreams and Hopes 第 13回　Happiness 第 14回　Life Goals 第 15回　Pair work practice on key topic 第 16回　Final Quiz		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Participation in class pair-work activities 40% Vocabulary and short quizzes 30% Final Speaking Activity and Quiz 30%		

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅣ**	担当者	ジェイムズ・マレー　James Murray
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is an advanced course aimed at polishing the students' listening and speaking ability. 【概要】Class time will be centered on English listening and viewing of TED Talks and authentic language. Vocabulary, speaking, pronunciation, note-taking, and presentation skills will be practiced based upon those segments. 【到達目標】The goal of this course is to help students increase their vocabulary, their listening ability, and become confident in expressing their ideas in a more fluent manner.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Lida Baker & Laurie Blass, *21st Century Communication--Book 1A,* National Geographic Learning / Cengage (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction/ Unit 1 (*Conservation*) Lesson A—Introduction, thinking about the topic, vocabulary 第 2回　Unit 1 Lesson B—Audio listening, discussion 第 3回　Unit 1 Lesson C—Vocabulary, video segment watching, discussion 第 4回　Unit 1 Presentations 第 5回　Unit 2 (*Connecting to Nature*) Lesson A--Introduction, thinking about the topic, vocabulary 第 6回　Unit 2 Lesson B--Audio listening, discussion 第 7回　Unit 2 Lesson C--Vocabulary, video segment watching, discussion 第 8回　Unit 2 Presentations 第 9回　Unit 3 (*Transportation*) Lesson A--Introduction, thinking about the topic, vocabulary 第 10回　Unit 3 Lesson B--Audio listening, discussion 第 11回　Unit 3 Lesson C--Vocabulary, video segment watching, discussion 第 12回　Unit 3 Presentations 第 13回　Unit 4 (*Music*) Lesson A--Introduction, thinking about the topic, vocabulary 第 14回　Unit 4 Lesson B--Audio listening, discussion 第 15回　Unit 4 Lesson C--Vocabulary, video segment watching, discussion		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合（30%）、 Quizzes / in-class presentations / test クイズ・授業での発表・試験（70%）		

授業科目	**オーラルコミュニケーションⅣ**	担当者	アンドルー・ダニエルズ　Andrew Daniels
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course is designed to allow students to express themselves on a wide range of topics, and help them develop strategies for making clear precise and interesting presentations in English. 【概要】Focus will be on key aspects of presentation skills such as eye contact, intonation, note cards, content and visual aids. Students will use these devices to present their information to the class. 【到達目標】The aim is to help students become more fluent in the way they express themselves on a wide variety of current issues which may have relevance to their own lives.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　No Text.　Materials prepared by teacher (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction of Course and Goals for this semester　Fashion, Global Youth Culture and Generation Gap 第 2回　Generation Gaps 第 3回　Family Issues 第 4回　Global Youth Culture 第 5回　World Music and expressing opinions about it 第 6回　Fashion 第 7回　Review Quiz 第 8回　Health 第 9回　Diets 第 10回　Pressures of the Mass Media 第 11回　Travel Plans 第 12回　Plans for the Future 第 13回　Life in the Future 第 14回　Generational Choices 第 15回　Pair work presentation practice 第 16回　Final Quiz		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Participation in class pair-work activities 40% Vocabulary and short quizzes 30% Final Speaking Activity and Quiz 30%		

授業科目	**英語表現法Ⅰ**	担当者	ジェイムズ・マレー　James Murray
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure. 【概要】Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction. 【到達目標】The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Curtis Kelly, Arlen Gargagliano「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction / Writing Practice 第 2回　Unit 1: Main Ideas / General and Specific Information 第 3回　Unit 1: Topic Sentences 第 4回　Unit 2: Organizing Ideas 第 5回　Unit 2: Inference Sentences 第 6回　Unit 3: Facts and Examples in Paragraphs 第 7回　Unit 3: Supporting Sentences / Direct and Indirect Speech 第 8回　Unit 4: Descriptive Paragraphs 第 9回　Unit 4: Getting Reader's Attention / Pronouns to Avoid Repetition 第 10回　Unit 5: Topic Sentences 第 11回　Unit 5: Organizing Information 第 12回　Unit 6: Plans and Instructions 第 13回　Unit 6: Using "so", "that", and "to" 第 14回　Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15回　Final Writing Assignment		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		
実務経験について	高等学校で教員（ALT）として勤務		

授業科目	**英語表現法Ⅰ**	担当者	パトリック・ゴーラム　Patrick Gorham
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences. Students must work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing assignments. There will be weekly class writing assignments in addition to in class compositions. Students must also fulfill the Kentan attendance requirement. 【概要】Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook. 【到達目標】The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafiei; Publisher: Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回　Class Orientation 第 2回　Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 3回　Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 4回　Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 5回　Unit 2, Descriptive Paragraph 第 6回　Unit 2, Descriptive Paragraph 第 7回　Unit 2, Descriptive Paragraph 第 8回　Descriptive paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 9回　Descriptive paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 10回　Unit 3, Example paragraph 第 11回　Unit 3, Example paragraph 第 12回　Unit 3, Example paragraph 第 13回　Unit 3, Example paragraph 第 14回　Example paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 15回　Example paragraph in-class writing assignment 2nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Students essays 80%, freewriting 10% , attendance 10%		

授業科目	**英語表現法Ⅱ**	担当者	ジェイムズ・マレー　James Murray
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure. 【概要】Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction. 【到達目標】The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Curtis Kelly, Arlen Gargagliano「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Unit 5: Introductory Paragraphs 第 2回　Unit 5: Cause and Effect Words and Paragraphs 第 3回　Unit 6: Process Paragraphs 第 4回　Unit 6: Guiding Readers / Modifiers 第 5回　In-class writing assignment (1), 1st draft 第 6回　In-class writing assignment (1), 2nd draft 第 7回　Writing assignment (1) Review 第 8回　Unit 7: Classifying into Groups 第 9回　Unit 7: Concluding Paragraphs / Use of Commas 第 10回　Unit 8: Compare and Contrast Paragraphs 第 11回　Unit 9: Persuasive Paragraphs / Parallelism 第 12回　Unit 9: Sentence Transitions 第 13回　In-class writing assignment (2), 1st draft 第 14回　In-class writing assignment (2), 2nd draft 第 15回　Writing assignment (2) Review		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Homework 60%, Mid-Term Writing Assignment 20%, Final Writing Assignment 20%		
実務経験について	高等学校で教員（ALT）として勤務		

授業科目	**英語表現法Ⅱ**	担当者	パトリック・ゴーラム　Patrick Gorham
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be required to recognize various grammatical points and complete grammatical exercises. There will be weekly writing assignments and three in-class compositions. 【概要】Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook. . 【到達目標】The aim of the course is to develop writing skills above the sentence level		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafiei ; Publisher: Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回　Unit 4, Process paragraph 第 2回　Unit 4, Process paragraph 第 3回　Unit 4, Process paragraph 第 4回　Process paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 5回　Process paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 6回　Unit 5, Opinion paragraph 第 7回　Unit 5, Opinion paragraph 第 8回　Unit 5, Opinion paragraph 第 9回　Opinion paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 10回　Opinion paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 11回　Unit 6, Narrative paragraph 第 12回　Unit 6, Narrative paragraph 第 13回　Unit 6, Narrative paragraph 第 14回　Narrative paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 15回　Narrative paragraph in-class writing assignment 2nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 75%, freewriting 75% and attendance 10%		

授業科目	**英語表現法Ⅲ**	担当者	ジェイムズ・マレー　James Murray
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure. 【概要】Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction. 【到達目標】The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 2」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188340) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction / Writing Practice 第 2回　Unit 1: "About Me" Expository Paragraphs 第 3回　Unit 1: Topic Sentences / Paragraph Format 第 4回　Unit 2: "Career Consultant" Supporting Logical Conclusions 第 5回　Unit 2: Conjunctions / Email requesting information 第 6回　Unit 3: "Dream Come True" Supporting Sentences 第 7回　Unit 3: Direct and Indirect Speech / Resumes, CVs 第 8回　Unit 4: "Invent" Definition Paragraphs 第 9回　Unit 4: Avoiding Repetition / Emailing Companies about a Product 第 10回　Unit 5: "Changed My Life" Cause and Effect Paragraphs 第 11回　Unit 5: Introductory Paragraphs / Greeting Cards 第 12回　Unit 6: Process Paragraphs 第 13回　Unit 6: Using Modifiers / Organizing Lists 第 14回　Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15回　Final Writing Assignment		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		
実務経験について	高等学校で教員（ALT）として勤務		

授業科目	**英語表現法Ⅲ**	担当者	パトリック・ゴーラム　Patrick Gorham
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】Eigo Hyogen Ho III is a writing course which teaches students how to write multi-paragraph essays in different rhetorical modes. Students will be required to learn the organization of writing multiple paragraph essays. They will be required to write introductory, supporting and concluding paragraphs. Students will also be required to complete various grammatical exercises throughout the semester. To successfully complete the course, students must complete weekly writing assignments, do three in-class essays and fulfill the college attendance requirement. 【概要】Students will study different rhetorical modes and complete writing assignments reflecting the material studied. 【到達目標】The aim of the course is to develop students writing skills above the paragraph level.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Effective Academic Writing 3, Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回　Unit 3, Process Essay 第 2回　Unit 3, Process Essay 第 3回　Unit 3, Process Essay 第 4回　Process essay　in-class writing assignment 1st draft 第 5回　Process essay　in-class writing assignment 2nd draft 第 6回　Unit 4, Argumentative Essay 第 7回　Unit 4, Argumentative Essay 第 8回　Unit 4, Argumentative Essay 第 9回　Argumentative in-class writing assignment 1st draft 第 10回　Argumentative in-class writing assignment 2nd draft 第 11回　Unit 5, Classification Essay 第 12回　Unit 5, Classification Essay 第 13回　Unit 5, Classification Essay 第 14回　Classification in-class writing assignment 1st draft 第 15回　Classification in-class writing assignment 2nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Three in-class essays 75%,　freewriting 15%, attendance 10% (The number of essays is subject to change depending on the progress of the class)		

授業科目	**英語コミュニケーション演習Ⅰ**	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは、視聴覚教材を利用して標準的なナチュラルなオーストラリア英語、イギリス英語、アメリカ英語を聞き取る力を高めるとともに、オーストラリアの日常生活や社会について理解し知識を得ることです。 【概要】　ナチュラルな英語で紹介されるオーストラリアの日常生活や社会をビデオ教材を通して理解するとともに、様々な情報を掴み取る演習を通してリスニング力を高めます。 さらに、毎回、シャドーイング（聞き取った音を再現する口頭練習）を継続的に行うことで、「ナチュラルな英語を聞き取る力」と「英語らしく発話できる力」を高めていきます。 【到達目標】・様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。 ・英語の音声的特徴に慣れるとともに、パッセージを瞬時に聞き取り理解することができる。 ・オーストラリアの日常生活・社会について理解し知識を得る。		
(1)テキスト	(1)　Kumiko T. Sato 他著　*Australia, Here We Come!*　出版社：Asahi Press		
授業スケジュール	第 1回　授業ガイダンス：　効果的なリスニング学習とは？　/　授業内容と進め方について 第 2回　Unit 1：Hello, Sydney, Australia！／小テスト／シャドーイング演習 第 3回　Unit 2：Street Life／小テスト／シャドーイング演習 第 4回　Unit 3：Public Transport – Commuting／小テスト／シャドーイング演習 第 5回　Unit 4：University Life – The University of Sydney (1) ／小テスト／シャドーイング演習 第 6回　Unit 4：University Life – The University of Sydney (2) ／シャドーイング演習 第 7回　Unit 5：Australian Home／小テスト／シャドーイング演習 第 8回　Unit 6：Supermarket – Coles／語彙テスト／シャドーイング演習 第 9回　Unit 7：Daily Life／語彙テスト／シャドーイング演習 第 10回　Unit 8：Taronga Zoo – Australian Animals／語彙テスト／シャドーイング演習 第 11回　Unit 9：Leisure Time at the Sea／語彙テスト／シャドーイング演習 第 12回　Unit 10：Education Programmes in Taronga Zoo／語彙テスト／シャドーイング演習 第 13回　Unit 11：Leisure Time at the Park／語彙テスト／シャドーイング演習 第 14回　Unit 12：Australian Family／語彙テスト／シャドーイング演習 第 15回　オーストラリアについてのレビュー・アクティビティ		
授業外学習(予習・復習)	毎回のテキストの予習（語彙等）、毎回の小テストのための学習		
成績評価の方法	授業でのワークシート（20%）＋　復習のための小テスト（30%）＋　定期試験（50%）		

（注）教職必修

授業科目	**英語コミュニケーション演習Ⅱ**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	オフィスアワーおよびEdmodo
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーションの理論と実践，CLIL（Content and Language Integrated Learning） 【概要】 コミュニケーション概論で学習したことをさらに深めるため，テーマに関連する様々なトピックを扱いながら，読むことと書くことを中心に，多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。 【到達目標】(1)英語で書かれた資料から，必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで，その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに，自分の意見やその理由を加えて書いたり，口頭で説明したりすることができる。(5)様々なジャンルや話題の英語を読んで，目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　McConachy, T. et al. (2017). *Intercultural communication for English language learners in Japan*. Nan'un-do. (2)　授業で紹介する		
授業スケジュール	第 1回　Course Introduction（授業の進め方と課題の取り組み方の説明，初回アンケート） 第 2回　Intercultural Communication in Today's World 第 3回　English for Intercultural Communication 第 4回　Important Features of Human Communication 第 5回　The Concept of Culture 第 6回　Language and Thought 第 7回　Communication Styles 第 8回　Human Psychology and Communication 第 9回　Speech Acts across Cultures 第 10回　Stereotypes and Intercultural Communication 第 11回　Cultural Accommodation in Intercultural Communication 第 12回　Intercultural Communication in Higher Education 第 13回　Study Abroad and Intercultural Adaptation 第 14回　Intercultural Competence for the Future 第 15回　Final Presentation		
授業外学習(予習・復習)	予習（発表準備含む）2時間以上必要である。		
成績評価の方法	プレゼンテーション 30%　期末レポート 40%　Extensive Reading 30%で評価する。		

（注）教職必修

授業科目	**英語コミュニケーション演習Ⅲ**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワーおよびEdmodo
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーションの理論と実践，CLIL（Content and Language Integrated Learning） 【概要】 コミュニケーション概論，英語コミュニケーション演習Ⅱで学習したことをさらに深めるため，テーマに関連する様々なトピックを扱いながら，多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。 【到達目標】(1)トピックに関する英語で書かれた資料から，必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで，その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに，自分の意見やその理由を加えて書いたり，口頭で説明したりすることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント配布，初回で指示する。 (2)　Cushner, K. & Brislin, W. R. (1996). *Intercultural interactions: A practical guide*. Sage Publications. Stringer, D. M., & Cassidy, P. A. (2009). 52 activities for improving cross-cultural communication. Boston: Intercultural Press.		
授業スケジュール	第 1回　Course Introduction（授業の進め方と課題の取り組み方の説明，初回アンケート） 第 2回　Exercise 1 第 3回　Exercise 2 第 4回　Exercise 3 第 5回　Exercise 4 第 6回　Exercise 5 第 7回　Exercise 6 第 8回　Exercise 7 第 9回　Exercise 8 第10回　Exercise 9 第11回　Exercise 10 第12回　Exercise 11 第13回　Exercise 12 第14回　Final Presentation (1) 第15回　Final Presentation (2)		
授業外学習(予習・復習)	予習（発表準備含む）2時間以上必要である。		
成績評価の方法	プレゼンテーション30%　Final Presentation 30%　期末レポート40%で評価する。		

授業科目	**通訳入門Ⅰ**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワーおよびEdmodo
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語による鹿児島観光通訳ボランティアガイドの養成 【概要】本授業では，英語での観光ガイドに役立つ語句や表現の学習，鹿児島市および近郊の観光施設や観光地へのフィールドワーク，パワーポイントのスライド資料を用いた英語で観光ガイドのプレゼンテーション，鹿児島の観光地や文化を紹介するハンドブックの作成などを通して，鹿児島をテーマとする観光通訳ガイドに必要な知識とスキルを習得します。 【到達目標】①鹿児島観光に関する基礎知識を習得する。②英語ボランティア観光ガイドの現場で活用できる表現を習得する。③ボランティア観光ガイドに興味・関心を持ち，自ら積極的に参加する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　川本 佐奈恵（2018）『ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編』J リサーチ出版 (2)　森田 正康（他）（2018）『外国人から日本についてよく聞かれる質問200』クロスメディア・ランゲージ 江口裕之（2018）『英語でガイド!世界とくらべてわかる日本まるごと紹介事典』J リサーチ出版 柴田バネッサ（監修）（2005）『通訳トレーニング入門』アルク		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス，Goodwill Guide（善意通訳）とは？　通訳訓練法の紹介 第 2回　フィールドワーク（1） 第 3回　英語観光ボランティアの事前準備 案内当日までのemail（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（1） 第 4回　英語観光ボランティアの事前準備 案内当日までのemail（2）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（2） 第 5回　ゲストと初対面から出発まで／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（3） 第 6回　電車／バスに乗って出かける／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（4） 第 7回　ゲストと一緒にランチをする（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（5） 第 8回　フィールドワーク（2） 第 9回　ゲストと一緒にランチをする（2）回転ずしに行く／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（6） 第10回　神社へ行く（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（7） 第11回　神社へ行く（2）手水舎（ちょうずや）でお清めをする／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（8） 第12回　神社へ行く（3）二礼二拍手一礼、お賽銭、神様の名前／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（9） 第13回　神社へ行く（4）おみくじ体験／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（10） 第14回　鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表（1）　※受講者の人数・レベル，予定によってスケジュールを 第15回　鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表（2）　変更する可能性もあります。		
授業外学習(予習・復習)	予習2時間以上，復習1時間以上必要である。		
成績評価の方法	ポートフォリオ50%　期末試験50%　で評価する。		

授業科目	**通訳入門Ⅱ**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワー
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語による鹿児島観光通訳ボランティアガイドの養成 【概要】本授業では，英語での観光ガイドに役立つ語句や表現の学習，鹿児島市および近郊の観光施設や観光地へのフィールドワーク，パワーポイントのスライド資料を用いた英語で観光ガイドのプレゼンテーション，鹿児島の観光地や文化を紹介するハンドブックの作成などを通して，鹿児島をテーマとする観光通訳ガイドに必要な知識とスキルを習得します。 【到達目標】①鹿児島観光に関する基礎知識を習得する。②英語ボランティア観光ガイドの現場で活用できる表現を習得する。③ボランティア観光ガイドに興味・関心を持ち，自ら積極的に参加する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　川本 佐奈恵（2018）『ゼロからスタート英語ボランティア 観光ガイド編』J リサーチ出版 (2)　イーオン（2017）『世界をもてなす 語学ボランティア入門』朝日出版社 葛西朋子（2017）『英語でボランティアガイド』アルク 江口裕之・Daniel Dumas（2017）『英語で語る 日本事情 2020』ジャパンタイムズ		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス，夏休みの思い出シェアリング（画像や動画をパワーポイントスライドに貼って持参してください） 第 2回　フィールドワーク（1） 第 3回　外国人から必ず聞かれる日本の基礎知識／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（1） 第 4回　外国人から必ず聞かれる日本の季節・自然／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（2） 第 5回　外国人から必ず聞かれる日本の神社・寺／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（3） 第 6回　外国人から必ず聞かれる日本の交通機関／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（4） 第 7回　外国人から必ず聞かれる日本の食（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（5） 第 8回　フィールドワーク（2） 第 9回　外国人から必ず聞かれる日本の食（2）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（6） 第 10 回　外国人から必ず聞かれる日本の英語環境／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（7） 第 11 回　外国人から必ず聞かれる日本の暮らし・習慣（1）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（8） 第 12 回　外国人から必ず聞かれる日本の暮らし・習慣（2）／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（9） 第 13 回　外国人から必ず聞かれる日本の買い物事情／鹿児島観光ハンドブックプロジェクト（10） 第 14 回　鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表（1）　※受講者の人数・レベル，予定によってスケジュールを 第 15 回　鹿児島観光ガイドプレゼンテーション発表（2）　変更する可能性もあります。		
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上，復習 1 時間以上必要である。		
成績評価の方法	ポートフォリオ 50%　期末試験 50%で評価する。		

授業科目	**英文法**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】英文法（文法化されている意味とその形態的・統語的具現） 【概要】本授業は、動詞（時制、相）、名詞・冠詞、前置詞、助動詞、準動詞、法、関係節について学ぶ。授業では、随時グループワークを行い、英語の初級学習者に対する効果的な指導方法についても討議したい。 【到達目標】英語の文法について理解している。具体的には、中・高等学校で学んだ文法事項を再確認し理解を正確にする。その後、中・高等学校で学んだ文法事項の正確な理解を基盤として、発展的な事項を理解する。加えて、英文法と日本語文法と対比させて、基本的な異同を的確に把握できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Murphy, R.（著）渡辺雅仁・田島祐規子（訳）(2021)『マーフィーのケンブリッジ英文法中級編　第3版』，ケンブリッジ大学出版局，シンガポール。 (2)　久野暲・高見健一『謎解きの英文法』シリーズ，くろしお出版，東京。その他の参考文献は随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス 第 2回　時制と相 (1) 現在形と現在進行形 第 3回　時制と相 (2) 過去形と現在完了形 第 4回　時制と相 (3) 現在完了進行形 第 5回　時制と相 (4) 現在完了形と現在完了進行形 第 6回　名詞における可算・不可算の区別 第 7回　定冠詞と不定冠詞の用法 第 8回　数量詞の用法 第 9回　名詞の総称表現 第 10 回　前置詞と比喩 第 11 回　準動詞 第 12 回　助動詞の２つの意味 第 13 回　直説法と仮定法 第 14 回　関係節 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上，復習 2 時間以上必要である。高校卒業程度の英語力を前提とする。		
成績評価の方法	試験（40%）＋小テスト（50%）＋授業内活動への積極的な参加（10%）		

授業科目	英語史	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時，適宜（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】英語の誕生から英語が世界共通語となった現代までの英語の歩んだ歴史を外面史（英語が使われる社会の歴史）と内面史（英語という言語の通時的変化）の観点から学ぶ。 【概要】現代英語には英語の歩んで来た歴史が反映している。例えば、英語にはいわゆる不規則動詞が存在するが、なぜ存在するのかを理解するためには英語の歴史を学ぶ必要がある。本講義では、このような英語自体の性質について歴史的側面からアプローチする。加えて、英語がどのような経緯で現代世界の共通語になったのか概略し、世界語としての英語が持つ特徴について触れる。 【到達目標】英語の音声、文字、語彙、文法の歴史的変遷について基礎的な知識を持っている。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　ハンドアウトを配布する。 (2)　寺澤盾 (2013)『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店，東京。堀田隆一 (2014)『英語史で解きほぐす英語の誤解』中央大学出版部，東京。井口篤，寺澤盾 (2013)『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会，東京。ブラッグ，メルヴィン (2008)『英語の冒険』講談社，東京。その他随時紹介する。Bragg, Melvyn. (2002) *The Adventure of English*. (DVD)		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス 第 2回　英語の始まり 第 3回　インド・ヨーロッパ祖語 第 4回　古英語(1) 第 5回　古英語(2) 第 6回　ヴァイキングの侵攻と英語 第 7回　ノルマン征服と中英語 第 8回　初期近代英語　ルネッサンス、シェイクスピアと英語 第 9回　中英語・初期近代英語を読む 第10回　海外に広がった英語　アメリカ英語 第11回　世界共通語としての英語　アジア諸国における英語 第12回　ピジンとクレオール 第13回　現代イギリス英語に見られる変化 第14回　現代アメリカ英語に見られる変化 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習１時間以上，復習３時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験（70%）＋授業内活動への積極的参加（30%）		

（注）教職必修

授業科目	英語音声学	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】英語の音声の仕組み 【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら、英語の音声の仕組みを学習する。まず、英語の分節音の調音方法を学習する。その後、超分節音素（ストレス、ピッチ、連接）を概略する。授業では、講義に加えてCALL機器を利用した練習を行い、英語の発音技能を高める。また、日本人学習者に対する効果的な指導方法を討議するためにグループワークも行う。 【到達目標】英語の音声の仕組みを理解し、実践できる。加えて、日本語の音の仕組みと英語のそれがどのように異なるのか理解している。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　杉森幹彦ほか (2012)『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂，東京。(1800円) (2)　キャットフォード, J. C.，竹林滋・設楽優子・内田洋子（訳）(2006)『実践音声学入門』大修館書店，東京。 深澤利昭 (2015)『改訂版　英語の発音パーフェクト学習辞典』アルク，東京。今井，ジュミック (2012)『<フォニックス>できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社，東京。その他随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス 第 2回　分節音(1) 第 3回　分節音(2) 第 4回　分節音(3) 第 5回　分節音(4) 第 6回　分節音(5) 第 7回　アクセント(1) 第 8回　アクセント(2) 第 9回　音変化(1) 第10回　音変化(2) 第11回　音変化(3) 第12回　イントネーション(1) 第13回　イントネーション(2) 第14回　音と綴りの関係 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習１時間以上，復習３時間以上必要である。本授業は英語学概論の学習内容（音声学・音韻論）を前提とする。		
成績評価の方法	試験（40%）＋小テスト（実技課題を含む）（40%）＋授業内活動への積極的な参加（20%）		

授業科目	**講読演習Ⅰ**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】英語学の文献講読 【概要】性差がことばに与える影響について学ぶ。 【到達目標】論理的な文章を読む力を高める。教科書の第２章以降を独力で読めるようになる。フレーム，メタメッセージなど基礎的な概念を理解し，具体的な言語分析に応用できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Tannen, Deborah (1990) *You Just Don't Undersatnd*, William Morrow, New York. (2)　随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス 第 2回　Different Words, Different Worlds (1) 第 3回　Different Words, Different Worlds (2) 第 4回　Intimacy and Independence (1) 第 5回　Intimacy and Independence (2) 第 6回　Asymmetries (1) 第 7回　Asymmetries (2) 第 8回　The Mixed Metamessages of help 第 9回　The Modern Face of Chivalry 第 10回　The Protective Frame 第 11回　Male-Female Conversation is Cross-Cultural Communication, It Begins at the Beginning (1) 第 12回　It Begins at the Beginning (2) 第 13回　It Begins at the Beginning (3) 第 14回　The Key is Understanding 第 15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習２時間以上，復習２時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み（30%）＋ 試験（70%）		

授業科目	**基礎演習Ⅰ**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】語用論の基礎を学ぶ。 【概要】「英語学概論」では，音，語，文を分析対象として扱った。「英語学演習」では文の集合である文章，会話を取り上げて，それらに見られる規則性を学習する。 【到達目標】情報構造を用いた談話分析の手法を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　福地肇（1985)『談話の構造』，大修館書店，東京。 (2)　随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス 第 2回　文の文法と談話の文法 第 3回　談話における情報の配置 第 4回　旧情報と新情報１（情報の新旧とは） 第 5回　旧情報と新情報２（旧情報と新情報の現れ方） 第 6回　主題と題述１（主題と題述とは） 第 7回　主題と題述２（主題の現れ方） 第 8回　受動態 第 9回　二重目的語構文 第 10回　不変化詞 第 11回　主題化 第 12回　存在文 第 13回　be 動詞を軸にした倒置 第 14回　外置構文 第 15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習２時間以上，復習２時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み（60%）＋ レポートまたは試験（40%）		

授業科目	**基礎演習Ⅰ**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	オフィスアワーおよびEdmodo
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーション，英語教育学，ワークショップのデザインと実践 【概要】 グループごとに異文化コミュニケーション，英語教育学に関する文献を読み，内容に関するワークショップをデザインする。ワークショップは英語で行う。 【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション，英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ゼミの進め方についてのガイダンス 第 2回　グループ発表1の準備1 第 3回　グループ発表1の準備2 第 4回　グループ発表1 第 5回　グループ発表2の準備1 第 6回　グループ発表2の準備2 第 7回　グループ発表2 第 8回　グループ発表3の準備1 第 9回　グループ発表3の準備2 第10回　グループ発表3 第11回　グループ発表4の準備1 第12回　グループ発表4の準備2 第13回　グループ発表4 第14回　研究テーマと研究構想についての報告1 第15回　研究テーマと研究構想についての報告2		
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上，復習が3時間以上必要である。		
成績評価の方法	グループ発表30%　グループ調査報告30%　レポート40%で評価する。		

授業科目	**英語学演習**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時，適宜（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】日本語と英語の対照 【概要】英文テキストを読みながら，対応する日本文テキストと比較して日本語と英語の文法，表現法などの共通点，相違点を学ぶ。 【到達目標】英語と日本語を比較し，文法や表現法の違いに気付くことができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Higashino, Keigo（著），Smith, A. O.（訳）(2011) *The Devotion of Suspect X*, Abacus, London. (2)　随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス 第 2回　第1章 第 3回　第1章 第 4回　第2章 第 5回　第2章 第 6回　第3章 第 7回　第3章 第 8回　第4章 第 9回　第5章 第10回　第6章 第11回　第7章 第12回　第8章 第13回　第9章 第14回　第10章 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習2時間，復習3時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み（70%）＋ レポートまたは試験（30%）		

授業科目	**英語学演習**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワーおよびEdmodo
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーション，英語教育学に関する研究の課題と方法 【概要】 異文化コミュニケーション，英語教育学に関するテーマについて研究する。 【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション，英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。④先行研究や他者の研究を批判的に理解したり，建設的な意見を述べたりすることができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　浦野研・亘陽一・田中武夫・藤田卓郎・髙木亜希子・酒井英樹（2016）『はじめての英語教育研究 ― 押さえておきたいコツとポイント』研究社 佐野正之（2000）『アクション・リサーチのすすめ ― 新しい英語授業研究』大修館書店		
授業スケジュール	第 1回　ゼミの進め方についてのガイダンス，研究テーマと研究構想についての報告 第 2回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ1 第 3回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ2 第 4回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ3 第 5回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ4 第 6回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ5 第 7回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ6 第 8回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ7 第 9回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ8 第10回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ9 第11回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ10 第12回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ11 第13回　研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ12 第14回　中間発表1 第15回　中間発表2		
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上，復習が3時間以上必要である。		
成績評価の方法	報告とディスカッション30%　中間発表30%　レポート40%で評価する。		

授業科目	**英文学史**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】18世紀～20世紀における「小説」の流れを概観する。 【概要】まず，文学史のテキストに潜んでいる問題点を考える。次に，18世紀～20世紀における主要な作家と作品を取り上げて，「小説」の流れを概観し，18世紀の特徴，19世紀（ビクトリア朝期）の特徴，20世紀の特徴を理解させる。また，受講者にはイギリス文学に親しんでもらうために，指定した映像作品を鑑賞してもらい，「映画作品から親しむイギリス文学」というレポートを課す。 【到達目標】18世紀の小説の特徴，19世紀の小説の特徴，20世紀の小説の特徴を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　川崎寿彦著　『イギリス文学史』　成美堂 (2)　サブテクストは講義中に指定する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（講義方式の説明，文学史のテキストに潜む問題点の探求） 第 2回　18世紀の小説（1）：18世紀の小説とその周辺に関する諸問題（J. バニヤン，D. デフォー，J. スイフト，S. リチャードソン） 第 3回　18世紀の小説（2）：18世紀の小説におけるH. フィールディング，L. スターン，T. G. スモレットの役割 第 4回　18世紀の小説（3）：18世紀後半のゴシック小説（H. ウォルポール） 第 5回　19世紀初頭の小説：J. オースティンの小説 第 6回　18世紀～19世紀初頭の小説に関する小テスト，19世紀の小説（1）：19世紀（ヴィクトリア朝）小説の特徴 第 7回　19世紀の小説（2）：C. ディケンズの小説 第 8回　19世紀の小説（3）：W. M. サッカレーの小説，ブロンテ姉妹（シャーロット，エミリー，アン）の小説 第 9回　19世紀の小説（4）：ダーウィニズムの影響，19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説（T. ハーディ） 第10回　19世紀（ビクトリア朝）の小説に関する小テスト，20世紀の小説（1）：20世紀小説の特徴 第11回　20世紀の小説（2）：D. H. ロレンスの小説 第12回　20世紀の小説（3）：V. ウルフの小説，H. G. ウェルズの小説 第13回　20世紀の小説（4）：H. ジェイムズの小説，E. M. フォスターの小説 第14回　20世紀の小説に関する小テスト，映像課題に関する発表会 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で扱う作家と作品に関する事前調査3回（プリント），復習は小テスト（3回）の準備		
成績評価の方法	筆記試験（60%），講義中の小テスト／授業への取り組み（30%），課題レポート分(10%)		

授業科目	**米文学史**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流 【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の抜粋を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ることで、今氾濫しているアメリカの情報が、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業内では作品についてのディスカッションの時間を設け、グループごとにプレゼンテーションを行う。 ＊授業には必ず英和辞典を持参すること。 【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　井上謙治著　『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』（南雲堂、 2004年） (2)　授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション―ネイティブ・アメリカンの詩 第 2回　信仰とアメリカ―ピューリタン文学と理性の文学（1） 第 3回　信仰とアメリカ―ピューリタン文学と理性の文学（2） 第 4回　「驚異」の世界―ロマン主義の勃興 第 5回　アメリカン・ルネッサンス―ロマン主義の隆盛（1） 第 6回　アメリカン・ルネッサンス―ロマン主義の隆盛（2） 第 7回　「金めっき時代」―リアリズムの勃興 第 8回　危機と革新―リアリズムの展開 第 9回　繁栄と解放の文学―ロスト・ジェネレーション 第10回　世界へ向けて―モダニズムの文学 第11回　戦後文学の出発―第2次世界大戦と冷戦 第12回　自我をつくろう―人種系文学（1） 第13回　自我をつくろう―人種系文学（2） 第14回　自己の探求―ポスト・モダニズムの文学 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（20%）、最終レポート（40%）		

授業科目	**比較文学**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　1年、2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学 【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ビラヴィド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテクストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。 【到達目標】比較文学の研究方法を学ぶ。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　Toni Morrison *Beloved* Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外も授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション：対話的文学論とは 第 2回　劇場の機知：『ビラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』（1） 第 3回　劇場の機知：『ビラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』（2） 第 4回　言語の表象不可能性：『ビラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』（1） 第 5回　言語の表象不可能性：『ビラヴド』と井上ひさし『父と暮らせば』（2） 第 6回　神話批評：『ビラヴド』とウィネバゴ・インディアン神話（1） 第 7回　神話批評：『ビラヴド』とウィネバゴ・インディアン神話（2） 第 8回　神話批評：『ビラヴド』とヨルバ族神話 第 9回　名称付与：『ビラヴド』と「千と千尋の神隠し」（1） 第10回　名称付与：『ビラヴド』と「千と千尋の神隠し」（2） 第11回　言語と音楽：『ビラヴド』とブラック・ミュージック（1） 第12回　言語と音楽：『ビラヴド』とブラック・ミュージック（2） 第13回　意識の流れ：『ビラヴド』とウィリアム・フォークナー 第14回　意識の流れ：『ビラヴド』とヴァージニア・ウルフ 第15回　レポートのテーマ報告会とまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（10%）、テーマごとに提出する小レポート（30%）、最終レポート（60%）		

授業科目	**英米文学講読Ⅰ**	担当者	小林　潤司
	〔履修年次〕　1,2 年	授業外対応	質問等には抗議終了時に対応する。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】シェイクスピアとその時代 【概要】エリザベス時代のロンドンは未曾有の人口増加の過程にあった。いわゆる「エリザベス朝演劇」とは，この都市の膨張に伴って生じた，娯楽の新規需要を背景にして栄えた芸能であった。「千万の心」をもって普遍的な人間性の真実を描いたと称えられるシェイクスピアは，同時に，当時のロンドン市民の好尚に適う新しい芸能を担った，興行資本家であり役者であり脚本作者だったのだ。本講では，この「＜時代の落とし子＞にして＜世界の文豪＞」を準備した演劇的風土を，周辺の劇作家群像をも視野に入れながら，できる限り立体的に論じてみたい。 【到達目標】初期近代イングランドの演劇と文化の歴史的な背景を簡潔に説明することができる。ルネサンス、人文主義、宗教改革について、現代の世界のありかたと関連づけて、概略を説明することができる。シェイクスピアの伝記と作品の大要を説明することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　William Shakespeare, *Hamlet*, Oxford School Shakespeare (Oxford UP, 2009) (2)　河合祥一郎・小林章夫（編）『シェイクスピア・ハンドブック』（三省堂、2010 年） G. L. ブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社、1998 年） ＊入手方法については授業中に指示するので、事前に準備する必要はない。		
授業スケジュール	第 1 回　世界の拡大 第 2 回　ルネサンス観の多様性 第 3 回　人文主義 第 4 回　宗教改革と国民国家の形成 第 5 回　ストラットフォードからロンドンへ 第 6 回　歴史劇、詩 第 7 回　初期・中期の喜劇 第 8 回　初期の悲劇 第 9 回　ジェイムズ時代の劇（悲劇、問題劇） 第 10 回　ジェイムズ時代の劇（ロマンス劇） 第 11 回　『ハムレット』物語の系譜 第 12 回　『ハムレット』の本文 第 13 回　『ハムレット』の受容 第 14 回　『ハムレット』の解釈史 第 15 回　まとめとふりかえり		
授業外学習(予習・復習)	授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。		
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30%　学期末試験 70%		
実務経験について	NPO 法人かごしま文化研究所、理事・副理事長（2015 年 4 月～現在）		

授業科目	**英米文学講読Ⅱ**	担当者	小林　潤司
	〔履修年次〕　1,2 年	授業外対応	質問等には抗議終了時に対応する。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】シェイクスピア『ハムレット』講読		
	【概要】シェイクスピアの作品は現在でも世界の多くの地域で広く読まれ、上演され、研究されているが、中でも『ハムレット』はもっとも人気のある作品である。同時に『ハムレット』ほど猛烈に「失敗作」の烙印を押され続けてきた作品もない。ある文学作品が「失敗作」であり、しかも人気がある場合、それを「失敗作」にしている要因と「人気作」にしている要因とは別々に同じ作品に含まれているだろうと予測するのが普通だと思うが、『ハムレット』がユニークだと思われるのは、それらの要因が同一である、もしくは相当程度以上に重なりあっていることである。何が『ハムレット』を「失敗作」にしているのか？　それが『ハムレット』を魅力的にしているのはなぜなのか？　この疑問を常に念頭に置きながら、この悲劇を読んでいきたい。		
	【到達目標】シェイクスピアの歴史的背景、伝記、作品の大要を説明することができる。『ハムレット』の構造、その成立に関する主要な仮説について概略を説明できる。『ハムレット』から任意のパッセージを、作品の主題との関連、修辞などの表現形式の両面から分析、評釈することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　William Shakespeare, *Hamlet*, Oxford School Shakespeare (Oxford UP, 2009) (2)　河合祥一郎・小林章夫（編）『シェイクスピア・ハンドブック』（三省堂、2010 年） G. L. ブルック『シェイクスピアの英語』（松柏社、1998 年） ＊入手方法については授業中に指示するので、事前に準備する必要はない。		
授業スケジュール	第　1 回　『ハムレット』1.1 第　2 回　『ハムレット』1.2～1.3 第　3 回　『ハムレット』1.3（続き）～1.5 第　4 回　『ハムレット』1.5（続き）～2.1 第　5 回　『ハムレット』2.2 第　6 回　『ハムレット』2.2（続き） 第　7 回　『ハムレット 2.2（続き） 第　8 回　『ハムレット』2.2（続き）～3.2 第　9 回　『ハムレット』3.2（続き）～3.4 第 10 回　『ハムレット』3.4（続き）～4.3 第 11 回　『ハムレット』4.4～4.5 第 12 回　『ハムレット』4.5（続き）～4.7 第 13 回　『ハムレット』5.1 第 14 回　『ハムレット』5.2 第 15 回　まとめとふりかえり		
授業外学習(予習・復習)	授業で指示した参考図書等に目を通すことが求められる。		
成績評価の方法	授業参加状況（予習の状況および授業時間中の発表と発言）30%　学期末試験 70%		
実務経験について	NPO 法人かごしま文化研究所、理事・副理事長（2015 年 4 月～現在）		

授業科目	**英米文学講読Ⅲ**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　1，2 年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。 【概要】C.ディケンズの『オリヴァー・トゥイスト』を読む。授業は**速読形式**で進め，担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していく。作品を読むには記憶力が大事である。物語内容の理解度を確認するために，小テストを 6 回実施する。また作品は映画化されているので，プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。 【到達目標】作品の内容を理解し，作品全体を通して読者に訴えかける作者の主張を読み解く。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Charles Dickens, *Oliver Twist*（ペンギンリーダーズ）　南雲堂フェニックス (2)		
授業スケジュール	第　1 回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），映像作品『オリヴァー・トゥイスト』の鑑賞 第　2 回　映像作品『オリヴァー・ツイスト』の鑑賞（続き）と解説 第　3 回　テキスト第 1 章～第 3 章を読む。プリントによる問題点の確認 第　4 回　第 1 章～第 3 章の小テスト（1 回目）およびその解説。第 4 章を読む。プリントによる問題点の確認 第　5 回　第 5 章～第 6 章を読む。プリントによる問題点の確認 第　6 回　第 4 章～第 6 章の小テスト（2 回目）およびその解説。第 7 章を読む。プリントによる問題点の確認 第　7 回　第 8 章～第 9 章を読む。プリントによる問題点の確認 第　8 回　第 7 章～第 9 章の小テスト（3 回目）およびその解説。第 10 章～第 11 章を読む。プリントによる問題点の確認 第　9 回　第 12 章～第 13 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 10 回　第 10 章～第 13 章の小テスト（4 回目）およびその解説。第 14 章～第 15 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 11 回　第 16 章～第 17 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 12 回　第 14 章～第 17 章の小テスト（5 回目）およびその解説。第 18 章～第 19 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 13 回　第 20 章～第 21 章を読む。プリントによる問題点の確認 第 14 回　第 18 章～第 21 章の小テスト（6 回目）およびその解説 第 15 回　まとめ（『オリヴァー・トゥイスト』はどのような作品だったか）		
授業外学習(予習・復習)	予習は担当者が用意したプリント（宿題），復習は小テスト（6 回）の準備		
成績評価の方法	レポート（40%），小テスト（30%）予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容（30%）		

授業科目	**講読演習Ⅱ**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。 【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して，J.オースティンの『分別と多感』を読む。授業はテキストを読んで日本語に訳す**精読方式**ですすめていく。また章ごとの訳だけでなく，担当者が準備したプリントに基づいて章ごとの内容と問題点も確認していく。作品は映画化されているので，プロットと背景が理解できるようにビデオを活用したい。最後に，学習したことからまとめあげたレポートについて発表（プレゼン）してもらい，他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努める。 （受講者数によってはグループ活動をとおした授業とする場合もある。） 【到達目標】文学作品を正確に読む力を養う。作品の内容を考える力を養う。作品全体を通して作者の主張を読み解く力を養う。プレゼンを通して自らの発信力を磨くと同時に，他の学生の発表を聴いて意見を述べる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Jane Austen, *Sense and Sensibility*（英潮社フェニックス） (2)		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞 第 2回　映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞（続き）と解説 第 3回　テキストの第1章～第2章を読む 第 4回　プリントによる第1章と第2章の問題点の確認と解説 第 5回　第3章を読む 第 6回　プリントによる第3章の問題点の確認と解説 第 7回　第4章を読む 第 8回　プリントによる第4章の問題点の確認と解説 第 9回　第5章を読む 第10回　プリントによる第5章の問題点の確認と解説 第11回　第6章を読む 第12回　プリントによる第6章の問題点の確認と解説 第13回　第7章を読む 第14回　プリントによる第7章の問題点の確認と解説 第15回　まとめ（プレゼン：パワーポイントを使って発表）		
授業外学習(予習・復習)	予習は各章の訳および担当者が用意した宿題プリント		
成績評価の方法	レポート及びプレゼンテーション（50%），予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容（50%）		

授業科目	**基礎演習Ⅱ**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】①映画から学ぶ英詩　英詩から考える映画　②文学と映画（大衆文化のなかのイギリス文学） 【概　要】映画のなかにも英詩が用いられている場合がある。授業では映画（邦画『博士の愛した数式』，洋画『ブリジット・ジョーンズの日記』及び『恋におちたシェイクスピア』）を利用して，高尚なイギリス文学（ここでは，W.ブレイク，J.キーツとW.シェイクスピアの英詩）を学習する。**映画における英詩および映画の内容についてディスカッションを行うので，各自の自主的な発言が求められる。**また，比較文学的アプローチの仕方で黒澤監督の映画『乱』（シェイクスピア『リア王』の翻案作品）の魅力を考える。 　これらは，リンダ・ハッチオンが主張する「アダプテーションの理論」に基づいた学習である。2年前期の「英米文学演習」においては，文学作品とアダプテーション映画を用いて実践してもらう。 【到達目標】小説と映画の分析をとおして，アダプテーション映画の魅力を理解する。文学的視点から映画を鑑賞する力を身に付ける。プレゼンをとおして自らの考えを発信できる力を身に付け，同時に他の学生のプレゼンを聴いて質問できる力を養う（発信力とディスカッション力）。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），W.ブレイクと彼の詩「無心のまえぶれ」の説明と問題提起 第 2回　「無心のまえぶれ」の解説，映画『博士の愛した数式』の鑑賞（その1）及び問題点の確認 第 3回　映画『博士の愛した数式』の鑑賞（その2）及び問題点の確認 第 4回　『博士の愛した数式』の分析（ディスカッション） 第 5回　『博士の愛した数式』に関するプレゼン（発信），J.キーツと彼の詩「秋に寄せるうた」の説明と問題提起 第 6回　「秋に寄せるうた」の解説，W.シェイクスピア『ソネット』18番の説明と問題提起／解説 　＊映画『ブリジット・ジョーンズの日記』及び『恋におちたシェイクスピア』は図書館に所蔵。各自で鑑賞 第 7回　『ブリジット・ジョーンズの日記』の分析（ディスカッション） 第 8回　『恋におちたシェイクスピア』の分析（ディスカッション） 第 9回　『ブリジット・ジョーンズの日記』または『恋におちたシェイクスピア』のいずれかに関するプレゼン（発信） 第10回　W.シェイクスピア『リア王』と黒澤明監督『乱』の類似点と相違点（問題提起） 第11回　映画『乱』の鑑賞（その1）及び問題点の確認 第12回　映画『乱』の鑑賞（その2）及び問題点の確認 第13回　比較文学的アプローチ：類似点と相違点の確認及び両作品の分析（ディスカッション） 第14回　『乱』に関するプレゼン（発信），黒澤映画『蜘蛛巣城』とシェイクスピア『マクベス』の紹介 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習は授業で取り扱う詩に関する宿題（2回）及び比較分析に関する宿題（1回），ディスカッションの準備としてスクリプトを読む（3回），プレゼンのためのパワーポイント作り（3回）		
成績評価の方法	プレゼンテーション（50%），授業への取り組み（50%）		

授業科目	**基礎演習Ⅱ**	担当者	ガルシア・アロヨ　ホルヘ　García Arroyo Jorge
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	By coming to my office or by email
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】Analysis of American pop culture in relation to that of Japan. 【概要】In this class we will discuss different topics related to American popular culture and we will compare it with that of Japan. We will do it using as reference videos, music, pictures featuring both countries popular cultures. 【到達目標】The students will understand the main points of American popular culture and its differences with that of Japan.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Materials will be provided by the teacher. (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction to the course (discussion and debate hints). 第 2回　Brief introduction to American cultural values. 第 3回　American music and its message. 第 4回　Discussion: J-pop and American Pop. A comparison. 第 5回　American characters. Are they bearers of the American cultural values? 第 6回　Discussion: From Mickey Mouse to Doraemon. The popular characters and their differences. 第 7回　Hollywood: a factory of "dreams". 第 8回　Discussion: Hayao Miyazaki and Walt Disney: two master ways of constructing popular legends. 第 9回　The Hamburger Country. 第10回　Discussion: The influence of American "fast food" in Japan and other Asian countries. 第11回　We live in a video game world. 第12回　Discussion: Japanese games or American games? 第13回　US: The King of Sports. 第14回　Discussion: A Globalized spectacle beyond sports. From the NBA to the Super Bowl. 第15回　Course review.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	participation in class (40%); Final reports (60%)		

授業科目	**英米文学演習**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】小説／劇と映画もしくは映画と映画の比較による「アダプテーションの理論」の実践 【概　要】1年後期の「基礎演習Ⅱ」において，R. ハッチオンが主張する「アダプテーションの理論」に基づいた学習を行った。この演習では，小説／劇と映画もしくは映画と映画を用いて，学生自らがアダプテーション理論を実践し何らかの結論を導いてもらう。前半の5回は共通テーマとして『クリスマス・キャロル』の小説と映画で実践してもらう。後半の8回は各自で取り組みたい題材を見つけて実践してもらう。 【到達目標】小説／劇と映画もしくは映画と映画の比較分析をとおして「アダプテーションの理論」を実践し，文学的な視点から映画の良さと魅力を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　随時紹介		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践（1） 第 2回　『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践（2） 第 3回　『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践（3） 第 4回　『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践（4） 第 5回　『クリスマス・キャロル』の小説と映画の実践（5） 第 6回　共通テーマでの取り組みの実践報告 第 7回　各自の取り組みによる実践（1） 第 8回　前回の報告＋各自の取り組みによる実践（2） 第 9回　前回までの報告＋各自の取り組みによる実践（3） 第10回　前回までの報告＋各自の取り組みによる実践（4） 第11回　前回までの報告＋各自の取り組みによる実践（5） 第12回　前回までの報告＋各自の取り組みによる実践（6） 第13回　前回までの報告＋各自の取り組みによる実践（7） 第14回　前回までの報告＋各自の取り組みによる実践（8） 第15回　まとめ（各自の取り組みの実践報告）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示，実践報告のためのパワーポイント作り（2回）		
成績評価の方法	実践報告（プレゼンテーション）（60%），授業への取り組み（40%）		

授業科目	**英米文学演習**	担当者	ガルシア・アロヨ　ホルヘ　García Arroyo Jorge
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】Analysis of Herman Melville and Ernest Hemingway's main works. 【概要】Through texts taken from Melville's and Hemingway's most important works, we will analyze the vision that these authors had on topics such as slavery, imperialism, war, religion and other cultural issues, etc. in relation to the United States. In addition we will also study how these authors related the United States with Europe (especially the case of Spain). 【到達目標】The understanding of these authors' vision about important aspects of American culture and society of the nineteenth and twentieth centuries and their relationship or image regarding Europe.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　All materials will be provided by the teacher (2)		
授業スケジュール	第　1回　Introduction to the course (discussion and debate hints). 第　2回　Brief introduction to 19th Century American Literature. Who was this guy? Herman Melville's brief biographical notes. 第　3回　TEXT 1 (imperialism). Selection of brief texts from *Moby-Dick; or, the Whale*, and "Benito Cereno". Reading of the texts. 第　4回　TEXT 1. Discussion: Melville's vision on imperialism (in relation with Europe. The Spanish case). 第　5回　TEXT 2 (slavery). Selection of some texts from "Benito Cereno" and *Typee*. Reading of the texts. 第　6回　TEXT 2. Discussion: Melville and the slavery problem (in relation to the Spanish slavery system). 第　7回　TEXT 3 (religion). Selection of brief texts from *Pierre; or, the Ambiguities; Moby-Dick; or, the Whale* ("The Town-Ho's Story") and "Benito Cereno". Reading of the texts. 第　8回　TEXT 3. Discussion: Melville and religion (The Spanish Auto-da-fe). 第　9回　Melville' s review and final discussion (conclusion). 第10回　Brief introduction to 20th century American literature. Who is this guy? Ernest Hemingway's brief biographical notes. 第11回　TEXT 4. (The new women). Text from *The Sun also Rises*. Reading of the text. 第12回　TEXT 4. Discussion: Hemingway, new women and Spanish "Fiesta". 第13回　TEXT 5 (war). Selection of brief texts from *Death in the Afternoon* and *For Whom the Bell Tolls*. Reading of the texts. 第14回　TEXT 5. Discussion: Hemingway's vision on war and death (the corridas and The Spanish Civil War, 1936-1939). 第15回　Hemingway final discussion (conclusion). Course review.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation (40%); Final presentation (60%)		

授業科目	イギリス事情	担当者	ジョン・トレマーコ　John Tremarco
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】British Culture, Modern and Traditional 【概要】This course will introduce the students to British cultural and social issues. The students will be encouraged to acquire a deep understanding of cross cultural communication that will enable them to understand the nature of cultural diversity. Learning Strategies and Active Learning will be encouraged so that they will be able to use/pass this knowledge on in their chosen professions and/or foreign language classes in Junior and Senior high schools. The aim of the course is to give the students the skills needed to be able to make a presentation at the end of the course that will show that they have acquired an understanding of a particular facet of British society. The course will be project-based. The theme of the project will be decided upon by the students; it will be chosen according to the aptitude, skill-level and number of students on the course. The students will study the social and cultural norms of British society, both present and past. The themes available will include, but are not limited to: Music (classical and modern), Education, Food and Current Issues. Any chosen project will include a comparative cultural component. 【到達目標】The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　All materials provided by the professor (2)　Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)		
授業スケジュール	第 1 回　Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations.　コース、授業についての説明 第 2 回　Choosing the Project theme 第 3 回 ～　Planning and implementation of Project 第 13 回 第 14 回　Final Presentation 第 15 回　Course Review		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	グループワークの点数と課題 40 %＋最終テスト 60 %の合計		

(注) 教職必修

授業科目	アメリカ事情	担当者	ガルシア・アロヨ　ホルヘ　García Arroyo Jorge
	〔履修年次〕　2 年	授業外対応	By coming to my office or by email.
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】American History; American Cultural History. 【概要】In this course we will see a general view of the major political, social and cultural events of American history. As reinforcement and support to the learning of this subject, the students will discuss about the topics seen in each unit. 【到達目標】The goal of this subject is to provide the students with a general knowledge of American major historical and cultural facts that will help them to understand better the United States of America.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Materials will be provided by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1 回　Brief explanation about the course. Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 1. 第 2 回　Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 2. Unit 1 Discussion. 第 3 回　Unit 2. Building a new country. The American Revolution 1 (political and social facts). Additional learning. The founders of the US: John Adams (We will watch the HBO miniseries) 第 4 回　Unit 2. Building a new country. The American Revolution 2 (cultural facts). Unit 2 discussion. 第 5 回　Unit 3. Expansionism era 1 (political and social facts). Additional learning: Manifest Destiny. 第 6 回　Unit 3. Expansionism era 2 (cultural facts). Unit 3 discussion. 第 7 回　Unit 4. Civil war and reconstruction 1 (political facts). 第 8 回　Unit 4. Civil War and reconstruction 2 (cultural facts). Additional learning: The Civil War literature. Unit 4 discussion. 第 9 回　Unit 5. Emergence of Modern US 1 (political and social facts). Additional learning: Roosevelt, the great changes in American politics. 第 10 回　Unit 5. Emergence of Modern US 2 (cultural facts). Unit 5 discussion. 第 11 回　Unit 6. From the Great Depression to the II World War 1 (political and social facts). 第 12 回　Unit 6. From the Great Depression to the II World War 2 (cultural facts). Additional learning: Disney and anti-Nazi propaganda (video).Unit 5 discussion. 第 13 回　Unit 7. Current America (from the Cold War to the Twin Towers attack). Additional learning: 2001, September 11th (video). 第 14 回　Unit 7 discussion. 第 15 回　Course review.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class discussions (40%); Final report (60%).		

授業科目	**ヨーロッパ事情**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ 【概要】15 世紀後半から 19 世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟む南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステイタスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義は「国家」間に限定されない異文化交流の歴史をヨーロッパを中心に概観する。そして西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中枢」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説していく。 【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　明石和康著『ヨーロッパがわかる―起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書（岩波書店、2013 年） (2)　池本幸三他著『近代世界と奴隷制』（人文書院、1995 年）		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション 第 2回　ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか（1） 第 3回　ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか（2） 第 4回　近代世界と大西洋システム（1） 第 5回　近代世界と大西洋システム（2） 第 6回　近代世界と大西洋システム（3） 第 7回　大西洋奴隷貿易（1）：ルネサンスと地理上の発見 第 8回　大西洋奴隷貿易（2）：海洋国家オランダ 第 9回　大西洋奴隷貿易（3）：奴隷と砂糖をめぐる政治 第 10 回　コーヒー・ハウスが育んだ近代文化 第 11 回　イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」 第 12 回　大西洋システムとしての「イギリス帝国」 第 13 回　資本主義世界と奴隷制：地中海から大西洋へ―砂糖の西漸運動 第 14 回　資本主義世界と奴隷制：ヨーロッパの闘技場―カリブ海領有をめぐる角逐 第 15 回　まとめ：砂糖と紅茶―ティータイム儀礼化に内包された歴史		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（20%）、筆記試験（80%）		

授業科目	**講読演習Ⅲ**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】芸術表象から学ぶ比較文化 【概要】歴史画、神話画、宗教画といった様々なジャンルの絵画を題材に「視線」のつくられ方を解説したテキストを精読しながら、その絵画が表す時代の価値観および特質と他の時代のそれを比較することで、比較文化的なものの見方を学ぶ。また英文を正確に読解する方法を実践的に学ぶ。輪読形式を取るので予習は必須である。 【到達目標】速読・多読力を向上させると同時に、比較文化の方法を学ぶ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『Looking at Pictures 絵画の歴史』鈴木繁夫　編註（松柏社、1994 年） (2)　授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション 第 2回　Ways of looking at pictures (1)：フレーズ・リーディングとは1 第 3回　Ways of looking at pictures (2)：フレーズ・リーディングとは2 第 4回　History and mythology (1)：フレーズ・リーディングの実践1 第 5回　History and mythology (2)：フレーズ・リーディングの実践2 第 6回　Religious images (1)：フレーズ・リーディングの実践3 第 7回　Religious images (2)：フレーズ・リーディングの実践4 第 8回　An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (1)：フレーズ・リーディングの実践5 第 9回　An approach to stylistic analysis: Renaissance and Baroque contrasted (2)：フレーズ・リーディングの実践6 第 10 回　Hidden Meaning (1)：フレーズ・リーディングの実践7 第 11 回　Hidden Meaning (2)：フレーズ・リーディングの実践8 第 12 回　Quality (1)：フレーズ・リーディングの実践9 第 13 回　Quality (2)：フレーズ・リーディングの実践１０ 第 14 回　Tradition ：フレーズ・リーディングの実践１１ 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への積極的な参加態度（60%）、筆記試験（40%）		

授業科目	**基礎演習Ⅲ**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】比較文学・比較文化 【概要】本演習では、比較文学・比較文化に関連する論文を読み、この学問の方法論を学ぶことで次年度の学習につなげていく。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取るので、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えてくることが求められる。 【到達目標】比較文学・文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　木下卓他編著『多文化主義で読む英米文学』、工藤庸子著『異文化の交流と共存』、渡邊守章他著『文化と芸術表象』		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション 第 2回　発表と討論：多文化主義的家族像（1） 第 3回　発表と討論：多文化主義的家族像（2） 第 4回　発表と討論：歴史の再構築と再記憶（1） 第 5回　発表と討論：歴史の再構築と再記憶（2） 第 6回　発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（1） 第 7回　発表と討論：混血インディアン女性の自己表象（2） 第 8回　発表と討論：エキゾティシズム―他者憧憬と他者恐怖（1） 第 9回　発表と討論：エキゾティシズム―他者憧憬と他者恐怖（2） 第10回　発表と討論：語りとは革新的創造行為である（1） 第11回　発表と討論：語りとは革新的創造行為である（2） 第12回　発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（1） 第13回　発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ（2） 第14回　発表と討論：表象とその臨界（1） 第15回　発表と討論：表象とその臨界（2）とまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（60%）、演習全体への積極的な参加態度（40%）		

授業科目	**比較文化演習**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】翻訳で学ぶ異文化接触 【概要】二つの言語と文化が真っ向から相まみえる翻訳は、異文化接触の最前線である。本演習はいわゆる「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テクストの読み取りをテーマにした論文を精読する。また受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。テクストを批判的に読むクリティカル・リーディングの方法も学ぶ。 【到達目標】比較文化、比較文学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　井上健他編著『翻訳の方法』東京大学出版会　左記以外も授業で随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション 第 2回　英和辞典活用法：抽象語を翻訳する 第 3回　入試英語とは何か 第 4回　英語の女言葉：ジェンダーと敬語 第 5回　英英辞典活用法：歴史的テクストを翻訳する 第 6回　行間の＜傾向＞を読みとる 第 7回　正しい翻訳とは 第 8回　小説の翻訳：日本語の得意技 第 9回　論文の翻訳：言葉は論理より愛に近い 第10回　漢文訓読と英文解釈 第11回　直訳から「超訳」へ 第12回　映し合う二つのテクスト：英訳された『雪国』 第13回　哲学の言葉の翻訳 第14回　翻訳の記号論：虚構としての言語 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション（50%）、討論への積極的な参加態度（50%）		

授業科目	**対照言語学**	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。 【概要】 この授業では，対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語，中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して，それぞれの特徴を明らかにし，日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また，言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。 【到達目標】 日本語と外国語（英語，中国語）の主な共通点と相違点を理解し，実際の言語データを使って分析することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か，授業の概要説明 第 2回　日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3回　日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4回　日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5回　日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6回　日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7回　日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8回　日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9回　日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第10回　日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第11回　日英中の対照（１０）：言語行動に関する比較① 第12回　日英中の対照（１１）：言語行動に関する比較② 第13回　発表準備 第14回　学生による発表 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので，授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度：30%，発表：30%，レポート：40%		

授業科目	**言語学概論**	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。 【概要】 この授業では，言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論，形態論，統語論，意味論および語用論，さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。 【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に，身近なことばと私たちの生活，社会の関連について理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：言語学とはどんな学問か，授業の概要説明 第 2回　音声学・音韻論（1）：調音音声学，子音・母音 第 3回　音声学・音韻論（2）：モーラ，音節① 第 4回　音声学・音韻論（3）：モーラ，音節② 第 5回　音声学・音韻論（4）：連濁，枝分かれ制約 第 6回　形態論（1）：派生，複合など単語を生み出す仕組み 第 7回　形態論（2）：メンタルコーパス　新語、流行語 第 8回　意味論（1）：単語の意味 第 9回　意味論（2）：類義語と対義語 第10回　語用論（1）：発話行為論① 第11回　語用論（2）：発話行為論② 第12回　語用論（3）： 発話機能と語学教育 第13回　言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第14回　これまでの復習 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	授業での発言や参加度、宿題：50%，期末試験：50%		

授業科目	**日本語学概論**	担当者	望月 正道
	〔履修年次〕 2年（注）	授業外対応	随時（要メール予約）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本語に関する研究を行っていくうえで，また，日本文学（特に古典文学）を読んでいくためにも，必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。 【概要】日本語学の各研究分野について概観するが，日本語で用いられる音声・音韻（音声言語）に関する事項についてはパソコン教室（※）で自分の声を分析しながら考察を行う。また，日本語においては文字・表記の問題も重要である。 【到達目標】日本語学について平易に書かれた雑誌記事や新書が理解できる。		
(1)テキスト	(1) 衣畑智秀 編『基礎日本語学』ひつじ書房		
(2)参考文献	(2) 授業中に紹介します。		
授業スケジュール	第 1回 日本語学とは：国語／日本語 と 国語学／日本語学 （※印はパソコン教室で実施。） 第 2回 現代日本語の音声と音韻1：音声の研究，音声器官，音声記号 ※ 第 3回 現代日本語の音声と音韻2：音の分類，音素分析 ※ 第 4回 現代日本語の音声と音韻3：現代日本語の母音・子音 ※ 第 5回 現代日本語の音声と音韻4：音節・モーラ，アクセント ※ 第 6回 現代日本語の音声と音韻5：イントネーション ※ 第 7回 文字・書記：現代日本語の文字と書記法，国語施策，舊漢字 第 8回 現代日本語の文法1：文法の諸領域，形態論 第 9回 現代日本語の文法2：統語論，意味論 第10回 現代日本語の文法3：語用論 第11回 現代日本語の語彙1：単語，語彙，語彙論 第12回 現代日本語の語彙2：単語の語彙的性質（語彙的カテゴリー），単語の基本度（基幹語彙） 第13回 文章論と談話分析：文章と談話，文章論，談話分析 第14回 現代語における文体差，言葉の変異と諸方言 第15回 コーパスと統計，理論的研究とは？		
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んで疑問点を拾い出し，学習課題を考察してくること。		
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書等持ち込み可）の成績(80%)＋随時実施する小テストの成績及び授業での発言内容(20%)		

（注）日本語日本文学専攻では，1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では，2年次 選択科目。

授業科目	**日本文学史Ⅰ**	担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕 1，2年共通	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修（注） 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，明治期の歴史的変遷を理解する。 【概要】 「日本文学史・近代Ⅰ」では，主に明治期の文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。 【到達目標】 日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち，自己の問題意識に従い考えを述べることができる。		
(1)テキスト	(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』（中公選書）		
(2)参考文献	(2) 適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か 第 2回 概論：「近代」とは何か —夏目漱石，森鴎外，北村透谷— 第 3回 概論：「小説」概念の成立 —坪内逍遙— 第 4回 明治の文学1：近世と近代文学 —戯作，漢文体，翻訳小説，政治小説— 第 5回 明治の文学2：「国語」と近代文学 —速記，表記の改革，文体の改革— 第 6回 明治の文学3：詩歌の改良 —新体詩の出現— 第 7回 明治の文学4：言文一致小説 —二葉亭四迷— 第 8回 明治の文学5：写実主義と写生(1) —尾崎紅葉，硯友社の文学— 第 9回 明治の文学6：写実主義と写生(2) —正岡子規— 第10回 明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌 —森鴎外，島崎藤村— 第11回 明治の文学8：自然主義の小説(1) —島崎藤村— 第12回 明治の文学9：自然主義の小説(2) —田山花袋— 第13回 明治の文学10：反自然主義の小説 —夏目漱石— 第14回 明治の文学11：口語自由詩 —川路柳虹，相馬御風— 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%）		

授業科目	**日本文学史Ⅱ**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　1，2年共通	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために，代表的な文学作品の本文に触れながら，大正から現代までの変遷を理解する。 【概要】 「日本文学史・近代」では，主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は，単なる文学作品の年代記ではなく，「文学」の範囲とは何か，「文学史」に入れるべき作品とは何かなど，さまざまな問題を含んでいる。講義では，文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し，実際の文学作品に触れながら，日本近代文学史を概観し，各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。 【到達目標】 日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち，自己の問題意識に従い考えを述べることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　安藤宏『日本近代小説史　新装版』（中公選書） (2)　適宜，授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　概論：大正・昭和以降の「文学」の問題　―メディアの変革と「文学」― 第 2回　大正の文学1：大正文壇と私小説　―白樺派，新思潮派― 第 3回　大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立 第 4回　昭和の文学1：新感覚派・前衛詩 第 5回　昭和の文学2：主知主義文学 第 6回　昭和の文学3：プロレタリア文学 第 7回　昭和の文学4：文芸復興の時代　―転向文学，日本浪漫派，四季派― 第 8回　昭和の文学5：戦争と文学 第 9回　昭和の文学6：昭和二十年代の文学　―戦後文学の出発― 第10回　昭和の文学7：昭和三十年代の文学　―第三の新人の登場― 第11回　昭和の文学8：昭和四十年代の文学　―三島由紀夫の死― 第12回　昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学　―村上龍，村上春樹― 第13回　昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向　―塚本邦雄，岡井隆，寺山修司― 第14回　現代の文学：現代文学のゆくえ 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容（30%），筆記試験（70%）		

授業科目	**日本語教育概論**	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　2年（注）	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ。 【概要】 この授業では，日本語教育に初めて接する人を対象として，日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢，教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境，言語（外国語）習得の仕組み，日本語教育の教授法等を解説する。 【到達目標】 ・日本語教育に関する基礎知識を身につけ，日本語教育に興味を持ち，その全体像を把握できること。 ・グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し，より広い視野と多様な見方を持つようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第 2回　異文化接触と日本語教育：少子高齢化，定住外国人の増加，ボランティア教室 第 3回　年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第 4回　教師の役割①コースデザインとニーズ分析 第 5回　教師の役割②シラバス・デザイン 第 6回　教材分析 第 7回　教授法①：直接法　オーディオリンガルメソッド　コミュニカティブ・アプローチ 第 8回　教授法②：授業見学 第 9回　教授法③：授業見学の振り返り 第10回　授業の計画と実施①授業の組み立て方 第11回　授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入　基本練習　応用練習 第12回　授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育　プロジェクトワーク 第13回　授業の計画と実施④文化を教える 第14回　評価法：熟達度テスト　到達度テスト 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので，復習が必要である。		
成績評価の方法	授業での参加度や提出物：50%，期末レポート：50%		

(注) 日本語日本文学専攻は1年，英語英文学専攻は2年。

授業科目	**国際経済論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　2年（注）	授業外対応	研究室（2号館3階）で対応、いつでもOK，予約不要。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】売れるモノ、儲かるものを「つくる」するとはどういうことか～新興国で考える【部品調達編】～ 【概要】モノづくりの三つの柱（①企画・設計、②生産、③部品調達）のうち、③の部品調達について、新興国で世界一売れているトヨタIMVを事例に説明する。全体を「アジアでの系列調達」と、「アフリカ、南米での非系列調達」の二つに分けて主にテキスト第5章を用いて説明する。なお、テキストは、アジア経済論でも用いるので、これらの科目も受講するとテキスト全体の説明を受けられます。 【到達目標】トヨタで最も売れているIMVは、新興国でどのように生産されているか、部品調達面から理解することを通じて、新興国での部品調達について一般的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国適応』文眞堂 (2)　同上『トヨタの新興国車IMV』同上		
授業スケジュール	第　1回　国際経済・貿易（輸出と輸入）関税と企業の部品・原材料調達 第　2回　関税WTO、FTAと企業の部品・原材料調達 第　3回　IMVに見るトヨタの新興国での部品調達の概要：アジアでの系列調達と深層現調化、南ア、南米での非系列調達 第　4回　LSP、MSP、JSPと系列調達&非系列調達① 第　5回　LSP、MSP、JSPと系列調達&非系列調達② 第　6回　アジアにおける系列取引と深層現調化①：アジアにおける系列取引と深層現調化 第　7回　アジアにおける系列取引と深層現調化②：アジアでは系列の同伴進出1回目 第　8回　アジアにおける系列取引と深層現調化③：アジアでは系列の同伴進出2回目 第　9回　アジアにおける系列取引と深層現調化④：アジアでは系列の同伴進出3回目 第10回　アジアにおける系列取引と深層現調化⑤：アジアでは系列の同伴進出4回目 第11回　南米では系列外との取引① 第12回　南米では系列外との取引② 第13回　南米では系列外との取引③：TASAの事例 第14回　南米では系列外との取引④：TDVの事例 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方，考え方に重点をおいて語ります。その見方，考え方を使って，いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

（注）英語英文学専攻は2年

授業科目	**国際関係論**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　2年（注）	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に，国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】本講義では，国際関係の史的展開を概説したうえで，現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では，第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし，国際システムの歴史的変遷をたどる。 【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し，その背景についての理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない (2)　多賀秀敏編『平和学から見る世界』（成文堂、2020年）		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：講義の目的、方法 第　2回　国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか 第　3回　国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化 第　4回　国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第　5回　国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1 第　6回　国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2 第　7回　国際関係のなりたち4：朝鮮戦争とベトナム戦争 第　8回　国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム 第　9回　国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序 第10回　国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題 第11回　国際社会における諸問題2：貧困と開発 第12回　国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題 第13回　国際社会における諸問題4：グローバルガバナンス（1） 第14回　国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス（2） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		

（注）英語英文学専攻は2年

授業科目	**検定対策講座Ⅰ**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】語彙力の強化と長文読解力の養成 【概　要】 ・この授業は英検対策であるが，文法・語彙問題およびリスニング問題はこの授業で扱わない。検定対策のなかでは，長文読解問題に的を絞る。つまり，リーディング力の強化が授業の目的である。ただし，長文読解問題を読んで，英問に正解を出すことだけを最終目的としない。長文読解問題を読んで，ある程度正確に訳して内容を理解してもらうことを求める。 ・この授業では，編入しようと考えている学生も対象としている。編入先の大学のなかには，リーディングを課しているところもある（編入先大学の調査が必要）。大学の試験問題（500 語程度の長文読解問題）に対して，その内容をある程度きちんと理解できるような力が必要となる。プリント学習をとおして英検２級から準１級レベルへと難易度をあげていくので，この授業はその養成にもなる。 ・受講生が多い場合，彼らの英語読解力レベルもバラバラである。訳の予習をとおして間違い等を指摘し，正しい読解へと導く個別学習指導型の授業で対応する。従って，受講者には十分な予習が求められる。 【到達目標】実用英語技能検定試験２級および準１級レベルの長文読解問題をある程度正確に理解する力を養う。		
⑴テキスト ⑵参考文献	⑴　プリント配布 ⑵　随時紹介		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション（授業の進め方の説明），受講生のレベルの確認 第　2回　プリント学習：英検２級レベル（1） 第　3回　プリント学習：英検２級レベル（2） 第　4回　プリント学習：英検２級レベル（3） 第　5回　プリント学習：英検２級レベル（4） 第　6回　プリント学習：英検２級レベル（5） 第　7回　プリント学習：英検２級レベル（6） 第　8回　小テスト（1回目） 第　9回　プリント学習：英検準１級レベル（1） 第10回　プリント学習：英検準１級レベル（2） 第11回　プリント学習：英検準１級レベル（3） 第12回　プリント学習：英検準１級レベル（4） 第13回　プリント学習：英検準１級レベル（5） 第14回　プリント学習：英検準１級レベル（6） 第15回　小テスト（2回目）＋まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習はプリント問題を訳して解いて授業に臨む準備，復習は小テストの準備		
成績評価の方法	予習を含む授業への取り組み（50%），小テスト（50%），		

授業科目	**検定対策講座Ⅱ**	担当者	土持　かおり
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】この授業のテーマは、TOEIC の各パートの攻略法を学び、演習を通して問題の対処法を習得するとともに、リスニング力、文法力、読解力をつけていくことです。 【概要】　TOEIC で測られる能力とは、「英語力+戦略力（ストラテジー）」です。つまり、TOEIC でスコアアップを目指すに TOEIC で求められる英語力とともに、問題を解くためのストラテジーを獲得していくことが効率的です。 授業では、TOEIC のリスニング・リーディングパートの各セクションの攻略法を学び、演習問題に取り組んでいきます。また、自宅学習にも生かせる効果的な学習法についても学んでいきます。 自己目標の点数の獲得を確実なものにしていくためには、授業だけでなく課外での継続した自己学習が求められます。TOEIC の学習に興味のある人は、この授業で一緒にがんばっていきましょう！ 【到達目標】TOEIC を受験し、550 点以上を取ることを目標とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Mitsuyasu Miyazaki, Milada Broukal 著、『Intensive Training for the TOEIC Test』 出版社：成美堂 (2)　参考文献は授業時に随時紹介します。		
授業スケジュール	＜毎回、LL 教室を使用します＞ 第 1回　Preliminary Lesson – TOEIC とは?/ 授業内容と進め方 / Pre-TOEIC Test にチャレンジ！ 第 2回　Part 1 の攻略法 および問題演習 ／ 小テスト 第 3回　Part 2 の攻略法および問題演習（1）／ 小テスト 第 4回　Part 2 の攻略法および問題演習（2）／ 小テスト 第 5回　Part 3 の攻略法および問題演習（1）／ 小テスト 第 6回　Part 3 の攻略法および問題演習（2）／ 小テスト 第 7回　Part 5 の攻略法および問題演習（1）／ 小テスト 第 8回　Part 5 の攻略法および問題演習（2）／小テスト 第 9回　Part 6 の攻略法および問題演習 ／ 小テスト 第 10 回　Part 7 の攻略法および問題演習（1）／ 小テスト 第 11 回　Part 7 の攻略法および問題演習（2）／ 小テスト 第 12 回　Part 7 の攻略法および問題演習（3）／ 小テスト 第 13 回　Part 4 の攻略法および問題演習（1）／ 小テスト 第 14 回　Part 4 の攻略法および問題演習（2） 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	毎回の小テストのための語彙学習、パートごとの語彙問題の予習、パートごとのミニ・テスト		
成績評価の方法	復習のための小テスト（30%）+ 各パートのミニテストの提出（30%）+ 定期試験（40%）		
実務経験について	外語学院で英検および TOEFL の資格対策の講師経験有り。授業では TOEIC に必要な英語力の養成に努めます。		

授業科目	**卒業研究**	担当者	轟　義昭
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔学期〕　後期　〔単位〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】各人が設定したテーマに基づいて研究を進めさせ，「課題探求・解決能力」を育成する。 【概　要】興味を持った英米文学，外国文化等のなかから，各人がテーマを設定して研究を進めることとする。担当者は助言と指導を行い，論文の完成を補助する。 ＊卒業研究論文は日本語で作成しても構わない。この場合，350 語程度の英語の要約（summary）を添付することとする。勿論，英語での作成が望ましい。 【到達目標】「課題探求・解決能力」の集大成としての卒業研究論文を完成する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　随時プリント (2)　随時紹介		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 卒業論文とは何かの説明，卒業論文作成のスケジュール等の確認，テーマの選定と絞り込みの指導（過去の事例の紹介，文献収集の指導），卒業論文の書き方（論の展開の仕方）の指導：「はじめに」の書き方の指導 第 2回　個別指導：提出論文の添削・推敲（1） 第 3回　個別指導：提出論文の添削・推敲（2） 第 4回　個別指導：提出論文の添削・推敲（3） 第 5回　個別指導：提出論文の添削・推敲（4） 第 6回　個別指導：提出論文の添削・推敲（5） 第 7回　中間発表：進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（1） 第 8回　中間発表：進行状況の確認（一部分の発表）とアドバイス（2） 第 9回　個別指導：提出論文の添削・推敲（6） 第 10 回　個別指導：提出論文の添削・推敲（7） 第 11 回　個別指導：提出論文の添削・推敲（8） 第 12 回　個別指導：提出論文の添削・推敲（9） 第 13 回　英文サマリーの作成指導 第 14 回　提出前の最終指導（レイアウト，目次，参考文献などの確認，英語での summary の確認） 第 15 回　プレゼンテーションのためのパワーポイント作成		
授業外学習(予習・復習)	論文を書き始めたら，担当者が指導・助言ができるように，毎回プリントを用意して授業に臨むこと		
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物（70%），授業への取り組み（20%），プレゼンテーション（10%）		

授業科目	**卒業研究**	担当者	遠峯　伸一郎
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時，適宜（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】卒業研究の執筆を通し，基礎演習Ⅰ，英語学演習での研究成果をまとめる。 【概要】基礎演習Ⅰと英語学演習Ⅰを通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。 【到達目標】卒業研究を完成させる。		
(1)テキスト	(1)　なし。		
(2)参考文献	(2)　浜田麻里ほか (1997)『大学生と留学生のための論文ワークブック』，くろしお出版，東京。その他随時紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス 第 2回　個別指導(1) 第 3回　個別指導(2) 第 4回　卒業研究テーマについての中間発表 第 5回　個別指導(3) 第 6回　個別指導(4) 第 7回　先行研究と資料についての中間発表(1) 第 8回　先行研究と資料についての中間発表(2) 第 9回　個別指導(5) 第10回　個別指導(6) 第11回　考察についての中間発表 第12回　個別指導(7) 第13回　個別指導(8) 第14回　英文サマリーの作成 第15回　プレゼンテーション資料の作成		
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上，復習5時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み（10%）＋ 卒業研究（90%）		

授業科目	**卒業研究**	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワーおよびEdmodo
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 異文化コミュニケーション，英語教育学に関する研究の課題と方法 【概要】 異文化コミュニケーション，英語教育学に関するテーマについて研究し、卒業研究を完成させる。 【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③先行研究や他者の研究を批判的に理解したり，建設的な意見を述べたりすることができるようになる。④卒業研究を完成させる。		
(1)テキスト	(1)　プリントを配布する。		
(2)参考文献	(2)　適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ゼミの進め方についてのガイダンス，夏休みの報告，卒業研究first draft 提出 第 2回　研究報告1 第 3回　研究報告2 第 4回　研究報告3 第 5回　研究報告4 第 6回　研究報告5 第 7回　研究報告6 第 8回　研究報告7 第 9回　研究報告8，卒業研究発表原稿first draft 提出 第10回　卒業研究発表会の資料作成1， 第11回　卒業研究発表会の資料作成2 第12回　卒業研究発表の練習1 第13回　卒業研究発表の練習2 第14回　卒業研究発表の練習3 第15回　まとめと全体討論		
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上，復習が3時間以上必要である。		
成績評価の方法	卒業研究40%　卒業研究発表60%で評価する。		

授業科目	**卒業研究**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】比較文学・比較文化 【概要】自らテーマを選び比較文化演習で学んできた手法を活用して、卒業研究を行う。演習では受講者各々の卒業研究に関係のある資料を割り当てて発表してもらい、受講者全員で講評、討論をする。 【到達目標】卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学び、卒業論文を完成する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　崎村耕二著『英語論文によく使う表現』創元社、左記のほか各自の研究テーマに合わせて随時紹介します。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　テーマの確認と指導 第 3回　研究論文執筆の指導：文献収集など 第 4回　研究論文執筆の指導：論文の構成１ 第 5回　研究論文執筆の指導：論文の構成２ 第 6回　研究論文執筆の指導：論文の構成３ 第 7回　中間発表１ 第 8回　研究論文執筆の指導：論文の書き方１ 第 9回　研究論文執筆の指導：論文の書き方２ 第10回　研究論文執筆の指導：論文の書き方３ 第11回　中間発表２ 第12回　中間発表３ 第13回　中間発表４ 第14回　卒業研究発表について 第15回　まとめ及び卒業研究発表の練習		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への取組み態度（30%）、卒業研究論文（70%）		

授業科目	**卒業研究**	担当者	ガルシア・アロヨ　ホルヘ　García Arroyo Jorge
	〔履修年次〕	授業外対応	
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】In this class students will acquire the necessary knowledge to conduct an academic research aimed at preparing their graduation paper. At the same time they will learn various techniques to present their paper. 【概要】Firstly, students will be guided to find a research topic related to popular American literature or culture (we will also review those studied in the two previous seminars). Once they have chosen the topic, students will study (through examples and explanations in class) how an academic research related to the chosen topic is conducted. Finally they will practice the final presentation. 【到達目標】To make the students able to write and present their graduation thesis.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　All materials will be provided by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction to the course. 第 2回　What is an academic research? 第 3回　Research topic guidance (1) 第 4回　Research topic guidance (2) 第 5回　How a research is conducted ? (1) 第 6回　How a research is conducted? (2) 第 7回　Student research guidance (1) 第 8回　Student research guidance (2) 第 9回　Student research guidance (3) 第10回　Student presentation guidance (1) 第11回　Student presentation guidance (2) 第12回　Student presentation guidance (3) 第13回　Some hints on academic English. Preparation of presentation materials. 第14回　Presentation (1) 第15回　Presentation (2)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	in-class activities (40%); Final presentation (60%)		

7　生活科学科共通科目

授業科目	**生活科学概論**	担当者	多田　司・淺海　真弓
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 生活を科学的視点で把握し，生活の諸課題を解決するための知識や力を身につける。 【概要】 衣服・食・住まいの機能や将来の生活費，消費者問題など，毎回提示された課題について各自考えながら，生活全般についての理解を深める。また，現代の食生活や衣生活の現状と課題を把握し，その課題解決のために生活者としてできることは何か？についても考えていく。 【到達目標】 生活者の視点から，様々な生活課題について科学的に考える力を養う。そして，解決に向けて主体的に行動し，豊かな生活を創造していくことを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　山本直成，浦上智子，中根芳一共著『生活科学（第6版)』オーム社 「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス ― 生活を科学する？（第1回～第8回：多田担当） 第 2回　食生活の科学1 ― 自分の食生活を見直してみよう 第 3回　食生活の科学2 ― 栄養の面から健康的な食生活を考える 第 4回　食生活の科学3 ― 安全な食生活のあり方について 第 5回　食生活の科学4 ― 食品添加物について考える 第 6回　生活環境の科学1 ― 生活における科学技術の役割と弊害について 第 7回　生活環境の科学2 ― 生活に及ぼす化学物質の影響について・その1 第 8回　生活環境の科学3 ― 生活に及ぼす化学物質の影響について・その2 第 9回　衣生活の現状1 ― 戦後の衣生活の変化を知り、現在の自分の衣生活について考える（第9回～第15回：淺海担当） 第10回　衣生活の現状2 ― 衣服生産の背景を知り、衣服を作る人々の労働環境について考える 第11回　住まいの機能 ― 住む家がなくなったら困ることについて考える 第12回　将来の生活を設計する1 ― 25歳一人暮らしの生活費について考える（理想の生活パターンと改善） 第13回　将来の生活を設計する2 ― 25歳一人暮らしの生活費について考える（生活を維持するための手段や工夫） 第14回　自立した消費者になるために ― 消費者の権利と責任について考える 第15回　持続可能な社会に向けて ― SDGsやエシカル消費について考える		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）		
成績評価の方法	多田担当分（50%）：レポート（40%）+講義への取り組み状況（10%） 淺海担当分（50%）：ワークシート・課題（25%）＋レポート（25%）		

授業科目	**生活経営学**	担当者	坂上　ちえ子
	〔履修年次〕　生活1年，食栄2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 生活経営とは何かを含め，生活を経営する上での諸問題を理解し，自立のための生活経営力の獲得を目指す。 【概要】 自分と他者の関わりを捉えなおし，個人と家庭，社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。 【到達目標】 真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　随時紹介		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回　基礎事項1：生活経営学と生活を考える 第 3回　基礎事項2：家族と家庭を考える 第 4回　基礎事項3：男女の役割を考える 第 5回　基礎事項4：労働を考える 第 6回　基礎事項5：経済と消費を考える① 第 7回　基礎事項6：経済と消費を考える② 第 8回　基礎事項7：家計を考える 第 9回　基礎事項8：子どもと教育を考える 第10回　基礎事項9：高齢社会を考える 第11回　応用事項1：地域を考える 第12回　応用事項2：環境を考える 第13回　応用事項3：政治と社会を考える 第14回　応用事項4：自立を考える 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋　授業での活動内容（30%）		

（注）生活科学専攻は教職必修

授業科目	**人間関係論**	担当者	田中　真理
	〔履修年次〕　生活１年，食栄２年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（生活）（注）　選択（食栄）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】理論的な見地から人間関係を理解し，自分自身を取り巻く人間関係について振り返る。 【概要】人間は人との関わりなくして生きていくことはできない。本講義では，家族関係を中心に人間関係やコミュニケーションに関する理論・概念を学ぶことで，理論的な枠組みから自己や周囲の人間関係について理解を深めていく。さらにワークやアクティビティ，コミュニケーション実習などの体験を通じた自己理解の深化を目指す。 【到達目標】①人間関係に関する基礎知識を理解することができる。 ②実習体験を通じて，自分自身の対人関係やコミュニケーションの特徴について理解することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎回プリントを配布する。 (2)　①柏木惠子編著『よくわかる家族心理学』ミネルヴァ書房，2010 年 ②福島脩美（著）『自己理解ワークブック』金子書房，2005 年		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　人間関係に関する基礎知識①：人間関係の性質 第　3回　人間関係に関する基礎知識②：家族 第　4回　人間関係に関する基礎知識③：思春期・青年期と家族 第　5回　人間関係に関する基礎知識④：恋愛，結婚 第　6回　人間関係に関する基礎知識⑤：子育て期の家族 第　7回　人間関係に関する基礎知識⑥：中年期の家族 第　8回　人間関係に関する基礎知識⑦：高齢期の家族 第　9回　人間関係に関する基礎知識⑧：介護 第 10 回　実習体験①　：対人態度 第 11 回　実習体験②　：コミュニケーション 第 12 回　実習体験③　：フィードバック 第 13 回　実習体験④　：自己開示 第 14 回　実習体験⑤　：ふりかえり 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末レポート課題（70%）＋　レポート課題（20%）＋　授業への参加度とリアクションペーパー（10%）		

（注）生活科学専攻は教職必修

授業科目	**社会福祉論**	担当者	石踊　紳一郎
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】社会福祉とは何か？について、社会福祉の歴史的展開、法と行財政、ソーシャルワーク、地域ケアシステムなど、実践の中から総合的に理解する。 【概　要】１．日本及びヨーロッパの社会福祉の歴史的展開を学ぶ。 ２．社会福祉を形成する領域・体系の全体像を理解する。 ３．社会福祉のそれぞれの領域での実践活動を学ぶ。 【到達目標】　社会福祉の制度、政策を理解し、これからの社会福祉の方向性を探ることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「新社会福祉とはなにか　第３版」大久保秀子著　中央法規出版 (2)		
授業スケジュール	第　1回　社会福祉は何かについて学ぶ。 第　2回　日本における社会福祉の歴史的展開について学ぶ。 第　3回　契約制度における福祉提供の現状について学ぶ。 第　4回　ヨーロッパ（イギリスを中心）における社会福祉の歴史的展開について学ぶ。 第　5回　ソーシャルワークについて理解する。 第　6回　生活保護制度について学ぶ。 第　7回　児童福祉と次世代育成の展開について学ぶ。 第　8回　障がい者の自立と福祉について学ぶ。 第　9回　高齢者福祉の歴史について学ぶ。 第 10 回　介護保険制度について学ぶ。 第 11 回　ケアマネジメントの実際について学ぶ。 第 12 回　身体拘束・虐待防止について学ぶ。 第 13 回　認知症について理解する。 第 14 回　地域福祉の展開と地域包括ケアシステムを理解する。 第 15 回　これからの社会福祉を探る。		
授業外学習(予習・復習)	予習では該当する箇所をテキストで確認する。復讐は学んだ内容を資料等で読み直す。		
成績評価の方法	事業ごとの小論文 40%　レポート 60%		
実務経験について	社会福祉法人理事長、高齢者福祉施設の施設長、非常勤講師（大学）		

（注）栄養士選択必修

８　食物栄養専攻専門科目

授業科目	**食品学Ⅰ**	担当者	亀井　勇統
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】食品の持つ様々な特性や機能性に関する知見のほか、最近とみに発展しつつある特定保健用食品について学習する。 【概要】食品中の成分の栄養面での一次機能、嗜好面での二次機能，病気予防面での三次機能と共に、それらの機能を損なわないための取り扱い法について解説する。 【到達目標】食品の特性や機能性のほか、特定保健用食品について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　青柳康夫編『新版　食品学Ⅰ［第２版］』建帛社 (2)　菅原龍幸・井上四郎編『新訂　原色食品図鑑（学生版）［第２版］』建帛社のほか，適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　人間と食物 第 2回　食品の分類と成分 第 3回　食品成分の特性と機能 第 4回　食品成分の化学：食品の一次機能（水分） 第 5回　食品成分の化学：食品の一次機能（炭水化物） 第 6回　食品成分の化学：食品の一次機能（脂質） 第 7回　食品成分の化学：食品の一次機能（タンパク質とアミノ酸） 第 8回　食品成分の化学：食品の一次機能（タンパク質の機能） 第 9回　食品成分の化学：食品の一次機能（酵素タンパク質） 第10回　食品成分の化学：食品の一次機能（ミネラル） 第11回　食品成分の化学：食品の一次機能（脂溶性ビタミン） 第12回　食品成分の化学：食品の一次機能（水溶性ビタミン） 第13回　嗜好成分の化学：食品の二次機能（色素成分） 第14回　嗜好成分の化学：食品の二次機能（旨味成分と匂い成分） 第15回　食品の機能性：食品の三次機能（機能性物質と特定保健用食品）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験７０%、授業への取り組み・参加状況３０%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

授業科目	**食品学Ⅱ**	担当者	亀井　勇統
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】食品の種類と成分の他，それら食品成分の栄養面，嗜好面，病気予防面としての三つの機能性について学ぶ。 【概要】個々の食品に含まれている多様な成分と，食品成分の栄養面での一次機能，嗜好面での二次機能，病気予防面での三次機能と共に，それらの機能を損なわないための取り扱い法について解説する。 【到達目標】食品の分類と各食品成分の栄養面以外の他の機能性についても理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　田所忠弘・安井明美編『新版　食品学Ⅱ』建帛社 (2)　菅原龍幸・井上四郎編『新訂　原色食品図鑑（学生版）［第２版］』建帛社のほか，適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　食品（食品の分類） 第 2回　食品（食品の機能） 第 3回　植物性食品（穀類） 第 4回　植物性食品（穀類の利用） 第 5回　植物性食品（いも類） 第 6回　植物性食品（豆類） 第 7回　植物性食品（野菜類） 第 8回　植物性食品（野菜類の利用） 第 9回　植物性食品（種実類と果実類） 第10回　植物性食品（きのこ類） 第11回　植物性食品（海藻類） 第12回　動物性食品（食肉類） 第13回　動物性食品（乳類） 第14回　動物性食品（卵類と魚介類） 第15回　動物性食品（魚介類の成分の機能）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験７０%、授業への取り組み・参加状況３０%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

授業科目	**食品学実験**	担当者	亀井　勇統
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実験		
テーマ及び概要	【テーマ】食品に存在する成分等を分析するための各種実験器具の取り扱いや基礎的な分析方法について学ぶ。 【概要】実験器具の取り扱い方や基礎的な化学実験の方法と食品学的実験への応用法について解説する。 【到達目標】各種実験器具の取り扱い方や食品成分の基礎的な分析方法について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　青柳康夫・有田政信編『食品学実験』建帛社		
授業スケジュール	第 1回　食品学実験の基礎（実験器具や試薬類の取り扱い方法） 第 2回　溶液の濃度計算１（溶液の調製法） 第 3回　溶液の濃度計算２（溶液の希釈法） 第 4回　溶液の濃度計算３（微濃度溶液の調製法） 第 5回　酸溶液の濃度の調整（酸の濃度と pH の関連） 第 6回　アルカリ溶液の調製（アルカリ水和物溶液の調製と pH） 第 7回　糖の検出と定量（ソモギー&ネルソン法による定量法） 第 8回　タンパク質の検出（ビウレット法による定性法） 第 9回　タンパク質の定量（ビウレット法による定量法） 第10回　アミノ酸の検出（ニンヒドリン法による定性法） 第11回　アミノ酸の同定（薄層クロマトグラフィーによる同定） 第12回　糖酸度の測定（ポケット糖酸度計による測定法） 第13回　食品の酵素的褐変（りんごの酵素的褐変とその防止法） 第14回　食品に含まれる色素の分析（カロテノイド系の色素） 第15回　食品学実験の総括（実験器具類の整理と保管）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出したレポート内容７０%、授業への取り組み・参加状況３０%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

授業科目	**食品衛生学**	担当者	亀井　勇統
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】食品の安全について、その問題点と予防策について学び、衛生観念を身に付ける。 【概要】食中毒や食品汚染と流通の発達に伴う加工食品や多種多様な食品添加物の実態に目を向け、安心・安全な食生活を送るための方策を考える。 【到達目標】食品の安全性と食中毒の予防法や衛生管理法を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　宮沢文雄・古賀信幸編『食品衛生学』建帛社 (2)		
授業スケジュール	第 1回　食品の変質（腐敗微生物と食品の変質） 第 2回　食品の変質（食品中の水分と水分活性） 第 3回　食品の変質（食品の保蔵技術） 第 4回　食中毒（食中毒の分類） 第 5回　食中毒（細菌性食中毒　腸炎ビブリオ　他） 第 6回　食中毒（細菌性食中毒　黄色ブドウ球菌　他） 第 7回　食中毒（細菌性食中毒　ボツリヌス菌　他） 第 8回　食中毒（ウイルス性食中毒　ノロウイルス） 第 9回　食中毒（動物性自然毒食中毒　フグ毒　他） 第10回　食中毒（動物性自然毒食中毒　貝毒　他） 第11回　食中毒（植物性自然毒食中毒　キノコ毒　他） 第12回　飲食品と寄生虫（アニサキス　他） 第13回　有害物質による食品汚染（カビ毒　他） 第14回　食品添加物（種類と表示法） 第15回　農薬・動物医薬品および放射線食品（有機塩素系農薬，ガンマ線　他）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験７０%、授業への取り組み・参加状況３０%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

授業科目	**食品衛生学実験**	担当者	亀井　勇統
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実験		
テーマ及び概要	【テーマ】実験を通じて食品衛生に対する意識を高めると共に，食中毒を予防するための衛生管理技術を学ぶ。 【概要】食品衛生問題を解決するための食品衛生検査の技術的な手法として，検査器具類の適切な使用法，理化学試験，食品添加物試験，微生物試験，衛生管理手法等について実習する。 【到達目標】食品衛生検査に使用される種々の検査方法を習得し，食品の安全で安定な維持管理法について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　後藤政幸編『改訂　食品衛生学実験』建帛社		
授業スケジュール	第 1回　食品衛生学実験の基礎（実験器具や試薬類の取り扱い方法） 第 2回　理化学試験（飲料水の水質検査　アンモニア性窒素の検出） 第 3回　理化学試験（容器のホルムアルデヒドの溶出試験） 第 4回　理化学試験（魚肉中のヒスタミンの検出） 第 5回　食品添加物試験（発色剤　亜硝酸ナトリウムの検出1） 第 6回　食品添加物試験（発色剤　亜硝酸ナトリウムの検出2） 第 7回　食品添加物試験（着色料　酸性タール色素の検出） 第 8回　微生物試験（培地の調製法と画線分離1） 第 9回　微生物試験（培地の調製法と画線分離2） 第10回　微生物試験（細菌の分離と染色法） 第11回　微生物試験（食品の細菌検査1） 第12回　微生物試験（食品の細菌検査2） 第13回　衛生管理手法（微生物の簡易検査　手指の細菌1） 第14回　衛生管理手法（微生物の簡易検査　手指の細菌2） 第15回　食品衛生学実験の総括（実験器具類の整理と保管）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出したレポート内容７０%，授業への取り組み・参加状況３０%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

授業科目	**食品加工学**	担当者	亀井　勇統
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】食品加工の目的や原理を理解すると共に，食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。 【概要】食品の貯蔵法や加工法の基礎的な技術，それらの技術を利用して生産される農畜産ならびに水産加工製品，発酵食品，調味料，嗜好食品，インスタント食品，油脂食品について解説する。 【到達目標】加工食品の歴史と食品加工の目的を知るだけでなく，現在の食生活との関連性について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)　菅原龍幸・宮尾茂雄編『三訂　食品加工学』建帛社		
授業スケジュール	第 1回　食品の保蔵と食生活（食品保蔵・加工の目的と方法） 第 2回　食品保蔵の技術（食品と微生物） 第 3回　食品保蔵の技術（食品中の水分と水分活性） 第 4回　食品加工の操作と技術（物理的操作，化学的操作，生物的操作） 第 5回　食品加工の操作と技術（バイオテクノロジー，遺伝子組換え作物） 第 6回　食品加工と成分変化（変性，酸化，褐変，有害物質） 第 7回　食品添加物と加工食品の安全性確保（食品添加物の目的と種類） 第 8回　保健機能食品と特別用途食品（保健機能食品の種類） 第 9回　食品の表示と規格（品質表示，栄養成分表示，遺伝子組換え表示，アレルギー表示，食品の規格） 第10回　加工食品の実習（うどんの作成） 第11回　加工食品の実習（さつま揚げの作成） 第12回　加工食品の実習（豚みその作成１） 第13回　加工食品の実習（豚みその作成２） 第14回　加工食品の実習（ジャムの作成） 第15回　加工食品の実習（パンの作成）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験７０%，授業への取り組み・参加状況３０%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

授業科目	**調理学**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】食品の調理過程における科学的現象 【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。 【到達目標】嗜好を満足させ、健康を維持するために、おいしく調理する作業を再現でき、 また、調理や食物選択を理にかなったものにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　はじめて学ぶ『調理学』化学同人 (2)　香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部,『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部 山崎清子ら共著『NEW　調理と理論』　同文書院		
授業スケジュール	第 1回　調理学の意義と目的　調理実習Ⅰに準じながら 第 2回　食べ物のおいしさ　〃 第 3回　調理操作と調理機器　〃 第 4回　植物性食品1の調理科学　〃 第 5回　植物性食品2の調理科学　〃 第 6回　調味料・香辛料の調理科学　〃 第 7回　ゲル化剤・とろみ剤の調理科学　〃 第 8回　植物性食品3～5の調理科学　〃 第 9回　植物性食品6～8の調理科学　〃 第10回　油脂類の調理科学　〃 第11回　動物性食品　1の調理科学　〃 第12回　〃　2の調理科学　〃 第13回　〃　3の調理科学　〃 第14回　〃　4の調理科学　〃 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業のノートを作成しまとめる。		
成績評価の方法	筆記試験（60%）・授業態度及び出席・小テスト・ノート（40%）		
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**調理学実習Ⅰ**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術 【概要】一食の献立として学習できるよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、 和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム 【到達目標】調理の見方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 (2)　香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回　調理機器の使い方、調味の割合、 第 2回　和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、、即席漬物 第 3回　日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し（下洗い）、上新粉の扱い 第 4回　西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ（鶏がらの扱い）、パンケーキ 第 5回　中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、(大量調理) 第 6回　日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらび粉 第 7回　冷凍食品 第 8回　洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット（ヴィネグレット）ソース、ゼラチンの扱い 第 9回　中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナッツの扱い 第10回　日本料理：ソーメン、焼魚（器具と化粧塩、鮎の食べ方)、いり豆腐、和え物、水ようかん 第11回　西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン 第12回　中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い 第13回　西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ 第14回　お盆料理：かいのこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い　白和え　ふくれ菓子 第15回　和食の朝食　レシピを作る（朝食定番おかず）　調理技術復習		
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。		
成績評価の方法	調理技術試験40%、調理実習ノート30%、実習態度及び出席30%		
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**調理学実習Ⅱ**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用 【概要】和食、洋食、中華料理を交互に、個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム 【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、給食への応用ができる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 (2)　香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回　夏のお盆料理の報告 第 2回　日本料理：栗の扱い、さんまの扱い、茶碗蒸し、なます、十五夜団子 第 3回　中華料理：八宝菜、いかの扱い（花いか）、くらげの扱い、中国粥、さつま芋のあめがらめ、点心について 第 4回　日本料理：行楽弁当（いなり、出し巻き卵、きじ焼き、酢蓮根、高野豆腐の含め煮）、土瓶蒸し、小倉ケーキ 第 5回　スチームコンベクション料理：から揚げ（ドライモード）、焼きそば（コンビ）、温野菜・プリン（スチーム）、 第 6回　献立応用家庭料理かみかみメニュー 第 7回　日本料理：さつますもじ（ちらし寿司）、青のりの汁、芋のそぼろあんかけ、抹茶饅頭 第 8回　中国の行事食：春節の意味と代表料理、中華饅頭 第 9回　日本料理お魚講習：霜降りの方法と役目、刺身、かつら剥き魚の三枚おろし、魚のだし 第10回　正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方、雑煮、飾り切り 第11回　クリスマス料理、ビーフストロガノフ（ブラウンソース）、ブッシュドノエル 第12回　パンとスープ 第13回　給食のための献立作成と調理（大量調理への応用） 第14回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%		
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**調理学実習Ⅲ**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル 【概要】和食、洋食、中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し、食材の持つ特徴（糊化作用、凝固作用、膨張作用など）を十分活かした調理実習カリキュラム 【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『調理実習ノート』女子栄養大学出版部 (2)　香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回　郷土料理（芋ご飯、さつま揚げ、さつま汁、なまぶしの酢の物、かるかん） 第 2回　季節の和食・応用（五目炊き込み、ブリ大根、モズク酢） 第 3回　手作り餃子と中華メニュー 第 4回　季節の郷土料理と和食（豚骨、色なます、のっぺい汁） 第 5回　奄美の郷土料理（豚骨、鶏飯、がね、ぬた） 第 6回　西洋料理の応用：グラタン（ホワイトソースの活用）、ミネストローネ、シフォンケーキ等諸外国の調理 第 7回　自作の献立作成から調理技術への完成 第 8回　自作の献立作成から調理技術への完成 第 9回　正月料理：鹿児島のおせち料理、茶懐石料理大量調理の応用（真空料理、クックチル）仕込み 第10回　〃、　本調理 第11回　クリスマス（ローストチキン、クラムチャウダー、パン・クッキー） 第12回　クリスマスのショートケーキ 第13回　災害食、おいしいお茶の入れ方 第14回　市場見学、まとめ 第15回　テーブルマナー(和・洋食)		
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。		
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度及び出席 30%		
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養学総論**	担当者	多田　司
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養とは何か、その意義について理解する。 【概要】栄養の概念についての理解から始まり、日本における食の変遷や食生活の実態を学習する。次に摂食行動や消化・吸収の概念を理解し、その上で栄養素であるタンパク質・糖質・脂質・ビタミン・ミネラルや水・電解質などの栄養学的機能や消化・吸収・代謝について学習し、理解を深める。 【到達目標】栄養士養成教育において栄養学は重要な基幹科目であり、栄養学総論は後に学ぶ栄養学各論や臨床栄養学の基礎となる科目とである。これらのことを念頭に、さまざまな栄養素の摂取、消化、吸収、代謝に関する幅広い分野について学習し、理解することで、その成果を個人および集団の健康維持・増進や疾病予防の活用に発展させることができるようにすることを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　木戸康博・桑波田雅士・中坊幸弘編,『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学』, 講談社 (2)　講義の際に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　栄養の概念：栄養の意義と栄養学の目的 第 2回　食物の摂取：わが国の栄養と健康状態の推移、食事摂取基準について 第 3回　消化・吸収と栄養1：消化器系の構造と機能や消化酵素について 第 4回　消化・吸収と栄養2：栄養素の体内動態について 第 5回　タンパク質の栄養1：タンパク質・アミノ酸の構造・機能と体内動態について 第 6回　タンパク質の栄養2：摂取する量と質の評価や他の栄養素との関係について 第 7回　糖質の栄養1：糖質の概要・分類について 第 8回　糖質の栄養2：体内代謝や血糖調節について 第 9回　脂質の栄養1：脂質の種類と働き、臓器間輸送について 第10回　脂質の栄養2：貯蔵エネルギーとしての作用やコレステロール代謝、生理活性物質について 第11回　ビタミンの栄養1：水溶性ビタミンについて 第12回　ビタミンの栄養2：脂溶性ビタミンについて 第13回　ミネラルの栄養：ミネラルの分類と栄養学的機能について 第14回　水・電解質の栄養的意義：水の出納や電解質の代謝について 第15回　エネルギー代謝：エネルギー代謝の概念について		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（30%）により評価する。		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	**栄養学各論**	担当者	有村　恵美
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】ライフステージ別の特性と栄養管理 【概要】妊娠期, 授乳期, 乳児期, 幼児期, 学童期, 思春期, 成人・更年期, 高齢期など各ライフステージ別の身体的・精神的特徴や変化について学び, 栄養評価法, 栄養摂取法, 疾患との関連等について学ぶ。 【到達目標】妊娠期, 授乳期, 乳児期, 幼児期, 学童期, 思春期, 成人・更年期, 高齢期など各ライフステージ別の個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の実際について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　奥田あかりほか『応用栄養学』(化学同人) 伊藤貞嘉, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部) (2)　内田和宏ほか『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社)		
授業スケジュール	第 1回　食事摂取基準（概要） 第 2回　食事摂取基準（活用・実践） 第 3回　乳児期の栄養（特性・疾患） 第 4回　乳児期の栄養（栄養補給法） 第 5回　幼児期の栄養（特性・疾患） 第 6回　幼児期の栄養（栄養ケア） 第 7回　学童期の栄養（特性・食事摂取基準） 第 8回　高齢期の栄養（特性・疾患） 第 9回　献立作成演習（食事摂取基準と調理方法） 第10回　思春期の栄養（特性・疾患） 第11回　妊娠期の栄養（特性・栄養と病態） 第12回　授乳期の栄養（特性・栄養ケア） 第13回　成人・更年期の栄養（特性・疾患） 第14回　成人・更年期の栄養（生活習慣病） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（60%）, 課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況（40%）により評価する。		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務, 糖尿病病態栄養専門管理栄養士		

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	**栄養学実習**	担当者	有村　恵美
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防，臨床を対象とした栄養学の実践から応用 【概要】各ライフステージ（妊娠期，授乳期，乳児期，幼児期，学童期，思春期，成人・更年期，高齢期など）別の健康保持・疾病予防のための食事，各治療食（形態別治療食・エネルギー調整食・食塩制限食・脂質調整食・たんぱく質調整食・カリウム制限食など）を理解し，調理，供食までを実際に行う（全実習）。 【到達目標】各ライフステージ別の食形態，疾患別の栄養・食事療法を具体的に食品・献立レベルで把握し，実践できる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　内田和宏ほか『ライフステージ実習栄養学』（医歯薬出版株式会社） 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版株式会社） (2)　日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』（南江堂） 香川明夫監修『八訂食品成分表』（女子栄養大学出版部）		
授業スケジュール	第 1回　乳児期（乳児期栄養の実際） 第 2回　離乳期（離乳食の進め方の目安・実際） 第 3回　幼児期・学童期（幼児期・学童期栄養の実際） 第 4回　実施献立（献立作成，調理方法） 第 5回　幼児期・学童期（食物アレルギー食） 第 6回　高齢期（高齢期栄養の実際） 第 7回　一般食治療食（形態別治療食） 第 8回　特別治療食（エネルギー調整食） 第 9回　特別治療食（脂質調整食） 第 10 回　特別治療食（食塩制限食） 第 11 回　特別治療食（たんぱく質調整食） 第 12 回　特別治療食（糖尿病食） 第 13 回　特別治療食（腎臓病食） 第 14 回　実施献立（献立作成，調理方法） 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	実習内容を実習ノートにまとめ,実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。		
成績評価の方法	実技試験（40%），実習ノート（30%），実習への取り組み・参加状況（30%）により評価する。		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，糖尿病病態栄養専門管理栄養士		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**解剖生理学**	担当者	多田　司
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】人体の構造と機能を理解する。 【概要】人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解する上で必要となる、解剖生理学について学ぶ。 【到達目標】人体を細胞、組織、器官、基幹系などのレベルでとらえ、それぞれの形状と仕組み、働きについて解説する。これを理解し、人における恒常性の維持の仕組みを、神経・内分泌・免疫などの機構から説明できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　河田光博・三木健寿/編，『栄養科学シリーズ NEXT 解剖生理学』，講談社 佐藤達夫監修，『新版 からだの地図帳』，講談社 (2)　山口和克ほか，『新版 病気の地図帳』，講談社		
授業スケジュール	第 1回　人体の構造1：細胞・組織・器官 第 2回　人体の構造2：消化器系（1） 第 3回　人体の構造3：消化器系（2） 第 4回　人体の構造4：心臓・血管系 第 5回　人体の構造5：呼吸器系 第 6回　人体の機能1：内分泌系（1） 第 7回　人体の機能2：内分泌系（2） 第 8回　人体の機能3：代謝系 第 9回　人体の機能4：血液系 第 10 回　人体の機能5：免疫系（1） 第 11 回　人体の機能6：免疫系（2） 第 12 回　人体の機能7：脳・神経系 第 13 回　人体の機能8：骨格・筋肉系 第 14 回　人体の機能9：感覚器官 第 15 回　人体の機能 10：腎臓系		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋ 小テスト（30%）により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**解剖生理学実験**	担当者	多田　司
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実験		
テーマ及び概要	【テーマ】人体の構造と機能を理解する。 【概要】講義で学んだ人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての理解を観察や実験を通してさらに深める。 【到達目標】観察や実験を通して、人体の構造と機能を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　青峰正裕、藤田守編著,『N ブックス実験シリーズ解剖生理学実験』, 建帛社		
授業スケジュール	第 1回　実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄 第 2回　骨格観察1：頭・体躯 第 3回　骨格観察2：手・足 第 4回　人体モデル観察1：各種臓器 第 5回　人体モデル観察2：各種臓器 第 6回　組織標本観察1：胃・肝臓 第 7回　組織標本観察2：膵臓・腎臓 第 8回　血液に関する実験1：血球数の測定（赤血球・白血球） 第 9回　血液に関する実験2：ヘモグロビンの定量 第10回　血液に関する実験3：ヘマトクリットの測定 第11回　血液に関する実験4：タンパク質の定量（アルブミン・グロブリン比） 第12回　血液に関する実験5：血糖値の定量 第13回　血液に関する実験6：総コレステロール値の定量 第14回　血液に関する実験7：HDL-コレステロール値の定量 第15回　まとめ：器具洗浄、片付け		
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。		
成績評価の方法	レポート（70%）+実験への取り組み状況（30%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**生化学Ⅰ**	担当者	多田　司
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。 【概要】はじめに人体や細胞の基本構造に関して復習を行う。次にタンパク質・糖質・脂質といった栄養機能を持つ生体成分の構造や性質について学習し、生命現象を発現させる上で重要な核酸についても学習する。さらに、物質の代謝に欠かすことのできない酵素について、その分類や機能の調節について理解を深め、酵素反応に必要な補酵素（ビタミン）や補因子（ミネラル）の働きについても学習する。また生体の代謝調節と密接に関わるホルモンの働きについても理解を深める。 【到達目標】生化学は、人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学Ⅰでは、生体を構成している成分としてのタンパク質・糖質・脂質さらにはビタミン・ミネラル・核酸や酵素などについて構造と機能を学習し、理解することを目標とする。生化学Ⅱで学習するさまざまな生体物質の代謝を理解する上での基礎作りとする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　薗田勝編,『栄養科学イラストレイテッド 生化学』, 羊土社 (2)　講義の際に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　人体の構成：人体を構成する成分や細胞の構造と仕組みについて 第 2回　タンパク質・アミノ酸1：アミノ酸・ペプチドについて 第 3回　タンパク質・アミノ酸2：タンパク質の種類と機能について 第 4回　糖質1：単糖類・二糖類・多糖類について 第 5回　糖質2：糖質の機能について 第 6回　脂質1：脂質の種類と分類について 第 7回　脂質2：脂質の機能について 第 8回　ビタミン： 各種ビタミン類の体内での役割について 第 9回　ミネラル： 各種ミネラルの体内での役割について 第10回　核酸： ヌクレオチドの構造について 第11回　酵素1：酵素の分類と性質について 第12回　酵素2：酵素反応速度について 第13回　酵素3：酵素活性の調節について 第14回　ホルモン1：ホルモンの分類について 第15回　ホルモン2：個体の調節機構とホメオスタシスについて		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋ 小テスト（30%）により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**生化学Ⅱ**	担当者	多田　司
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。 【概要】はじめに生体内でのタンパク質の代謝、糖質の代謝、脂質の代謝について学習する。次に遺伝子発現に関わるヌクレオチドの代謝や遺伝子の発現調節機構について学び、最後に個体の生体防御機構について非特異的・特異的生体防御機構について、特に特異的生体防御機構については免疫系やアレルギーに関する内容を中心に学習する。 【到達目標】生化学は人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学んだ内容を基に、生体内での物質代謝について理解することを目標とする。また、生体調節と密接に関わる遺伝子発現の調節機構について理解することと、個体の生体防御機構について理解を深めることも目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　薗田勝編,『栄養科学イラストレイテッド 生化学』, 羊土社 (2)　講義の際に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　代謝とは？：生体エネルギーと代謝について 第 2回　タンパク質・アミノ酸の代謝1：タンパク質の分解とアミノ酸プール、窒素出納について 第 3回　タンパク質・アミノ酸の代謝2：アミノ酸の代謝とその代謝異常について 第 4回　糖質の代謝1：解糖系・クエン酸回路・電子伝達系について 第 5回　糖質の代謝2：グリコーゲンの合成と分解について 第 6回　糖質の代謝3：糖新生、ペントース-リン酸経路、グルクロン酸経路について 第 7回　脂質の代謝1：脂質の体内輸送と貯蔵、脂肪酸の代謝について 第 8回　脂質の代謝2：トリグリセリドとリン脂質の代謝について 第 9回　脂質の代謝3：コレステロールの代謝、ケトン体の生成、脂質の代謝異常について 第10回　ヌクレオチドの代謝：塩基の合成と分解について 第11回　遺伝子発現とその制御1：遺伝情報の複製、転写、翻訳について 第12回　遺伝子発現とその制御2：RNA の合成（転写）について 第13回　遺伝子発現とその制御3：タンパク質合成（翻訳）について 第14回　生体防御機構1：非特異的生体防御機構と特異的生体防御機構について 第15回　生体防御機構2：免疫系の成り立ちについて		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋ 小テスト（30%）により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**生化学実験**	担当者	多田　司
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実験		
テーマ及び概要	【テーマ】生体成分，栄養成分の定性・定量的分析 【概要】生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について、栄養成分の分析や尿、ホルモンなどの実験を通してさらに理解を深める。 【到達目標】実験を通して、生体成分や栄養成分の生化学を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　林淳三,『新訂生化学実験』, 建帛社		
授業スケジュール	第 1回　実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄 第 2回　尿に関する実験（1）：尿タンパク質の定量 第 3回　尿に関する実験（2）：尿糖の検出 第 4回　尿に関する実験（3）：ケトン体の検出 第 5回　尿に関する実験（4）：クレアチニンの定量 第 6回　酵素に関する実験：唾液アミラーゼ活性 第 7回　ホルモンに関する実験：ステロイドホルモンの分離定性 第 8回　ビタミンに関する実験（1）：ビタミン B_1 の定量 第 9回　ビタミンに関する実験（2）：ビタミン B_2 の定性 第10回　栄養成分に関する実験（2）：タンパク質の定量（1） 第11回　栄養成分に関する実験（3）：タンパク質の定量（2） 第12回　栄養成分に関する実験（1）：カルシウムの定量（1） 第13回　栄養成分に関する実験（2）：カルシウムの定量（2） 第14回　栄養成分に関する実験（3）：カルシウムの定量（3） 第15回　まとめ：器具洗浄、器具整理、片付け		
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。		
成績評価の方法	レポート（70%）+実験への取り組み状況（30%）		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**健康と運動**	担当者	西迫　貴美代
	〔履修年次〕　2年次	授業外対応	随時　nisizako@k-kentan.ac.jp
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修(注)　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】現代社会において健康問題が取り上げられ、「健康ブーム」現象が起きている。その背景やその原因について言及することによって、本講義で取り扱う「健康」概念を明確にする。特に運動不足がもたらす現代人の健康問題に対して、運動の必要性を理解することはもちろんのこと、日常生活の中で実施しうる具体的な「運動処方」について理解することを目的とする 【概要】健康にかかわる職業である、栄養士に必要な基本的な運動処方の知識を具体的なデータと自分のからだの感覚との対比を促すワークを取り入れ、データの意味をより深く理解することから、健康のための運動の必要性とその効果について他者へ伝える能力を身につける。講義内容に即して具体的な運動を実施する内容も予定しているため、事前にお知らせする。 【到達目標】自分自身の測定データから導き出される運動課題を導き出すことができ、さらにその課題克服のための具体的かつ適切な運動処方を組み立てることができることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適時、講義資料を配付する (2)　適時、参考文献を紹介する		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（からだに刷り込まれた自分の体のクセを知る） 第 2回　健康施策の変遷とその背景について(健康観の変遷を探る) 第 3回　適切な運動処方について考える 1（基本的な運動とリラクゼーションの方法について～ストレス解消法） 第 4回　適切な運動処方について考える 2（自己のデータを元に） 第 5回　適切な運動処方について考える 3　（データの意味-1） 第 6回　体力概念について（データの意味-２） 第 7回　健康と運動１（運動の仕組みと運動の効果） 第 8回　健康と運動２（運動とダイエット） 第 9回　健康と運動３（運動と休養・栄養） 第 10 回　健康と運動４（ライフスタイルを考える） 第 11 回　ウォーキングによる自己の身体作業能力の測定 第 12 回　ペースウォーキングによる自己の身体作業能力の測定 第 13 回　ジョギングにおける自己の身体作業能力の測定 第 14 回　50M 走の測定　（自分の走りを科学する　レポート課題） 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	これまで履修した講義（特に解剖学　運動生理学など）で使用したテキスト等、復習すること		
成績評価の方法	毎回、小レポートを提出と講義への参加状況（60%）＋　最終レポート　40%		
実務経験について	高等学校及び養護学校にて教員として勤務		

（注）教職必修　（注）卒業必修

授業科目	**健康管理概論**	担当者	與儀　幸朝
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】健康を維持及び増進を図るために必要な知識や実践につなげる方法について学ぶ 【概要】我が国の健康の現状を把握し、健康問題への理解を深め、維持や増進を図っていく方法について科学的な根拠から見方や考え方を働かせて関連する知識を養う 【到達目標】 1）健康の概念について説明できる 2）人口統計および疾病統計の現状について把握し、その原因や要因について理解できる 3）ストレス発散の具体的な方法について列挙できる 4）生活習慣病の成り立ちについて理解し、予防策を列挙できる 5）情報の収集・処理・管理について理解することができる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　健康管理概論　光生館		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　健康の概念 第 3回　健康の決定要因 第 4回　健康の現状１ 第 5回　健康の現状２ 第 6回　健康増進対策１ 第 7回　健康増進対策２ 第 8回　ストレス 第 9回　健康づくりの実際 第 10 回　健康の阻害要因と疾病の予防 第 11 回　健康管理の進め方１ 第 12 回　健康管理の進め方２ 第 13 回　情報処理と健康管理１ 第 14 回　情報処理と健康管理２ 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 70%，レポート 30%		
実務経験について	中学校教員		

（注）栄養士選択必修

授業科目	**公衆衛生学**	担当者	郡山　千早
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】健康の増進と疾病・障害の発生・予防に関する社会的要因，自然環境，生物学的要因との相互作用，予防医学の理論ならびに実践を理解する。 【概要】私たちを取り巻く社会的環境および自然環境は常に変化し，それとともに国際・地域社会における健康課題も変わってくる。その中で，健康増進をいかに図り，集団の健康を守っていくにはどうすべきかを理解することを目標とする。 【到達目標】次の項目を理解し，説明できる。I) 社会と健康・疾病との関係，II) 保健統計の意義と現状，III) 疫学とその応用，IV) 生活習慣病とその予防対策，V) 日本の保健、医療、福祉および介護制度。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　国民衛生の動向（厚生労働統計協会）		
授業スケジュール	第 1回　公衆衛生学総論 第 2回　公衆衛生のしくみ（関連法律，計画・政策） 第 3回　健康増進 第 4回　保健統計 第 5回　地域保健（母子保健） 第 6回　演習（母子保健） 第 7回　生活習慣と疾病 第 8回　社会保障制度 第 9回　疫学1 第10回　疫学2 第11回　感染症 第12回　演習（感染症） 第13回　高齢者と健康 第14回　学校保健 第15回　職場と健康		
授業外学習(予習・復習)	配布資料に添付する演習を復習として活用すること。		
成績評価の方法	筆記試験（80%），レポート（20%）		

（注）教職必修，栄養士選択必修

授業科目	**運動生理学**	担当者	徳田　修司
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 身体運動時の身体機能のメカニズムについて理解し、栄養学との関係性を学ぶ。 【概要】 健康維持の原則である「運動」「栄養」「休養」について、それぞれの関係性を運動生理学の視点から考察する。さらに日常生活での運動の必要性・重要性を学び、「運動と適応」について理解し、実践するための知識を学ぶ。 【到達目標】 1）運動のエネルギー供給系について理解する（呼吸循環・代謝系を含む）。 2）人の骨格筋の特徴について生理学的、生化学的に理解する（中枢および末梢の神経調節系を含む）。 3）運動と適応について学び、体力や目的に応じた運動の実践のための基礎的知識を身につける（運動処方）。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　特に使用しないが、適宜、資料を配布する (2)　「スポーツ生理学」化学同人、「運動生理学の基礎と応用　—健康科学へのアプローチ—」NAP		
授業スケジュール	第 1回　はじめに・運動生理学について—オリエンテーション— 第 2回　運動と骨格筋・神経　I 第 3回　運動と骨格筋・神経　II 第 4回　運動とエネルギー供給機構 I 第 5回　運動と代謝系 第 6回　運動とエネルギー供給機構II 第 7回　運動と呼吸系 第 8回　運動と循環系 第 9回　運動と適応 I・・・身体不活動、体重維持 第10回　運動と適応II・・・運動と発育発達・体組成 第11回　運動と適応III・・・高所・低酸素トレーニング 第12回　運動と適応IV・・・運動と体温調節 第13回　体力論 第14回　運動処方とは 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習復習は、筆記したノートおよび資料に目を通して今回および次回の授業内容を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験７０％　レポート３０％		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**給食管理**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について 【概要】食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ 【到達目標】給食の運営管理できる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『大量調理』学建書院、『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社、『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂、『給食の運営管理実習テキスト』第一出版、『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版 (2)　『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部		
授業スケジュール	第 1回　給食の概念 第 2回　栄養食事管理 第 3回　食品構成 第 4回　献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは 第 5回　献立計算 第 6回　主菜の考え方、給食の調理管理 第 7回　大量調理の献立 第 8回　大量調理の調理　／　主菜の献立作成 第 9回　作業管理、設備管理　／　副菜の献立作成 第10回　衛生・安全管理　／　汁の献立の立て方 第11回　衛生・安全管理　／　デザートの献立の立て方 第12回　市場調査、経営管理　／　行事食 第13回　施設別の栄養管理・献立 第14回　施設別の給食管理、研究・調査 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業の課題プリントを配布、宿題としてだす。		
成績評価の方法	出席・レポート・小テスト40%、試験60%		
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	**給食管理実習Ⅰ**	担当者	山下　三香子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前・後　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】学内実習　本学学生を主要対象とした給食サービス 【概要】給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。 帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。 【到達目標】給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『大量調理』学建書院、『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社、 『給食の運営管理実習テキスト』第一出版、 (2)　『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会・文光堂		
授業スケジュール	オリエンテーション（実習の概要） 献立計画・・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。 食材購入計画・・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。 運営計画・・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。 試作・試食・・献立に忠実で正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする 衛生管理計画・・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。 実験調査計画・・評価のための調査計画を立案する。 栄養教育計画・・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。 供食サービス・・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。 評価・・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ（実習結果報告と反省会）		
授業外学習(予習・復習)	実習準備として各グループで分担して授業時間以外にも取り組み、実習前日、反省会、帳票整理までとする。		
成績評価の方法	実習ノート（20%）、反省・報告発表（10%）、実習態度及び出席（70%）		
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務		

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	**給食管理実習Ⅱ**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期集中　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習　給食施設（事業所、福祉施設など）での栄養士の給食業務 【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。 【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社　実習ノート (2)　『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『給食経営管理論』東京化学同人		
授業スケジュール	各施設による特徴 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 各施設による特徴		
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成		
成績評価の方法	実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習態度および出席（70%）		
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務		

（注）栄養士必修　※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる

授業科目	**給食管理実習Ⅲ**	担当者	山下三香子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期集中　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習　給食施設（学校給食）での栄養士の給食業務 【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。 【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社、　実習ノート (2)　『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『給食経営管理論』東京化学同人		
授業スケジュール	各施設による特徴 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 各施設による特徴		
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成		
成績評価の方法	実習ノート（20%）、報告発表（10%）、実習態度および出席（70%）		
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務		

（注）栄養士必修，教職必修　※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる

授業科目	**栄養教育論**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法 【概要】栄養教育は，対象とする個人や集団のＱＯＬを高めるため適正な食生活を営み，望ましい健康状態を維持・増進できるよう，単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて，好ましい食行動を実践し習慣化させること、また，生活習慣病の増加に対応するため，栄養・食生活上問題のある人々を対象として，その栄養状態を改善することを目的とした教育的働きかけである。 【到達目標】対象の実態とニーズに沿って，健康やＱＯＬの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　日本栄養士会編　『2021 度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　栄養教育の概念，行動科学理論と栄養教育 第　2回　行動科学理論とモデル 第　3回　行動変容技法と概念 第　4回　栄養教育におけるカウンセリング 第　5回　組織づくり・地域づくり，栄養教育の展開 第　6回　食環境づくり，栄養教育の展開 第　7回　栄養教育マネジメント，栄養教育の展開 第　8回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験の成績（70%）課題と小テスト（30%）により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修　　※ 7.5 回

授業科目	**栄養指導論Ⅰ**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握 【概要】本講義では，栄養指導に必要な基礎知識と，対象となる個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割やその食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。 【到達目標】栄養指導に必要な基本的知識・役割・実態把握の方法を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　芦川修貳，田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院 (2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020 年版』第一出版 日本栄養士会編　『2021 年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　栄養指導の目的，栄養指導の歴史 第　2回　食事摂取基準　（身体活動指数，エネルギー） 第　3回　食事摂取基準　（各栄養素） 第　4回　食品構成（各栄養素の基準量） 第　5回　食品構成（栄養比率の考え方） 第　6回　食品構成作成　栄養価の算定　（1） 第　7回　食品構成作成　栄養価の算定　（2） 第　8回　各種調査による実態把握（身体状況　生活時間） 第　9回　各種調査による実態把握（栄養調査） 第 10 回　各種調査による実態把握（食生活調査） 第 11 回　栄養指導の基本的な進め方（個別指導と集団指導） 第 12 回　栄養指導の基本的な進め方（栄養状態の評価） 第 13 回　栄養指導の基本的な進め方（運動） 第 14 回　栄養指導の基本的な進め方（休養） 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験の成績（70%）＋課題と小テスト（30%）　により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養指導論Ⅱ**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた対象者の自らの行動変容に導く栄養指導 【概要】本講義では，対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して，その食習慣を形作った背景を正しく理解して，指導を受けた人が自らの意思で食生活の改善に取り組み，問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。 【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し，栄養指導に必要な基礎的知識や基本的な方法を習得する。対象に応じたプレゼンテーションが出来る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　芦川修貳，田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学建書院 (2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2020年版』第一出版 日本栄養士会編　『2021年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　ライフステージ（妊婦・授乳婦の栄養指導） 第　2回　ライフステージ（乳児期の栄養指導） 第　3回　ライフステージ（幼児期　3歳未満児の栄養指導） 第　4回　ライフステージ（幼児期　3歳以上児の栄養指導） 第　5回　ライフステージ（保育所給食と栄養指導） 第　6回　ライフステージ（学童期・思春期の栄養指導） 第　7回　ライフステージ（学校給食と栄養指導） 第　8回　ライフスタイル（成人期の栄養指導） 第　9回　ライフスタイル（生活習慣病　肥満症・高血圧症の栄養指導） 第10回　ライフスタイル（生活習慣病　糖尿病・脂質異常症の栄養指導） 第11回　ライフスタイル（高齢期の栄養指導） 第12回　健康障害と栄養指導 第13回　病院などの医療機関における栄養食事指導 第14回　アスリートと栄養教育（の栄養指導） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験の成績（70%）＋課題と小テスト（30%）　により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養指導論実習Ⅰ**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し，個人や集団を対象として，そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のための栄養アセスメント，栄養指導プログラムの立案，教育媒体・資料の作成， 【到達目標】栄養指導の実施・評価を想定し，その実際を学び栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的として，対象者への的確な栄養アセスメント，指導案の作成，媒体の選択，プレゼンテーションのスキルを習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2020年版』第一出版 日本栄養士会編　『2021年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　栄養指導実習の意義と目的，栄養指導の基礎知識　(食事摂取基準) 第　2回　栄養指導の基礎知識　(食品構成表の作成) 第　3回　実態指導の基礎知識　(献立作成) 第　4回　実態把握の方法　食品構成の算定実習 第　5回　実態把握の方法　各種調査方法（食事摂取状況調査など） 第　6回　実態把握の方法　各種調査方法（食事摂取状況調査など） 第　7回　実態把握の方法　身体状況調査，体力測定 第　8回　指導案の作成（基本） 第　9回　指導案の作成（実践用　グループ） 第10回　プレゼンテーションの資料・媒体作成（グループ） 第11回　プレゼンテーション（グループ） 第12回　プレゼンテーション（グループ）・　指導案の作成（実戦用　個人） 第13回　プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導　個人　その1） 第14回　プレゼンテーションの資料・媒体作成（食育指導　個人　その2） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	発表（50%）＋課題と小テスト（30%）＋実習への取り組み状況（20%）により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養指導論実習Ⅱ**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法 【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法ならびに具体的な技術を統合し，栄養指導論実習Ⅱでは，集団・個別を対象とし，福祉施設・病院での栄養指導のシミュレーションを展開し，体験学習により栄養指導に対する理解を深めると共に栄養指導・教育技能の向上を図る。 【到達目標】(1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。(2) 対象に応じた指導案の作成，媒体の選択が出来る。(3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020 年版』第一出版 日本栄養士会編　『2021 年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第 1回　集団を対象とした栄養指導の方法　栄養指導内容の作成（1） 第 2回　集団を対象とした栄養指導の方法　栄養指導内容の作成（2） 第 3回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その1 第 4回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その2 第 5回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その3 第 6回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その4 第 7回　集団を対象とした栄養指導の方法　プレゼンテーション　その5 第 8回　個別対症の栄養指導の基本的な考え方 第 9回　個別対症の栄養指導の方法　栄養指導計画の作成 第 10 回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その1 第 11 回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その2 第 12 回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その3 第 13 回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その4 第 14 回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その5 第 15 回　個別対症の栄養指導の方法（病院）プレゼンテーション　その6とまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	発表（50%）＋課題と小テスト（30%）＋実習への取り組み状況（20%）により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**公衆栄養学**	担当者	児玉敬三
	〔履修年次〕	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　2　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 地域で生活している様々な人々のQOL向上のために、集団を対象とした「栄養学」をどのように実践するかを学ぶ 【概要】公衆栄養の概念。健康・栄養問題の現状と課題。栄養政策。栄養疫学。公衆栄養マネジメント。 公衆栄養プログラムの展開 【到達目標】QOLの向上と健康寿命の延伸につながる様々な施策の内容を理解し、栄養士としての具体的な働きが理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　ウエルネス　公衆栄養学　2019 年度版　医歯薬出版株式会社 (2)　日本人の食事摂取基準 に関連する図書		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス「公衆栄養学」とは 第 2回　公衆栄養学プログラムの展開（1） 第 3回　公衆栄養学プログラムの展開（2） 第 4回　公衆栄養マネジメント（1） 第 5回　公衆栄養マネジメント（2） 第 6回　公衆栄養マネジメント（3） 第 7回　栄養疫学（1） 第 8回　栄養疫学（2） 第 9回　栄養政策（1） 第 10 回　栄養政策（2） 第 11 回　健康・栄養問題の現状と課題（1） 第 12 回　健康・栄養問題の現状と課題（2） 第 13 回　公衆栄養学の概念（1） 第 14 回　公衆栄養学の概念（2） 第 15 回　まとめ、総括		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（80%）、出席 20%		
実務経験について	病院に勤務、災害支援栄養士		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**栄養情報処理**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養士が健康・栄養状態，食行動，食環境に関する情報の収集・分析，それを総合的に判断する能力 【概要】栄養士には，集めた情報を統計学的に処理し，客観的に評価することが求められている。そのためには，コンピュータを使用し，実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法にはどのようなものがあるかを学ぶ。 【到達目標】栄養士業務にかかわる情報処理の基礎ならびにアンケート集計の基礎を学び，これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身につけることを目的とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　石村友二郎，廣田直子著『よくわかる統計学』介護福祉・栄養管理データ編（第3版），東京図書 (2)　菱田明，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準2020年版』第一出版 日本栄養士会編　『2021年度版　管理栄養士　栄養士必携』第一出版		
授業スケジュール	第　1回　コンピュータの役割，機能，実際 第　2回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（1） 第　3回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（2） 第　4回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（3） 第　5回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（4） 第　6回　栄養教育と統計学　統計学の基礎　データのまとめ方（5） 第　7回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（単純集計） 第　8回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（クロス集計） 第　9回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（クロス集計　オッズ比） 第10回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（区間推定） 第11回　データ変換によるデータ集計のまとめ方（検定方法） 第12回　コンピュータによる献立作成 第13回　コンピュータによる栄養価計算 第14回　コンピュータによる月報作成 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋課題（30%）＋実習への取り組み状況（20%）により評価する。		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**臨床栄養学Ⅰ**	担当者	有村　恵美
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法 【概要】主要な疾患の概要（疫学・発症機序・病態・臨床症状）、診断基準、治療法を学習することで，各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。 【到達目標】主要な疾患の概要（疫学・発症機序・病態・臨床症状），診断基準，治療法を理解し，栄養の関連を認識し，各疾患別に必要とされている栄養・食事療法について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』（化学同人） 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病協会・文光堂） 香川明夫監修『八訂食品成分表』（女子栄養大学出版部） (2)　日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』（南江堂）		
授業スケジュール	第　1回　臨床栄養学（概念・意義） 第　2回　代謝性疾患（病態と栄養管理：糖尿病） 第　3回　代謝性疾患（病態と栄養管理：糖尿病） 第　4回　代謝性疾患（病態と栄養管理：脂質異常症） 第　5回　代謝性疾患（病態と栄養管理：脂質異常症） 第　6回　代謝性疾患（病態と栄養管理：痛風,高尿酸血症） 第　7回　代謝性疾患（病態と栄養管理：肥満） 第　8回　栄養法（経腸栄養・経静脈栄養） 第　9回　消化器疾患（病態と栄養管理：肝臓疾患） 第10回　消化器疾患（病態と栄養管理：肝臓疾患） 第11回　消化器疾患（病態と栄養管理：胃腸疾患） 第12回　消化器疾患（病態と栄養管理：胃腸疾患） 第13回　腎疾患（病態と栄養管理：慢性腎臓病） 第14回　腎疾患（病態と栄養管理：透析） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（60%），課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況（40%）により評価する。		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，糖尿病病態栄養専門管理栄養士		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**臨床栄養学Ⅱ**	担当者	有村　恵美
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法（実践から応用） 【概要】主要な疾患の成因・病態を学習することで，各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。 各疾患別の病態の知識をもとに，治療のための栄養・食事基準・調理のポイントを理解する。 【到達目標】主要な疾患の病態を理解し，栄養の関連を認識できること。 各疾患別の栄養・食事療法を理解し，具体的な治療食を考えられる力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』（化学同人） 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版株式会社） 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病協会・文光堂） 黒川清監修『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版株式会社） 香川明夫監修『八訂食品成分表』（女子栄養大学出版部） (2)　日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』（南江堂）		
授業スケジュール	第 1回　循環器疾患（病態と栄養管理：動脈硬化症） 第 2回　循環器疾患（病態と栄養管理：高血圧） 第 3回　循環器疾患（病態と栄養管理：心疾患） 第 4回　その他の疾患（病態と栄養管理） 第 5回　その他の疾患（病態と栄養管理） 第 6回　栄養評価（栄養アセスメント・スクリーニング） 第 7回　一般治療食（常食） 第 8回　一般治療食（形態別治療食） 第 9回　特別治療食（エネルギーコントロール食） 第 10 回　特別治療食（脂質調整食） 第 11 回　特別治療食（食塩制限食） 第 12 回　特別治療食（腎臓病食品交換表） 第 13 回　特別治療食（たんぱく質調整食） 第 14 回　特別治療食（カリウム制限食・水分制限食） 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（60%），課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況（40%）により評価する。		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，糖尿病病態栄養専門管理栄養士		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**臨床栄養学実習**	担当者	有村　恵美
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期集中　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】学外実習　病院での栄養士全般（給食管理・栄養管理・栄養食事指導）の業務による実習 【概要】県内外の医療現場における 2 週間の実習で給食管理業務と以下のような内容を学ぶ。 1.　医療に携わる多職種と連携を図ったチーム医療の中で,専門職として栄養士の実情を把握。 2.　対象者の臨床成績を把握し,的確な食事計画や栄養管理,栄養食事指導。 3.　対象者の心理を理解し信頼を得る。 【到達目標】医療現場で提供されている治療食の実態を把握し,実際に遂行されている栄養士全般（給食管理・栄養管理・栄養食事指導）業務の習得。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　秋山栄一ほか『臨床栄養学概論』（化学同人） 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』（医歯薬出版株式会社） 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病協会・文光堂） 黒川清監修『腎臓病食品交換表』（医歯薬出版株式会社） 香川明夫監修『八訂食品成分表』（女子栄養大学出版部） 伊藤貞嘉，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020 年版』（第一出版） (2)　日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』（南江堂）		
授業スケジュール	各施設により異なる 1.指導管理栄養士等からの説明（院内における栄養部門の位置と役割　等） 2.病院給食管理業務の実際（施設概要・給食組織・業務分担および栄養士業務　等） 3.供食状況の実際（一般治療食・特別治療食　等） 4.病態栄養管理業務の実際（栄養アセスメント・栄養計画・栄養評価　等） 5.栄養食事指導業務の実際（個人指導・集団指導・栄養教育用媒体作成および栄養食事指導評価の方法　等） 6.多職種連携の実際（チーム医療・各種委員会見学　等） 7.報告会（実習内容・反省・課題　等）		
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み，実習ノート作成，報告会準備		
成績評価の方法	実習ノート（20%），報告発表（10%），実習への取り組み状況（70%）により評価する。		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，糖尿病病態栄養専門管理栄養士		

（注）栄養士必修，教職必修

授業科目	**病理学**	担当者	山田　博久
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】人体等における病気の成り立ち。 【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため，以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。 【到達目標】管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしぼった授業も可能ですが，表面的な知識しか持たず，本当の問題解決能力がない者となる危険性が大です。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしぼって程度の高い授業（医学部3-5年生相当）を行い，また逆に基本的な科学知識の部分も押さえ，以後の自分で勉強を行う力をつけることを目標にします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　系統看護学講座　専門基礎4　病理学 (2)　特に定めないが，さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。 管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。		
授業スケジュール	第　1回　病理学で学ぶこと 第　2回　炎症，免疫，感染症　呼吸器系の疾患 第　3回　循環障害，循環器，の疾患　代謝障害 第　4回　先天異常，遺伝子異常，神経系の疾患 第　5回　補足 第　6回　消化器系，腎泌尿器系，内分泌系の疾患 第　7回　腫瘍，血液の疾患，老化と死 第　8回　補足		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。		
実務経験について	内科神経内科医師として30年以上病院勤務。大学非常勤講師として数年間講義を行う。複数の看護学校で講義を行う。		

※7.5回

授業科目	**学校栄養教育論**	担当者	中西　智美・町田　和恵
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法 【概　要】学校での年間指導計画の下に，学級担任や教科担任と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。学校給食を生きた教材として活用し，効果的な指導を行うために，教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有する必要な栄養教諭の役割や職務内容，食文化，食に関する指導方法等について学ぶ。 【到達目標】児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導や学校教育全体に参画し，学級担任や養護教諭，学校外関係者と連携して食に関する教育を行うために，実践を兼ねた演習を行い，知識や方法を修得させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　金田雅代編著『栄養教諭論』建帛社， (2)　文部科学省：小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成28年2月） 文部科学省『食に関する指導の手引き』－第二次改訂版－（平成31年3月）		
授業スケジュール	第　1回　栄養教諭の制度と役割，現状と課題，職務内容，使命（担当：中西） 第　2回　学校給食の教育的意義と役割，学校組織と栄養教諭の位置づけ（担当：中西） 第　3回　学校給食の歴史と食文化の変遷（担当：中西） 第　4回　子どもの発達と食生活（担当：中西） 第　5回　食に関する指導の全体計画（計画・実施・評価）（担当：中西） 第　6回　食に関する指導の展開（(担当：中西） 第　7回　給食時間における食に関する指導（担当：中西） 第　8回　給食時間における食に関する指導の実際（担当：中西） 第　9回　児童・生徒の栄養の指導及び管理に係る社会的事情，法令及び諸制度（担当：町田） 第10回　児童・生徒の栄養に係る諸課題（国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む）（担当：町田） 第11回　発達に応じた食に関する指導と食生活学習教材（担当：町田） 第12回　教科における食に関する指導①（担当：町田） 第13回　教科における食に関する指導②（担当：町田） 第14回　個別栄養相談指導（食物アレルギー・肥満・やせ・貧血等）（担当：町田） 第15回　まとめ（担当：町田）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験の成績（70%）＋課題と小テスト（30%）　により評価する。		

（注）教職必修

授業科目	**化学概論**	担当者	古川那由太・木下朋美
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	オフィスアワーを参照
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】化学の基礎を体系的に学ぶことにより化学への理解を深め，専門科目を履修する上で必要な基礎固めをします。 【概要】化学の基礎的知識として，原子・分子の構造，化学結合，物質量・溶液の濃度の表し方，酸・塩基，酸化・還元，有機化合物の種類について解説します。 【到達目標】①物質の構成を知り，化学結合について理解する。②物質量を使った溶液の濃度表示を理解する。③酸・塩基および酸化・還元化学反応について理解する。④有機化合物の種類と基本的な官能基を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　高校「基礎化学」および「化学」レベルのプリントを配布します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション，原子の構造 第 2回　化学結合（イオン結合と共有結合） 第 3回　原子・分子の重さ（原子量・分子量と式量） 第 4回　溶液の濃度（物質量・モル濃度） 第 5回　化学反応式（化学反応式のつくり方，化学反応の量的関係） 第 6回　酸と塩基（酸・塩基の性質，水素イオン濃度，中和反応と塩の性質） 第 7回　酸化と還元（酸化・還元の定義，酸化数，酸化還元反応） 第 8回　前半のまとめ 第 9回　有機化合物の特徴と分類（官能基，構造式，異性体） 第10回　脂肪族炭化水素―1（アルカン） 第11回　脂肪族炭化水素－2（アルケン，アルキン） 第12回　酸素を含む脂肪族化合物－1（アルコール，アルデヒド，ケトン） 第13回　酸素を含む脂肪族化合物－2（カルボン酸，エステル） 第14回　芳香族化合物―1（フェノール類） 第15回　芳香族化合物―2（芳香族カルボン酸，芳香族アミン）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	小テスト（４０%），期末試験（６０%）		

授業科目	**生物概論**	担当者	古川 那由太
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】食物栄養専攻で学習する専門科目の基礎となる生物学について系統的に理解する。 【概要】そこに存在するものが生命体かどうか直感的に理解することは簡単だが、生命体を正確に定義することは難しい。生命体は地球にありふれた物質で構成されているのにもかかわらず、その本質を理解しにくくしている要因の１つとして、巧妙精緻に組織化された生命現象が挙げられる。本教科では生命体を構成する物質と、生命体の基本的な機能であるエネルギー代謝、自己増殖、恒常性維持に関する学習を通じて生命体について理解を深める。 【到達目標】生物を構成する基本的な物質を列挙し、その特徴を説明できる。酵素の特性と細胞内のエネルギー代謝について説明できる。生物の増殖方法と遺伝の仕組みを関連づけて説明できる。生物の恒常性維持に関わる情報伝達システムと生体防御機構について説明できる。動物個体の成り立ちを系統的に説明できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　南雲保 編著 『やさしい基礎生物学 第2版』 羊土社 2014 (2)　あれば講義中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション、生命体の構造と働き１（細胞の構造と生命誕生） 第 2回　生命体の構造と働き２（生命体を構成する物質） 第 3回　生命体の構造と働き３（遺伝子の構造と機能） 第 4回　生命体の構造と働き４（生体とエネルギー） 第 5回　生命体の構造と働き５（光合成と窒素同化） 第 6回　生命体の連続性１（細胞の分裂・情報伝達・がん化） 第 7回　生命体の連続性２（生命体の受精と成長） 第 8回　前半のまとめ（発表） 第 9回　生命体の反応と調節１（細胞間情報伝達システムと生体維持機構） 第10回　生命体の反応と調節２（生体防御機構） 第11回　生命体の反応と調節３（遺伝の基本的なしくみといろいろな遺伝） 第12回　生命体の反応と調節４（連鎖と独立、性と遺伝、ヒトの遺伝病） 第13回　動物個体の形成１（組織と消化系） 第14回　動物個体の形成２（循環系、呼吸器系、排出系、感覚系） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	教科書の熟読、関連動画の閲覧		
成績評価の方法	筆記試験 (50%), 小テスト (25%), 発表 (25%)		

９　生活科学専攻専門科目

授業科目	生活化学	担当者	淺海　真弓
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 生活の中にある化学物質や現象について学び，化学の役割について考える。 【概要】 私たちの生活には，様々な化学物質や化学的な現象が関わっている。この授業では，衣生活に関わる物質や現象を取り上げ，化学の力やしくみを学ぶ。主に被服の洗浄（被服整理学分野）と染色のメカニズム（染色加工学分野）について解説する。 【到達目標】 化学的な視点から洗浄や染色の現象について理解し，被服の適切な管理に活かすことができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 和歌山県工業技術センター編『現場で役立つプラスチック・繊維材料のきほん』コロナ社		
授業スケジュール	第 1回　生活の中の化学 ― 身近な生活用品と化学との関わり 第 2回　被服整理1 ― 被服の汚れ（汚れの分類） 第 3回　被服整理2 ― 被服の洗浄（洗濯用水と洗剤） 第 4回　被服整理3 ― 被服の洗浄（界面活性剤と配合剤） 第 5回　被服整理4 ― 被服の洗浄（洗濯条件と洗浄力の関係） 第 6回　被服整理5 ― 被服の洗浄（商業洗濯） 第 7回　被服整理6 ― しみ抜き，漂白と増白，柔軟仕上げ 第 8回　被服整理7 ― 被服の保管（防虫・防カビ） 第 9回　被服整理分野のまとめ 第10回　染色加工1 ― 染料の種類 第11回　染色加工2 ― 染料と繊維の結合 第12回　染色加工3 ― 染色の方法（浸染と捺染） 第13回　染色加工4 ― 染色物の堅ろう性（変退色と汚染） 第14回　染色加工5 ― 繊維製品の加工 第15回　染色加工分野のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）		
成績評価の方法	レポート・課題（65%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）		

授業科目	衣生活学	担当者	淺海　真弓
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 衣服について様々な側面から多角的に学び，生活における衣服の役割について考える。 【概要】 衣服の歴史や着用目的，衣服の機能，衣服素材の特性，衣服の管理方法などの内容を取り上げ，快適，安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。 【到達目標】 衣服の役割を理解するとともに，日常の衣生活に関わる多様な知識を習得する。そして，自らの衣生活の現状と問題点を把握し，解決に向けて実践できるようになることを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 酒井豊子，藤原康晴編著『ファッションと生活―現代衣生活論』放送大学教育振興会		
授業スケジュール	第 1回　衣服と人間 ― あなたはなぜ服を着ますか? 第 2回　衣服と民族 ― 気候風土と民族衣装の形態 第 3回　衣服の変遷1 ― 西洋の服装の変遷 第 4回　衣服の変遷2 ― 日本の服装の変遷 第 5回　衣服の装いと心理 ― 服装から受ける印象と引き起こされる感情 第 6回　衣服の素材1 ― 繊維の種類と特徴 第 7回　衣服の素材2 ― 糸・布の種類と特徴 第 8回　衣服の管理1 ― 洗濯（しみ抜き，家庭洗濯，クリーニング） 第 9回　衣服の管理2 ― 仕上げと保管（漂白，柔軟仕上げ，糊付け，アイロン仕上げ，防カビ・防虫） 第10回　衣服の表示 ― 衣服の組成と取扱い表示の関係 第11回　衣服の機能と快適性1 ― 衣服による体温調節（衣服内気候） 第12回　衣服の機能と快適性2 ― 衣服の動きやすさと拘束性（衣服圧） 第13回　衣服の設計 ― 乳幼児・高齢者の衣服への配慮と工夫，ユニバーサルファッション 第14回　衣服の生産と流通 ― アパレル産業と既製服，既製服のサイズ規格 第15回　衣服と環境 ― 衣服の廃棄とリサイクル		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）＋ 課題（15%）		

（注）教職必修

授業科目	住生活学	担当者	川島　茂
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】生活環境をとりまく建築計画理論の学習と計画手法の習得 【概要】建築計画における基本的な検討要因や手法を解説しつつ、建築設計立案における要件の多様性を理解しつつ、住環境の将来展望を問う。 【到達目標】建築計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計、計画手法の知識を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　建築計画教材研究所 編「改訂版 建築計画を学ぶ」理工学図書 (2)　日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料」丸善		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス　建築の学び方、考え方 第 2回　建築設計の主題　建築設計理念について 第 3回　建築技術者の役割　設計競技による設計者選定 第 4回　建築計画とは-1　建築行為（生産）と建築計画 第 5回　建築計画とは-2　建築計画と設計図書 第 6回　空間と行為-1　建築の機能　その歴史的背景 第 7回　空間と行為-2　建築の機能　合理からコミュニティーデザインへ 第 8回　近現代建築について-1　ル・コルビュジェの建築 第 9回　近現代建築について-2　ミース・ファン・デル・ローエの建築 第10回　近現代建築について-3　建築の公共空間 第11回　寸法の計画　人体寸法と動作寸法 第12回　プランニング演習　室空間のプランニング 第13回　風土・文化・建築　日本の住空間 第14回　文化・社会・建築　日本の現代住宅建築 第15回　まとめ・総合レポート出題		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	総合レポート（40%）、レポート・課題（60%）		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目，教職必修

授業科目	色彩学	担当者	坂上　ちえ子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。 【概要】 「色」は身近にあるため，好き，嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では，色覚のメカニズムや色彩心理，色彩調和，色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。 【到達目標】 基礎理論を習得し，それらをコーディネートなどに応用できることと，色彩に関する検定に挑戦することを目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門　色彩　改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所 (2)　随時紹介		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回　色の基礎知識1：色とは：色が見える仕組み 第 3回　色の基礎知識2：色の記録・伝達方法① 色名 第 4回　色の基礎知識3：色の記録・伝達方法② 表色系 第 5回　色の基礎知識4：色の混合：加法混色・減法混色 第 6回　色の基礎知識5：照明：演色性 第 7回　色の基礎知識6：色彩の心理① 色の見えの効果 第 8回　色の基礎知識7：色彩の心理② 色のイメージ 第 9回　色の基礎知識8：色彩調和① 色彩調和の基本形式 第10回　色の基礎知識9：色彩調和② 配色技法 第11回　色の基礎知識10：色彩調和論 第12回　色の応用1：色彩計画 第13回　色の応用2：色と文化 第14回　色の応用3：商品と色 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋　授業での活動内容（30%）		

授業科目	ビジュアルデザイン論Ⅰ	担当者	北一浩
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 必修 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】デザインを学ぶ上で前提となる、アイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。 【概要】ビジュアルデザインのみならず様々な分野で求められるアイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。 アイデアの生み出し方を段階的に講義していく。 【到達目標】アイデアとは何かを理解し、その生み出し方を習得する。 また、それらが日常の多様な場面で活用できることを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2) 参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション 第 2回 導入 アイデアとは？ 第 3回 発想の準備1 もっと楽しもう 第 4回 発想の準備2 自分を信じよう 第 5回 発想の準備3 「その気」になろう 第 6回 発想の準備4 子供に戻ろう 第 7回 発想の準備5 「知りたがり」になろう 第 8回 発想の準備6 笑われることを恐れるな 第 9回 発想の準備7 「考え方」のヒント 第10回 発想の準備8 いろいろなものを組み合わせよう 第11回 発想のプロセス1 質問を変えてみよう 第12回 発想のプロセス2 情報をかき集めよう 第13回 発想のプロセス3 いったん全部忘れてしまおう 第14回 発想のプロセス4 ひらめいたら実践しよう 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	プレゼンテーション（60%） 提出課題（40%）		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務 フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動		

授業科目	ファッション造形基礎	担当者	坂上 ちえ子
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕 前期 〔単位〕 1 〔必修／選択〕 選択（注） 〔授業形態〕 実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。 【概要】 まず基礎縫いを行い，縫製用具や機器の正確な使用法を身につける。つぎに，基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに，編物，刺繍など手芸の基礎も学ぶ。 【到達目標】 裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製，手芸技法を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 適宜紹介		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回 基礎縫い1：手縫い① 用具の説明，並縫い 第 3回 基礎縫い2：手縫い② まつり縫い，他 第 4回 基礎縫い3：手縫い③ ボタン，スナップつけ 第 5回 基礎縫い4：ミシン縫製 ミシン，ロックミシン 第 6回 上衣（チュニックブラウス）製作1：人体計測と製図 第 7回 上衣（チュニックブラウス）製作2：裁断，しるしつけ 第 8回 上衣（チュニックブラウス）製作3：仮縫い，試着 第 9回 上衣（チュニックブラウス）製作4：本縫い① 第10回 上衣（チュニックブラウス）製作5：本縫い② 第11回 上衣（チュニックブラウス）製作6：仕上げ，着装評価 第12回 工芸1：レース編み 第13回 工芸2：毛糸棒針編み 第14回 工芸3：フランス刺繍 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題（70%） ＋ 授業での活動内容（30%）		

（注）教職必修

授業科目	**生活文化**	担当者	淺海　真弓 ・ 宍戸　克実
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 家庭や地域，社会などの影響を受けて形成され，変容する生活文化について考える。 【概要】 人々の生活の中から生み出され伝承されてきた物質としての「もの」だけでなく，慣習や思想を含めた生活様式について概説する。衣食住を中心とした多様な生活文化やそれらの変遷過程を知り，現代の生活様式と比較して考える。 【到達目標】 異なる時代や地域の文化を知ることにより，現在の自分たちの生活について視点を変えて様々な面から分析する力を養う。そして，現代の生活文化の課題を主体的に解決し，よりよい生活を実現していく力を習得することを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　石川実，井上忠司編『生活文化を学ぶ人のために』世界思想社 ルイス・フロイス著，岡田章雄訳注『ヨーロッパ文化と日本文化』岩波書店		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：生活文化とは？ ― 生活文化の構造と特性（第1回～第13回：淺海担当） 第 2回　日本人と生活文化 ― 海外から見た日本人，日本人の性格と行動様式 第 3回　食の文化と生活1 ― 食文化の発達と変容，世界の食文化 第 4回　食の文化と生活2 ― 日本の食文化の変遷，現在の食生活課題 第 5回　食の文化と生活3 ― 行事食の意味とその変容 第 6回　衣の文化と生活1 ― 日本の服装の歴史と文化 第 7回　衣の文化と生活2 ― 着物の分類と染織 第 8回　衣の文化と生活3 ― 日本のアクセサリーと化粧の文化 第 9回　衣の文化と生活4 ― 洗濯の文化 第10回　地域と生活文化 ― 味噌・雑煮の文化圏，行事と地域，衣服の材料と地域 第11回　老いと生活文化 ― 老いの生き方の視点と役割の変化 第12回　情報化と生活文化 ― 家庭・仕事の情報化と家族・生活スタイルの変化 第13回　国際化と生活文化 ― 異文化の葛藤と多文化の共生 第14回　異文化理解入門1 ― イスラーム地域の生活文化（第14回～第15回：宍戸担当） 第15回　異文化理解入門2 ― イスラーム地域の都市・建築・空間文化		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）		
成績評価の方法	淺海担当分（85%）：授業ごとに提出するワークシート（35%）＋課題（20%）＋レポート（30%） 宍戸担当分（15%）：講義内レポート（15%）		
実務経験について	淺海：なし 宍戸：外食チェーン企業において設計監理業務，都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

授業科目	**被服材料学**	担当者	淺海　真弓
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 衣服を構成している繊維，糸，布それぞれの特徴を知り，これらが総合された被服材料の特性について学ぶ。 【概要】 繊維や糸，布の種類や構造などについて概説した後，被服材料の諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介，簡単な実験を取り入れながら，身近な衣服の素材に対する理解を深める。 【到達目標】 いつも自分が着ている衣服の素材や構造，特性を理解し，これらの知識を衣服の製作・購入，着用，洗濯，保管などの場面で活用できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　島崎恒藏編著『衣服材料の科学』建帛社 日下部信幸著『生活のための被服材料学』家政教育社		
授業スケジュール	第 1回　繊維とは？ ― 繊維の歴史と分類 第 2回　繊維の構造 ― 繊維の構造と性質の関係 第 3回　天然繊維1 ― 植物繊維（綿，麻） 第 4回　天然繊維2 ― 動物繊維（羊毛） 第 5回　天然繊維3 ― 動物繊維（絹） 第 6回　化学繊維1 ― 再生繊維（レーヨン，キュプラ） 第 7回　化学繊維2 ― 半合成繊維（アセテート，トリアセテート） 第 8回　化学繊維3 ― 合成繊維（ナイロン，ポリエステル，アクリル），繊維の性能比較 第 9回　新しい繊維 ― 繊維化技術の発展と高機能素材 第10回　糸の種類と構造 ― 紡績糸・フィラメント糸の性質，糸の太さとより　〈ミニ実験：糸の観察〉 第11回　布の種類と構造1 ― 織物の組織と性質 第12回　布の種類と構造2 ― 編物の組織と性質，織物と編物の性能比較 第13回　布の種類と構造3 ― 不織布・皮革の性質，布の構造特性　〈ミニ実験：織物の観察〉 第14回　被服材料の性質1 ― 耐久性と形態的性質 第15回　被服材料の性質2 ― 快適性と外観的性質		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）		
成績評価の方法	筆記試験（50%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）＋ 課題（15%）		

授業科目	**生活化学実験**	担当者	淺海　真弓
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実験		
テーマ及び概要	【テーマ】被服の素材や洗濯，染色についての知識を深め，科学的に考察する力を身につける。 【概要】被服材料学（繊維・糸・布の性質），被服整理学（洗濯処理等の効果）および染色加工学（染色方法，染色堅ろう性）に関連する実験を行う。 【到達目標】実験を通じて被服素材や洗濯，染色への知識や技術を習得する。また，データ処理やレポートの作成方法を習熟するとともに，感覚的にではなく具体的根拠に基づいて論理的に考える力を身につける。 ※ 生活化学および被服材料学を履修しておくことが望ましい。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント（実験書配布） (2)　島崎恒藏編著『衣服材料の科学』建帛社 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本規格協会編『JIS ハンドブック 31 繊維』日本規格協会		
授業スケジュール	第 1回　実験の説明 ― 実験を行う上での注意点，レポートの作成方法 第 2回　糸の太さ ― 番手の測定 第 3回　織物の構造 ― 厚さ・目付の測定と含気率の計算，織り縮み率の測定，組織図の作成 第 4回　吸水性試験 ― バイレック法および浸漬法 第 5回　繊維の燃焼性 ― 繊維の燃え方，におい，灰の観察 第 6回　繊維の染色性 ― 繊維と染料の相性 第 7回　繊維の溶解性 ― 混用率の測定 第 8回　洗浄試験 ― 洗濯条件と洗浄効果 第 9回　糊付け・柔軟仕上げの効果 ― 剛軟度の測定 第10回　漂白・蛍光増白の効果 ― 目視観察および反射率測定 第11回　合成染料による染色 ― 直接染料および反応染料（染色堅ろう度試験用染色布の作成） 第12回　染色堅ろう度試験1 ― 洗濯堅ろう度 第13回　染色堅ろう度試験2 ― 摩擦堅ろう度 第14回　天然染料による染色 ― 絞り染め 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	事前に実験書をよく読み，実験の目的や方法を理解しておくこと。実験後は結果を整理し，考察してレポート作成すること。		
成績評価の方法	実験ごとに提出するレポート・課題（70%）＋ 実験への取り組み（30%）		

授業科目	**食物と栄養**	担当者	亀井　勇統
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】食生活を通して健康を維持するための食物に含まれている多種多様な栄養成分について学ぶ。 【概要】健康的な生活を維持するために役立っている食物に含まれている水分，炭水化物，脂質，タンパク質，ミネラル，ビタミン，その他成分を紹介する他，食物の保存や調理中に起こりえる栄養成分の化学的な変化とその防止等について解説する。 【到達目標】食物に含まれている種々の栄養成分に関する知見を得るだけでなく，生体成分としての重要性について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)　菅原龍幸・井上四郎編『新訂　原色食品図鑑（学生版）［第2版］』建帛社のほか，適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　人間と食物 第 2回　穀類の栄養成分1 第 3回　穀類の栄養成分2 第 4回　野菜類の栄養成分1 第 5回　野菜類の栄養成分2 第 6回　いも類の栄養成分 第 7回　豆類の栄養成分 第 8回　果実類の栄養成分 第 9回　きのこ類の栄養成分 第10回　海藻類の栄養成分 第11回　食肉類の栄養成分 第12回　乳類の栄養成分 第13回　卵類の栄養成分 第14回　魚介類の栄養成分1 第15回　魚介類の栄養成分2		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験７０%、授業への取り組み・参加状況３０%		
実務経験について	ビール会社において研究職に従事		

授業科目	**調理学**	担当者	立石　百合恵
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕講義		
テーマ及び概要	【テーマ】食品素材を食べやすくするための調理操作を、基礎的、系統的、科学的理論で解明し 実際に役立つよう体系化して再現できる法則を見出す。 【概要】・自然科学の手法により、調理過程中に生じる種々の諸現象を確認する。 ・調理操作、味、食品素材、調理と生活環境について学ぶ 【到達目標】調理学の意義を理解し、調理の体系的な理論を実生活に応用し役立てる能力を培う 基本的な調理操作法の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　オールガイド食品成分表　実教出版株式会社 (2)　山崎清子　島田キミエ「調理と理論」同文書院　石松成子　鎳　吉　外西壽鶴子　NEW 基礎調理学		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション　調理学の意義 第 2回　調理科学：砂糖の温度変化のよる変化について 第 3回　調理の基本：調味料の働きと特徴について 第 4回　調理の基本：食事と栄養素・調理器具について 第 5回　調理科学：卵の熱変性について 第 6回　調理の基本：卵類・乳類・豆類の特徴について 第 7回　調理科学：小麦粉の特性について 第 8回　調理の基本：穀類の調理的意義・芋類・でん粉類・油の特性について 第 9回　調理科学：油の乳化について 第10回　魚の基本と操作：鹿児島県の食材調理（魚介） 第11回　調理科学：ゲル化剤の特徴について 第12回　調理の基本：海藻類・魚類・肉類について 第13回　調理の基本：野菜類・果実類・きのこ類について 第14回　調理の基本：嗜好飲料類・香辛料類・調理加工食品について 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を重視		
成績評価の方法	筆記試験１００％		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、小児科にて育児支援、講演会活動		

授業科目	**調理実習**	担当者	立石　百合恵
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義修了時
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】調理理論と調理操作の融合 【概要】・具体的な調理操作（和・洋・中）を行い、それぞれの献立について学び、調理技術を向上させる ・清潔な食品の取り扱いの習得 ・食環境整備の有効性を学ぶ ・食事の作法とマナーについて学習する 【到達目標】基本的な調理技術の習得と清潔で安全な調理操作の習得 食育による社会適応力の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　石原三妃ら共著　あすの健康と調理　アイ・ケイコーポレーション (2)　山崎清子　島田キミエ「調理と理論」同文書院		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（調理の意義と目的、実習方法について） 第 2回　日本料理　米のガス炊飯　若竹汁、煮魚、春野菜のお浸し 第 3回　西洋料理　ロールパン、ハンバーグステーキ、ミネストローネスープ、コンポジションサラダ、コーヒー 第 4回　日本料理　親子丼、潮汁、なます、いちご大福 第 5回　中国料理　白飯、太平燕、酢豚、棒棒鶏、杏仁豆腐 第 6回　テーブルマナーまたは行事食 第 7回　西洋料理　サンドイッチ、マカロニグラタン、トマトのラビゴットソースサラダ、紅茶 第 8回　日本料理　散らし寿司、むらくも汁、即席漬、水羊羹 第 9回　中国料理　白飯、カニと野菜のスープ、マーボー豆腐、焼き餃子、中華饅 第10回　日本料理　茶飯、茶碗蒸し、天ぷら、ぬた和え、水饅頭 第11回　西洋料理　チキンカレー、バターピラフ、コールスローサラダ、ブラマンジェ、アイスティー 第12回　日本料理　きつねうどん、おにぎり、肉じゃが、ねぎ味噌、みつ豆 第13回　西洋料理　パンの調理（食パン）、コンソメスープ（牛）、マヨネーズサラダ、ヨーグルト 第14回　郷土料理　鶏飯、糸瓜のみそ炒め、きびなご菊作り、ゴーヤチャンプルー、両棒餅 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	実技試験（５０％）＋授業ごとのレポートと実技内容の評価（５０％）		
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、小児科にて育児支援、講演会活動		

（注）教職必修

授業科目	**保育学**	担当者	奥　章三・池堂　猛彦　・田中　真理
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。 【概要】子どもは，出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして，子どもの発達には，周囲からの働きかけ（発達援助）が不可欠である。保育学講義では，保育（発達援助）の概念と実際を学ぶとともに，子どもの標準的な発育発達，子どもによくみられる病気と対処法，子どもの安全対策等，保育に必要な知識の習得を目指す。 【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し，説明ができるようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　（担当　奥）　乳幼児の発達からみる保育“気づきのポイント”４４、診断と治療社 (2)		
授業スケジュール	第 1回　（担当　奥）　保育とは何か？　なぜ「保育」を学ぶのか、母体の健康管理と誕生 第 2回　出産と育児及びそれらをとりまく環境 第 3回　子どもの成長（その１）　～ 発育，運動発達 ～ 第 4回　子どもの成長（その２）　～ 知的発達，社会性の発達 ～ 第 5回　子どもを育てる　愛着と自律 第 6回　子どもの育つ環境の整備 第 7回　子どもとふれ合う　保育の現場 第 8回　子どもによくみられる病気とその症状・対応 第 9回　子どもの事故防止対策 第10回　発達障害児への対応　～ 講義のふりかえり～ 第11回　（担当　田中）事前事後指導①：事前指導 第12回　（担当　池堂）実習①：保育園における保育実習(1) 第13回　実習②：保育園における保育実習(2) 第14回　実習③：保育園における保育実習(3) 第15回　（担当　田中）事前事後指導②：事後指導		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	（担当　奥）筆記試験（100%） 各担当者が100点／３で点数を算出した後，３人の合計を総合点として評価する。		
実務経験について	奥　：病院に小児科医として勤務 池堂：保育園の園長として勤務		

（注）教職必修

授業科目	**卒業研究Ａ**	担当者	淺海　真弓
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 被服材料学，被服整理学および染色加工学に関する課題について研究し，その成果をまとめる。 【概要】 各自で研究テーマを設定し，課題を明らかにするための手法を検討して実験を行う。実験により得られたデータを図表にまとめて整理し，考察する。最終的に研究成果を論文にまとめ，卒業研究発表会で発表する。 【到達目標】 自分で計画を立てて実験を遂行することにより，課題を解決していく力や科学的に考察する力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　日本規格協会編『JIS ハンドブック 31 繊維』日本規格協会 佐渡島紗織，吉野亜矢子著『これから研究を書くひとのためのガイドブック』ひつじ書房		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（研究の進め方・論文の作成方法について） 第 2回　～第 4回　先行研究・参考文献の資料収集 第 5回　資料収集の報告発表，研究テーマの設定 第 6回　～第10回　予備実験 第11回　予備実験の報告発表，研究テーマの確定 第12回　～第22回　本実験 第23回　～第26回　論文作成，追加実験 第27回　～第29回　研究発表の準備（要旨・スライドの作成） 第30回　まとめ（要旨・スライド・論文の最終確認）		
授業外学習(予習・復習)	報告発表や課題を適宜指示するため，授業外での予習・復習・発表準備（資料・スライドの作成）が必要である。		
成績評価の方法	卒業論文（60%）＋ 研究発表（20%）＋ 授業および課題への取り組み（20%）		

授業科目	卒業研究A	担当者	田中　真理
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】心理学に関するテーマについて，リサーチ・分析し，成果として卒業論文にまとめプレゼンテーションを行う。 【概要】心理学に関する研究テーマやリサーチクエスチョンを設定した上で，先行研究について概観，資料やデータの収集，分析，結果の整理，考察を行う。最後に，卒業論文としてまとめるとともに，卒業研究発表会にて研究の成果を発表する。 【到達目標】①調査研究のプロセスを体験する中で，日常の事象に対する科学的な視点を養う。 ②調査研究や論文執筆に必要な基礎知識やスキルを習得する。 ③研究の成果についてわかりやすくプレゼンテーションを行うことができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適宜紹介する。 (2)　松井豊（著）『改訂新版　心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために』河出書房新，2010年		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション 第　2回　調査研究の進め方 ～　〃 第　4回　〃 第　5回　テーマ設定，情報収集，分析，結果整理，考察，論文の執筆（毎回の報告） ～　〃 第　26回　〃 第　27回　発表会の資料作成，プレゼンテーションの準備 ～　〃 第　29回　〃 第　30回　卒業研究発表会		
授業外学習(予習・復習)	毎回課題を課すため，授業時間外の学習を要す。		
成績評価の方法	卒業論文とプレゼンテーション（70%）＋　授業への参加度と毎回の課題（30%）		

（注）教職課程履修者を優先する。

授業科目	ファッションデザイン論	担当者	田邉しずか
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 ファッションデザインの基礎とその展開 【概要】 アパレルの企画では、市場調査やトレンドなどの情報分析、企画構想、そして衣服がデザインされる。本講義では、ファッションデザインの概要とその考え方、デザインを中心としたアパレル設計の基礎知識を学ぶ。 【到達目標】 ファッションデザインの考え方を理解し、設定されたコンセプトに合ったファッションデザインを行うことができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　文化服装学院編，『文化ファッション大系 服飾関連専門講座〈9〉服飾デザイン』，文化出版局, 2005. 日本衣料管理協会刊行委員会編，『アパレル設計論アパレル生産論』，日本衣料管理協会, 2013.		
授業スケジュール	第　1回　オリエンテーション：授業概要と進め方、アパレル生産におけるデザインの位置づけ 第　2回　ファッションデザイン概論：衣服の目的、主要なファッションデザイン 第　3回　ファッションデザインの基礎1：形態、色彩 第　4回　ファッションデザインの基礎2：素材、コンポジション 第　5回　ファッションデザインの展開：デザインとイメージ、インスピレーション 第　6回　ファッション産業におけるデザイン1：流行とファッションデザイン 第　7回　ファッション産業におけるデザイン2：アパレル企画 第　8回　被服構成の基礎1：人体 第　9回　被服構成の基礎2：裁断とパターン 第10回　デザインとパターン1：ダーツ、衿、袖 第11回　デザインとパターン2：スカート、パンツ 第12回　ファッションデザイン実践1：デザイン画導入 第13回　ファッションデザイン実践2：デザイン画の表現法 第14回　ファッションデザイン実践3：デザイン画の仕上げ 第15回　まとめ：アパレル動向		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末筆記試験と課題提出（70%）＋授業毎のコメントペーパー（30%） デザイン画を作成しますが絵が不得意でも構いません。理論の理解、課題への取り組みを評価します。		

授業科目	ファッション造形Ⅰ	担当者	坂上　ちえ子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。 【概要】 衣服を平面製図法で行う場合，基本となる型紙（原型）の把握が重要である。まず，基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い，それらの手順と方法を学ぶ。さらに，上・下半身衣の原型とその展開について学び，理解する。 【到達目標】 平面製図の方法を理解し原型展開ができることと，裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　文化服装学院『文化ファッション大系　服飾造形講座２　スカート・パンツ』文化出版局		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回　下衣（スカート）製作1：スカートの製図 第 3回　下衣（スカート）製作2：表布の裁断，印つけ 第 4回　下衣（スカート）製作3：仮縫い 第 5回　下衣（スカート）製作4：試着，補正 第 6回　下衣（スカート）製作5：表布の縫製1 第 7回　下衣（スカート）製作6：表布の縫製2 第 8回　下衣（スカート）製作7：ファスナーつけ 第 9回　下衣（スカート）製作8：裏布の裁断，印つけ 第10回　下衣（スカート）製作9：裏布の縫製 第11回　下衣（スカート）製作10：ベルトつけ 第12回　下衣（スカート）製作11：仕上げ，着装評価 第13回　上衣（原型）製作1：上半身衣の原型 第14回　上衣（原型）製作2：上半身衣のデザイン展開 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題（70%）＋　授業での活動内容（30%）		

（注）教職必修

授業科目	ファッション造形Ⅱ	担当者	坂上　ちえ子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。 【概要】 基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法，その過程を学ぶ。デザインについては，着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう，また，製作については，目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。 【到達目標】 上，下半身衣のデザインと製図展開ができることと，迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　文化服装学院『文化ファッション大系　服飾造形講座３　ブラウス・ワンピース』文化出版局		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回　上衣（ブラウス）製作1：デザインと製図 第 3回　上衣（ブラウス）製作2：裁断と印つけ 第 4回　上衣（ブラウス）製作3：仮縫い 第 5回　上衣（ブラウス）製作4：試着，補正 第 6回　上衣（ブラウス）製作5：見頃の縫製 第 7回　上衣（ブラウス）製作6：衿つくりと衿つけ 第 8回　上衣（ブラウス）製作7：袖つくりと袖つけ 第 9回　上衣（ブラウス）製作8：ボタンホール，ボタンつけ，仕上げ 第10回　下衣（パンツ）製作1：デザインと製図 第11回　下衣（パンツ）製作2：裁断と印つけ 第12回　下衣（パンツ）製作3：仮縫い，試着，補正 第13回　下衣（パンツ）製作4：縫製 第14回　下衣（パンツ）製作5：仕上げ 第15回　着装評価，まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題（70%）＋　授業での活動内容（30%）		

授業科目	**ファッションビジネス**	担当者	坂上　ちえ子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 ファッションに対する理解を深めるため，デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。 【概要】 衣服を大量生産，大量消費する時代は過ぎ，ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び，ファッション全体の背景や仕組みを捉える。 【到達目標】 基礎知識を習得し，企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス［Ⅰ］』財団法人　日本ファッション教育振興会		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：講義概要と進め方 第 2回　ファッションビジネス知識1：ファッションビジネスの概要 第 3回　ファッションビジネス知識2：ファッション消費と消費者行動 第 4回　ファッションビジネス知識3：アパレル産業と小売産業 第 5回　ファッションビジネス知識4：ファッションマーケティング 第 6回　ファッションビジネス知識5：ファッションマーチャンダイジング 第 7回　ファッションビジネス知識6：ファッション物流と流通 第 8回　ファッションビジネス知識7：ファッションプロモーション 第 9回　ファッションビジネス知識8：ビジネス基礎知識と計数管理 第10回　ファッション造形知識1：ファッション文化 第11回　ファッション造形知識2：ファッションコーディネーションの基礎知識 第12回　ファッション造形知識3：ファッション商品知識ー服種・アイテム 第13回　ファッション造形知識4：ファッションデザインの定義と特性 第14回　ファッション造形知識5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（70%）＋　授業での活動内容（30%）		

授業科目	**卒業研究B**	担当者	坂上　ちえ子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 学生自らが設定した衣生活に関わる課題について，分析・研究し，成果をまとめる。 【概要】 前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに，それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに，卒業研究発表会において，それらの研究成果を発表する。 【到達目標】 まず，衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし，問題を解明するに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに，研究成果を文書にまとめることと，効果的な発表方法を身につけることを目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適宜配布 (2)　適宜紹介		
授業スケジュール	第1回　オリエンテーション 第2～　10回　卒業研究のための基礎知識1：文献購読 第11～　12回　卒業研究のための基礎知識2：研究手法の検討・理解 第13～　15回　卒業研究のための基礎知識3：テーマ設定と文献・情報収集 第16～　23回　卒業研究1：各自の調査・研究・考察 第24～　27回　卒業研究2：論文作成 第28～　30回　卒業研究3：発表準備，練習		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	卒業研究成果（60%）＋　研究発表（20%）＋ 授業での取り組み内容（20%）		

授業科目	**ビジュアルデザイン基礎Ⅰ**	担当者	北　一浩
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。 【概要】グラフィックデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。 【到達目標】今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組むにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。 ※本講座の受講生は「ビジュアルデザイン基礎Ⅱ」を必ず受講してください。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2)　参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　Illustrator 基本操作 1　オブジェクトの作成、線・塗りの設定 第 3回　実践課題 1　幾何形態色彩構成 第 4回　〃 第 5回　Illustrator 基本操作 3　パスの基本知識、ベジェ曲線 第 6回　実践課題 2　ピクトグラム 第 7回　〃 第 8回　Illustrator 基本操作 4　文字入力、フォント、文字のアウトライン化 第 9回　実践課題 3　タイポグラフィー構成 第 10 回　〃 第 11 回　応用課題 1　名刺のデザイン 第 12 回　〃 第 13 回　応用課題 2　ポスターのデザイン 第 14 回　〃 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題（50%）　プレゼンテーション（50%）		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務　フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動		

授業科目	**ビジュアルデザイン基礎Ⅱ**	担当者	上笹貫　鷹暁
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。 【概要】課題制作を通じて、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な操作方法及び、制作の流れ、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。 【到達目標】基礎的なソフトウェアの操作方法と、デザインワークにおける考え方を身につけ、発想力と表現力の向上を目標とする。 ※「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ」の履修をすること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2)　適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　Illustrator の基本操作1　オブジェクトの作成、線・塗りの設定 第 3回　実践演習1　シンボルマーク 第 4回　〃 第 5回　Illustrator の基本操作2　パスの基礎知識、ベジェ曲線 第 6回　実践課題2　地図を描く 第 7回　〃 第 8回　Illustrator の基本操作3　文字入力、フォント、文字のアウトライン化 第 9回　実践課題3　ロゴタイプ 第 10 回　〃 第 11 回　応用課題1　ショップカードのデザイン 第 12 回　〃 第 13 回　応用課題2　本の表紙のデザイン 第 14 回　〃 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	課題提出（50%）　プレゼンテーション（50%）		
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務		

授業科目	**ビジュアルデザイン論Ⅱ**	担当者	上笹貫　鷹暁
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】ビジュアルデザインの基礎的な知識と考え方を学ぶ。 【概要】デザインワークを行う上で習得すべき知識を学び、美感を養う。制作工程などにも触れ、実践的な教養を身につける。 【到達目標】現代におけるビジュアルデザインについて概観できる視野を身につけ、デザインワークで必須となる思考力と美的感覚を習得する。 ※本講座は「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」の受講生のみを対象とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜、プリントを配布する。 (2)　適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　デザインとは　（役割、目的、ターゲット、効果的に伝える） 第 3回　レイアウトの法則　（整列、反復、近接、対比、黄金比、三分の一の法則） 第 4回　文字の法則　（書体、文字組、タイポグラフィ） 第 5回　カラーの法則　（基本法則、カラーとイメージ、トーン、配色） 第 6回　図表とイラスト　（ダイアグラム、ピクトグラム、タッチ） 第 7回　印刷表現　（種類、色、紙、製本、加工、断裁、DTP） 第 8回　写真表現　（構図、トリミング、レイアウト） 第 9回　映像表現　（構図、カメラワーク、照明、編集） 第10回　Web　（基本構造、制作工程、UIデザイン） 第11回　ロゴとブランディング 第12回　広告デザイン 第13回　パッケージデザイン 第14回　鹿児島とデザイン 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	プレゼンテーション（70%）　提出課題（30%）		
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務		

授業科目	**ビジュアルデザインⅠ**	担当者	北　一浩・上笹貫　鷹暁
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。 【概要】ビジュアルデザイン論Ⅰ・Ⅱ、ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱからの関連科目として， コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。 【到達目標】これまで学習した技術や概念を，コンピューターを使用して実媒体へと応用する。 ※本講座は「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」の受講生のみを対象とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2)　参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1-2回　オリエンテーション 第 3-4回　ポスターデザイン　公共問題をテーマとしたポスター制作 第 5-6回　〃 第 7-8回　〃 第 9-10回　パッケージデザイン　実際に使用されているパッケージのリデザイン 第11-12回　〃 第13-14回　〃 第15-16回　ブックカバーデザイン　本学大学案内の表紙のデザイン 第17-18回　〃 第19-20回　〃 第21-22回　ポートフォリオ制作　各自のこれまでの作品をまとめたポートフォリオの制作 第23-24回　〃 第25-26回　〃 第27-28回　〃 第29-30回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題（60%）　プレゼンテーション（40%）		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務　フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動		

授業科目	ビジュアルデザインⅡ	担当者	北　一浩
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。 【概要】ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。 【到達目標】実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。 ※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2)　参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション 第 2回　プロジェクト課題　内容は年度ごとに異なるが、主にはブランディングデザインなどを行う。 第 3回　〃 第 4回　〃 第 5回　〃 第 6回　〃 第 7回　〃 第 8回　〃 第 9回　〃 第10回　〃 第11回　自由課題　各自テーマを設定しデザインを行う 第12回　〃 第13回　〃 第14回　〃 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	提出課題（60%）　プレゼンテーション（40%）		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務　フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動		

授業科目	卒業研究C	担当者	北　一浩
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】ビジュアルデザインに関連した分野の研究。 【概要】ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。 【到達目標】研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。適宜，プリントを配布する。 (2)　参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1-2回　オリエンテーション 第 3-4回　以下スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。 第 5-6回　随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。 第 7-8回 第 9-10回 第11-12回 第13-14回 第15-16回 第17-18回 第19-20回 第21-22回 第23-24回 第25-26回 第27-28回 第29-30回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	研究成果（50%）　プレゼンテーション（25%）　研究態度（25%）		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務　フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動		

授業科目	**住居史**	担当者	川島　茂
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】社会の要請に呼応する建築の変遷について、西洋様式建築、近代建築を概観し、現代建築の将来展望を考える。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。 【概要】西洋様式建築から近代建築へと展開される時代背景と社会の要請、理念の変遷を開設しつつ、建築に求められ、必要とされるものを考察しつつ、現代建築のあり方を考える。 【到達目標】西洋様式建築、近代建築の理念と空間を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　高宮眞介・飯田義彦 著「高宮眞介 建築意匠講義 西洋の建築家 100 人とその作品を巡る」アーキシップ叢書 (2)　矢代眞己・田所辰之助・濱嵜良実 著「20 世紀の空間デザイン」彰国社		
授業スケジュール	第 1 回　ガイダンス　歴史を学ぶことの意味 第 2 回　西洋様式建築の全体像　西洋様式建築について 第 3 回　幾何学の明晰性-1　–ルネサンス– 第 4 回　幾何学の明晰性-2　–ルネサンス– 第 5 回　幾何学の明晰性-3　–ルネサンス– 第 6 回　手法の多義性-1　–マニエリスム– 第 7 回　手法の多義性-2　–マニエリスム– 第 8 回　均整のプロポーション-1　–パラーディオの建築– 第 9 回　均整のプロポーション-2　–パラーディオの建築– 第 10 回　空間のダイナミズム　–バロック– 第 11 回　崇高の自律性とピクチャレスクの他律性　–新古典主義– 第 12 回　新素材と新技術　–近代の萌芽– 第 13 回　思想の改革と運動の理念　–近代合理主義– 第 14 回　インターナショナルスタイルとナショナリズム 第 15 回　表層・深層・透層　–モダニズムの終焉–		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート（100%）		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	**住居・インテリア設計学**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】建築空間を構成する様々な構成要素や表現方法について理解し，身近な生活空間について考える。		
	【概要】建築空間を表現するための手段，図面の役割について理解するとともに，建築内外を構成する様々な要素についてのスケール感覚を身につける。また，商業施設や街の空間構成について理解し，多様な都市生活環境について学ぶ。		
	【到達目標】建築とインテリアについての理解が深まるとともに，暮らしを取り巻く住環境について幅広い視点で捉えることができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　大塚篤『カタチから考える住宅発想法』彰国社 (2)　宮後浩『なぞっておぼえる遠近法 スケッチパース インテリア編』秀和システム		
授業スケジュール	第 1 回　はじめに　建築とインテリアの基礎知識 第 2 回　住居の平面構成　暮らしと間取り 第 3 回　図面表現　平面図，立面図，断面図，透視図① 第 4 回　〃　透視図② 第 5 回　住空間の寸法　単位空間の事例研究 第 6 回　〃　家具・設備の事例研究 第 7 回　間取りプランニング　所要室の配置と規模 第 8 回　〃　集合住宅 第 9 回　〃　戸建平屋 第 10 回　〃　戸建複層 第 11 回　商業施設のデザイン　事例研究 第 12 回　〃　発表・ディスカッション 第 13 回　街と公共空間のデザイン　事例研究 第 14 回　〃　発表・ディスカッション 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業課題（50%），宿題（20%），発表・レポート（30%）		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務，都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目，教職必修

授業科目	**設計製図Ⅰ**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】建築設計製図の基本的事項について理解し，図面・模型製作を通じ建築物を平面的・立体的に把握する能力を養う。建築士を目指す学生を主体とした授業構成となっている。		
	【概要】基礎的な簡易住宅を題材として模型と図面を製作する。徐々に難易度や密度を上げ，住宅を構成する様々な単位空間についての理解を深める。		
	【到達目標】基本的ルールに則った建築図面の作成ができ，住空間を平面的・立体的に理解し図面や模型を用いて空間を表現することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　小杉学『模型づくりからはじめる建築製図の基礎』彰国社 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』丸善		
授業スケジュール	第 1 回　はじめに　設計製図の基礎知識 第 2 回　製図と模型の基礎　模型作成の手順（立体A） 第 3 回　〃　平行定規の使用法（立体B・C） 第 4 回　〃　製図道具の使用法（住宅A） 第 5 回　〃　平面図・立面図・断面図の理解（住宅A） 第 6 回　〃　縮尺と寸法の理解（住宅B） 第 7 回　〃　平面図・立面図・断面図の作成（住宅B） 第 8 回　設計課題：４つの空間住宅　課題説明 第 9 回　〃　スタディ模型 第 10 回　〃　スタディ模型 第 11 回　〃　模型作成 第 12 回　〃　模型作成・模型写真撮影 第 13 回　〃　図面作成（平面図） 第 14 回　〃　図面作成（立面・断面図） 第 15 回　〃　プレゼンテーション		
授業外学習(習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業課題・プレゼンテーション（100%）		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務，都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	**設計製図Ⅱ**	担当者	川島　茂
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】設計の実践により、空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創出する。 【概要】個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせ、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。 【到達目標】居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善 (2)　本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス　課題出題 第 2回　住宅の設計-1条件の整理と敷地及び周辺環境の把握 第 3回　住宅の設計-2配置計画、諸機能の構成と動線計画 第 4回　住宅の設計-3平面計画 第 5回　住宅の設計-4断面、立面計画、外構計画 第 6回　住宅の設計-5ダイヤグラム、模型、プレゼンテーション 第 7回　住宅の設計-6提出、評価 第 8回　住宅の設計-7講評、課題出題 第 9回　ギャラリーの設計-1　条件の整理と敷地及び周辺環境の把握 第10回　ギャラリーの設計-2　配置計画、諸機能の構成と動線計画 第11回　ギャラリーの設計-3　平面計画 第12回　ギャラリーの設計-4　断面、立面計画、外構計画 第13回　ギャラリーの設計-5　ダイヤグラム、模型、プレゼンテーション 第14回　ギャラリーの設計-6　提出、評価 第15回　ギャラリーの設計-7　講評		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	課題（100%）		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目，教職必修

授業科目	**住居構造学Ⅰ**	担当者	田島　康弘
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。 【概要】建物にはたらく力、木質構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する構造体について学ぶ。 【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　浅野清昭著、『図説　やさしい構造力学』、学芸出版社 (2)　浅野清昭著、『図説　やさしい構造設計』、学芸出版社		
授業スケジュール	第 1回　構造設計という仕事 第 2回　建物にかかる様々な荷重 第 3回　木質構造1　特徴と材料 第 4回　木質構造2　軸組構法（在来工法）と枠組壁構法（2×4工法） 第 5回　木質構造3　現場見学　他 第 6回　鉄骨構造1　特徴と材料 第 7回　鉄骨構造2　建物ができるまで 第 8回　鉄骨構造3　現場見学　他 第 9回　鉄筋コンクリート構造1　特徴と材料 第10回　鉄筋コンクリート構造2　建物ができるまで 第11回　鉄筋コンクリート構造3　現場見学　他 第12回　基礎構造とその他の構造形式　（プレストレストコンクリート構造　他） 第13回　主要構造部材　（屋根、壁、床、天井、階段　他） 第14回　耐震設計　（地震に強い建物） 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート（80%）および授業での発言質問とその内容（20%）		
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

授業科目	**住居構造学Ⅱ**	担当者	田島　康弘
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。 【概要】住居構造学Ⅱ では、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、構造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。 【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　浅野清昭著、『やさしい建築構造力学　演習問題集』、学芸出版社 (2)　浅野清昭著、『図説　建築構造力学』、学芸出版社		
授業スケジュール	第 1回　建物の模型を作ろう1 第 2回　建物の模型を作ろう2 第 3回　力のモーメント（模型による演習含む） 第 4回　力のつりあい（模型による演習含む） 第 5回　構造物の支点（ローラー・ピン・固定） 第 6回　反力の求め方 第 7回　片持ばりに生じる力 第 8回　単純ばりに生じる力 第 9回　門型ラーメンに生じる力 第10回　トラスに生じる力 第11回　断面の性質（断面1次モーメント、断面2次モーメント、他） 第12回　部材に生じる応力度 第13回　片持ばり、単純ばりの変形 第14回　建築物の設計への応用 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（復習）		
成績評価の方法	レポート（80%）および授業での発言質問とその内容（20%）		
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。		

（注）二級建築士（木造建築士）受験資格取得必修科目

授業科目	**住居環境学**	担当者	曽我　和弘
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画 【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには，建築環境（光・熱・空気・音環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では，適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法，さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。 【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)		
授業スケジュール	第 1回　建築と自然環境：建築と自然環境の関わり、自然環境に適応した建築 第 2回　光環境計画１：日照、日照時間、日影曲線、日影図、日影時間図 第 3回　光環境計画２：日射、太陽位置、日射量の計算、太陽エネルギー利用設備 第 4回　光環境計画３：採光、照明、視覚、測光量、昼光率、照明方式、室内照度の計算 第 5回　光環境計画４：光束法による照明計算、照明設備計画 第 6回　熱環境計画１：熱力学の第二法則、定常伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射 第 7回　熱環境計画２：熱貫流率の計算、平均熱貫流率の計算 第 8回　熱環境計画３：住まいと結露、結露判定の計算 第 9回　熱環境計画４：温熱環境、代謝量、着衣量、PMV、局所不快感、温熱環境の基準、空調設備計画 第 10 回　空気環境計画１：室内空気汚染、自然換気（温度差換気、風力換気）、機械換気 第 11 回　空気環境計画２：室内ガス濃度、ザイデル式、必要換気量の計算 第 12 回　空気環境計画３：機械換気設備、換気設備計画 第 13 回　音環境計画１：音の強さ、音圧レベル、周波数補正、騒音レベル、音圧レベルの計算 第 14 回　音環境計画２：騒音の防止、遮音、音響透過損失、コインシデンス効果、質量測、床衝撃音、吸音材料 第 15 回　音環境計画３：室内音響計画、直接音、反射音、音響障害、残響時間、残響式、最適残響時間		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（80%）とレポート（20%）で評価する。		

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	**住居環境学演習**	担当者	曽我　和弘
	〔履修年次〕	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の測定 【概要】居住環境の物理環境（光・熱・空気・音環境）の測定を行い，測定データに基づいて，居住環境の快適性や健康性の評価を行う。測定を通して物理環境の測定法を修得すると同時に，データ処理にはパソコンの表計算ソフトなどを活用しパソコンの利用技術を養う。また，気候と住居形態に関する調査を通して，環境にやさしい住居に対する理解を深める。 【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な測定・評価方法を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院 (2)		
授業スケジュール	第 1回　クリモグラフの作成と気候に適した住居形態調査 第 2回　日影図の作成と日照環境の評価 第 3回　教室の照度分布測定と評価 第 4回　教室の昼光率分布測定と評価 第 5回　室内照明計算 第 6回　定常伝熱計算 第 7回　壁体の温度測定 第 8回　温熱環境の測定 第 9回　温熱環境の分析と評価 第 10 回　室内ガス濃度の測定 第 11 回　室内ガス濃度の分析と評価 第 12 回　必要換気量の計算 第 13 回　室内騒音の測定 第 14 回　交通騒音の測定 第 15 回　騒音の分析と評価		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度，レポートの内容及び発表内容を総合的に評価する。		

（注）二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	**建築材料学**	担当者	迫田　順一
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】　住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質 【概要】　どのような材料がどの様な特質を持ち，どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ 【到達目標】講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上げ工事の関係について工種毎に理解することを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　松本進　「図説　やさしい建築材料」　学芸出版社 (2)　建築学会篇　「建築材料用教材」　彰国社		
授業スケジュール	第 1回　構法と建築材料 第 2回　主要構造部材と仕上げ材 第 3回　木材1　特性 第 4回　木材2　用法 第 5回　木材3　種類 第 6回　コンクリート1　特性 第 7回　コンクリート2　配合と強度 第 8回　コンクリート3　製作 第 9回　鋼材1　鉄筋 第10回　鋼材2　鉄骨と接合 第11回　その他の主要材料（石・左官・ガラス・建具） 第12回　材料の力学（曲がりにくさ） 第13回　環境にやさしい建築材料 第14回　材料の積算 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜対応（要予約）		
成績評価の方法	筆記試験		
実務経験について	建築設計並びに工事監理		

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	**建築生産**	担当者	迫田　順一
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】　各種建築構造方式の生産過程について学ぶ 【概要】　住居を中心にした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。 【到達目標】講義では建築の各種構造方式の施工手順について、工種と工程に沿って理解することを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　今村仁美、田中美都　『図説　やさしい建築一般構造』　学芸出版社 (2)　久富洋、古澤忠正　『図説　建築施工入門』　彰国社		
授業スケジュール	第 1回　構法と施工過程 第 2回　木構造と木工事 第 3回　鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事 第 4回　鉄骨構造　その他の構造 第 5回　建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事 第 6回　施工計画と種々の管理 第 7回　契約と実行 第 8回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜対応（要予約）		
成績評価の方法	筆記試験		
実務経験について	建築設計並びに工事監理		

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	**建築法規**	担当者	非常勤未定
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 住まいをはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための基本的なルールを定めた建築基準法について学ぶ。		
	【概要】建築物は，人間の生活や社会活動の基盤であり，安全性や快適性等を確保するための最低基準である建築基準法に適合させる必要がある。建築物の構造安全性，防火・避難，室内環境，まちづくりなどに関する基準を定めた建築基準法について，解説する。		
	【到達目標】 建築物，特に住宅を建築する際に必要な建築法規の基礎を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　基準法を考える設計者の会『いちばんやさしい建築基準法 改訂版』新星出版社 (2)　適宜関連資料を配布		
授業スケジュール	第 1 回　建築基準法は何のために　・建築基準法の目的と構成，法規を理解するための用語 第 2 回　ともに地域で生活していくために①　・集団規定①（道路、用途制限、容積率、建ぺい率） 第 3 回　ともに地域で生活していくために②　・集団規定②（高さ制限、まちづくり制度） 第 4 回　火災や災害から人命や財産を守るために　・防火規定 第 5 回　火災や災害時に安全に避難するために　・避難規定 第 6 回　安全な構造を維持するために　・構造安全規定 第 7 回　よりよい住環境のために　・一般構造規定（採光、換気、衛生、階段等） 第 8 回　法が守られるために　・制度規定		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（70%）、ミニテスト（30%）		

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	**CAD設計**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】CAD ソフトや建築プレゼンテーションに関連する様々なソフトの基本的操作・建築図面作成手順，作品表現方法について学ぶ。		
	【概要】２次元 CAD（Vectorworks），３次元 CAD（SketchUp），画像編集（Photoshop）の他，多様な関連ソフトを体験する。		
	【到達目標】CAD ソフトの操作法を習得し，基礎的な建築図面を作成できる。また，関連する多様なソフトの体験を通じ，プレゼンテーションスキルの幅が広がる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に指示 (2)　鳥谷部真『徹底解説 VECTORWORKS』エクスナレッジ，ObraClub『優しく学ぶ SketchUp』エクスナレッジ		
授業スケジュール	第 1 回　はじめに　CAD について，関連ソフト・周辺機器について 第 2 回　2 次元 CAD　Vectorworks 基本操作 第 3 回　〃　〃 第 4 回　〃　Vectorworks：図面作成 第 5 回　〃　〃 第 6 回　〃　Vectorworks：地図・地形図 第 7 回　〃　Vectorworks：立体図 第 8 回　3 次元 CAD　SketchUp 作図課題 第 9 回　〃　〃 第 10 回　〃　SketchUp 応用課題 第 11 回　〃　〃 第 12 回　〃　〃 第 13 回　画像編集　Photoshop 第 14 回　関連ソフトの理解　iMovie，Illustrator，GoogleEarth 等 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業内課題（100%）		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務，都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	**建築史**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本及び世界の建築・都市の成り立ちや構成について学び，身近な都市空間に存在する建築物や街並みの構成原理について考える。		
	【概要】ヨーロッパ，アフリカ，中東，アジアの他，日本の都市空間や建築物について学ぶ。		
	【到達目標】世界各地の建築・都市文化の概要について理解するとともに，身近な地域においてもその土地に根ざした建築・都市の成立背景や空間構成について意識することができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に指示 (2)　西村幸夫『都市空間の構想力』学芸出版社，西田雅嗣『建築の歴史』学芸出版社		
授業スケジュール	第 1 回　はじめに　鹿児島の都市と建築 第 2 回　西洋建築史　古代建築 第 3 回　〃　中世建築 第 4 回　〃　近世建築 第 5 回　日本建築史　古代建築 第 6 回　〃　中世建築 第 7 回　〃　近世建築 第 8 回　西洋・日本建築史　近代建築 第 9 回　世界の都市の歴史　アメリカ，ヨーロッパ 第 10 回　〃　日本，アジア 第 11 回　〃　中東，アフリカ 第 12 回　世界の都市の公共空間　市場，カフェ，商店街 第 13 回　〃　広場，浴場，宗教施設 第 14 回　イスラーム地域の都市文化　トルコ・イラン・エジプト 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業内課題・レポート（100%）		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務，都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

（注）二級建築士（木造建築士）免許登録時の要実務経験年数を１年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	**ＣＡＤ設計特講**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】「CAD 設計」で習得した作図スキルを応用的に使用する課題に取り組む。本科目は設計製図Ⅲと連動したカリキュラムとなっている。		
	【概要】前半は CAD 関連ソフトを用いた応用的に使用する課題に取り組み，後期は二級建築士が設計可能な建築図面の作成課題に取り組む。		
	【到達目標】CAD 及び関連ソフトを複合的に使いこなし，建築物や周辺環境，都市空間について図面等多様な手法を用いて表現することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に指示 (2)　総合資格学院『2 級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格		
授業スケジュール	第 1 回　はじめに　CAD ソフトとプレゼン関連機器について 第 2 回　CAD と地図データ　地理院地図，GoogleEarth，ゼンリン地図 第 3 回　3DCAD と立体地形　SketchUp 第 4 回　3DCAD と街並み再現　SketchUp 第 5 回　CAD とプレゼンソフト　Vectorworks，Photoshop，その他 第 6 回　CAD とプレゼンソフト　Vectorworks，iMovie 第 7 回　課題１：平面図　Vectorworks 第 8 回　〃　〃 第 9 回　課題２：立面図・断面図　〃 第 10 回　〃　〃 第 11 回　課題３：矩計図　〃 第 12 回　〃　〃 第 13 回　課題４：地域分析図　〃 第 14 回　〃　〃 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	演習課題の発表・提出（100%）		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務，都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

（注）二級建築士（木造建築士）免許登録時の要実務経験年数を１年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	**設計製図Ⅲ**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】二級建築士が設計可能な建築物の建築計画，設計手順，図面作成について理解する。本科目はCAD設計特講と連動したカリキュラムとなっている。		
	【概要】店舗併用住宅や小規模公共施設等の設計課題に取り組み，課題文の読解，エスキス方法，要求図面について学ぶ。		
	【到達目標】二級建築士製図の構成・手順・図面作成方法について理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　総合資格学院『2級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格 (2)　日建学院教材研究会『2級建築士設計製図試験課題対策集』日建資料研究社		
授業スケジュール	第 1 回　はじめに　建築士資格と試験，課題文の理解，例題 第 2 回　エスキス課題1：木造　専用住宅 第 3 回　エスキス課題2：木造　店舗併用住宅 第 4 回　エスキス課題3：木造　〃 第 5 回　エスキス課題4：鉄骨造　小規模な公共施設 第 6 回　エスキス課題5：RC造　〃 第 7 回　作図課題1：木造　店舗併用住宅：平面図 第 8 回　〃　〃 第 9 回　作図課題2：木造　店舗併用住宅：立面図 第 10 回　〃　店舗併用住宅：断面図 第 11 回　作図課題3：木造　矩計図 第 12 回　〃　矩計図 第 13 回　課題：軸組在来工法の理解　軸組模型 第 14 回　〃　軸組模型 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	演習課題の提出（100%）		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務，都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

（注）二級建築士（木造建築士）免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	**設計製図Ⅳ**	担当者	宍戸　克実
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　通年　〔単位〕　4単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】二級建築士が設計可能な規模の建築物を対象とした研究・設計課題に取り組むとともに，地域に根ざした建築や都市の空間構成・形成過程について考え，地域課題の解決を目指した設計提案を試みる。		
	【概要】本科目は通年科目である。前期は課題として設定した地域・建築の既存情報を整理し，図面等の資料を製作してプレゼンテーションする。後期は，前期の成果をもとに地域の課題と向き合い，建築・都市的アプローチによる提案を試みる。		
	【到達目標】地域における建築・都市的課題や魅力を踏まえた建築設計について理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に指示 (2)　日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善，西村幸夫『まちの見方・調べ方』朝倉書店		
授業スケジュール	【前期】 第 1 回～第 3 回　課題1：建築及び都市研究・製作　事例研究，資料調査，現地調査 第 4 回～第 6 回　〃　地域分析・ディスカッション 第 7 回～第 9 回　〃　地域模型の作成 第 10 回～第 12 回　〃　プレゼン図の作成・発表 第 13 回～第 15 回　〃　各自の研究・制作対象地の調査・研究 【後期】 第 16 回～第 21 回　課題2：建築及び都市研究・製作　構想検討 第 22 回～第 27 回　〃　〃 第 28 回～第 33 回　〃　発表・ディスカッション 第 34 回～第 39 回　〃　都市構成図，地域構成図作成 第 40 回～第 45 回　〃　平面図，立面図，断面図，その他図版 第 46 回～第 51 回　〃　模型・プレゼン資料作成 第 52 回～第 57 回　〃　発表資料，プレゼンボード 第 59 回～第 60 回　〃　要旨・発表・論文提出		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	前期課題の発表・提出（30%），後期課題の発表・提出（70%）		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務，都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

（注）二級建築士（木造建築士）免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	**空間デザイン論**	担当者	川島　茂
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】空間デザインの事例分析等を通して設計手法とプレゼンテーションを学習する。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅰ」を必ず受講してください。 【概要】建築、インテリア等の実例を示し、そこにある設計主旨、理念またプレゼンテーション手法を解説しつつ、学生自身の設計作品への水平展開を目指しつつ、プレゼンテーションを実施する。 【到達目標】空間デザインにおける設計主旨、理念を学生自らが発案し、適切な表現でプレゼンテーションができるとともに他者作品についても意見を持てるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社 (2)　適宜紹介		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス　空間デザインにもとめられるもの 第 2回　空間のテーマ　コンセプトとは 第 3回　図面と表現　図面表現について 第 4回　平面図-1　平面図とは 第 5回　平面図-2　平面図演習 第 6回　断面図　平面から立体へ 第 7回　立体図-1　アクソメ図とアイソメ図 第 8回　立体図-2　透視図の原理と図法 第 9回　立体図-3　立体図によるプレゼンテーション 第10回　表現ツールとしてのCAD　操作演習 第11回　住空間のコンセプト　狭小住宅課題 第12回　住空間の計画　狭小住宅課題 第13回　美術空間について-1　日本の美術館 第14回　美術空間について-2　世界の美術館 第15回　まとめ・講評		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	課題（100%）		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		

授業科目	**空間デザインⅠ**	担当者	川島　茂
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】空間創出に対する多様な発想と理念の強化。 ※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。 【概要】公募されている学生コンペ参加を通して、コンセプトの立案から計画、プレゼンテーションまでをグループでまとめ、協業で課題制作に取り組む。 【到達目標】課題に対する多様アイデアを発案しながら、それぞれの空間理念を強化、他者の考えを吸収しひとつの提案へとまとめるための調整力を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　日本建築学会編 「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善 (2)　本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス　アイデアコンペについて 第 2回　コンペの選定　アイデアコンペに求められるもの 第 3回　コンセプトの立案-1　アイデアの発案-1 第 4回　コンセプトの立案-2　アイデアの発案-2 第 5回　コンセプトの立案-3　アイデアの発案-3 第 6回　計画案の立案-1　計画案のゾーニング 第 7回　計画案の立案-2　計画案のプランニング 第 8回　計画案の立案-3　計画案の立体 第 9回　中間講評-1　コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1 第10回　中間講評-2　コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2 第11回　計画案の再考　計画案のまとめ・模型作成 第12回　プレゼシート作成-1　プレゼシートレイアウトと模型作成 第13回　プレゼシート作成-2　プレゼシートレイアウトと模型写真撮影 第14回　プレゼシート作成-3　プレゼシート仕上げ 第15回　講評		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	課題（100%）		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		

授業科目	**空間デザインⅡ**	担当者	川島　茂
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】空間デザインにより発信するメッセージをクリアに伝えるプレゼンテーション力の強化。 ※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。 【概要】設計製図Ⅰ、Ⅱで制作した課題作品を、それまで習得した表現を駆使し、ポートフォリオにまとめる。 【到達目標】プレゼンテーション力の実践的総合化を達成する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社 (2)		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス　プレゼンテーションとは 第 2回　プレゼンテーション準備　フォーマットの作成 第 3回　プレゼンテーション-1　狭小住宅課題のコンセプトとダイヤグラム-1 第 4回　プレゼンテーション-2　狭小住宅課題のコンセプトとダイヤグラム-2 第 5回　プレゼンテーション-3　狭小住宅課題の図面表現 第 6回　プレゼンテーション-4　住宅課題のコンセプトとダイヤグラム-1 第 7回　プレゼンテーション-5　住宅課題のコンセプトとダイヤグラム-2 第 8回　プレゼンテーション-6　住宅課題の図面表現 第 9回　プレゼンテーション-7　ギャラリー課題のコンセプトとダイヤグラム-1 第10回　プレゼンテーション-8　ギャラリー課題のコンセプトとダイヤグラム-2 第11回　プレゼンテーション-9　ギャラリー課題の図面表現 第12回　プレゼンテーション-10　模型写真 第13回　プレゼンテーション-11　レイアウト-1 第14回　プレゼンテーション-12　レイアウト-2 第15回　まとめ・レポート出題		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	課題（100%）		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		

授業科目	**卒業研究D**	担当者	川島　茂
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　通年　〔単位〕　4　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】建築、インテリアデザイン分野の研究と設計。指導教員と相談のうえ、各自が自由なテーマを設定する。 ただし、テーマは現代社会が直面する計画課題とし、諸問題に対応するものことが求められる。 【概要】ゼミでは個人指導、ディスカッションを重ね、研究および設計テーマを設定しつつ、充分な調査、考察に基づいたうえ、具体的な設計に展開する。 【到達目標】将来的に建築、インテリアデザイン分野に取り組むための基本的な視点を習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)　研究及び設計のテーマに沿った参考文献を適宜指示する。		
授業スケジュール	第 1回　卒業研究・設計課題：研究と作品制作の進め方 第 2回　～第5回　卒業研究・設計課題：研究・設計のテーマの検討と設定 第 6回　～第12回　卒業研究・設計課題：文献、資料収集及び考察、計画条件の設定 第 13回　～第22回　卒業研究・設計課題：エスキス、設計 第 23回　～第29回　卒業研究・設計課題：プレゼンテーションシートの作成 第 30回　卒業研究・設計課題：発表		
授業外学習(予習・復習)	ゼミでは適当な指導を受けられるよう、自らの構想や提案を表現する図面、スケッチ、スタディ模型等を用意する等、十分な準備を求める。		
成績評価の方法	研究および設計の取り組み方、成果物の総合評価とする。		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		

10　第一部商経学科の専攻間で共通する科目
（専門基礎科目）

授業科目	**情報社会論（隔年開講）**	担当者	岩松　マミ
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】メディア（新聞）から地域社会の課題を探る 【概要】将来、地域社会に貢献したいと思っている人、でも具体的に自分が何ができるだろうかと悩んでいる人もいると思います。この授業では新聞を活用し、自分にとって興味のある記事から地域社会の変化や新たな課題を読み解いてみたいと思います 【到達目標】ＳＮＳなど多様なメディアを比較し、情報社会で必要なメディアリテラシーを身につける。授業では新聞スクラップや新聞投稿にチャレンジしてもらいます。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　新聞を使用し、教員が作成したプリントも配布します。 (2)　妹尾彰・福田徹「新聞を知る新聞で学ぶ」晩成書房　陸奥賢「まわしよみ新聞をつくろう！」創元社　その他		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（新聞記者の仕事紹介、新聞の読み方、メディアの中の新聞について） 第 2回　新聞にふれる―「まわしよみ新聞」を作る。他者の意見に耳を傾ける。 第 3回　多様な視点を学ぶ―賛否ある記事から討論 第 4回　メディアの違いを知る―新聞各紙のコラム、記事の読み比べ 第 5回　メディアの違いを知る―ＳＮＳなどで知った情報と新聞記事の比較、フェイクニュースについて 第 6回　読者投稿から―論理的な文章の書き方を学ぶ。投稿欄を読み、討論 第 7回　読者投稿から―自分の考えを投稿しよう 第 8回　地域の課題を考える―取材ノートから 第 9回　地域の課題を考える―取材ノートから 第10回　インタビューをする―ゲストに話を聞く、質疑応答 第11回　インタビューをする―ゲストに話を聞く、質疑応答 第12回　ゲストのインタビューを記事にする。みだし（主題）をつけ、発表 第13回　新聞記者になる―メディアリテラシー、著作権を学び、記事に書きたいテーマを考える 第14回　新聞記者になる―自分のテーマの記事を書き、みだし（主題）をつけて発表 第15回　振り返りとまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業ごとに実施する課題（７０％）＋レポート（３０％）で評価。		
実務経験について	新聞記者（南日本新聞社編集委員）　前・鹿児島県ＮＩＥ推進協議会事務局長		

授業科目	**現代社会論（隔年開講）**	担当者	山口　祐司
	〔履修年次〕　1、2年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 私たちの社会における「分断」の問題を、「グローバリゼーション」と「新自由主義」という視座から考えていきます。 【概要】 この授業は、現代社会を主として 1970 年代以降の資本主義の調整・発展という切り口からとらえていきます。「グローバリゼーション」（第２～４回）、「新自由主義」（第５～７回）でというキーワードでまず理解の枠組みを整理し、現代社会が直面する大きな問題（第８～１２回）についてそれぞれ検討します。最後に問題の打開の兆し（第１３～１４回）をみていきます。 【到達目標】 現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　講義時に提示		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス、現代社会をとらえる視座：グローバリゼーションと新自由主義 第 2回　グローバリゼーション（1）グローバリゼーションとは何か 第 3回　グローバリゼーション（2）グローバリゼーションと企業 第 4回　グローバリゼーション（3）グローバリゼーションと国・地域 第 5回　新自由主義（1）経済学における自由 第 6回　新自由主義（2）新自由主義とは何か 第 7回　新自由主義（3）新自由主義政策と格差問題 第 8回　現代社会の諸問題（1）民族・宗教をめぐる国際紛争 第 9回　現代社会の諸問題（2）人の移動と排外主義 第10回　現代社会の諸問題（3）疲弊する地域経済 第11回　現代社会の諸問題（4）行き詰まる社会保障システム 第12回　現代社会の諸問題（5）悪化する地球環境問題 第13回　行き詰まりを打開するために（1）所得再分配の模索 第14回　行き詰まりを打開するために（2）世界的に活発化する社会運動 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%）		

授業科目	**社会哲学**	担当者	未定
	〔履修年次〕　1年，2年	授業外対応	
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	**経済学**	担当者	山口　祐司
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。 【概要】 経済とは、経済学の役割（第1～2回)。ミクロ経済学の基礎的理論（第3～7回)。マクロ経済学の基礎理論（第8～14回)。 【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　マンキュー，N・グレゴリー（2014)『マンキュー入門経済学［第2版]』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回　授業ガイダンス、経済とは何か 第 2回　経済学の役割 第 3回　ミクロ経済学の基礎（1）需要と供給 第 4回　ミクロ経済学の基礎（2）価格決定と政府の政策 第 5回　ミクロ経済学の基礎（3）市場の効率性 第 6回　ミクロ経済学の基礎（4）不完全市場 第 7回　ミクロ経済学の基礎（5）ミクロ経済学のまとめ 第 8回　マクロ経済学の基礎（1）ＧＤＰの測定 第 9回　マクロ経済学の基礎（2）インフレーションとデフレーション 第10回　マクロ経済学の基礎（3）経済成長 第11回　マクロ経済学の基礎（4）貯蓄、投資と金融システム 第12回　マクロ経済学の基礎（5）マクロ経済政策の役割 第13回　マクロ経済学の基礎（6）外国貿易 第14回　マクロ経済学の基礎（7）マクロ経済学のまとめ 第15回　全体のまとめ、テスト対策		
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習（テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験（60%)、授業ごとの小論文（40%)		

授業科目	**文化と社会（かごしまと世界）**	担当者	塩地　洋（学長），非常勤講師（未定）
	〔履修年次〕　1，2 年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【目的】 本県の発展に寄与する人材を育てるため，国際感覚を高め，幅広い視点を養成するとともに，鹿児島に関する知識「郷土知」を深め，産業・貿易・観光振興を通じた本県の発展に資することを目的とする。 【テーマと到達目標】 ① グローバルな視点から鹿児島を評価し，海外との交流促進の可能性を学ぶ ② 郷土鹿児島の特徴や強みを再認識し，地域発展に貢献する国際人材を育成する ③ 産業・貿易・観光各分野における本県のポテンシャルを最大限に生かした地域振興を担う国際人材を育成する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　必要に応じて授業中に印刷資料を配布します。 (2)		
授業スケジュール	第 1回　未定 第 2回　未定 第 3回　未定 第 4回　未定 第 5回　未定 第 6回　未定 第 7回　未定 第 8回　未定 第 9回　未定 第10回　未定 第11回　未定 第12回　未定 第13回　未定 第14回　未定 第15回　未定		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	未定		
実務経験について (外部講師)	未定		

授業科目	**消費者問題**	担当者	石窪　奈穂美
	〔履修年次〕　1年，2年　履修可	授業外対応	講義終了時及び適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】「消費者問題を通して考える－自己責任社会における消費者のあり方・役割について」 【概要】規制緩和やグローバル化等，私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し，自己責任社会を迎えています。また，消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら，消費者の権利と責任について理解し，消費者問題を幅広い視点から捉え，問題点や解決策を考えます。その上で，消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。 【到達目標】消費者基本法が制定され，消費者は単なる保護する対象ではなく権利主体であることが明確化され，消費者自らが自立し，「消費者力」を身につけなければならないといわれています。生活者として，消費者として，社会人として，各自の価値システムをどう作り上げていくのか，消費者主権の主体的・合理的な選択，判断能力を養います。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　無し。随時プリント・資料等を配布する。 (2)　講義時に必要な際は紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　講義の目的と進め方，消費者の権利と責任 第 2回　消費者問題と生活問題，現代の生活問題の全体像 第 3回　消費者問題の時代背景とその後への影響 第 4回　悪質商法の現状，若者に多い商法 第 5回　ネット時代の消費者トラブルとその付き合い方 第 6回　消費者と契約，消費者法のしくみ 第 7回　消費者契約法，特定商取引法等 第 8回　クレジットの基礎知識と消費者トラブルの現状 第 9回　食に関する安心・安全の動き，食品表示制度 第10回　食情報との付き合い方，見極め方 第11回　急増する製品事故と法改正 第12回　消費者安全と製造物責任法 第13回　環境・エネルギー問題の捉え方と消費行動 第14回　消費者市民社会の構築，消費者の責任と自覚 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示，復習を重視する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（２０%），提出物（２０%），定期試験（６０%）による総合評価		
実務経験について	企業勤務ならびに企業のアドバイザーとして活動。		

授業科目	**行政法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕　1,2 年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法の基本構造を体系的に把握し，行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。 【概要】周知のとおり，行政法は通則的法典が存在しておらず，そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では，行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則），行政行為，行政立法，行政計画，行政指導，行政契約等の行政の行為形式論，行政上の義務履行確保制度，行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法といった一般法について，国民の権利救済という視点から学習する。 【到達目標】行政法の基本原理，行政の行為形式論，行政上の一般制度，行政救済法について説明できるようになり，行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　佐伯仁志他編，『ポケット六法（令和 3 年度版）』，有斐閣		
授業スケジュール	第 1 回　行政法概論　・行政の定義，法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則について 第 2 回　行政立法　・法規命令，委任命令，執行命令，白紙委任の禁止の原則，行政規則について 第 3 回　行政行為(1)　・公定力，不可争力，不可変更力，執行力，拘束力について 第 4 回　行政行為(2)　・無効の行政行為，取消しうべき行政行為，羈束行為，裁量行為について 第 5 回　行政指導　・規制的行政指導，助成的行政指導，調整的行政指導，要綱行政について 第 6 回　行政上の強制執行制度　・代執行，執行罰，直接強制，行政上の強制徴収，行政サービスの提供拒否について 第 7 回　行政手続法　・申請に対する処分，不利益処分，行政指導，命令等を定める行為の手続について 第 8 回　行政不服申立て　・審査請求，異議申し立て，再審査請求，教示について 第 9 回　行政事件訴訟法(1)　・抗告訴訟，民衆訴訟，義務付け訴訟，差止め訴訟，取消訴訟，事情判決について 第 10 回　行政事件訴訟法(2)　・取消判決の効力，執行不停止の原則，内閣総理大臣の異議，処分性について 第 11 回　行政事件訴訟法(3)　・原告適格，保護に値する利益説，狭義の訴えの利益について 第 12 回　国家賠償法(1)　・代位責任説，自己責任説，公権力の行使の範囲，故意・過失，求償権について 第 13 回　国家賠償法(2)　・公の営造物，人工公物，自然公物，高知落石事件，大東水害事件について 第 14 回　損失補償　・奈良県ため池条例事件，完全補償説，相当補償説，国家補償の谷間について 第 15 回　公物　・公共用物，公用物，自然公物，人工公物，公物の時効取得について		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。		

授業科目	**経済政策**	担当者	岩上　敏秀
	〔履修年次〕　1 年、2 年	授業外対応	いつでも対応します。メール連絡してください。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本および地域経済が抱えるさまざまな課題に対して、どのような政策が必要なのかを考えます。 【概要】経済成長の鈍化と人口減少・少子高齢化の進展によって、これまで経済社会を支えてきたさまざまな制度にひずみが生じ、再構築が迫られています。日本や地域経済が抱えるさまざまな課題を採り上げ、将来に向けた制度設計について考えていきます。 【到達目標】日本および地域経済が抱えている課題に関心を持ち、さまざまな考え方やアプローチを踏まえて、自分自身で考える視点を持ち、自分の意見を説明できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　大守隆編、『日本経済読本　（第 21 版）』、東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1 回　ガイダンス：講義の目的・進め方　序章：経済政策とは何か 第 2 回　日本経済の構造変化と経済政策：　日本はなぜ課題先進国となったのか、どのような経済政策がとられてきたか 第 3 回　経済成長を考える：　経済政策の目的は、短期の経済政策と長期の経済政策 第 4 回　財政再建を考える(1)：　財政の現状は、財政赤字は問題なのか 第 5 回　財政再建を考える(2)：　「社会保障と税の一体改革」とは、「経済・財政一体改革」とは 第 6 回　社会保障と雇用の将来を考える(1)：　社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は 第 7 回　社会保障と雇用の将来を考える(2)：　所得格差は拡大しているのか、非正規雇用の増加、働き方の変化 第 8 回　社会保障と雇用の将来を考える(3)：　ベーシックインカムとは、将来世代に配慮した社会保障とするには 第 9 回　環境の将来を考える(1)：　パリ協定とは、「コモンズの悲劇」とは 第 10 回　環境の将来を考える(2)：　環境問題の解決に有効な経済政策はあるか、環境ビジネスとは 第 11 回　地域経済の将来を考える(1)：　人口減少、地方経済の空洞化、地方財政の状況 第 12 回　地域経済の将来を考える(2)：　地方分権改革とは、道州制とは、大阪都構想が目指したもの 第 13 回　地域経済の将来を考える(3)：　地域経済を支える産業政策、農業の 6 次産業化とは 第 14 回　地域経済の将来を考える(4)：　地域創生のために必要な政策とは 第 15 回　まとめ：期末レポート提出、講義評価アンケート実施		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します		
成績評価の方法	期末レポート（100%）		
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。		

授業科目	**社会政策**	担当者	近間　由幸
	〔履修年次〕　1年,2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 「日本型雇用システム」の下での労働と生活の全体像と社会政策の関係性について 【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置した失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。 【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策〈第3版〉　雇用と社会保障』ミネルヴァ書房 (2)　小熊英二『日本社会のしくみ　雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社現代新書		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション―日本社会の「しくみ」について 第 2回　社会政策とは何か 第 3回　賃金と社会政策 第 4回　企業と労働組合の関係 第 5回　過労死と長時間労働 第 6回　非正規雇用とは何か 第 7回　若者の雇用はどのように変化したのか 第 8回　日本型雇用システムと女性労働者 第 9回　子育てと雇用政策 第10回　高齢者の福祉と雇用 第11回　働けないときにどのような支援があるのか 第12回　雇用保険と生活保護との溝 第13回　欧州の雇用政策（1）ワークフェア、アクティベーション 第14回　欧州の雇用政策（2）移民労働者 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習として教科書ならびに参考文献の該当箇所については読んでおくことが望ましい。初回授業時に該当範囲を提示する。		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%） 筆記試験（70%）		

授業科目	**民法**	担当者	疋田　京子
	〔履修年次〕　1年，2年	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】民法入門 商法や労働法など市場経済の一般法であり、かつ契約や婚姻・親子の関係を規律する市民生活の基本法でもある民法を知る。 【概要】明治29年に制定された日本の「民法」は、今、大きく変わろうとしています。企業間の取引にも、個人の生活上の紛争解決にも適用される民法がどのように変わろうとしているのかを講義します。 【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係として捉え、法的に説得力ある主張ができるようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　授業時に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは 第 2回　民法の基本構造：財産法と家族法 第 3回　法定利率が変わるとどうなる？：強行規定と任意規定 第 4回　法の世界でも「信義誠実」や「善意・悪意」が争点になる：民法の基本原則 第 5回　成人年齢が18歳になると何がどう変わる？：権利の主体の能力 第 6回　父が死んだ後に生まれた子どもに相続権はあるか？：権利能力・意思能力・行為能力 第 7回　権利を濫用する未成年者にどう向き合うか？：制限行為能力者の保護と取引の安全 第 8回　権利の対象とすることができるのは？：権利の客体／物の概念 第 9回　善意の第三者って誰？：物権変動と公示制度 第10回　契約が有効に成立するためには：法律行為の意義と有効要件 第11回　契約どおりにならなかったら？：契約違反とその解決方法 第12回　言い間違い・書き間違いを法は許してくれるか？：意思と表示の不一致と契約の効力 第13回　損害賠償が求められる場合とは：不法行為 第14回　「親子の縁を切る」ことはできるか？：親子関係と相続 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習に重点をおいて、よく理解できなかったところを質問してください。		
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出（80%） 授業ごとのミニレポート（20%）		

授業科目	**商法**	担当者	河野　総史
	〔履修年次〕　1年、2年	授業外対応	講義修了後またはメールにて対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 商法学のうち、会社法の基礎知識 【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　指定しない（レジュメを配布する） (2)　適宜指示する		
授業スケジュール	第 1回　講義ガイダンス　民法と商法 第 2回　会社法総論 第 3回　会社の種類 第 4回　株式①（株式の種類等） 第 5回　株式②（株式の譲渡と譲渡制限） 第 6回　株式③（自己株式・親会社株式取得規制等） 第 7回　株式④（株式併合・分割・無償割当等） 第 8回　資金調達①（会社設立時） 第 9回　資金調達②（募集株式の発行等） 第10回　資金調達③（株式以外の資金調達手段） 第11回　機関①（機関総論） 第12回　機関②（株主総会） 第13回　機関③（取締役・取締役会） 第14回　機関④（監査役・会計参与・会計監査人） 第15回　機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社）　総まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習を徹底して、小テストに備えること		
成績評価の方法	期末テスト80%小テスト20% 全体で60%以上を合格とする		

授業科目	**産業心理学**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕　1, 2年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ 【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが，人間の基本的な特性もとらえることで，コンピュータを始め，システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし，購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験，心理テストなども織り交ぜていく予定である。 【到達目標】商品，システム，労働環境を人間の快適性から評価し，改善を考えることができるようになる。また，購買行動に関わる心理を売り手，買い手の両面から考えることができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布，Web でも公開 (2)　なし		
授業スケジュール	第 1回　概要説明 第 2回　人間とシステムの関わり合い，精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第 3回　記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第 4回　ヒューマンインターフェイス１：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第 5回　ヒューマンインターフェイス２：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第 6回　職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第 7回　仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第 8回　人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係 第 9回　ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例 第10回　広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第11回　購買心理：消費者の購買心理 第12回　販売，印象管理：セールステクニックと印章管理 第13回　人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第14回　こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	通常のレポート２回分が80%，出席・授業中のショートレポートが20%		

授業科目	**会計学総論**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　1，2	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】会計学という学問領域を道案内し，複式簿記会計の基礎力を涵養する 【概要】　本講義を開講する目的はおおよそ次の二つです。 ① 財務会計の基礎知識と複式簿記の仕組みを理解すること ② 会計科目の相互の関連を解説すること 本講義では，商経学科で開講されている簿記会計科目である「簿記論」「財務会計論」「管理会計論」「原価計算」「会計情報論」などの科目群の関係を簡単に紹介するとともに，簿記会計の基礎知識を実践的に学び、基礎力の定着を図ります。 【到達目標】会計学という学問領域の全体像をつかみ，複式簿記会計の基礎を理解すること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（令和３年版），中央経済社。 (2)　神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第６版），同文館出版。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画，会計科目の全体像についての説明 第 2回　会計とはなにか：情報提供活動としての会計 第 3回　複式簿記の基本原理（1）：複式簿記の概要 第 4回　複式簿記の基本原理（2）：取引と仕訳 第 5回　複式簿記の基本原理（3）：仕訳と転記 第 6回　複式簿記の基本原理（4）：仕訳と転記 第 7回　複式簿記の基本原理（5）：決算 第 8回　複式簿記の基本原理（6）：決算 第 9回　グループワーク（1）：複式簿記会計の実践 第10回　グループワーク（2）：複式簿記会計の実践 第11回　財務諸表の読み方（1）：収益性分析 第12回　財務諸表の読み方（2）：安全性分析 第13回　財務諸表監査と会計職業：公認会計士の使命と役割 第14回　納税と会計職業：税理士の使命と役割 第15回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施	会計科目の履修順序（初学者向け） １年前期：**会計学総論** １年後期：簿記論Ⅰ 簿記論Ⅱ 財務会計論 ２年前期：原価計算 会計情報論 ２年後期：管理会計論	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**簿記論Ⅰ**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　1，2	授業外対応	〔履修年次〕
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】商業簿記の基礎Ⅰ 【概要】会計学総論の学習を前提として，日商簿記検定３級レベルの内容を学習します。 【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記し、決算の概要を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（令和３年版），中央経済社。 渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（令和３年版），中央経済社。 (2)　神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第５版補訂版），同文館出版。		
授業スケジュール	第 1回　複式簿記への誘い：講義概要の説明，履修登録の確認 第 2回　簿記の意義としくみ：テキスト第１章 第 3回　仕訳と転記：テキスト第２章 第 4回　仕訳帳と元帳（1）：テキスト第３章 第 5回　仕訳帳と元帳（2）：テキスト第３章 第 6回　グループワーク（1）：ビジネスゲームを使って仕訳と転記を実践する 第 7回　グループワーク（2）：ビジネスゲームを使って仕訳と転記を実践する 第 8回　決算（1）：テキスト第４章 第 9回　決算（2）：テキスト第４章 第10回　グループワーク（3）：ビジネスゲームを使って決算を実践する 第11回　グループワーク（4）：ビジネスゲームを使って決算を実践する 第12回　現金と預金：テキスト第５章 第13回　繰越商品・仕入・売上（1）：テキスト第６章 第14回　繰越商品・仕入・売上（2）：テキスト第６章 第15回　まとめ	会計科目の履修順序（初学者向け） １年前期：会計学総論 １年後期：**簿記論Ⅰ** 簿記論Ⅱ 財務会計論 ２年前期：原価計算 会計情報論 ２年後期：管理会計論	
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**経営学総論**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。 【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。 【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に配布するプリント (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2回　経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第 3回　経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第 4回　企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第 5回　企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第 6回　人と企業との関係について（1）：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。 第 7回　人と企業との関係について（2）：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。 第 8回　人と企業との関係について（3）：消費者の立場から、企業との関係を考える。 第 9回　人と企業との関係について（4）：企業の社会的責任について考える。 第 10 回　日本的経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第 11 回　組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第 12 回　企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。 第 13 回　経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第 14 回　企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は1回目の講義で説明します。		

授業科目	**情報科学概論**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学（ICT）全般の基礎知識を学ぶ 【概要】コンピュータ（ハードウェア，ソフトウェア，周辺機器）やネットワークの仕組みを知り，現代社会においてどのような役割があり，どのような問題点があるかを知る。結果として，効果的かつ適切なＩＴ活用が可能となり，トラブル解決もできるようになる。また，ネットワークを安全に使うためのルール，マナーを学ぶ。また，授業の３分の１程度の時間を使い，ＩＴに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。 【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を８０%以上理解できる　・初心者に対して，パソコンやネットワークの安全，便利な運用に関する簡単なアドバイスができる　・調子の悪いパソコンを直す		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布，Web でも公開 (2)　初心者向け情報関連雑誌		
授業スケジュール	第 1回　概要説明 第 2回　ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割 第 3回　パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割 第 4回　単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量，速度 第 5回　インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み 第 6回　電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法 第 7回　IT セキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策 第 8回　インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方 第 9回　周辺機器１：モニタ，光学ドライブなど周辺機器の役割，仕組み 第 10 回　周辺機器２：プリンタ，ハブ，ルータなど周辺機器の役割，仕組み 第 11 回　クラウド，ビッグデータ，ＩｏＴ：新たなインターネットのトレンドと今後の展開 第 12 回　ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法 第 13 回　スペックの見方：パソコン，周辺機器のスペック（仕様）の見方 第 14 回　インターネットの国際比較：普及率，使用法と地域，国の情勢 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	通常のレポート２回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20%		

授業科目	文書作成実習・経済	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得 【概要】 「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成3級）対策を行い、資格取得を目指す。 【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルの技能の習得） ＊後期から履修する場合は、前期「情報リテラシーⅠ」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) プリント		
授業スケジュール	第 1回 前期の復習 ：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第 2回 検定対策（3級） ：社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野） 第 3回 検定対策（3級） ：課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野） 第 4回 検定対策（3級） ：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野） 第 5回 検定対策（3級） ：企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野） 第 6回 検定対策（3級） ：詫び状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野） 第 7回 検定対策（3級） ：課題文書作成（文書作成3級実技練習問題）、知識問題（共通分野） 第 8回 検定対策（3級） ：文書作成3級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野） 第 9回 検定対策（3級） ：文書作成3級検定模擬問題演習 第10回 Excelデータの利用 ：Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み 第11回 文書の編集 ：いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など） 第12回 稟議書の作成 ：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など） 第13回 報告書の作成 ：課題文書作成（Excelデータ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど） 第14回 議事録の作成 ：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど） 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		
実務経験について	OAインストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師		

（注）経済専攻

授業科目	文書作成実習・経営情報	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕 後期 〔単位〕 1単位 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得 【概要】 「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商PC検定（文書作成3級）対策を行い、資格取得を目指す。 【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商PC検定文書作成3級合格レベルの技能の習得） ＊後期から履修する場合は、前期「情報リテラシーⅠ」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) プリント		
授業スケジュール	第 1回 前期の復習 ：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第 2回 検定対策（3級） ：社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野） 第 3回 検定対策（3級） ：課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野） 第 4回 検定対策（3級） ：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野） 第 5回 検定対策（3級） ：企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野） 第 6回 検定対策（3級） ：詫び状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野） 第 7回 検定対策（3級） ：課題文書作成（文書作成3級実技練習問題）、知識問題（共通分野） 第 8回 検定対策（3級） ：文書作成3級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野） 第 9回 検定対策（3級） ：文書作成3級検定模擬問題演習 第10回 Excelデータの利用 ：Excelデータ（表、グラフ）の文書への取り込み 第11回 文書の編集 ：いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など） 第12回 稟議書の作成 ：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など） 第13回 報告書の作成 ：課題文書作成（Excelデータ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど） 第14回 議事録の作成 ：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど） 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（知識科目20%＋実技科目50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		
実務経験について	OAインストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師		

（注）経営情報専攻

授業科目	**統計学**	担当者	倉重　賢治
	〔履修年次〕　1,2 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ 【概要】 現在，情報技術を有効に活用してデータ収集を行い，そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では，そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。 【到達目標】 ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　木下栄蔵，『入門統計解析』，講談社サイエンティフィク		
授業スケジュール	第 1回　序論：統計学とは 第 2回　データの基本処理：平均値，度数分布 第 3回　データの基本処理：標準正規分布 第 4回　データの基本処理：正規分布 第 5回　データの基本処理：正規分布と偏差値 第 6回　データの基本処理：確率分布 第 7回　統計解析：相関係数 第 8回　統計解析：回帰直線 第 9回　統計解析：カイ２乗検定 第 10 回　統計解析：平均値の推定 第 11 回　統計解析：平均値の検定 第 12 回　統計解析：比率の推定と検定 第 13 回　統計解析：ベイズ統計学 第 14 回　統計解析：分散分析 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**応用文書処理**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕　2 年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら，ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ 【概要】1）　自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に，グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2）　ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し，公開する。 3）　提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い，架空の提案書を作成する。 【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる　・わかりやすいドキュメントを作成する　・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布，Web でも公開 (2)		
授業スケジュール	第 1回　概要説明 第 2回　自己紹介文書作成１：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3回　自己紹介文書作成２：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回　自己紹介文書作成３：写真，図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回　自己紹介文書作成４：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回　ホームページ作成１： HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第 7回　ホームページ作成２：課題設定とページ作成 第 8回　ホームページ作成３：資料収集とページ作成 第 9回　ホームページ作成４：ページ公開 第 10 回　提案書作成１：インターネットによる費用情報検索 第 11 回　提案書作成２：表計算ソフトを使った自動計算書 第 12 回　提案書作成３：プレゼン資料の作成 第 13 回　提案書作成４：仕上げ，データ送信のコツ 第 14 回　提案書作成５：プレゼンと評価 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート（３つの課題 30%＋30%＋40%）		

授業科目	ＰＣデータ活用（経済）	担当者	口脇淳子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。 【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2016（Windows10対応）　実教出版株式会社 (2)		
授業スケジュール	第　1回　習熟度確認アンケート　Excelの起動と画面の確認　文字入力の確認 第　2回　簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認 第　3回　編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第　4回　編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第　5回　データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第　6回　データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第　7回　データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUPなど） 第　8回　各関数を利用した実習問題（小テスト） 第　9回　棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第10回　円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第11回　複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第12回　データベース入門：データベース作成上の各機能 第13回　データの集計（並べ替え・抽出　ほか） 第14回　データの集計（ピボットテーブル） 第15回　前期のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）		
実務経験について	企業、個人への講習会講師		

授業科目	ＰＣデータ活用実習（経済）	担当者	口脇淳子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得 【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。 【到達目標】 知識と技術の習得を日商ＰＣ検定試験（データ活用）の３級資格取得で確認 ☆　後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2016（Windows10対応）　実教出版株式会社 (2)　プリント		
授業スケジュール	第　1回　前期授業の復習　知識科目問題 第　2回　検定対策問題：構成比を求める問題　知識科目問題 第　3回　検定対策問題：データの追加入力がある問題　知識科目問題 第　4回　検定対策問題：ＡＢＣ分析　知識科目問題 第　5回　検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題　知識科目問題 第　6回　検定対策問題：利益率を求める問題　知識科目問題 第　7回　検定対策問題：データの集計を取る問題　知識科目問題 第　8回　検定対策問題：達成率を求める問題　知識科目問題 第　9回　検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題） 第10回　検定対策問題：伸び率を求める問題　知識科目問題 第11回　検定対策問題：データを参照する問題　知識科目問題 第12回　検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題　知識科目問題 第13回　検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題　知識科目問題 第14回　検定対策問題：集計データをグループ化する問題　知識科目問題 第15回　後期のまとめ　知識科目問題		
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）		
実務経験について	企業、個人への講習会講師		

授業科目	ＰＣデータ活用（経営情報）	担当者	口脇淳子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。 【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2016（Windows10対応）　実教出版株式会社 (2)		
授業スケジュール	第　1回　習熟度確認アンケート　Excelの起動と画面の確認　文字入力の確認 第　2回　簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認 第　3回　編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第　4回　編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第　5回　データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第　6回　データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第　7回　データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUPなど） 第　8回　各関数を利用した実習問題（小テスト） 第　9回　棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第10回　円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第11回　複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第12回　データベース入門：データベース作成上の各機能 第13回　データの集計（並べ替え・抽出　ほか） 第14回　データの集計（ピボットテーブル） 第15回　前期のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）		
実務経験について	企業、個人への講習会講師		

授業科目	ＰＣデータ活用実習（経営情報）	担当者	口脇淳子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得 【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。 【到達目標】 知識と技術の習得を日商ＰＣ検定試験（データ活用）の３級資格取得で確認 ☆　後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2016（Windows10対応）　実教出版株式会社 (2)　プリント		
授業スケジュール	第　1回　前期授業の復習　知識科目問題 第　2回　検定対策問題：構成比を求める問題　知識科目問題 第　3回　検定対策問題：データの追加入力がある問題　知識科目問題 第　4回　検定対策問題：ＡＢＣ分析　知識科目問題 第　5回　検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題　知識科目問題 第　6回　検定対策問題：利益率を求める問題　知識科目問題 第　7回　検定対策問題：データの集計を取る問題　知識科目問題 第　8回　検定対策問題：達成率を求める問題　知識科目問題 第　9回　検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題） 第10回　検定対策問題：伸び率を求める問題　知識科目問題 第11回　検定対策問題：データを参照する問題　知識科目問題 第12回　検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題　知識科目問題 第13回　検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題　知識科目問題 第14回　検定対策問題：集計データをグループ化する問題　知識科目問題 第15回　後期のまとめ　知識科目問題		
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）		
実務経験について	企業、個人への講習会講師		

授業科目	PC アプリケーション実習	担当者	刈屋　美枝子
	〔履修年次〕　1 年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】　学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなす。 【概要】　本実習は前期の情報リテラシーII（E）（F）の応用となるので、基本的に前期の PC 経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーII で扱えなかった各種アプリケーション（プレゼンテーション、PDF ファイル、OCR、動画編集、HP 作成など）の基本的な使い方を学習する。また、スマートフォンアプリと連携したパソコンの使い方を強化する。 【到達目標】上記ソフトウェアの基本的使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　随時、資料ファイルを配信。		
授業スケジュール	第 1 回　前期授業の復習　プレゼンテーションアプリ PowerPoint（1） 第 2 回　プレゼンテーションアプリ PowerPoint（2）　第 1 回課題 第 3 回　スマートフォンアプリとの連携　授業アンケート（授業の要望及び取り組みたいアプリの希望など） 第 4 回　動画ファイルの扱い方･･･動画作成・編集ソフト 第 5 回　動画ファイルの扱い方･･･動画の撮影、編集 第 6 回　動画ファイルの扱い方･･･動画の編集　第 2 回課題 第 7 回　PDF ファイルの扱い方…スキャナーと OCR の利用：画像文書からテキストへ 第 8 回　PDF ファイル（ソフトウェア Adobe Acrobat）の扱い方…文書ファイルの統合 第 9 回　PDF ファイル（ソフトウェア Adobe Acrobat）の扱い方…セキュリティ設定 第 10 回　Windows パソコンの知っておくと便利な機能 第 11 回　ホームページの作成（1） 第 12 回　ホームページの作成（2） 第 13 回　ホームページの作成（3）　第 3 回課題 第 14 回　アンケートで学生が希望したアプリへの対応 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	3 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。		
成績評価の方法	3 回の課題（70%）と実技試験（30%）の総合評価		
実務経験について	本学パソコン講師歴 20 年以上、実務翻訳業 20 年（鹿児島商工会議所会員）		

11　経済専攻専門科目

授業科目	**日本経済論**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　1年，2年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること 【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について，特に産業政策，そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また，過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに，石油危機，プラザ合意，日米構造協議，そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。 【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し，説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて，現在の日本経済の特徴と課題について自分の見解が持てるようになること		
⑴テキスト ⑵参考文献	⑴　なし ⑵　三和良一『概説日本経済史　近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告　各年度版』		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第 2回　日本の産業政策の歴史　戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等 第 3回　日本の産業政策の歴史　戦前(2)：明治維新の意義，その後の産業構造の変化等 第 4回　敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況，傾斜生産方式，1950 年代前半の産業政策等 第 5回　高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等 第 6回　行政指導：勧告操短，企業の反発等 第 7回　開放体制への移行：IMF8 条国への移行，産業再編等 第 8回　1970 年代の日本経済：2 度のオイル・ショック，構造不況業種への対応，知識集約化・高付加価値化への動き等 第 9回　企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴・グループ内の結び付き，現在の状況等 第 10 回　1980 年代以降の日本経済：対米貿易摩擦，日米構造協議等 第 11 回　現在の産業政策：産業競争力強化法，現在の産業政策の特徴等 第 12 回　グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調，バブル崩壊後の動向等 第 13 回　構造改革：構造改革の特徴・本質等 第 14 回　構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴，アベノミクスとの比較等 第 15 回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	講義前後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ，検討すること，普段から日本経済関連のニュース（できれば外国のメディアを含む複数）に注目することを勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**財政学**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　1年，2年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論，日本の財政の基礎的な制度について，内容，実態，特徴，課題に関する理解を深めること 【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で，それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは，財政民主主義という財政制度の根幹，経済における公共部門と民間部門の関係，歴史的推移，そして，グローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めることになります。この講義を受講することで，経済学等で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また，財政は，政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので，他の科目では触れることが少ない政治の経済に対する影響に関しても見識を高めることができるはずです。 【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し，説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解できるようになること ④経済・社会の動向を的確に把握できるようになること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005 年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016 年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019 年) 宇波弘貴編著『図説　日本の財政　各年度版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第 2回　財政(1)：財政の定義，財政学の特徴，政府に対する評価の揺れ等 第 3回　財政(2)：市場の失敗，財政民主主義と制度化に必要な原則等 第 4回　予算(1)：定義，役割，政府と議会の役割，予算原則等 第 5回　予算(2)：予算の種類，特別会計と「埋蔵金」，改革の方向等 第 6回　経費(1)：定義，主要な分類，経費膨張の法則，転位効果等 第 7回　経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 8回　租税(1)：定義，租税の根拠，代表的な租税原則等 第 9回　租税(2)：公平の基準，望ましい税制とは等 第 10 回　公債(1)：定義，民間債務・租税との対比，公債の種類等 第 11 回　公債(2)：日本の国債発行における原則，制度，「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 12 回　財政投融資：定義，運用対象，批判，2001 年度の改革，今後の展望等 第 13 回　財政の国際化：国際公共財，グローバル化と国際的財政移転等 第 14 回　財政改革を考える：社会の変化と財政，財政危機とは，財政改革で求められる視点等 第 15 回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べ，検討すること，普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数，加えて日本関連だけでなく，諸外国関連のニュースについても)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**農業経済論**	担当者	岡田　登
	〔履修年次〕　1，2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。 【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の発展過程を把握した上で、生産、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。 【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回　はじめに：講義の目標、食料・農業・農村の問題提起、鹿児島の農村景観 第 2回　農業の基礎：基本知識 第 3回　世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産 第 4回　日本農業の発展過程（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開 第 5回　日本農業の発展過程（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法 第 6回　日本農業の発展過程（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換 第 7回　農業保護政策：国内市場、農産物貿易 第 8回　農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化 第 9回　農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通 第10回　農業と関連産業：フードチェーン、フードシステム、食品関連産業 第11回　農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業基盤強化促進法 第12回　農産物の高付加価値化とブランド化：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、食の安全性、六次産業化、農商工連携 第13回　農村空間の商品化：観光農園、農産物直売所、地産地消 第14回　都市の農村化：都市農業，市民農園、体験農園、自家菜園、マルシェ 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	**金融論**	担当者	岩上　敏秀
	〔履修年次〕　1年、2年	授業外対応	いつでも対応します。メール連絡してください。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】私たちの生活や仕事に金融が与えている影響を理解するために、金融の仕組みを学びます。 【概要】金融は私たちの生活や仕事に深く入り込み、経済や社会に大きな影響を与えています。本講義では、金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題、フィンテックなど新しい金融の仕組みまで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身につけます。 【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　岡村秀夫・田中敦・野間敏克・播磨谷浩三・藤原賢哉著、『金融の仕組みと働き』、有斐閣ブックス		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方　序論：金融の仕組みと役割、貨幣 第 2回　資金循環：　戦後日本の部門別資金過不足の推移、現在の日本の資金循環 第 3回　金融取引の特徴と課題：　不確実性、情報の非対称性、契約の不完備性 第 4回　金融取引と金利：　貨幣の時間価値と金利、期間構造、金利の計算 第 5回　家計の貯蓄と金融資産選択：　貯蓄行動、金融資産のリスクとリターン 第 6回　企業の投資と資金調達：　企業の活動と資金需要、資金調達の方法 第 7回　銀行の役割：　銀行の業務、信用創造、銀行経営の現状と課題 第 8回　金融市場：　金融市場の役割、取引所 第 9回　地域金融機関の役割：　取り巻く環境と課題、求められる役割 第10回　証券会社の役割：　証券会社の業務、株式と債券 第11回　株式市場：　株式市場の役割、株価の決定メカニズム 第12回　日本銀行と金融政策：　日本銀行の役割、金融政策の手段と効果 第13回　金融危機と規制：　金融危機の背景、プルーデンス政策の手段と課題 第14回　金融の新しい仕組み：　証券化・流動化、フィンテック 第15回　まとめ：　講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。		

授業科目	**経済学史**	担当者	カムチャイ　ライサミ
	〔履修年次〕　1年、2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。 【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり 経済学の黎明期前後（17 世紀頃）から現代経済学（20 世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。 【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることで正しい見方を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキストなし。毎回プリントを配布する。 (2)　必要に応じて、その都度指示する。		
授業スケジュール	第 1回　経済学史の範囲と方法：経済学史年表 第 2回　重商主義の経済思想：マリーンズ、マン、ペティ 第 3回　重農主義の経済思想：ケネー、チュルゴ 第 4回　過渡期の経済思想：ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム、スチュアート 第 5回　古典学派の生成：スミス 第 6回　古典学派の発展：マルサス、リカード 第 7回　古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル 第 8回　ドイツ歴史学派：リスト、ヒルデブラント、シュモラー、ウェーバー 第 9回　マルクス学派：マルクス 第 10 回　限界革命の先駆者達：チューネン、ゴッセン、デュピュイ 第 11 回　限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ 第 12 回　オーストリア学派：メンガー、ウィーザー、ベーム＝バヴェルク 第 13 回　ローザンヌ学派：ワルラス、パレート 第 14 回　ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグウ 第 15 回　ケインズ革命：ケインズ		
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で 4 時間程度の予習・復習を行うこと。		
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）		

授業科目	**経済学特講 I**	担当者	岩上　敏秀
	〔履修年次〕　1年、2年	授業外対応	いつでも対応します。メール連絡してください。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。 【概要】銀行や証券会社、保険会社など金融機関で金融商品の営業活動に従事するには証券外務員の資格が必要です。本講義では、証券外務員二種資格試験に合格するために必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。 【到達目標】証券外務員二種資格試験に合格できる知識を修得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　ファイナシャルバンクインスティチュート(株)編、『うかる！証券外務員二種　最速テキスト　2021-2022 年版』、日本経済新聞出版。プリント (2)　なし		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方　　序論：間接金融と直接金融 第 2回　証券の仕組み：　株式の仕組み、証券市場 第 3回　株式会社法：　株主の責任と権利、株式会社の機関 第 4回　財務諸表と企業分析(1)：　財務諸表の仕組み、収益性分析、安全性分析 第 5回　財務諸表と企業分析(2)：　資本効率性分析、成長性分析、損益分岐点分析 第 6回　株式業務：　証券取引所取引、店頭取引、株式の上場、証券投資 第 7回　証券売買のルール(1)：　証券取引所のルール 第 8回　証券売買のルール(2)：　証券業協会のルール 第 9回　証券売買のルール(3)：　記入商品取引法のルール 第 10 回　債券業務(1)：　債券の仕組み、債券売買、利回り計算 第 11 回　債券業務(2)：　転換社債型新株予約権付社債 第 12 回　投資信託業務：　投資信託の仕組み 第 13 回　小テスト： 第 14 回　証券税制：　利子所得・配当所得・譲渡所得の課税、相続・贈与の課税 第 15 回　小テスト答案返却・解説、講義評価アンケート実施		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	小テスト（100%）		
実務経験について	国内外の金融機関で約 30 年の実務経験があります。		

授業科目	**経済学特講Ⅱ**	担当者	山口　祐司
	〔履修年次〕　1、2年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。 【概要】 アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19 世紀から 20 世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929 年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70 年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980 年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第１０～１２回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第１３～１４回）。 経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。 【到達目標】 アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　講義時に提示		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第 2回　アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第 3回　アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第 4回　大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の 1920 年代 第 5回　大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第 6回　大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第 7回　ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第 8回　ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第 9回　ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第 10 回　新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第 11 回　新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第 12 回　新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第 13 回　新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第 14 回　新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%）		

授業科目	**法学特講**	担当者	疋田　京子
	〔履修年次〕　1年，2年	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】ジェンダー法学入門 日本の国内法だけでなく国際社会におけるあらゆる法の領域をジェンダーの視点から概観する。 【概要】国際社会ではLGBTI に関する国連決議が出る一方で、テロ活動が過激化し，「女性に対する暴力」もし烈になり、国内ではDV 防止法や刑法の改正、嫡出子相続差別やマタニティ・ハラスメントなどに関する最高裁判決など、家族法・労働法に関する重要な判決が出ています。こうしたジェンダーに関わる法や判例、社会変化を講義します。 【到達目標】 人格の中核にあるセクシュアリティと社会のジェンダー規範が密接に関係していることを、国連における決議や条約、国内法の改正の議論や判例を概観することによって理解することを目指します。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　配布プリント (2)　江原由美子・金井淑子『フェミニズムの名著５０』平凡社		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：ジェンダー法学の基礎知識 第 2回　ジェンダー主流化にむけて（1）国際社会の動向とジェンダー主流化の展開 第 3回　ジェンダー主流化にむけて（2）人権とジェンダー 第 4回　身体と性（1）女性に対する暴力 第 5回　身体と性（2）セクシュアル・ハラスメント 第 6回　身体と性（3）性的自己決定権の侵害と性差別 第 7回　身体と性（4）売買春と人身取引 第 8回　身体と性（5）性と生殖の権利 第 9回　親密圏（1）家族形態の多様化と法：家族法とその課題 第 10 回　親密圏（2）グローバル化時代の離婚をめぐる諸問題 第 11 回　親密圏（3）生殖補助医療と親子関係 第 12 回　親密圏（4）DV 防止法の仕組み／ストーカー規制法／児童虐待防止法 第 13 回　労働者保護の基本的なしくみ 第 14 回　雇用における差別と労働者保護から排除される労働者 第 15 回　まとめ：ワーク・ライフ・バランス		
授業外学習(予習・復習)	講義で紹介した本を、一冊は読んでみてください。		
成績評価の方法	毎回の小レポート（30%）と学期末に1回レポート（70%）を課します。		

授業科目	**簿記論Ⅱ**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　1，2	授業外対応	〔履修年次〕
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】商業簿記の基礎Ⅱ 【概要】本講義は，簿記論Ⅰをふまえて，諸取引の処理と決算について学習します。 【到達目標】財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（令和３年版），中央経済社。 渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（令和３年版），中央経済社。 (2)　神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第５版補訂版），同文館出版。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義概要の説明 第 2回　簿記論Ⅰのおさらい（1）：仕訳・転記・決算 第 3回　簿記論Ⅰのおさらい（2）：現金と預金，商品売買 第 4回　債権・債務（1）：テキスト第７，８章 第 5回　債権・債務（2）：テキスト第９章 第 6回　固定資産：テキスト第 10，11 章 第 7回　貸倒損失と貸倒引当金：テキスト第 12 章： 第 8回　資本金と引出金：テキスト第 13 章 第 9回　収益と費用：テキスト第 14 章 第 10 回　伝票：テキスト第 15 章 第 11 回　決算と財務諸表（1）：テキスト第 16 章 第 12 回　決算と財務諸表（2）：テキスト第 16 章 第 13 回　決算と財務諸表（3）：テキスト第 16 章 第 14 回　決算と財務諸表（4）：テキスト第 16 章 第 15 回　まとめ	会計科目の履修順序（初学者向け） １年前期：会計学総論 １年後期：簿記論Ⅰ **簿記論Ⅱ** 財務会計論 ２年前期：原価計算 会計情報論 ２年後期：管理会計論	
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**国際経済論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　1，2 年	授業外対応	研究室（2 号館３階）で対応、いつでも OK，予約不要。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】売れるモノ、儲かるものを「つくる」とはどういうことか～新興国で考える【部品調達編】～ 【概要】モノづくりの三つの柱（①企画・設計、②生産、③部品調達）のうち、③の部品調達について、新興国で世界一売れているトヨタ IMV を事例に説明する。全体を「アジアでの系列調達」と、「アフリカ、南米での非系列調達」の二つに分けて主にテキスト第 5 章を用いて説明する。なお、テキストは、アジア経済論でも用いるので、これらの科目も受講するとテキスト全体の説明を受けられます。 【到達目標】トヨタで最も売れている IMV は、新興国でどのように生産されているか、部品調達面から理解することを通じて、新興国での部品調達について一般的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国適応』文眞堂 (2)　同上『トヨタの新興国車 IMV』同上		
授業スケジュール	第 1回　国際経済・貿易（輸出と輸入）関税と企業の部品・原材料調達 第 2回　関税 WTO、FTA と企業の部品・原材料調達 第 3回　IMV に見るトヨタの新興国での部品調達の概要：アジアでの系列調達と深層現調化、南ア、南米での非系列調達 第 4回　LSP、MSP、JSP と系列調達&非系列調達① 第 5回　LSP、MSP、JSP と系列調達&非系列調達② 第 6回　アジアにおける系列取引と深層現調化①：アジアにおける系列取引と深層現調化 第 7回　アジアにおける系列取引と深層現調化②：アジアでは系列の同伴進出１回目 第 8回　アジアにおける系列取引と深層現調化③：アジアでは系列の同伴進出２回目 第 9回　アジアにおける系列取引と深層現調化④：アジアでは系列の同伴進出３回目 第 10 回　アジアにおける系列取引と深層現調化⑤：アジアでは系列の同伴進出４回目 第 11 回　南米では系列外との取引① 第 12 回　南米では系列外との取引② 第 13 回　南米では系列外との取引③：TASA の事例 第 14 回　南米では系列外との取引④：TDV の事例 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方，考え方に重点をおいて語ります。その見方，考え方を使って，いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**アジア経済論**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　1，2 年	授業外対応	研究室（2 号館 3 階）で対応、いつでも OK，予約不要。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】売れるモノ、儲かるものを「つくる」とはどういうことか、アジアの新興国を中心に【製品開発】に焦点を当てて考えます。アジアは日本、韓国、台湾を除いて、まだまだ貧しい人々の多い地域です。貧しい庶民はまだまだ高価な耐久消費財、特に車を買うことはできない。他方で人口の数%ではあるが日本より豊かな富裕層も存在する。人口の多い、インド（13 億人、世界第 2 位）では富裕層が 1 割でも日本の総人口に匹敵する。インドネシア（2 億 5 千万人、世界第 4 位）では同じく 2500 万人で日本の 4 分の 1 になる。高級品だけでも相当な数が売れる。他方で 21 世紀以降、特にインド、ブラジルでは庶民層の中で車に手の届く人も出てきた。こうした新興国の現状に自動車メーカーはどう立ち向かっているか、トヨタを例に解説していきます。 【概要】新興国は先進国と比べて富裕層と庶民の所得格差が大きい。20 世紀まで車を買えるのは限られた富裕層だけで大多数の庶民は車を買えなかった。車を買うのが富裕層だけなら価格は高くて良いのだが、新興国は道路事情が悪く、ベンツ、BM 等の先進国の高級車では快適でなく、雨季には洪水で走れないこともあった。そこで新興国の道路事情でも快適に走れる高級車が求められることになり、トヨタは IMV という新興国専用の高級車を開発して大成功を収めた。本講義の半分は、この大成功を収めた IMV について説明する。他方で、21 世紀に入って以降、庶民層の中にも「安ければ車を買える」人々が現れた。特に、インド、ブラジルで「安い車なら買える人々」が多数を占めるようになり、スズキやドイツのフォルクスワーゲンは低価格車で大きな成功を収めた。しかし、トヨタは低価格車の開発に取り組んだものの苦戦が続いている。本講義のもう半分は低価格帯の動向を説明する。全体を通じてテキストを用いて説明する。 【到達目標】アジアの主要国の現状と、そこでのビジネスの狙い目を学びます。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国適応』文眞堂 (2)　同上『トヨタの新興国車 IMV』同上		
授業スケジュール	第 1 回　新興国市場の大変動とトヨタの適応～先進国を追い抜く急成長、市場の二極分化デュアルルーチンへの進化～① 第 2 回　新興国市場の大変動とトヨタの適応～先進国を追い抜く急成長、市場の二極分化デュアルルーチンへの進化～② 第 3 回　新興国市場の大変動とトヨタの適応～先進国を追い抜く急成長、市場の二極分化デュアルルーチンへの進化～③ 第 4 回　インドネシア市場ではイノベータのジレンマを超えたトヨタ～ダイハツを活用した LCGC 開発の成功と限界～① 第 5 回　インドネシア市場ではイノベータのジレンマを超えたトヨタ～ダイハツを活用した LCGC 開発の成功と限界～② 第 6 回　スズキ 45%のインド市場の急成長とトヨタの適応～ジレンマに陥るも進む能力構築とジレンマ克服の展望～① 第 7 回　スズキ 45%のインド市場の急成長とトヨタの適応～ジレンマに陥るも進む能力構築とジレンマ克服の展望～② 第 8 回　スズキ、トヨタのパキスタン市場戦略と生産・調達の工夫 ～ブルーオーシャンで成功した二つの戦略～① 第 9 回　スズキ、トヨタのパキスタン市場戦略と生産・調達の工夫 ～ブルーオーシャンで成功した二つの戦略～② 第 10 回　南米市場の急成長とトヨタの部品調達の進化 ～日系 Tier1 の少ない南米でも日系並みを実現～① 第 11 回　南米市場の急成長とトヨタの部品調達の進化 ～日系 Tier1 の少ない南米でも日系並みを実現～② 第 12 回　新興国低価格車ルーチンの分化と目的ブランド～トヨタはイノベータのジレンマを超えられるか～① 第 13 回　新興国低価格車ルーチンの分化と目的ブランド～トヨタはイノベータのジレンマを超えられるか～② 第 14 回　新興国低価格車ルーチンの分化と目的ブランド～トヨタはイノベータのジレンマを超えられるか～③ 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方，考え方に重点をおいて語ります。その見方，考え方を使って，いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**国際関係論**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　1，2 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に，国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】本講義では，国際関係の史的展開を概説したうえで，現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では，第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし，国際システムの歴史的変遷をたどる。 【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し，その背景についての理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない (2)　多賀秀敏編『平和学から世界を見る』（成文堂、2020 年）		
授業スケジュール	第 1 回　ガイダンス：講義の目的、方法 第 2 回　国際関係論の基礎１：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3 回　国際関係論の基礎２：行為体と争点の多様化 第 4 回　国際関係のなりたち１：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5 回　国際関係のなりたち２：アジアにおける冷戦の拡大１ 第 6 回　国際関係のなりたち３：アジアにおける冷戦の拡大２ 第 7 回　国際関係のなりたち４：朝鮮戦争とベトナム戦争 第 8 回　国際関係のなりたち５：大国の支配とナショナリズム 第 9 回　国際関係のなりたち６：冷戦後の世界秩序 第 10 回　国際社会における諸問題１：グローバリゼーションと貧困問題 第 11 回　国際社会における諸問題２：貧困と開発 第 12 回　国際社会における諸問題３：国境を越える諸問題 第 13 回　国際社会における諸問題４：グローバルガバナンス（1） 第 14 回　国際社会における諸問題５：グローバルガバナンス（2） 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		

授業科目	**比較文化**	担当者	小林　朋子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。 【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人たちとのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とどのような＜関係性＝コミュニケーション＞を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。 【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年） (2)　池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）		
授業スケジュール	第 1回　異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か 第 2回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバリゼーションの意味 第 3回　グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し 第 4回　空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間 第 5回　「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界 第 6回　女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー 第 7回　異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと 第 8回　異文化コミュケ―ションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか 第 9回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史 第10回　異文化コミュニケーターとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？ 第11回　異文化交流会準備（1）：異文化接触とは―「よそ者」と異文化適応 第12回　異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ―自分のことば、他者のことば 第13回　異文化交流会（1）：異文化コミュケーションの実践1 第14回　異文化交流会（2）：異文化コミュニケーションの実践2 第15回　異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュケ―ション」に向けて		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備ノートを含む）（20%）、最終レポート（40%）		

（注）文学科に合同

授業科目	**アジア事情**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】東アジア，東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。 【概要】アジアは，地理，歴史，言語，文化，宗教，民族など，すべての面において多様である。本講義では，「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも，脱植民地化，国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。 【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目的と方法 第 2回　「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第 3回　歴史的形成１：植民地以前のアジア 第 4回　歴史的形成２：植民地のようす 第 5回　歴史的形成３：植民地からの独立 第 6回　歴史的形成４：脱植民地化、国民国家建設、開発 第 7回　歴史的形成５：冷戦下のアジア 第 8回　東南アジア１：インドシナ三国 第 9回　東南アジア２：ベトナム戦争の影響 第10回　東南アジア３：タイ、ミャンマー、マレーシア 第11回　東南アジア４：メコン河流域開発 第12回　東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成 第13回　アジアにおける協力体制１：ASEANを中心とする協力１ 第14回　アジアにおける協力体制２：ASEANを中心とする協力２ 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。		

授業科目	**ヨーロッパ経済事情**	担当者	大重　康雄
	〔履修年次〕　1年、2年	授業外対応	メール等で適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ（EU）がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する 【概要】ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に英国の EU 離脱やコロナウイルス感染が深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し　考える。 【到達目標】ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済　第5版』有斐閣アルマ　および講師作成プリント (2)　遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか		
授業スケジュール	第 1回　現在ヨーロッパで何が起こっているか 第 2回　ヨーロッパ統合前史 第 3回　ヨーロッパ統合の歴史 第 4回　統一通貨ユーロとは 第 5回　コロナ危機とＥＵ財政諸問題 第 6回　ＥＵ社会が抱える課題 第 7回　BREXT とイギリスの将来 第 8回　フランスとＥＵ経済 第 9回　ドイツとＥＵ経済 第10回　その他諸国とＥＵ経済 第11回　中・東欧諸国と EU 経済 第12回　ＥＵと対外通商関係 第13回　欧州通貨と国際金融システム 第14回　ヨーロッパ社会と EU の将来 第15回　講義のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてくること。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋授業での発言内容（20%）		
実務経験について	地域金融機関での外国為替業務等の知識・経験を活かし、国際金融市場動向や地域経済を意識した実践的な授業を目指す。		

授業科目	**国際経済特講Ⅰ**	担当者	村田　秀博
	〔履修年次〕　1、2年生	授業外対応	授業終了後 E メールにて
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本経済・地域経済のグローバル化と、鹿児島県内中小企業の海外進出、それに伴う貿易取引について 【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で、企業活動を海外へ拡大させ、現在の苦境を改善しようとしたり、さらなる企業拡大の契機をつかもうという動きが顕著になってきている。鹿児島県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、方法論を考え国際感性を磨く。またその基礎となる貿易知識も習得する。 【到達目標】日本国内特に県内での様々なグローバル化の現状を認識し、対応できる方法論・基礎知識を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　レジュメ、プリント資料、映像 (2)　必要に応じて、随時資料を追加配布する		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・外国人労働力受け入れ） 第 2回　鹿児島県内中小企業の国際化の現状 第 3回　進出国の情勢比較（中国） 第 4回　進出国の情勢比較（中国） 第 5回　海外知的財産権の保護、県内大学生の海外展開 第 6回　外国人労働力の受け入れ、メディカルツアーの誘致 第 7回　進出国の情勢比較（台湾・タイ・ベトナム） 第 8回　進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール） 第 9回　進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシア他） 第10回　貿易実務（自由貿易協定。TPP・FTA 他） 第11回　貿易実務（外国為替・為替相場・先物為替予約） 第12回　貿易実務（外貨預金・外貨貸付） 第13回　貿易実務（輸入） 第14回　貿易実務（輸出） 第15回　まとめ、試験		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験５０%＋レポート５０%		
実務経験について	信用金庫に勤務，海外ビジネスの専門家		

授業科目	**国際経済特講Ⅱ**	担当者	野村俊郎、伊原保守、細川薫、山本　肇
	〔履修年次〕　1，2年いずれでも履修可	授業外対応	
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】売上28兆円、純利益2兆円のトヨタは「100年に一度の大変革期」CASEにどう挑むか～伊原保守元副社長、細川薫トヨタ自動車元チーフエンジニア（CE）に聞く～ 【概要】伊原保守元副社長、細川薫トヨタ自動車CEにトヨタが売上28兆円、純利益2兆円を達成できる秘密、今後CACEにどう挑んでいくかについて聞く。細川元CEは新興国専用車IMVの担当のため、IMVが投入されているタイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナムの市場動向について山本肇氏に解説して頂く。 【到達目標】「売れるモノ」「儲かるモノ」の企画、設計の秘訣、、大きな変化に対応できる秘密について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する (2)		
授業スケジュール	第　1回　売上28兆円、純利益2兆円の企業トヨタ（野村俊郎）：グローバル競争とトヨタ 第　2回　売上28兆円、純利益2兆円の秘密①（同上）：グローバル競争を勝ち抜く商品力の創造→企画と設計のルーチン 第　3回　売上28兆円、純利益2兆円の秘密②（同上）：グローバル競争を勝ち抜く原価低減→開発・製造・調達のルーチン 第　4回　トヨタの企画・設計の現場と売れる秘密、儲かる秘密①（細川） 第　5回　トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密②（同上） 第　6回　トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密③（同上） 第　7回　トヨタのCASEへの挑戦①（伊原） 第　8回　トヨタのCASEへの挑戦②（同上） 第　9回　トヨタのCASEへの挑戦③（同上） 第10回　タイの自動車産業~アセアンのハブ（同上）マレーシアの政治・経済（山本） 第11回　インドネシアの自動車産業~アセアン最大市場の行方（同上） 第12回　フィリピンの自動車産業（同上） 第13回　マレーシアの自動車産業~国民車政策の行方（同上） 第14回　ベトナムの自動車産業（同上） 第15回　燃費、排ガス、安全規制と新興国車（同上）		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方，考え方に重点をおいて語ります。その見方，考え方を使って，いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		
実務経験について	伊原保守氏：トヨタ自動車元副社長・アイシン精機前社長、細川薫氏：トヨタ自動車製品企画本部ZB元チーフエンジニア（CE） 山本肇氏：三菱総研(MRI)からIHS Automotive Thailandを経て野村総研(NRI)タイでODA(技術協力)のコンサルティング		

授業科目	**地域経済論**	担当者	岡田　登
	〔履修年次〕　1，2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。 【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。この講義では、地域経済構造と基本的な理論を学び、地域の発展に向けた対応策について検討する。 【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第　1回　はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済 第　2回　都市地域論（1）：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階 第　3回　都市地域論（2）：都市の内部構造とメカニズム、都市システム 第　4回　産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析 第　5回　中心地理論：商業形態の発展と変化、第3次産業地域論 第　6回　工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散 第　7回　農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散 第　8回　漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス 第　9回　地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差 第10回　内発的発展論：定義、事例紹介 第11回　都市計画とまちづくり：仕組み、中心市街地と郊外、景観と緑地 第12回　コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク 第13回　地域連携（1）：地域内連携、地域間連携 第14回　地域連携（2）：異業種間連携 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	**地域産業政策**	担当者	岡田　登
	〔履修年次〕　1，2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】地域間格差の実態を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。 【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。地域経済論では地域経済構造と基本的な理論を学ぶが、この講義では地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。 【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域のあり方を考えて発想できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回　はじめに：講義の目標 第 2回　政策的要因（1）：国土総合開発法、全国総合開発計画 第 3回　政策的要因（2）：新全国総合開発計画、第三次全国総合開発計画 第 4回　政策的要因（3）：第四次全国総合開発計画、２１世紀の国土のグランドデザイン 第 5回　地域間格差の現状（1）： ライフコースと人口移動 第 6回　地域間格差の現状（2）：社会、生活 第 7回　地域間格差の是正（1）：過疎化対策、地方分権、広域的市町村合併 第 8回　地域間格差の是正（2）：国土形成計画法、地域再生法、地方創生 第 9回　地域づくりの事例（1）：大都市地域 第10回　地域づくりの事例（2）：都市地域 第11回　地域づくりの事例（3）：工業地域 第12回　地域づくりの事例（4）：農村地域 第13回　地域づくりの事例（5）：観光業地域 第14回　地域のあり方を考える：鹿児島を事例に 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	**地方自治論（隔年開講）**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　1年，2年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】地方自治，地方行財政に関する基本的な概念や理論，日本の制度の内容，実態，特徴，課題に関する理解を深めること 【概要】地方自治とは何か，日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて，地方自治や地方行財政に関する基本的な概念や理論，制度について講義するとともに，参考になると思われる海外の事例も取り上げます。また，グローバル化の地方自治に与える影響等についても講義します。 【到達目標】①日本の地方自治・地方行財政制度について理解し，説明できるようになること ②地方自治体の活動について主体的に考察し，判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し，その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　総務省編『地方財政白書　各年版』日経印刷		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第 2回　地方自治(1)：定義，地方政府の本質的特徴，地方分権が求められる背景等 第 3回　地方自治(2)：グローバル化の影響等 第 4回　地方自治体の意思決定(1)：首長・役所・議会の関係，国と地方公共団体の関係等 第 5回　地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度，長の強い権限等 第 6回　地方自治体の財源(1)：歳入の自治と三位一体の改革，地方債等 第 7回　地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法，地方債改革との関係等 第 8回　地方財政健全化法(2)：法律成立の背景，地方自治への影響等 第 9回　地方自治体の財源(2)：地方交付税，国庫支出金，問題点等 第10回　法定外税(1)：法定外税の定義，地方分権一括法での変更点，現在の傾向等 第11回　法定外税(2)：受益・原因と負担の関係，利点と問題点等 第12回　市町村合併：「平成の大合併」とその背景，望ましい合併とは，現在の状況等 第13回　市民参加・参画：歴史，求められている背景，参考事例の紹介等 第14回　住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について 第15回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ，検討すること，普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**高齢者福祉（隔年開講）**	担当者	田口　康明
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールで連絡、随時対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000 年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。また学生諸君が親の介護に向き合うようになる前に基礎的な知識を身につけることを目的とする。 【概要】本科目は，本科目は，専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。 【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につきる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　小竹雅子『総介護社会――介護保険から問い直す (岩波新書)』 (2)　授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回　ガイダンス　この授業のすすめ方 第2回（講義）福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策 第3回（講義）資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義 第4回（発表）テキスト「序章：介護問題の社会化」 第5回（発表）テキスト「第１章：介護保険を利用する人たち」その１ 第6回（発表）テキスト「第１章：介護保険を利用する人たち」その２ 第7回（発表）テキスト「第２章：介護現場で働く人たち」その１ 第8回（発表）テキスト「第２章：介護現場で働く人たち」その２ 第9回（発表）テキスト「第３章　介護保険のしくみ」その１ 第１０回（発表）テキスト「第３章　介護保険のしくみ」その２ 第１１回（発表）テキスト「第４章　介護保険の使い方」 第１２回（発表）テキスト「第５章　介護保険にかかる金」 第１３回（発表）テキスト「第６章　なぜ、サービスは使いづらいのか」 第１４回（発表）テキスト「第７章　介護保険を問い直すガイダンス　」 第１５回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	テキストの各回の箇所を十分読むこと／各回のテキストの指定部分を事前に熟読する		
成績評価の方法	授業中の発表　60%，授業中の発言20%　ファイナルレポート20%		

授業科目	**労働法**	担当者	疋田　京子
	〔履修年次〕　1年，2年	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】ディーセント・ワーク（人間らしい働き方）実現のための基礎知識 ２０１９年４月からの「働き方改革関連法」の施行によって、日本社会はどのように変わるのだろうか。 【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。 【到達目標】働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。 権利を主張するための法的根拠は何かを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　講義時に適宜紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：「マタハラ」って何？ 第 2回　労働法の全体像：憲法・民法と労働法との関係 第 3回　労働契約の成立：労働者の募集・採用と内定取り消し 第 4回　労働法上の「労働者」「使用者」の概念：家事･介護労働者は「労働者」じゃないの？ 第 5回　労働契約の内容はどうやって決まる？：労働契約と就業規則と労働協約の関係 第 6回　労働法の基本原則：労働契約で定めてはいけないことがある 第 7回　賃金についてのルール：賃金支払いのルール 第 8回　労働時間の基本的ルール（1）：所定労働時間と法定労働時間 第 9回　労働時間の基本的ルール（2）：罰則があるのになぜ日本は長時間労働なのか？ 第10回　労働時間と賃金（1）：時間外労働・深夜労働・休日労働とは？__ 第11回　労働時間と賃金（2）：変形労働時間制の時間外割増の計算をしてみよう 第12回　労働時間制の多様化：フレックスタイム制・裁量労働制とは？ 第13回　年次有給休暇：パートタイム労働者には年休権がない？ 第14回　ワークライフバランスの実現に向けて：産前・産後休業／育児・介護休業と均等法 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとしてください		
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出（80%） 授業ごとのミニレポート（20%）		

授業科目	**地域研究特講**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】世界の格差の状況について認識し，貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。 【概要】本講義では，さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後，国際機関，国家，地方自治体，市民が主体となった国際協力について概観する。 【到達目標】さまざまな行為体が，さまざまなレベルで，多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。 (2)　新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローカルな市民社会に向けて』（明石書店，2008 年）		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目的と方法 第 2回　世界の現状１： 数値からみる世界の格差 第 3回　世界の現状２：グローバリゼーションの進展 第 4回　第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について 第 5回　途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略 第 6回　国際機関による援助１：さまざまな国際機関１ 第 7回　国際機関による援助２：さまざまな国際機関２ 第 8回　国家を主体とする援助１：ODA について（1） 第 9回　国家を主体とする援助２：ODA について（2） 第10回　企業による社会活動：CSR を中心に 第11回　市民を主体とする援助１：NPO の活動（1） 第12回　市民を主体とする援助２：NPO の活動（2） 第13回　市民を主体とする援助３：NPO の活動（3） 第14回　人間の安全保障 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		

授業科目	**地方自治法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕　1,2 年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】住民自治，団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で，地方公共団体の種類及び事務，住民の権利義務，条例と規則，議会，執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し，地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。 【概要】地方自治法は，国と地方自治公共団体の役割分担，機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設，普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与，国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では，地方自治法をわかりやすく解説することで，地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。 【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し，国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　佐伯仁志他編，『ポケット六法（令和 3 年度版）』，有斐閣		
授業スケジュール	第 1 回　地方自治の意義　・住民自治，団体自治，伝来説，固有権説，地方自治の本旨について 第 2 回　地方公共団体の種類　・地方公共団体の構成要素（住民，区域，法人格），都道府県，市町村について 第 3 回　地方公共団体の区域・事務　・区域，機関委任事務，法手受託事務について 第 4 回　住民の権利義務(1)　・住民，条例の制定改廃の請求，事務監査の請求について 第 5 回　住民の権利義務(2)　・議会の解散請求，議員，長及び特定職員の解職請求，住民監査請求について 第 6 回　条例と規則(1)　・条例制定権の範囲と限界，法令先占論，条例の効力について 第 7 回　条例と規則(2)　・条例制定手続，条例と罰則，行政罰，規則の制定事項について 第 8 回　議会(1)　・議会の地位，町村総会，議会の組織，議会の権限，調査権について 第 9 回　議会(2)　・定例会，臨時会，議会の運営，会議公開の原則，会期不継続の原則について 第 10 回　執行機関(1)　・長の地位，長の権限，長の職務の代理，地方公共団体の事務所について 第 11 回　執行機関(2)　・行政委員会の意義，長と行政委員会との関係，監査委員，教育委員会について 第 12 回　国等の地方公共団体への関与　・国の関与の原則，法定受託事務の処理基準，国地方係争処理委員会について 第 13 回　長と議会との関係(1)　・議会の監視，再議制度，一般的拒否権，特別的拒否権について 第 14 回　長と議会との関係(2)　・専決処分，長に対する不信任議決，議会の解散，再度の不信任議決について 第 15 回　予算　・予算事前議決の原則，予算公開の原則，会計年度独立の原則について		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。		

12　経営情報専攻専門科目

授業科目	**簿記論Ⅱ**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　1，2	授業外対応	〔履修年次〕
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】商業簿記の基礎Ⅱ 【概要】本講義は，簿記論Ⅰをふまえて，諸取引の処理と決算について学習します。 【到達目標】財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（令和３年版），中央経済社。 渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（令和３年版），中央経済社。 (2)　神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第５版補訂版），同文館出版。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義概要の説明 第 2回　簿記論Ⅰのおさらい（1）：仕訳・転記・決算 第 3回　簿記論Ⅰのおさらい（2）：現金と預金，商品売買 第 4回　債権・債務（1）：テキスト第7，8章 第 5回　債権・債務（2）：テキスト第9章 第 6回　固定資産：テキスト第10，11章 第 7回　貸倒損失と貸倒引当金：テキスト第12章： 第 8回　資本金と引出金：テキスト第13章 第 9回　収益と費用：テキスト第14章 第10回　伝票：テキスト第15章 第11回　決算と財務諸表（1）：テキスト第16章 第12回　決算と財務諸表（2）：テキスト第16章 第13回　決算と財務諸表（3）：テキスト第16章 第14回　決算と財務諸表（4）：テキスト第16章 第15回　まとめ		会計科目の履修順序（初学者向け） １年前期：会計学総論 １年後期：簿記論Ⅰ **簿記論Ⅱ** 財務会計論 ２年前期：原価計算 会計情報論 ２年後期：管理会計論
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**経営管理論**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1，２年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。 【概要】２人以上の個人が集団として活動する場合，そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり，その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは，財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。 したがって経営管理とは，経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり，このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では，彼らが，目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や，組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中，対処している方法について講義していきます。 【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に配布するプリント (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2回　経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第 3回　組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。 第 4回　組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。 第 5回　組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。 第 6回　組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。 第 7回　他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。 第 8回　人的資源管理（1）：企業での人的資源管理の基本的な仕組みについて説明する。 第 9回　人的資源管理（2）：採用管理、配置や転属について説明する。 第10回　人的資源管理（3）：人材育成、人事評価、退職管理について説明する。 第11回　人的資源管理（4）：これからの人的資源管理の課題について考える。 第12回　組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。 第13回　リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。 第14回　リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。		

授業科目	**経営組織論（隔年開講）**	担当者	近間　由幸
	〔履修年次〕　1年,2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 経営組織論における個人と組織の関係性について 【概要】経営組織に関わる理論を紹介し、これらの理論がどのような企業組織を念頭に置いて議論されてきたものなのかを解説する。また、現代社会において求められている組織や個人のあり方について、適宜事例を交えながら解説を行う。 【到達目標】「組織」、「リーダーシップ」、「モチベーション」という言葉でイメージされる人物像や組織のモデルが、授業で扱うもののうちどれに近いのかを、経験に照らし合わせて考えていけることを到達目標としている。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　金井壽宏『経営組織』日経文庫 (2)　高尾義明『はじめての経営組織論』有斐閣ストゥディア		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション―いろいろな組織の捉え方 第 2回　組織論における人間モデル 第 3回　ワーク・モチベーションとその理論 第 4回　個人と組織のかかわり合い―モチベーション、コミットメント、キャリア 第 5回　集団の機能と組織 第 6回　組織におけるリーダーシップ 第 7回　組織文化 第 8回　経営組織の設計 第 9回　官僚制組織とネットワーク組織 第10回　経営組織の動態化と組織変革 第11回　変動する環境における組織 第12回　戦略と組織学習 第13回　イノベーションと組織 第14回　ダイバーシティ・マネジメント 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習として各授業で取扱った基本概念や語句の理解について配布された資料や参考文献を手がかりに、指示された論題のレポート作成を行う。		
成績評価の方法	レポート100%（受講生の到達目標に対応して、基本概念や語句の理解を前提に、モチベーション、リーダーシップ、経営組織などに関するレポートを2～3回行う。レポートの構成や論理性を重点的に評価する。）		

授業科目	**労務管理論**	担当者	近間　由幸
	〔履修年次〕　1年,2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について 【概要】授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。 【到達目標】歴史的、国際的な視点から、企業の働かせ方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　澤田幹・平澤克彦・守屋貴司編『明日を生きる人的資源管理入門』ミネルヴァ書房 (2)　白井泰四郎『現代日本の労務管理〈第2版〉』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション―講義の概要と労務管理を学ぶ意義について 第 2回　労務管理とはなにか 第 3回　雇用管理制度のしくみ 第 4回　組織構造と職務内容 第 5回　キャリア開発のしくみ 第 6回　賃金管理制度のしくみ 第 7回　人事評価制度のしくみ 第 8回　労働時間管理のしくみ 第 9回　福利厚生制度のしくみ 第10回　日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理 第11回　ダイバーシティ・マネジメント 第12回　労務管理と労働組合 第13回　労務管理の国際比較（1）―アメリカ― 第14回　労務管理の国際比較（2）―ドイツ― 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習として教科書ならびに参考文献の該当箇所については読んでおくことが望ましい。初回授業時に該当範囲を提示する。		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%） 筆記試験（70%）		

授業科目	**管理会計論**	担当者	北村　浩一
	〔履修年次〕　1・2年いずれでも可	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する 【概　要】 管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。 【到達目標】 企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社 （2）特になし		
授業スケジュール	第1回　講義ガイダンス・講義の進め方や評価について 第2回　予算管理（1） 第3回　予算管理（2） 第4回　利益管理（1） 第5回　利益管理（2） 第6回　CVP 分析（1） 第7回　CVP 分析（2） 第8回　管理会計とは 第9回　分権的組織の管理会計（1） 第10回　分権的組織の管理会計（2） 第11回　原価概念 第12回　原価計算と原価管理 第13回　標準原価管理 第14回　原価企画と ABC 原価計算 第15回　講義のまとめ （＊　講義の進度によって予定を変更する場合があります）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	小テスト(複数回，50%）と期末定期試験（50%）の総計で評価します。		

授業科目	**原価計算**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】原価計算入門 【概要】本講義は，基本的な原価計算の知識を習得するために日商原価計算初級レベルの内容について解説します。 【到達目標】製造業における取引を記帳する能力を養う。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定。講義初回に指示します。また，必要に応じて，講義資料を配布します。 (2)　高橋賢『テキスト原価計算』（第2版）中央経済社 伊丹敬之・青木康晴『現場が動き出す会計』日本経済新聞社		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等 第　2回　原価計算の基礎概念（1）：原価計算の意義と目的 第　3回　原価計算の基礎概念（2）：製造原価とは 第　4回　原価計算の基礎概念（3）：材料費の計算と記帳 第　5回　原価計算の基礎概念（4）：労務費の計算と記帳 第　6回　原価計算の基礎概念（5）：経費の計算と記帳 第　7回　原価計算の基礎概念（6）：直接費の計算と記帳 第　8回　製品別期間損益計算（1）：原価の集計 第　9回　製品別期間損益計算（2）：在庫の原価 第10回　製品別期間損益計算（3）：製品別損益計算書の作成 第11回　利益の計画と統制（1）CVP 分析① 第12回　利益の計画と統制（2）CVP 分析② 第13回　利益の計画と統制（3）予算実績再分析① 第14回　利益の計画と統制（4）予算実績再分析② 第15回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施		
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。		
成績評価の方法	期末試験（筆記試験）(80%)，授業中に課すレポート作成（20%）		

＊受講生の学習進捗状況，従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。
簿記論Ⅰ，Ⅱ，会計学総論を受講後が望ましい。もしくは，日商3級レベルの簿記を学習済みであることが望ましい

授業科目	**国際経営論（隔年開講）**	担当者	野村　俊郎
	〔履修年次〕　1，2 年	授業外対応	研究室（2 号館 3 階）で対応、いつでも OK，予約不要
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】売れるモノ、儲かるものを「つくる」するとはどういうことか～新興国で考える【生産編】～ 【概要】モノづくりの三つの柱（①企画・設計、②生産、③部品調達）のうち、②の生産について、新興国で世界一売れているトヨタ IMV を事例に説明する。全体を①新興国でのモノづくり（生産）に関する論点、②グローバル供給態勢、③多車種多仕様生産の問題と解決、の三つに分けて説明する。テキスト第 2 篇を用いて説明する。なお、テキストは国際経済論で第 3 篇を、アジア経済論で第 1 篇を説明するので、これらの科目も受講するとテキスト全体の説明を受けられます。 【到達目標】トヨタで最も売れている IMV は、新興国でどのように生産されているかを理解することを通じて、新興国でのモノづくり（生産）について一般的に理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　野村俊郎著『トヨタの新興国車 IMV』文眞堂 (2)　同上『トヨタの新興国適応』同上		
授業スケジュール	第 1 回　新興国でのモノづくり（生産）に関する論点 1 回目 第 2 回　新興国でのモノづくり（生産）に関する論点 2 回目 第 3 回　グローバル供給態勢の変化 1 回目 第 4 回　グローバル供給態勢の変化 2 回目 第 5 回　グローバル供給態勢の変化 3 回目 第 6 回　製造拠点の概要①：IMV 生産 11 カ国 12 工場調査 第 7 回　製造拠点の概要②：11 カ国 12 拠点の概要 1 回目 第 8 回　製造拠点の概要③：11 カ国 12 拠点の概要 2 回目 第 9 回　多車種多仕様生産の問題と解決①：IMV における混流の状況 第 10 回　多車種多仕様生産の問題と解決②：工数差の大きな車を混流しても手待ちのムダが出ない工夫 第 11 回　多車種多仕様生産の問題と解決③：SPS による TPS の進化 第 12 回　多車種多仕様生産の問題と解決④：内部労働市場と純レント 第 13 回　第 2 世代 IMV へのグローバル切り替え 第 14 回　IMV が開いたグローバル生産の新段階と進化 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方，考え方に重点をおいて語ります。その見方，考え方を使って，いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

。

授業科目	**経営学特講 I**	担当者	田原　武志　　東　圭太
	〔履修年次〕　1年、2年	授業外対応	授業終了時、もしくは適宜、メール、電話にて対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】経営を学んで、人生を豊かに幸せにしよう。 【概要】経営にかかわるマネージメント手法を学びます。本講義で定義する経営は会社の経営はもちろん、大学の文化祭実行委員会、部活動、町内会、PTA、家庭、人生なども含みます。レポート作成、発表を通して大学生としての論文、レポート作成力を身につけます。講義を通して、情報収集、論理展開、自分の意見をもつ重要性を伝えます。毎回の講義で達成感、充実感を提供し成長を実感させます。大学の講義受講の中で一番思い出深い講義の一つになると確信しています。 【到達目標】社会人として様々な立場で、講義で学んだマネージメント手法を活用し成果を出せるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　毎回、次回課題をプリントにて配布。メールにて送信。 (2)　無し。		
授業スケジュール	第 1 回　オリエンテーリング 第 2 回　毎回テーマを決めて講義，レポート，感想発表 ~第 14 回　(テーマ例) 「隠れた経営資源に気づく」 「目的、目標の設定の重要性を認識する」 「継続的改善の仕組みを取り入れる」 「企業の果たす社会的責任について認識する」 「トレンドを把握する」 「コンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」 「企業人、社会人、家庭人としてのリスクマネージメント」 「投機と投資の考察」等々 第 15 回　まとめ　試験対策		
授業外学習(予習・復習)	予習（課題が毎回発表）と復習（講義のまとめ）のレポート作成があります。		
成績評価の方法	レポート提出（25%）、授業での発表（25%）筆記試験（50%）		
実務経験について	20 年間以上の経営コンサルタント実務有り。		

授業科目	**比較経営論（隔年開講）**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　1，2 年いずれも履修可	授業外対応	適宜指示（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】経営システムの多様性を知る 【概要】この講義では，様々な国の経営システムを比較します。まず，日本の経営（日本的経営）について解説した後に，アメリカや欧州諸国，アジア諸国などの経営の特徴を見ていきます。各国の経営システムを説明する際に，それらを生じさせた歴史的背景についても触れますので，歴史の話を苦にしない学生さんの受講を望みます。 【到達目標】歴史，政治，経済，地理などの諸条件の相違が，経営システムの相違を生み出すことを理解する。また，経営システムの多様性や経路依存性について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2回　株式会社制度とコーポレート・ガバナンス：経営システムを比較するための基本事項を説明する。 第 3回　日本の経営（1）：戦後以降の歴史を振り返りながら，日本的経営の要点を確認する。 第 4回　日本の経営（2）：日本的経営におけるコーポレート・ガバナンスの変容について考える。 第 5回　日本の経営（3）：日本的生産システムを知る。 第 6回　日本の経営（4）：日本的経営における組織・人的資源管理および経営戦略の特徴を解説する。 第 7回　日本の経営（5）：日本における中小企業について講義する。 第 8回　アメリカの経営（1）：アメリカ企業のコーポレート・ガバナンスを説明する。 第 9回　アメリカの経営（2）：アメリカ企業の組織・人的資源仮や経営戦略の特徴を解説する。 第 10 回　欧州諸国の経営（1）：イギリスの経営について講義する。 第 11 回　欧州諸国の経営（2）：フランスの経営について講義する。 第 12 回　欧州諸国の経営（3）：ドイツの経営について講義する。 第 13 回　アジア諸国の経営（1）：中国の経営について講義する。 第 14 回　アジア諸国の経営（2）：その他アジア諸国の経営を解説する。 第 15 回　まとめ：「比較」，「多様性」，「経路依存性」などをキーワードとして，これまでの講義内容を振り返る。		
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）		

授業科目	**会計情報論**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　1，2	授業外対応	〔履修年次〕
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】会計情報から企業社会の諸相を考察する 【概要】本講義は，担当者が企業の会計情報を分析し，いくつかの実在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは，企業の会計情報を各自で入手し，読解に取り組むことになります。 【到達目標】会計情報を読解し，企業の収益性・安全性について説明できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　太田康広『ビジネススクールで教える経営分析』日経文庫（変更することがある）。 (2)　山根節，太田康広，村上裕太郎『ビジネスアカウンティング』（第3版），中央経済社。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等 第 2回　会計情報分析の対象：経営企画・戦略・会計 第 3回　事例研究①：アパレル企業数社の収益性 第 4回　会計情報の読み方（1）：収益性の分析 第 5回　会計情報の読み方（2）：成長性の分析 第 6回　会計情報の読み方（3）：安全性の分析① 第 7回　会計情報の読み方（4）：安全性の分析② 第 8回　事例研究②：アパレル企業数社の安全性 第 9回　ビジネスプランを練る：損益分岐点分析と DCF 法 第 10 回　有価証券報告書を読む（1）：有報の読むポイントを知る 第 11 回　有価証券報告書を読む（2）：非会計情報から事業の概況を把握する 第 12 回　会計情報分析の実践（1）：比例縮尺財務諸表の作成と収益性分析 第 13 回　会計情報分析の実践（2）：成長性分析 第 14 回　会計情報分析の実践（3）：安全性分析 第 15 回　まとめ	会計科目の履修順序（初学者向け） 1年前期：会計学総論 1年後期：簿記論Ⅰ 簿記論Ⅱ 財務会計論 2年前期：簿記論Ⅲ 原価計算 **会計情報論** 2年後期：管理会計論	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	中間試験（30%）＋期末レポート（70%）		

授業科目	**企業行動科学（隔年開講）**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える。 【概要】行動科学とは，個人や集団の形で人間が行う行動に関して，その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し，説明し，分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく，心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。 この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として，企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために，一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかに、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。 【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論を知る。主要な動機づけ理論を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に配布するプリント (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1回　講義概要の説明：講義の概略を説明する 第 2回　意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第 3回　組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第 4回　集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える 第 5回　組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第 6回　意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える 第 7回　映画「12 人の怒れる男たち」について：集団的意思決定の例を映画を通して考える 第 8回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する 第 9回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点ついて説明する 第 10 回　リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する 第 11 回　リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する 第 12 回　上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する 第 13 回　上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第 14 回　卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は1回目の講義で説明します。		

授業科目	**経営戦略論**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可	授業外対応	適宜指示（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する 【概要】経営戦略とは，外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・発展を図るための，企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも，企業全体の戦略である「企業戦略」，および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに，最近の企業の動向を紹介しながら，現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。 【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに，各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また，講義を通じて獲得した知識を基に，企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになることを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2回　経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。 第 3回　経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン（事業領域）について解説する。 第 4回　規模の経済と範囲の経済，垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。 第 5回　多角化戦略：関連型多角化非関連型多角化の違いを中心に，企業の多角化戦略について考える。 第 6回　M&A と戦略的提携（1）：M&A と戦略的提携について，それぞれの特徴や相違点を見ていく。 第 7回　M&A と戦略的提携（2）：M&A と戦略的提携について，それぞれの特徴や相違点を見ていく。 第 8回　経験曲線と PLC：PPM の基礎になる，経験曲線と PLC について解説する。 第 9回　PPM：全社的視点から，経営資源の配分について考える。 第 10 回　経営戦略の実際：実際の企業を事例として，経営戦略の重要性を再確認する。 第 11 回　競争戦略とは何か：競争戦略の概要や競争戦略論における 2 つのアプローチを説明する。 第 12 回　ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に，ポジショニング・アプローチについて講義する。 第 13 回　資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら，資源ベース・アプローチを説明する。 第 14 回　企業の社会的責任と経営戦略：CSR 戦略を中心に，企業の社会的責任について考える。 第 15 回　経営戦略と現代社会：これまでの講義内容を振り返りながら，現代社会における経営戦略のあり方を解説する。		
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験（90%）＋リアクション・ペーパーや授業に臨む姿勢等（10%）		

授業科目	**財務会計論**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕　1，2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】財務諸表の作成原理や会計制度，開示制度の概要について理解する 【概要】本講義は，企業が営む主要な活動に焦点をあてて，その結果が会計情報へと集約される過程，すなわち，財務諸表の作成プロセスとそれを規制する社会的なルールについて学習します。 また，近年，重要性を増している企業のグローバル化や企業集団に関わる財務会計についても解説します。 【到達目標】財務諸表を作成する能力を養い，会計の社会的な役割を理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。 (2)　未定。各回の講義時に，必要に応じて，資料を配布します。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等，会計とは何か?，会計の歴史 第 2回　情報の非対称性と会計制度，会計情報の仕組み，貸借対照表，損益計算書の構成要素 第 3回　流動・固定の区分，構成要素の認識・測定，資産評価と費用計上 第 4回　貸借対照表の構成要素−資産，現金預金，営業債権の種類等 第 5回　有価証券の種類，期末評価，商品の取得原価，商品払出価額の計算等 第 6回　製品の製造原価，仕掛品，製品の期末評価 第 7回　有形固定資産の種類・取得原価，減価償却・期末評価 第 8回　貸借対照表の構成要素ー負債・純資産，買掛金と未払金等 第 9回　賞与引当金と退職給付引当金，社債と長期借入金 第 10 回　資本金，資本剰余金と利益剰余金，自己株式 第 11 回　損益計算書の構成要素，理解したい損益計算書とその区分 第 12 回　収益・費用の認識基準， 第 13 回　収益・費用の測定基準 第 14 回　連結財務諸表の目的，連結の範囲 第 15 回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（筆記試験）（80%），授業中に課すレポート作成（20%）		

＊受講生の学習進捗状況，従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。
会計学総論を履修済みであることが望ましい。

授業科目	**マーケティング論**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　1，2 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ 【概要】マーケティングとは，企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりを意味します。現代の企業にとって，マーケティングはますます重要になっています。本講義では，マーケティング論の基本事項を説明した後，現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば，グループ・ワークを適宜取り入れることで，より理解を深めていきます。 【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し，消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。すなわち，今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解することで「賢い」消費者になると同時に，顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2回　マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第 3回　グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。 第 4回　標的市場の選択：STP について解説する。 第 5回　消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ることで，消費者の購買行動について理解を深める。 第 6回　競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に，企業間競争の構造分析の方法を知る。 第 7回　グループ・ワーク②：市場・顧客分析をしてみよう。 第 8回　製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。 第 9回　価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第 10 回　流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。 第 11 回　流通戦略（2）：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。 第 12 回　プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスなどを講義する。 第 13 回　ブランド戦略：これまでの内容を基に，ブランド構築やブランド管理について考える。 第 14 回　企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。 第 15 回　グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。		
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験（80%）＋リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど（20%）		

授業科目	経営工学	担当者	倉重　賢治
	〔履修年次〕　1,2 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化 【概要】 現在の企業活動においては，情報技術を有効に活用した情報収集，さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず，取引先も含めた情報も共有化されることで，より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では，企業活動において頻繁に行われる意思決定，例えば，生産スケジュールの立案や在庫管理など，その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。 【到達目標】 企業活動における，ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　圓川隆夫・伊藤謙治，『生産マネジメントの手法』，朝倉書店		
授業スケジュール	第 1 回　序論：経営工学とは 第 2 回　生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか 第 3 回　生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか 第 4 回　工程編成：均等に作業を割り当てるには 第 5 回　プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第 6 回　設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第 7 回　生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか 第 8 回　作業分析：作業者の動作を分析する 第 9 回　投資計画 1：お金の現在価値と将来価値 第 10 回　投資計画 2：プロジェクトの価値 第 11 回　在庫問題：在庫コストを少なくする 第 12 回　評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第 13 回　最短経路：一番近い道を探す 第 14 回　配送計画：配達順序を決める 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重　賢治
	〔履修年次〕　2 年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作 【概要】 実務でのコンピュータ利用において，データベース処理ソフトは，非常に重要な役割を果たしている。この演習では，まず，リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に，代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し，データベース設計に関する問題に取り組んでいく。 【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して，簡単なシステム開発を行う		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　特になし		
授業スケジュール	第 1 回　序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回　Access の操作：Access とは 第 3 回　Access の操作：レコードの並べ替え 第 4 回　Access の操作：レコードの追加 第 5 回　Access の操作：フォームの作成 第 6 回　Access の操作：選択クエリの作成 第 7 回　Access の操作：さまざまなクエリ 第 8 回　Access の操作：アクションクエリ 第 9 回　Access の操作：データベースの設計 第 10 回　Access の操作：リレーションシップの作成 第 11 回　Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第 12 回　Access の操作：レポートの作成 第 13 回　Access の操作：レポートのアレンジ 第 14 回　Access の操作：マクロの利用 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%）		

授業科目	**プログラミング**	担当者	倉重　賢治
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 VBA（Visual Basic for Application）を用いたプログラミング 【概要】 プログラミングとは，コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では，プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて，論理的な思考を身につけることはもちろんのこと，VBA の利用により，さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。 【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　特になし		
授業スケジュール	第 1回　序論：プログラミングの概念 第 2回　VBA の利用：関数と変数 第 3回　VBA の利用：条件分岐 第 4回　VBA の利用：オブジェクトの基本 第 5回　VBA の利用：繰り返し操作 第 6回　VBA の利用：マクロの登録と自作関数 第 7回　VBA の利用：マクロの記録 第 8回　VBA の利用：文字列と日付関数 第 9回　VBA の利用：変数の型宣言と配列 第 10 回　VBA の利用：プロシージャとオブジェクト 第 11 回　VBA の利用：セル操作の詳細 第 12 回　VBA の利用：イベントプロシージャ 第 13 回　VBA の利用：ユーザーフォーム 1 第 14 回　VBA の利用：ユーザーフォーム 2 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%）		

授業科目	**簿記論Ⅲ**	担当者	櫛部　幸子
	〔履修年次〕　1、2年	授業外対応	授業終了時
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】複式簿記の基礎原理から応用論点へ 【概要】複式簿記の基礎原理・応用論点・記帳技術を、講義と演習により学習する。 【到達目標】簿記一巡の手続きと基礎原理・応用論点を理解し、財務諸表を作成することができる。損益会計、資産会計、負債会計、および純資産会計について理解することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス(履修確認　講義計画の説明、簿記理解度チェック等) 第 2回　簿記の基本概念：資産・負債・純資産 第 3回　資産会計(意義と認識・測定) 第 4回　資産会計(流動資産・固定資産・繰延資産) 第 5回　負債会計(意義・分類・評価) 第 6回　負債会計(金銭債務・引当金) 第 7回　純資産会計(意義) 第 8回　純資産会計(分類) 第 9回　損益会計(収益と費用) 第 10 回　損益会計(利益の計算方法) 第 11 回　損益会計(商品販売 1) 第 12 回　損益会計(商品販売 2) 第 13 回　財務諸表(貸借対照表) 第 14 回　財務諸表(損益計算書) 第 15 回　まとめ（最終的な理解度チェック等)		
授業外学習(予習・復習)	毎回、前回の授業内容の小テストを行うため、授業のテーマに関する復習を計 4 時間程度行うこと。復習を中心に、繰り返し演習問題を解くこと。具体的な内容は、毎回授業時に板書にて指示します。		
成績評価の方法	期末試験(70%)と毎回の小テストの結果(30%)。		

授業科目	**情報論特講**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】ICT（情報通信技術）について実用的，応用的な学習をおこなう。		
	【概要】ハードウェア，ソフトウェア，ネットワークといったICT を学び，日商PC 検定2 級知識科目と同等以上の知識を得る。更に表計算ソフト（エクセル）の実用的な使用方法について学習を行う。		
	【到達目標】実社会において，自らICT 業務に携わり，効果的，効率的な活用ができるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　FOM 出版「日商PC 検定試験 知識科目 2 級対策問題集」，プリント (2)　特になし		
授業スケジュール	第 1回　概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2回　ハードとソフト：PC 等のICT 機器のハードウェア，ソフトウェアの解説 第 3回　コンピュータの内部部品１：CPU とメモリの解説 第 4回　コンピュータの内部部品２：ストレージと光学ドライブの解説 第 5回　インターネットとネットワーク：TCP/IP の意味と設定方法 第 6回　ブロードバンドルータ：ルータの役割と設定方法，Wi-Fi の解説 第 7回　様々なウェブサービスとリモートアクセス：ウェブサービスの使用例 第 8回　表計算ソフトの活用１：ネット上のデータの取り込み(Web クエリ)，ヒストグラム 第 9回　表計算ソフトの活用２：グラフの種類と選択方法，Ｚチャート 第10回　表計算ソフトの活用３：散布図と相関係数，回帰分析 第11回　表計算ソフトの活用４：パレート図によるABC 分析 第12回　表計算ソフトの活用５：フィルターとピボットテーブル 第13回　表計算ソフトの活用６：統計機能による有意差検定 第14回　表計算ソフトの活用７：データツールと差し込み印刷 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート(50%)＋授業中の課題（50%）		

（注）「情報科学概論」（担当：岡村俊）を履修済み，もしくは同等以上の学習が終了している中級者，上級者を対象とする。

13　第二部商経学科教養科目
(教養一般)

授業科目	**人間と文化**	担当者	竹本　寛秋・望月　正道・古川　那由太・上笹貫　鷹暁 岡田　登・岡村　雄輝・岩上
	〔履修年次〕　1～3年いずれでも履修可　〔学期〕前期（集中講義） 〔単位〕　2　単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】文化という人間の営みを，人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。 【概　要】県立短大3学科の教員7名が、それぞれの分野から，さまざまな地域・時代における「文化」を、異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に，多角的な知見を学ぶことで、受講生にとって，時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。 (9/13,9/14,9/15,9/16,9/17,9/21,9/22 の集中講義。県内大学等のコーディネート科目であり，他大学等の学生も受講する) 【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより、さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）未定（必要に応じて後日指示します。） （2）授業中，必要に応じて指示します。		
授業スケジュール	第1回　近代の文学とメディア：草稿と小説の生成（竹本　寛秋） 第2回　現代の文学とメディア：インターネットと詩の生成（竹本　寛秋） 第3回　デザインする文化：見えるデザイン（上笹貫　鷹暁） 第4回　デザインする文化：見えないデザイン（上笹貫　鷹暁） 第5回　鹿児島の農業と職：農業法人化による企業的農業（岡田　登） 第6回　鹿児島の農業と職：農村空間の商品化と都市の農村化（岡田　登） 第7回　鹿児島の「観光案内」を読む（1）（望月　正道） 第8回　鹿児島の「観光案内」を読む（2）（望月　正道） 第9回　生物文化多様性：生態系を守る文化（古川　那由太） 第10回　生物文化多様性：地域の付加価値を創造する文化（古川　那由太） 第11回　題未定（岩上　敏秀） 第12回　題未定（岩上　敏秀） 第13回　記号と企業社会（1）（岡村　雄輝） 第14回　記号と企業社会（2）（岡村　雄輝） 第15回　まとめ （順番，内容を変更することがあります）		
授業外学習（予習・復習）	適宜指示します。		
成績評価の方法	レポートの提出（85%）と毎回の授業の感想・意見等（15%）で評価します。		
実務経験について	上笹貫（制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務），岡田（自治体の元職員）		

授業科目	**日本の歴史**	担当者	永山修一
	〔履修年次〕　1，2，3年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】原始～中世前期の「日本の歴史」 【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ，十分に意識しながら，南九州から南島に生活した人々の姿を， なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。 【到達目標】身近な歴史に関心を持つことができ，歴史的思考力の一端を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業時に配布（プリント） (2)　『鹿児島県の歴史』（山川出版社，1999年）原口泉・永山修一・日限正守・松尾千歳・皆村武一		
授業スケジュール	第　1回　歴史の見方 第　2回　資料と史料（文献） 第　3回　資料と史料（遺物） 第　4回　資料と史料（遺構） 第　5回　旧石器時代・縄文時代 第　6回　弥生時代・ 第　7回　古墳時代 第　8回　神話と伝承 第　9回　隼人と律令制度 第10回　薩摩国正税帳を読む 第11回　平安時代の薩摩・大隅 第12回　奄美諸島の歴史 第13回　キカイガシマをめぐって 第14回　イオウガシマをめぐって 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業時毎の小レポート（60%） レポート（40%）		

授業科目	**日本文学・古典（隔年開講）**	担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕　1,2,3 年次いずれでも可	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】平安人の異文化との遭遇ー遣唐使と平安文学ー 【概要】現代の社会においても異文化理解は大きな課題です。今から 1000 年以上前の平安時代の人々にとっての異文化といえば、隣国中国（唐）でした。 この講義では、奈良時代から平安時代にかけて、外交使節団として唐に渡った遣唐使の異文化交流の様相と、それが平安時代の文学にどのように影響を与えたかを考えていきます。 【到達目標】古典文学に親しむ。遣唐使について理解を深め、古代における異文化交流、異文化理解がどのようなものであったか考える。平安時代文学に反映した異文化理解について考え、自分のことばで意見をまとめることができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　王勇『唐から見た遣唐使　混血児たちの大唐帝国』（講談社選書メチエ　一九九八） 東野治之『遣唐使船　東アジアの中で』（朝日選書　一九九九） 『阿倍仲麻呂』（吉川弘文館　人物叢書　二〇一九）		
授業スケジュール	第 1 回　オリエンテーション：初めに。異文化理解とは。 第 2 回　遣唐使とは：続日本紀の記録 第 3 回　遣唐使の実例：阿倍仲麻呂と吉備真備 第 4 回　遣唐使の実例：航海の苦労と遭難 第 5 回　平安朝物語の中の遣唐使の記憶１：竹取物語 第 6 回　平安朝物語の中の遣唐使の記憶２：うつほ物語 第 7 回　平安朝物語の中の遣唐使の記憶３：宇治拾遺物語 第 8 回　実在の遣唐使の虚と実１：吉備大臣入唐のこと 第 9 回　実在の遣唐使の虚と実２：鬼となった阿倍仲麻呂 第 10 回　実在の遣唐使の虚と実３：阿倍仲麻呂と唐代詩人 第 11 回　実在の遣唐使の虚と実４：吉備真備の活躍 第 12 回　実在の遣唐使の虚と実５：井真成の墓誌 第 13 回　渤海国との交流：源氏物語 第 14 回　渤海国との交流：菅原道真、大江朝綱 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業で取り扱った作品を読む。遣唐使の事跡について調べる		
成績評価の方法	毎回の授業のコメントカード（50%） レポート（50%）		

授業科目	**こころの科学**	担当者	田中　真理
	〔履修年次〕　1，2，3 年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】心理学の視点から，人間の心理に対する理解を深めるとともに，精神的健康を維持増進する方法について学ぶ。 【概要】本講義では特に，社会心理学，臨床心理学，発達心理学の観点から，人間の行動や心理の理解，日常生活における精神的健康に関わる知識，発達的理解の習得を目指す。適宜，質問紙や心理検査，ワークなどを用いた体験的な学習を行う。 【到達目標】①自己理解や他者理解を深めるための心理学の知識の習得を目標とする。 ②精神的健康やその予防・対処に関する知識の習得を目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適宜紹介する。 (2)　①無藤 隆他著『心理学（新版）』有斐閣，2018 年 ②丹野義彦他著『臨床心理学』有斐閣，2015 年 ③池田謙一他著『社会心理学補訂版』有斐閣，2019 年 ④中野敬子著『ストレス・マネジメント入門[第 2 版]―自己診断と対処法を学ぶ』金剛出版，2016 年		
授業スケジュール	第 1 回　オリエンテーション 第 2 回　心理学の研究方法 第 3 回　社会心理学①：自己をめぐる諸概念 第 4 回　社会心理学②：自己と社会 第 5 回　社会心理学③：感情・情動 第 6 回　社会心理学④：パーソナリティ 第 7 回　臨床心理学①：ストレス理論 第 8 回　臨床心理学②：ストレス・マネジメント―理論編 第 9 回　臨床心理学③：ストレス・マネジメント―実践編 第 10 回　臨床心理学④：ストレス関連障害，うつ病 第 11 回　発達心理学①：乳児期～児童期の発達 第 12 回　発達心理学②：青年期の発達 第 13 回　発達心理学③：成人期・中年期の発達 第 14 回　発達心理学④：高齢期の発達 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	試験（60%）＋　レポート課題（30%）＋　リアクションペーパーの内容（10%）		
実務経験について	大学の学生相談室にて相談業務に従事		

授業科目	比較文化	担当者	陳　躍
	〔履修年次〕　1，2，3年	授業外対応	メール対応（chenyue0205@yahoo.co.jp;）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！） 【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。会話パターンの日中相違、接し方の日中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、相違の背後にある文化価値観を浮き彫りにし、最終レポートにまとめる。 【到達目標】１中国社会を知る。２中国人を知る。３日本人と中国人との相違を知る。４「日本人」に関して再度認識する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント配布 (2)　陳　躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年）		
授業スケジュール	第　1回　空気を読まない中国人と空気を読む日本人 第　2回　初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人 第　3回　店員が神様である中国と客が神様である日本 第　4回　イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人 第　5回　家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人 第　6回　向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人 第　7回　なれなれしい中国人とよそよそしい日本人 第　8回　中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」 第　9回　「かまわない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人 第10回　無責任なことをかるく言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人 第11回　その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人 第12回　喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人 第13回　核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人 第14回　傍若無人な中国人と人の目ばっかり気にする日本人 第15回　相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人		
授業外学習(予習・復習)	プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。		
成績評価の方法	授業への参加態度（60%）、レポート（40%）。		

授業科目	アジア文化論	担当者	カムチャイ　ライサミ
	〔履修年次〕　1年，2年，3年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】アジア文化のダイナミズム アジア文化は多様性に富んでいる。その要因とは何か。アジア文化の本源的要素と現代的動態を明らかにする。 【概要】アジア文化は世界文化の一大拠点を成している。アジアの自然と宗教がどのようにアジア文化を育み、現代の政治・経済・社会にどのように影響を与えるか、実例を交えながら講義する。 【到達目標】アジアの自然と主要宗教を展望し、アジア文化の深層を理解できること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキストなし。毎回プリントを配布する。 (2)　必要に応じて、その都度指示する。		
授業スケジュール	第　1回　アジア文化の多様性 第　2回　文化と自然・風土 第　3回　文化と宗教 第　4回　文化と生活 第　5回　東アジアの道教 第　6回　東アジアの儒教 第　7回　東アジアの仏教 第　8回　東南アジアの仏教 第　9回　東南アジア・中近東のイスラム教 第10回　南アジアのヒンドゥー教 第11回　アジアのクリスト教 第12回　日本の神道 第13回　文化と経済発展 第14回　文化とビジネス 第15回　アジア文化融合の未来		
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。		
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）		

授業科目	日本国憲法	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕　1,2,3 年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権，基本的人権の尊重，平和主義を体系的に理解した上で，日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。 【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに，基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年，その価値が問い直されている一方，新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では，国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権，平和に崇高な価値をおき，その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義，個人の尊厳の原理に基づき，個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として，人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。 【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し，政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　佐伯仁志他編，『ポケット六法（令和 3 年度版）』，有斐閣		
授業スケジュール	第 1 回　憲法概論　・国民主権，基本的人権の尊重，平和主義，権力分立主義の理念について 第 2 回　基本権総論　・私人間の人権保障，基本権の享有主体性，二重の基準の理論について 第 3 回　幸福追求権　・幸福追求権，人間の尊厳，プライバシーの権利，法の下の平等について 第 4 回　精神的自由権(1)　・思想・良心の自由，信教の自由，政教分離の原則について 第 5 回　精神的自由権(2)　・表現の自由，検閲の禁止，知る権利，通信の秘密，報道の自由について 第 6 回　精神的自由権(3)　・集会・結社の自由，検閲の禁止，LRA の基準，学問の自由，大学の自治について 第 7 回　経済的自由権　・職業選択の自由，居住・移転の自由，国籍離脱の自由，財産権について 第 8 回　受益権　・裁判を受ける権利，請願権，国家賠償請求権，刑事補償請求権について 第 9 回　社会権(1)　・生存権，環境権，教育を受ける権利，教育の自由について 第 10 回　社会権(2)　・勤労権，労働基本権，争議権，参政権，選挙権について 第 11 回　国会(1)　・国権の最高機関の意味，唯一の立法機関の意味，衆議院の優越について 第 12 回　国会(2)　・国会議員の地位，議員の特権，国会の活動，国会と議院の権能について 第 13 回　内閣　・内閣の地位，内閣総理大臣の権限，国務大臣の権限，内閣の責任について 第 14 回　裁判所　・最高裁判所の権限，統治行為論，違憲審査制について 第 15 回　財政　・財政民主主義，租税法律主義，国費支出議決主義，公金支出の禁止について		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。		

授業科目	ライフプランニング	担当者	瀬尾　由美子
	〔履修年次〕	授業外対応	講義終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 将来の生活設計に必要な「ライフプランニングの考え方」を身につける 【概要】「ライフプランニング」とはこれから先の人生をどのように過すのかを思い描き、実現するための方法を考え、計画を立てることである。「ライフプランニング」の考え方を学ぶことで、経済的に自立し、安心して将来の生活を過ごすことができるようになる。 【到達目標】 ・ライフプランニングに必要な金融や経済に関する基礎知識を身につける。 ・金融商品や各種サービスの選択をする際に適切な判断ができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「大学生のための人生とお金の知恵」　金融広報中央委員会（無償提供、）、プリント (2)　「これであなたもひとり立ち」　金融広報中央委員会（無償提供）		
授業スケジュール	第 1 回　ライフプランニング（1）：ライフプランニングの必要性と考え方 第 2 回　ライフプランニング（2）：これからの人生のライフデザインを思い描く 第 3 回　ライフプランニング（3）：ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性 第 4 回　社会保険制度（1）：社会保険制度の概要と基礎知識 第 5 回　社会保険制度（2）：公的年金制度の概要と基礎知識 第 6 回　社会保険制度（3）：セーフティネットを理解する 第 7 回　所得税：所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方 第 8 回　貯蓄と投資（1）：消費と投資の考え方の違い 第 9 回　貯蓄と投資（2）：貯蓄と運用の考え方の違い 第 10 回　貯蓄と投資（3）：運用する際の基礎知識 第 11 回　貯蓄と投資（4）：将来に備えるために役立つ制度 第 12 回　貯蓄と投資（5）：金利と法律の基礎知識 第 13 回　保険（1）：生命保険の基礎知識と考え方 第 14 回　保険（2）：損害保険の基礎知識と考え方 第 15 回　まとめ：第 1 回から第 14 回までのまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中ごとの感想（50%） 期末試験（50%）		
実務経験について	2010 年からライフプランセミナー講師、2013 年から FP3 級資格取得講座講師、2016 年から FP2 級資格取得講座講師		

授業科目	**環境問題**	担当者	井村隆介・榮村奈緒子・淺海真弓・岡村雄輝
	〔履修年次〕 1，2，3	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を様々な角度から考える 【概要】自然史（井村），森林科学（榮村），生活科学(淺海)，経済社会（岡村）の視点から環境問題を考える 【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 使用しない。 (2) 國部克彦（編集），神戸 CSR 研究会（編集）『CSR の基礎』，中央経済社。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等 第 2回 鹿児島の自然史 (1) 鹿児島と気候変動 第 3回 鹿児島の自然史 (2) 鹿児島の地震と火山 第 4回 鹿児島の自然史 (3) 鹿児島の植生史 第 5回 鹿児島の自然史 (4) 鹿児島の自然と人 第 6回 森林科学（1）：動物と植物の相互作用 第 7回 森林科学（2）：獣害 第 8回 森林科学（3）：外来種 第 9回 生活科学（1）：衣生活と環境問題（衣服廃棄・リサイクルの現状と課題） 第 10 回 生活科学（2）：食生活と環境問題（食品廃棄物の現状と課題） 第 11 回 生活科学（3）：地球環境に配慮した生活（私たちの生活の中でできる取り組み） 第 12 回 経済社会（1）：企業と公害（1） 第 13 回 経済社会（2）：企業と公害（2） 第 14 回 経済社会（3）：企業のグローバル化とその影響（1） 第 15 回 経済社会（4）：企業のグローバル化とその影響（2）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	各講師の課題（20～30 点）×4＝100 点満点とする		

授業科目	**かごしま教養プログラム**	担当者	県内 7 大学等の担当教員
	〔履修年次〕 1年	〔学期〕	通年
	〔単位〕 2	〔必修／選択〕	選択（注） 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローカルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。３日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。 【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。 ②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。 ③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	第 1回 令和２年度実施概要（令和３年度については未定） 日程 ： ８月１９日（水）～２１日（金） 場所 ： 鹿児島大学 定員 ： 県内４大学等の学生 26 人		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	・発表とレポートを合わせて評価する。従って，どちらか一方がかけた場合は，評価対象外とする。 ・レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は，評価対象外とする。		

(注)「日本文学概論」（日本語日本文学専攻），「スタディスキルズ」（英語英文学専攻），「生活科学概論」（生活科学科），「基礎演習」（商経学科）の履修が条件となります。

授業科目	**かごしまフィールドスクール**	担当者	県内７大学等の担当教員
	〔履修年次〕　１年	〔学期〕	通年
	〔単位〕　2	〔必修／選択〕	選択（注）　〔授業形態〕　実習
テーマ及び概要	【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。 この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローカルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通した理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通した総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。 【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。 ②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。 ③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。		
⑴テキスト ⑵参考文献	⑴　未定 ⑵　未定		
授業スケジュール	第　1回　令和２年度実施概要（令和３年度については未定）中止 日程・場所：①８月２６日（月）～２８日（水）　２泊３日 霧島牧園地区 ②８月２５日（日）～２８日（水）　４日間 鹿児島市，いちき串木野市，薩摩川内市，出水市，姶良市 ③８月２６日（月）～２９日（木）　３泊４日 南さつま市大浦町 定員　：　県内７大学等の学生 90 人		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	・発表とレポートを合わせて評価する。従って，どちらか一方がかけた場合は，評価対象外とする。 ・レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は，評価対象外とする。		

（注）「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

授業科目	**キャリアデザイン**	担当者	担当教員
	〔履修年次〕　２年	〔学期〕	通年
	〔単位〕　1	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕　講義
テーマ及び概要	【テーマ】１年生が就職活動を始める前に，卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。 【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため，個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウ・ハウの伝授にとどまらず，キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方，企業社会の理解，企業選択に対して知っておくべきことや，退職や転職，再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて，将来，自らのキャリアパスを再デザインし，マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。 【到達目標】８回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。		
⑴テキスト ⑵参考文献	⑴　プリント ⑵　適宜紹介		
授業スケジュール	◆５月１９日（水）（特設時間を利用） 第１回　「総論」　キャリア・キャリアデザインとは ◆６月１６日（水）（特設時間を利用） 第２回　「職業の見つけ方Ⅰ」　自己分析の仕方 ◆７月１４日（水）（特設時間を利用） 第３回　「職業の見つけ方Ⅱ」　企業研究の仕方 ◆９月２２日（木）３限 第４回　「職業の見つけ方Ⅲ」　企業・団体が求める人材と専門技能について ◆９月２２日（木）４限 第５回　「職業の見つけ方Ⅳ」　先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆１０月２０日（水）（特設時間を利用） 第６回　「仕事と生活の擁護」 ◆１１月１０日（水）（特設時間を利用） 第７回　「キャリアプランの拡張Ⅰ」　自分を生かす転職について ◆１２月２２日（水）（特設時間を利用） 第８回　「キャリアプランの拡張Ⅱ」　プロフェッショナルになろう ※　３年度の講師については適宜掲示する。		
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出（100%）		

14　第二部商経学科教養科目
（外国語科目）

授業科目	英語Ⅰ（A）	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　1年, 2年, 3年	授業外対応	適宜（要予約）およびEdmodo
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を使う本質的意味の理解を深めながら，英語で自己発信するスキルを向上させる。 【概要】 本授業では，返答や補足・確認質問など，日常会話でよく使われるコミュニケーションストラテジーを学習します。授業では，各ストラテジーに関して，インフォメーションギャップなどのタスクをペアやグループで実践し，コミュニケーションを体験しながら英語表現を身につけます。英語のスキル向上だけでなく，何のために英語を使うのか，何のために英語を学ぶのかについて再考し，自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考えます。授業言語は英語です。 【到達目標】①英語のコミュニケーションストラテジー表現を理解する。②積極的に英語で表現することができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント配布 (2)　Kehe D. & Kehe D. P. (2007) *Conversation Strategies: Pair and Group Activities for Developing Communicative Competence, 2nd Edition*, Pro Lingua Associates.		
授業スケジュール	第 1回　Course introduction 第 2回　Rejoinders 第 3回　Follow-up questions 第 4回　Confirmation questions 第 5回　Clarifications with question words 第 6回　Keeping or killing the conversation 第 7回　Expressing probability 第 8回　Mid-term exam and review 第 9回　Interuppting someone 第10回　Eching instructions 第11回　Polite requests, responses, and excuses 第12回　Getting response 第13回　Soliciting details 第14回　Responding with details 第15回　Course review		
授業外学習(予習・復習)	復習1時間以上必要である。		
成績評価の方法	Learning Portfolio 40%　Mid-term20%　Final（定期試験期間中）40%で評価する。		

授業科目	英語Ⅰ（B）	担当者	ジェイムズ・マレー　James Murray
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension. 【概要】Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for meeting people, describing things, giving directions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating. 【到達目標】The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Introduction / Conversation Activities 第 2回　Unit 1: Meeting People; Personal Information 第 3回　Unit 1: Using Simple Present; Hobbies and Interests 第 4回　Unit 2: Describing People; Talking about Family 第 5回　Unit 2: Using Simple Present (Be vs. Have); Appearance Adjectives 第 6回　Unit 3: Describing Routines and Schedules 第 7回　Unit 3: Using Adverbs of Frequency 第 8回　Test (1) and Conversation Activities 第 9回　Unit 4: Talking about Locations 第10回　Unit 4: Using Prepositions 第11回　Unit 5: Giving Directions 第12回　Unit 5: Using To, At, From, On, In; Using Imperative Verbs 第13回　Unit 6: Talking about Past Events and Activities 第14回　Unit 6: Using Past Tense; Using Irregular Verbs 第15回　Test (2) and Conversation Activities		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)		
実務経験について	高等学校で教員（ALT）として勤務		

授業科目	英語Ⅱ（A）	担当者	石井　英里子
	〔履修年次〕　1年, 2年, 3年	授業外対応	適宜（要予約）および Edmodo
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 英語を使う本質的意味の理解を深めながら，英語で自己発信するスキルを向上させる。 【概要】 本授業では，返答や補足・確認質問など，日常会話でよく使われるコミュニケーションストラテジーを学習します。授業では，各ストラテジーに関して，インフォメーションギャップなどのタスクをペアやグループで実践し，コミュニケーションを体験しながら英語表現を身につけます。英語のスキル向上だけでなく，何のために英語を使うのか，何のために英語を学ぶのかについて再考し，自身の理想の英語ユーザーとなるためにはどのようなことが必要かについて考えます。授業言語は英語です。 【到達目標】①英語のコミュニケーションストラテジー表現を理解する。②積極的に英語で表現することができる。③英語で表現することや今後の英語学習への興味・関心・意欲を持つ。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント配布 (2)　Kehe D. & Kehe D. P. (2007) *Conversation Strategies: Pair and Group Activities for Developing Communicative Competence, 2nd Edition*, Pro Lingua Associates.		
授業スケジュール	第 1回　Course introduction, Making comparisons 第 2回　Finding the right word 第 3回　Exploring a word 第 4回　Correcting someone 第 5回　Eliciting confirmation 第 6回　Starting and stoppong a conversation 第 7回　Beginning and ending a phone call 第 8回　Mid-term exam and review 第 9回　Expressing opinions 第10回　Making a group discussion 第11回　Discussion connectors 第12回　Summarizing 第13回　Conductiong a formal meeting 第14回　For fun: Find the strange word 第15回　Volunteering an answer		
授業外学習(予習・復習)	復習1時間以上必要である。		
成績評価の方法	Learning Portfolio 40%　Mid-term 20%　Final（定期試験期間中）40%で評価する。		

授業科目	英語Ⅱ（B）	担当者	ジェイムズ・マレー　James Murray
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension. 【概要】Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating. 【到達目標】The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」(Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)		
授業スケジュール	第 1回　Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills 第 2回　Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with 第 3回　Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions 第 4回　Unit 8: Using different verb patterns 第 5回　Quiz (1) and Discussion 第 6回　Unit 9: Talking about Future plans and Activities 第 7回　Unit 9: Using Future tense; Making predictions 第 8回　Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items 第 9回　Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers 第10回　Quiz (2) and Discussion 第11回　Unit 11: Giving instructions 第12回　Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past 第13回　Unit 12: Expressing opinions; Discussing music 第14回　Unit 12: Using Simple past vs Present perfect 第15回　Final Exam		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Quizzes 60%,　Final Exam 40%		
実務経験について	高等学校で教員（ALT）として勤務		

授業科目	**異文化コミュニケーション（英語）**	担当者	英語担当教員全員
	〔履修年次〕 1,2,3 年いずれでも履修可	〔学期〕	通年
	〔単位〕 ２単位	〔必修／選択〕	選択　〔授業形態〕 実習
テーマ及び概要	【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。 【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち，滞在期間中，基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。 2019 年度の実績 日程：９月４日～９月１７日 参加者：３１名 研修費用：約 38 万円（授業料，往復航空運賃，宿泊費，平日の朝・昼食費等） 【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく，ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え，理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)		
授業スケジュール	事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に３～４回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明，パスポートの取得方法など，海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明，課題（研修中の日記，研修後のレポート作成）の指示など。 海外研修： ９月を予定（約２週間）。現地の大学では，午前中に英語の授業，午後にハワイ文化に関する授業（フラダンス），KCC 学生との異文化交流。その他，学外授業としてプランテーションヴィレッジ，イオラニ宮殿，真珠湾の見学。 事後指導：帰国後に総括。		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%） とハワイでの研修状況（50%）で評価する。		

授業科目	**異文化コミュニケーション（中国語）**	担当者	中国語担当教員全員
	〔履修年次〕 1,2,3 年いずれでも可	授業外対応	メールで事前連絡すること
	〔学期〕 通年　〔単位〕 2　〔必修／選択〕 選択　〔授業形態〕 実習		
テーマ及び概要	【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。 【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は，わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は，中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中，基礎的な実用中国語を習得し，さらに，南京農業大学の学生と交流し，中国の文化習慣などについて直接体験します。 中国語を用いて活動するため，あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。 ※2019 年度中国研修の実績 ・日程：9 月 7 日（土）～21 日（土）［15 日間］ ・参加者：11 名（日本語日本文学専攻３名，英語英文学専攻４名，経済専攻１名，経営情報専攻２名，第二部商経学科１名） ・費用：約 16 万円（ビザ，往復航空券，授業料，宿泊費，南京市内・市外の見学費用など） 【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)		
授業スケジュール	事前指導 受講希望者に 3～5 回行います。 ［1］南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明， ［2］海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明， ［3］課題（レポート作成）の指示などです。 海外研修 休業期間に約 2 週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか，さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。 事後指導 帰国後に総括します。		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%），および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。		

授業科目	中国語Ⅰ(A)	担当者	陳　躍
	〔履修年次〕　1 年	授業外対応	授業終了後及びメールによる（アドレスは授業中に告知）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。前期はその前半部分の学習に当てる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 (2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1回　我是上海人 第 2回　我叫王平 第 3回　这里是南京路 第 4回　现在几点了? 第 5回　今天是星期几? 第 6回　你家有几口人? 第 7回　没关系（映画） 第 8回　香港的夏天热吗?（映画） 第 9回　四川菜很好吃（中間テスト） 第 10 回　我经常散步 第 11 回　牌价是多少? 第 12 回　汉语难不难? 第 13 回　我没吃蒜 第 14 回　我想去超市 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０％にする。　残り５０％の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語Ⅰ（B）	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　１年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語に親しむ 【概要】 この授業では，中国語の発音を身につけ，ロールプレイ，ゲームなど様々な教室活動を通して，中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像，留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】 中国語の発音記号（ピンイン）の読み方と綴り方がわかり，簡単な日常あいさつ，自己紹介ができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12 課』同学社 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習 第 2回　発音（1）：単母音と声調の導入，練習 第 3回　発音（2）：複母音の導入，練習 第 4回　発音（3）：子音の導入，練習 第 5回　発音（4）：子音の練習、発音のまとめ 第 6回　動詞是の使い方 第 7回　姓の言い方，尋ね方。フルネームの言い方，尋ね方 第 8回　これまでの復習 第 9回　動詞文の導入と練習 第 10 回　動詞文の練習、疑問文の練習 第 11 回　二つ以上の動詞からなる連動文 第 12 回　希望や願望を表す助動詞「想」の導入，練習 第 13 回　留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14 回　全体の復習 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テスト(50%) 期末試験(50%)で評価する		

授業科目	中国語Ⅱ(A)	担当者	陳　躍
	〔履修年次〕　1 年	授業外対応	授業終了後及びメールによる（アドレスは授業中に告知）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話 【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い，説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち，70 分程度練習し，残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい，参考にする。希望に応えるように，授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試ＨＳＫ筆記１級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　テキスト①『楽しい中国』于国軍著　斯文堂 (2)　①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1回　来我家玩吧 第 2回　我打算去旅行 第 3回　没看过，听过 第 4回　我能参加 第 5回　我记一下 第 6回　我们边走边谈 第 7回　好像借给小李了（中間テスト） 第 8回　我不会打日文（映画） 第 9回　你知道号码吗？（映画） 第10回　什么都可以 第11回　被谁偷走了呢? 第12回　让你久等了 第13回　有没有单间? 第14回　我说得不好 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験５０％にする。　残り５０％の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語Ⅱ（B）	担当者	楊　虹
	〔履修年次〕　１年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる 【概要】 この授業では，中国語Ｉを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ，引き続き中国語の基本構文を導入し，中国語を聞いて，話す力を伸ばす。さらに，中国の音楽や映画などの映像を通して、中国の社会、文化にも触れる。 【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し，中国語による家族構成の紹介や，簡単な買い物ができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　陳淑梅・胡興智『楽々学習初級中国語 12 課』同学社 (2)　授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習 第 2回　動詞「有」の導入，練習 第 3回　動詞「在」の導入，練習 第 4回　「有」と「在」の応用練習 第 5回　年月日、曜日の言い方の練習 第 6回　助動詞「得」と「要」言い方の導入，練習 第 7回　助動詞を使った文の応用練習 第 8回　復習（1）これまでの内容の復習 第 9回　形容詞述語文の導入，練習 第10回　時刻の言い方の導入，練習 第11回　形容詞述語文の応用練習 第12回　お金の言い方の導入，練習 第13回　量詞の導入，練習 第14回　復習（4）：全体の復習 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので，毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	小テスト（50%）　口頭試験(50%)で評価する		

15　第二部商経学科教養科目
（スポーツ・健康科目）

授業科目	**生涯スポーツ実習 Ⅰ**	担当者	西迫　貴美代　、長岡　良治
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	随時　nisizako@k-kentan.ac.jp
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習Ⅰ)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する 【概要】野外スポーツ：硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル 屋内スポーツ：バドミントン、卓球、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法（からだほぐし）を取り入れる。 【到達目標】 ①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する ②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる ③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる（ルールの理解　審判の方法　簡易ルールの設定）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適時、資料を配付する（ゲーム分析の方法について、日常生活の健康管理について） (2)		
授業スケジュール	主に男女別に履修する（出席状況、天候によって男女合同の場合もある　）		
	第　1回 ～ 第　3回	1.　バドミントン ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーピン、ドライブの各技術について理解しできるようになる。ゲームの方法を理解する（シングルス、ダブルスゲームの方法）	
	第　4回 ～ 第　6回	2.　硬式テニス(ミニテニス) フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム　前衛と後衛のポジションの理解)	
	第　7回 ～ 第　9回	3.　バレーボール、ミニバレーボール アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる	
	第１０回 ～ 第１２回	4.　バスケットボール シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える）	
	第１３回 ～ 第１５回	5.　サッカー、ミニサッカー,フットサル シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える	
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること		
成績評価の方法	授業への参加状況(60%)＋基礎的な技術(40%)		

授業科目	**生涯スポーツ実習 Ⅱ**	担当者	西迫　貴美代　、長岡　良治
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	随時　nisizako@k-kentan.ac.jp
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また前期に引きつづき、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する 【概要】野外スポーツ：硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル 屋内スポーツ：バドミントン、卓球、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法（からだほぐし）を取り入れる。 【到達目標】 ①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する ②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる ③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる（ルールの理解　審判の方法　簡易ルールの設定）		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　適時、資料を配付する（ゲーム分析の方法について、日常生活の健康管理について） (2)		
授業スケジュール	主に男女別に履修する（出席状況、天候によって男女合同の場合もある　）		
	第　1回 ～ 第　3回	6.　バドミントン ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーピン、ドライブの各技術について理解しできるようになる。ゲームの方法を理解する（シングルス、ダブルスゲームの方法）	
	第　4回 ～ 第　6回	7.　硬式テニス(ミニテニス) フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム　前衛と後衛のポジションの理解)	
	第　7回 ～ 第　9回	8.　バレーボール、ミニバレーボール アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる	
	第１０回 ～ 第１２回	9.　バスケットボール シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える）	
	第１３回 ～ 第１５回	10.　サッカー、ミニサッカー,フットサル（女子は卓球） シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する（意味あるパスについて考える	
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること		
成績評価の方法	授業への参加状況(60%)＋基礎的な技術(40%)		

16　第二部商経学科教養科目
（情報科目）

授業科目	**情報リテラシーⅠ（A）**	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。 【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2019』FOM 出版」 (2)　プリント		
授業スケジュール	第 1回　パソコンの基本操作　：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成 第 2回　文字の入力　：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3回　文章の入力　：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存 第 4回　文書の作成　：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動 第 5回　文書の編集　：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など） 第 6回　通知状の作成　：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について 第 7回　表の作成　：表の挿入、表への文字入力、表の選択 第 8回　表の編集　：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更 第 9回　表の活用　：課題文書作成（表を含む文書） 第 10 回　グラフィック機能の利用　：ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定 第 11 回　図形描画　：図解について、図形の作成・編集 第 12 回　案内状の作成　：課題文書作成（案内状）、文書管理について 第 13 回　レポートの作成　：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第 14 回　社外文書作成　：案内状など 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師		

授業科目	**情報リテラシーⅠ（B）**	担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得 【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術につても解説する。 【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　「富士通エフ・オー・エム（著）『初心者のための Microsoft Word 2019』FOM 出版」 (2)　プリント		
授業スケジュール	第 1回　パソコンの基本操作　：概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成 第 2回　文字の入力　：キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換 第 3回　文章の入力　：キータッチ練習、文章の入力（分節単位の変換、一括変換）、保存 第 4回　文書の作成　：ビジネス文書の構成について、ページレイアウト設定、範囲選択、コピーと移動 第 5回　文書の編集　：文字の配置、書式設定（フォント、サイズ変更など） 第 6回　通知状の作成　：課題文書作成（通知状）、印刷、文書の書き方について 第 7回　表の作成　：表の挿入、表への文字入力、表の選択 第 8回　表の編集　：行の挿入・削除、列幅変更、表内の文字の配置、塗りつぶし、線種変更 第 9回　表の活用　：課題文書作成（表を含む文書） 第 10 回　グラフィック機能の利用　：ワードアートの挿入、画像の挿入、ページ罫線の設定 第 11 回　図形描画　：図解について、図形の作成・編集 第 12 回　案内状の作成　：課題文書作成（案内状）、文書管理について 第 13 回　レポートの作成　：レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成 第 14 回　社外文書作成　：案内状など 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師		

授業科目	**情報リテラシーⅡ（A）**	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】学校生活で必要な情報活用技術の修得 【概要】学校生活で必要不可欠なタイピングスキル，メールの送受信，ファイル操作，Web 検索，PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 15 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう、課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では，著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。課題（1 回目 Web による情報検索，2 回目 PowerPoint）は自分でテーマを考えて作成する。 【到達目標】課題やレポートを作成し，メールで提出出来るようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回　オリエンテーション，電子メール（Web メール） 第 2 回　電子メール（Web メール），USB メモリ，タイピング練習ソフト 第 3 回　電子メール（Web メール，スマホと連携） 第 4 回　電子メール（Thunderbird）　小テスト 第 5 回　ファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念）及びファイルの検索 第 6 回　ファイルの操作（圧縮と解凍）　小テスト 第 7 回　USB カメラの操作，ZOOM 体験 第 8 回　Web による情報検索 第 9 回　Web による情報検索（2）　小テスト 第 10 回　Web による情報検索（画像検索），画像の編集 第 11 回　Web による情報検索　第 1 回課題 第 12 回　PowerPoint（概要，起動と終了，画面構成，作成） 第 13 回　PowerPoint（作成）　小テスト 第 14 回　PowerPoint（スライドショーの実行） 第 15 回　PowerPoint　第 2 回課題		
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。		
成績評価の方法	4 回の小テスト（20%）と 2 回の課題（60%），期末レポート（20%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務，会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

授業科目	**情報リテラシーⅡ（B）**	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　演習		
テーマ及び概要	【テーマ】学校生活で必要な情報活用技術の修得 【概要】学校生活で必要不可欠なタイピングスキル，メールの送受信，ファイル操作，Web 検索，PowerPoint 作成技術を習得する。講義内 15 分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう、課題の提出はメールで行う。Web による情報検索では，著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。課題（1 回目 Web による情報検索，2 回目 PowerPoint）は自分でテーマを考えて作成する。 【到達目標】課題やレポートを作成し，メールで提出出来るようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回　オリエンテーション，電子メール（Web メール） 第 2 回　電子メール（Web メール），USB メモリ，タイピング練習ソフト 第 3 回　電子メール（Web メール，スマホと連携） 第 4 回　電子メール（Thunderbird）　小テスト 第 5 回　ファイルの整理（ファイルの概念，フォルダの概念）及びファイルの検索 第 6 回　ファイルの操作（圧縮と解凍）　小テスト 第 7 回　USB カメラの操作，ZOOM 体験 第 8 回　Web による情報検索 第 9 回　Web による情報検索（2）　小テスト 第 10 回　Web による情報検索（画像検索），画像の編集 第 11 回　Web による情報検索　第 1 回課題 第 12 回　PowerPoint（概要，起動と終了，画面構成，作成） 第 13 回　PowerPoint（作成）　小テスト 第 14 回　PowerPoint（スライドショーの実行） 第 15 回　PowerPoint　第 2 回課題		
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。		
成績評価の方法	4 回の小テスト（20%）と 2 回の課題（60%），期末レポート（20%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務，会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

17　第二部商経学科専門科目

授業科目	**情報社会論（隔年開講）**	担当者	岩松　マミ
	〔履修年次〕　1,2,3 年いずれでも履修可	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】メディア（新聞）から地域社会の課題を探る 【概要】将来、地域社会に貢献したいと思っている人、でも具体的に自分が何ができるだろうかと悩んでいる人もいると思います。この授業では新聞を活用し、自分にとって興味のある記事から地域社会の変化や新たな課題を読み解いてみたいと思います 【到達目標】ＳＮＳなど多様なメディアを比較し、情報社会で必要なメディアリテラシーを身につける。授業では新聞スクラップや新聞投稿にチャレンジしてもらいます。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　新聞を使用し、教員が作成したプリントも配布します。 (2)　妹尾彰・福田徹「新聞を知る新聞で学ぶ」晩成書房　陸奥賢「まわしよみ新聞をつくろう！」創元社　その他		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（新聞記者の仕事紹介、新聞の読み方、メディアの中の新聞について） 第 2回　新聞にふれる―「まわしよみ新聞」を作る。他者の意見に耳を傾ける。 第 3回　多様な視点を学ぶ―賛否ある記事から討論 第 4回　メディアの違いを知る―新聞各紙のコラム、記事の読み比べ 第 5回　メディアの違いを知る―ＳＮＳなどで知った情報と新聞記事の比較、フェイクニュースについて 第 6回　読者投稿から―論理的な文章の書き方を学ぶ。投稿欄を読み、討論 第 7回　読者投稿から―自分の考えを投稿しよう 第 8回　地域の課題を考える―取材ノートから 第 9回　地域の課題を考える―取材ノートから 第10回　インタビューをする―ゲストに話を聞く、質疑応答 第11回　インタビューをする―ゲストに話を聞く、質疑応答 第12回　ゲストのインタビューを記事にする。みだし（主題）をつけ、発表 第13回　新聞記者になる―メディアリテラシー、著作権を学び、記事に書きたいテーマを考える 第14回　新聞記者になる―自分のテーマの記事を書き、みだし（主題）をつけて発表 第15回　振り返りとまとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業ごとに実施する課題（７０％）＋レポート（３０％）で評価。		
実務経験について	新聞記者（南日本新聞社編集委員）　前・鹿児島県ＮＩＥ推進協議会事務局長		

授業科目	**社会哲学**	担当者	西原　誠司
	〔履修年次〕　1,2,3年	授業外対応	メール・Ｌｉｎｅで連絡。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】人間とは何か／人間社会とは何かを哲学する 【概要】現代社会に起こる様々な問題を念頭におきながら、人間とは何か、人間社会とはなにかを人類社会の起源にまで遡って解明していく。同時に、生きづらい社会を人間らしく生きていくためには、どのようなものの見方をすればいいのか、その世界観との関係性を探り、生きづらさを克服するための処方箋をともに考えていきたい。 【到達目標】人間とは何か、人間社会とは何かを人類社会の歴史と日本社会の現実のなかから把握し、現代社会を生き抜く力＝自己の内面を解放する方法を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布 (2)　種村完司『コニュニケーションと関係の倫理』青木書店 鯵坂・有尾・鈴木編『ヘーゲル論理学入門』（有斐閣新書）		
授業スケジュール	第 1回　はじめに 第 2回　人類社会の起源――人類７００万年の歴史 第 3回　日本人の起源を遡る 第 4回　縄文社会にみる人類社会の共通原則――ひとりはみんなのために、みんなはひとりのために 第 5回　奴隷制社会にみる人間性――スパルタクスの蜂起　貴族と奴隷どちらが人間的か 第 6回　封建社会の恋――近松門左衛門と『曽根崎心中』 第 7回　王侯貴族の恋――『ベルサイユのバラ』とマリー・アントワネット 第 8回　日本の近代と明治維新――坂本龍馬にみる近代的人格の誕生 第 9回　明治維新と日本資本主義①――産業革命の光と影　富岡製糸 第10回　明治維新と日本資本主義②――産業革命の光と影　あゝ野麦峠 第11回　現代資本主義の光と影　夫はなぜ死んだのか　過労死認定の厚い壁 第12回　キューブラー・ロスと終末期医療／最後のレッスン　死のまぎわの真実 第13回　脳梗塞からの“再生”　免疫学者・多田富雄の闘い 第14回　私たち抜きに私たちのことを決めないで　初期認知症を生きる 第15回　おわりに――言葉遊びで短所を笑おう		
授業外学習(予習・復習)	予習は時事問題に関心を寄せて新聞・ニュースをみること。配布プリントをみて復習をする。		
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出**50%**）および筆記試験（**50%**）		

授業科目	**経済学**	担当者	山口　祐司
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。 【概要】 経済とは、経済学の考え方（第１～２回）。ミクロ経済学の基礎的理論（第３～７回）。マクロ経済学の基礎理論（第８～１４回）。 【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　マンキュー，Ｎ・グレゴリー（2014）『マンキュー入門経済学［第２版］』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第　１回　授業ガイダンス、経済とは何か 第　２回　経済学の考え方 第　３回　ミクロ経済学の基礎（１）需要と供給 第　４回　ミクロ経済学の基礎（２）価格決定と政府の政策 第　５回　ミクロ経済学の基礎（３）市場の効率性 第　６回　ミクロ経済学の基礎（４）不完全市場 第　７回　ミクロ経済学の基礎（５）ミクロ経済学のまとめ 第　８回　マクロ経済学の基礎（１）ＧＤＰの測定 第　９回　マクロ経済学の基礎（２）インフレーションとデフレーション 第１０回　マクロ経済学の基礎（３）経済成長 第１１回　マクロ経済学の基礎（４）貯蓄、投資と金融システム 第１２回　マクロ経済学の基礎（５）マクロ経済政策の役割 第１３回　マクロ経済学の基礎（６）外国貿易 第１４回　マクロ経済学の基礎（７）マクロ経済学のまとめ 第１５回　全体のまとめ、テスト対策		
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習（テキスト）・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、授業ごとの小論文（40%）		

授業科目	**行政法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕　1,2,3 年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法の基本構造を体系的に把握し，行政の法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。 【概要】周知のとおり，行政法は通則的法典が存在しておらず，そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では，行政法の基本原理である法律による行政の原理（法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則），行政行為，行政立法，行政計画，行政指導，行政契約等の行政の行為形式論，行政上の義務履行確保制度，行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で，行政不服審査法，行政事件訴訟法，国家賠償法といった一般法について，国民の権利救済という視点から学習する。 【到達目標】行政法の基本原理，行政の行為形式論，行政上の一般制度，行政救済法について説明できるようになり，行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　佐伯仁志他編，『ポケット六法（令和３年度版）』，有斐閣		
授業スケジュール	第　１回　行政法概論　・行政の定義，法律の法規創造力，法律の優位の原則，法律の留保の原則について 第　２回　行政立法　・法規命令，委任命令，執行命令，白紙委任の禁止の原則，行政規則について 第　３回　行政行為(1)　・公定力，不可争力，不可変更力，執行力，拘束力について 第　４回　行政行為(2)　・無効の行政行為，取消しうべき行政行為，羈束行為，裁量行為について 第　５回　行政指導　・規制的行政指導，助成的行政指導，調整的行政指導，要綱行政について 第　６回　行政上の強制執行制度　・代執行，執行罰，直接強制，行政上の強制徴収，行政サービスの提供拒否について 第　７回　行政手続法　・申請に対する処分，不利益処分，行政指導，命令等を定める行為の手続について 第　８回　行政不服申立て　・審査請求，異議申し立て，再審査請求，教示について 第　９回　行政事件訴訟法(1)　・抗告訴訟，民衆訴訟，義務付け訴訟，差止め訴訟，取消訴訟，事情判決について 第１０回　行政事件訴訟法(2)　・取消判決の効力，執行不停止の原則，内閣総理大臣の異議，処分性について 第１１回　行政事件訴訟法(3)　・原告適格，保護に値する利益説，狭義の訴えの利益について 第１２回　国家賠償法(1)　・代位責任説，自己責任説，公権力の行使の範囲，故意・過失，求償権について 第１３回　国家賠償法(2)　・公の営造物，人工公物，自然公物，高知落石事件，大東水害事件について 第１４回　損失補償　・奈良県ため池条例事件，完全補償説，相当補償説，国家補償の谷間について 第１５回　公物　・公共用物，公用物，自然公物，人工公物，公物の時効取得について		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。		

授業科目	**経済政策（隔年開講）**	担当者	岩上　敏秀
	〔履修年次〕　1年、2年、3年	授業外対応	いつでも対応します。メール連絡してください。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本および地域経済が抱えるさまざまな課題に対して、どのような政策が必要なのかを考えます。		
	【概要】経済成長の鈍化と人口減少・少子高齢化の進展によって、これまで経済社会を支えてきたさまざまな制度にひずみが生じ、再構築が迫られています。日本や地域経済が抱えるさまざまな課題を採り上げ、将来に向けた制度設計について考えていきます。		
	【到達目標】日本および地域経済が抱えている課題に関心を持ち、さまざまな考え方やアプローチを踏まえて、自分自身で考える視点を持ち、自分の意見を説明できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　大守隆編、『日本経済読本　（第21版）』、東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目的・進め方　序章：経済政策とは何か 第 2回　日本経済の構造変化と経済政策：　日本はなぜ課題先進国となったのか、どのような経済政策がとられてきたか 第 3回　経済成長を考える：　経済政策の目的は、短期の経済政策と長期の経済政策 第 4回　財政再建を考える(1)：　財政の現状は、財政赤字は問題なのか 第 5回　財政再建を考える(2)：　「社会保障と税の一体改革」とは、「経済・財政一体改革」とは 第 6回　社会保障と雇用の将来を考える(1)：　社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は 第 7回　社会保障と雇用の将来を考える(2)：　所得格差は拡大しているのか、非正規雇用の増加、働き方の変化 第 8回　社会保障と雇用の将来を考える(3)：　ベーシックインカムとは、将来世代に配慮した社会保障とするには 第 9回　環境の将来を考える(1)：　パリ協定とは、「コモンズの悲劇」とは 第10回　環境の将来を考える(2)：　環境問題の解決に有効な経済政策はあるか、環境ビジネスとは 第11回　地域経済の将来を考える(1)：　人口減少、地方経済の空洞化、地方財政の状況 第12回　地域経済の将来を考える(2)：　地方分権改革とは、道州制とは、大阪都構想が目指したもの 第13回　地域経済の将来を考える(3)：　地域経済を支える産業政策、農業の6次産業化とは 第14回　地域経済の将来を考える(4)：　地域創生のために必要な政策とは 第15回　まとめ：期末レポート提出、講義評価アンケート実施		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します		
成績評価の方法	期末レポート（100%）		
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。		

授業科目	**社会政策**	担当者	近間　由幸
	〔履修年次〕　1年、2年、3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 「日本型雇用システム」の下での労働と生活の全体像と社会政策の関係性について 【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置した失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。 【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策〈第3版〉　雇用と社会保障』ミネルヴァ書房 (2)　小熊英二『日本社会のしくみ　雇用・教育・福祉の歴史社会学』講談社現代新書		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション―日本社会の「しくみ」について 第 2回　社会政策とは何か 第 3回　賃金と社会政策 第 4回　企業と労働組合の関係 第 5回　過労死と長時間労働 第 6回　非正規雇用とは何か 第 7回　若者の雇用はどのように変化したのか 第 8回　日本型雇用システムと女性労働者 第 9回　子育てと雇用政策 第10回　高齢者の福祉と雇用 第11回　働けないときにどのような支援があるのか 第12回　雇用保険と生活保護との溝 第13回　欧州の雇用政策（1）ワークフェア、アクティベーション 第14回　欧州の雇用政策（2）移民労働者 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習として教科書ならびに参考文献の該当箇所については読んでおくことが望ましい。初回授業時に該当範囲を提示する。		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%） 筆記試験（70%）		

授業科目	**民法**	担当者	疋田　京子
	〔履修年次〕　1年，2年，3年	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】民法入門 商法や労働法など市場経済の一般法であり、契約や婚姻・親子の関係を規律する市民生活の基本法である民法を知る。 【概要】明治29年に制定された日本の「民法」は、今、大きく変わろうとしています。企業間の取引にも、個人の生活上の紛争解決にも適用される民法がどのように変わろうとしているのかを講義します。 【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係として捉え、法的に説得力ある主張ができるようになること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　講義時に紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション：民法が対象とする紛争とは 第 2回　民法の基本構造：財産法と家族法 第 3回　法定利率が変わるとどうなる？：強行規定と任意規定 第 4回　法の世界でも「信義誠実」や「善意・悪意」が争点になる：民法の基本原則 第 5回　成人年齢が18歳になると何がどう変わる？：権利の主体の能力 第 6回　父が死んだ後に生まれた子どもに相続権はあるか？：権利能力・意思能力・行為能力 第 7回　権利を濫用する未成年者にどう向き合うか？：制限行為能力者の保護と取引の安全 第 8回　権利の対象とすることができるのは？：権利の客体／物の概念 第 9回　善意の第三者って誰？：物権変動と公示制度 第10回　契約が有効に成立するためには：法律行為の意義と有効要件 第11回　契約どおりにならなかったら？：契約違反とその解決方法 第12回　言い間違い・書き間違いを法は許してくれるか？：意思と表示の不一致と契約の効力 第13回　損害賠償が求められる場合とは：不法行為 第14回　「親子の縁を切る」ことはできるか？：親子関係と相続 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習に重点をおいて、よく理解できなかったところを質問してください。		
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出（80%） 授業ごとのミニレポート（20%）		

授業科目	**商法**	担当者	河野　総史
	〔履修年次〕　1年，2年，3年	授業外対応	講義修了後またはメールにて対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 商法学のうち、会社法の基礎知識 【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　指定しない（レジュメを配布する） (2)　適宜指示する		
授業スケジュール	第 1回　講義ガイダンス　民法と商法 第 2回　会社法総論 第 3回　会社の種類 第 4回　株式①（株式の種類等） 第 5回　株式②（株式の譲渡と譲渡制限） 第 6回　株式③（自己株式・親会社株式取得規制等） 第 7回　株式④（株式併合・分割・無償割当等） 第 8回　資金調達①（会社設立時） 第 9回　資金調達②（募集株式の発行等） 第10回　資金調達③（株式以外の資金調達手段） 第11回　機関①（機関総論） 第12回　機関②（株主総会） 第13回　機関③（取締役・取締役会） 第14回　機関④（監査役・会計参与・会計監査人） 第15回　機関⑤（指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社）　総まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習を徹底して、小テストに備えること		
成績評価の方法	期末テスト80%小テスト20% 全体で60%以上を合格とする		

授業科目	**産業心理学**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕 1，2，3年いずれでも可	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ 【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが，人間の基本的な特性もとらえることで，コンピュータを始め，システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし，購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験，心理テストなども織り交ぜていく予定である。		
	【到達目標】商品，システム，労働環境を人間の快適性から評価し，改善を考えることができるようになる。また，購買行動に関わる心理を売り手，買い手の両面から考えることができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布，Web でも公開 (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 概要説明 第 2回 人間とシステムの関わり合い，精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質 第 3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用 第 4回 ヒューマンインターフェイス１：ヒューマンインターフェイスの基本原則 第 5回 ヒューマンインターフェイス２：ヒューマンインターフェイスの事例紹介 第 6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策 第 7回 仕事の成功と動機付け：成功，失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類 第 8回 人間関係，労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係 第 9回 ユニバーサルデザイン：UD の理論と実践例 第 10 回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム 第 11 回 購買心理：消費者の購買心理 第 12 回 販売，印象管理：セールステクニックと印章管理 第 13 回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策 第 14 回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	通常のレポート２回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20%		

授業科目	**会計学総論**	担当者	岡村 雄輝
	〔履修年次〕 1，2，3	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2 〔必修／選択〕 選択 〔授業形態〕 講義		
テーマ及び概要	【テーマ】会計学という学問領域を道案内し，複式簿記会計の基礎力を涵養する 【概要】 本講義を開講する目的はおおよそ次の二つです。 ① 財務会計の基礎知識と複式簿記の仕組みを理解すること ② 会計科目の相互の関連を解説すること 本講義では，商経学科で開講されている簿記会計科目である「簿記論」「財務会計論」「管理会計論」「原価計算」「会計情報論」などの科目群の関係を簡単に紹介するとともに，簿記会計の基礎知識を実践的に学び、基礎力の定着を図ります。 【到達目標】会計学という学問領域の全体像をつかみ，複式簿記会計の基礎を理解すること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（令和３年版），中央経済社。 渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（令和３年版），中央経済社。 (2) 神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第５版補訂版），同文館出版。		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：履修登録の確認，講義計画，会計科目の全体像についての説明 第 2回 会計とはなにか：情報提供活動としての会計 第 3回 複式簿記の基本原理（1）：複式簿記の概要 第 4回 複式簿記の基本原理（2）：取引と仕訳 第 5回 複式簿記の基本原理（3）：仕訳と転記 第 6回 複式簿記の基本原理（4）：仕訳と転記 第 7回 複式簿記の基本原理（5）：決算 第 8回 複式簿記の基本原理（6）：決算 第 9回 グループワーク（1）：複式簿記会計の実践 第 10 回 グループワーク（2）：複式簿記会計の実践 第 11 回 財務諸表の読み方（1）：収益性分析 第 12 回 財務諸表の読み方（2）：安全性分析 第 13 回 財務諸表監査と会計職業：公認会計士の使命と役割 第 14 回 納税と会計職業：税理士の使命と役割 第 15 回 まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施	会計科目の履修順序（初学者向け） ２年前期：**会計学総論** ２年後期：簿記論Ⅰ 簿記論Ⅱ 財務会計論 ３年前期：原価計算 会計情報論 ３年後期：管理会計論	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	中間試験（30%）＋期末試験（70%）		

授業科目	**簿記論Ⅰ**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　1，2，3	授業外対応	〔履修年次〕
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】商業簿記の基礎 【概要】簿記を初めて学ぶ学生を対象として，日商簿記検定３級レベルの内容を学習します。 【到達目標】簿記上の取引を仕訳・転記し、決算の概要を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義３級 商業簿記』（平成31年版），中央経済社。 渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック３級 商業簿記』（平成31年版），中央経済社。 (2)　神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第５版補訂版），同文館出版。		
授業スケジュール	第　1回　複式簿記への誘い：講義概要の説明，履修登録の確認 第　2回　簿記の意義としくみ：テキスト第１章 第　3回　仕訳と転記：テキスト第２章 第　4回　仕訳帳と元帳（1）：テキスト第３章 第　5回　仕訳帳と元帳（2）：テキスト第３章 第　6回　グループワーク（1）：ビジネスゲームを使って仕訳と転記を実践する 第　7回　グループワーク（2）：ビジネスゲームを使って仕訳と転記を実践する 第　8回　決算（1）：テキスト第４章 第　9回　決算（2）：テキスト第４章 第10回　グループワーク（3）：ビジネスゲームを使って決算を実践する 第11回　グループワーク（4）：ビジネスゲームを使って決算を実践する 第12回　現金と預金：テキスト第５章 第13回　繰越商品・仕入・売上（1）：テキスト第６章 第14回　繰越商品・仕入・売上（2）：テキスト第６章 第15回　まとめ		会計科目の履修順序（初学者向け） ２年前期：会計学総論 **簿記論Ⅰ** ２年後期：簿記論Ⅱ 財務会計論 ３年前期：原価計算 会計情報論 ３年後期：管理会計論
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回，宿題を課します。		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**経営学総論**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1､2､3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　２単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。 【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。 【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に配布するプリント (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第　1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第　2回　経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。 第　3回　経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。 第　4回　企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。 第　5回　企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。 第　6回　人と企業との関係について（1）：企業で働く従業員の立場から、企業との関係を考える。 第　7回　人と企業との関係について（2）：株主（出資者）としての立場から、企業との関係を考える。 第　8回　人と企業との関係について（3）：消費者の立場から、企業との関係を考える。 第　9回　人と企業との関係について（4）：企業の社会的責任について考える。 第10回　日本的経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。 第11回　組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。 第12回　企業統治について：株式会社を経営している人は、実際には誰なのかを考える。 第13回　経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。 第14回　企業の革新の必要性について：企業が長年良好な経営を行うために必要な事柄を説明する。 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。		

授業科目	**情報科学概論**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕　1，2，3年いずれでも可	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学（ICT）全般の基礎知識を学ぶ		
	【概要】コンピュータ（ハードウェア，ソフトウェア，周辺機器）やネットワークの仕組みを知り，現代社会においてどのような役割があり，どのような問題点があるかを知る。結果として，効果的かつ適切なＩＴ活用が可能となり，トラブル解決もできるようになる。また，ネットワークを安全に使うためのルール，マナーを学ぶ。また，授業の３分の１程度の時間を使い，ＩＴに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。		
	【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を８０％以上理解できる ・初心者に対して，パソコンやネットワークの安全，便利な運用に関する簡単なアドバイスができる ・調子の悪いパソコンを直す		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布，Web でも公開 (2)　初心者向け情報関連雑誌		
授業スケジュール	第 1回　概要説明 第 2回　ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割 第 3回　パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割 第 4回　単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量，速度 第 5回　インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み 第 6回　電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用法 第 7回　IT セキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策 第 8回　インターフェイス：インターフェイスの種類とドライバソフトの使い方 第 9回　周辺機器１：モニタ，光学ドライブなど周辺機器の役割，仕組み 第 10 回　周辺機器２：プリンタ，ハブ，ルータなど周辺機器の役割，仕組み 第 11 回　クラウド，ビッグデータ，ＩｏＴ：新たなインターネットのトレンドと今後の展開 第 12 回　ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用法 第 13 回　スペックの見方：パソコン，周辺機器のスペック（仕様）の見方 第 14 回　インターネットの国際比較：普及率，使用法と地域，国の情勢 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	通常のレポート２回分が 80%，出席・授業中のショートレポートが 20%		

授業科目	**文書作成実習（第二部）**	担当者	永仮　ゆかり
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得 【概要】 「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成３級）対策を行い、資格取得を目指す。 【到達目標】 実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成３級合格レベルの技能の習得） ＊後期から履修する場合は、前期「情報リテラシーⅠ」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　プリント		
授業スケジュール	第 1回　前期の復習　：概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成） 第 2回　検定対策（3 級）　：社外文書の作成（あいさつ状）、知識問題（共通分野） 第 3回　検定対策（3 級）　：課題文書作成（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野） 第 4回　検定対策（3 級）　：図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野） 第 5回　検定対策（3 級）　：企画書の作成（計算式を含む文書）、知識問題（共通分野） 第 6回　検定対策（3 級）　：詫び状の作成（図形を含む文書）、知識問題（共通分野） 第 7回　検定対策（3 級）　：課題文書作成（文書作成３級実技練習問題）、知識問題（共通分野） 第 8回　検定対策（3 級）　：文書作成３級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野） 第 9回　検定対策（3 級）　：文書作成３級検定模擬問題演習 第 10 回　Excel データの利用　：差し込み印刷の設定 第 11 回　文書の編集　：いろいろな応用機能（段組み、タブ、セクション区切りの挿入など） 第 12 回　稟議書の作成　：稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、Excel 表のコピーなど） 第 13 回　報告書の作成　：課題文書作成（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど） 第 14 回　議事録の作成　：議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど） 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%＋実技科目 50%）＋授業ごとに実施する課題（30%）		
実務経験について	OA インストラクター、職業訓練校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師		

授業科目	**統計学**	担当者	倉重　賢治
	〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ 【概要】 現在，情報技術を有効に活用してデータ収集を行い，そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では，そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。 【到達目標】 ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　木下栄蔵，『入門統計解析』，講談社サイエンティフィク		
授業スケジュール	第 1回　序論：統計学とは 第 2回　データの基本処理：平均値，度数分布 第 3回　データの基本処理：標準正規分布 第 4回　データの基本処理：正規分布 第 5回　データの基本処理：正規分布と偏差値 第 6回　データの基本処理：確率分布 第 7回　統計解析：相関係数 第 8回　統計解析：回帰直線 第 9回　統計解析：カイ２乗検定 第 10 回　統計解析：平均値の推定 第 11 回　統計解析：平均値の検定 第 12 回　統計解析：比率の推定と検定 第 13 回　統計解析：ベイズ統計学 第 14 回　統計解析：分散分析 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**応用文書処理**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕　2，3 年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら，ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ 【概要】1）　自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に，グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する 2）　ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し，公開する。 3）　提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い，架空の提案書を作成する。 【到達目標】・初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる　・わかりやすいドキュメントを作成する　・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布，Web でも公開 (2)		
授業スケジュール	第 1回　概要説明 第 2回　自己紹介文書作成１：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3回　自己紹介文書作成２：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回　自己紹介文書作成３：写真，図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回　自己紹介文書作成４：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回　ホームページ作成１： HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第 7回　ホームページ作成２：課題設定とページ作成 第 8回　ホームページ作成３：資料収集とページ作成 第 9回　ホームページ作成４：ページ公開 第 10 回　提案書作成１：インターネットによる費用情報検索 第 11 回　提案書作成２：表計算ソフトを使った自動計算書 第 12 回　提案書作成３：プレゼン資料の作成 第 13 回　提案書作成４：仕上げ，データ送信のコツ 第 14 回　提案書作成５：プレゼンと評価 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート（３つの課題 30%＋30%＋40%）		

授業科目	ＰＣデータ活用（第二部）	担当者	口脇　淳子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用 【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。 【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2016（Windows10対応）　実教出版株式会社 (2)		
授業スケジュール	第　1回　習熟度確認アンケート　Excelの起動と画面の確認　文字入力の確認 第　2回　簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認 第　3回　編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用 第　4回　編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線 第　5回　データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など） 第　6回　データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など） 第　7回　データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUPなど） 第　8回　各関数を利用した実習問題（小テスト） 第　9回　棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど） 第10回　円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など） 第11回　複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など） 第12回　データベース入門：データベース作成上の各機能 第13回　データの集計（並べ替え・抽出　ほか） 第14回　データの集計（ピボットテーブル） 第15回　前期のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）		
実務経験について	企業、個人への講習会講師		

授業科目	ＰＣデータ活用実習（第二部）	担当者	口脇　淳子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得 【概要】 前期習得した内容が確実に活用できるよう、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。 【到達目標】 知識と技術の習得を日商ＰＣ検定試験（データ活用）の３級資格取得で確認 ☆　後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　実教出版編修部　30時間でマスター　Excel2016（Windows10対応）　実教出版株式会社 (2)　プリント		
授業スケジュール	第　1回　前期授業の復習　知識科目問題 第　2回　検定対策問題：構成比を求める問題　知識科目問題 第　3回　検定対策問題：データの追加入力がある問題　知識科目問題 第　4回　検定対策問題：ＡＢＣ分析　知識科目問題 第　5回　検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題　知識科目問題 第　6回　検定対策問題：利益率を求める問題　知識科目問題 第　7回　検定対策問題：データの集計を取る問題　知識科目問題 第　8回　検定対策問題：達成率を求める問題　知識科目問題 第　9回　検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題） 第10回　検定対策問題：伸び率を求める問題　知識科目問題 第11回　検定対策問題：データを参照する問題　知識科目問題 第12回　検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題　知識科目問題 第13回　検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題　知識科目問題 第14回　検定対策問題：集計データをグループ化する問題　知識科目問題 第15回　後期のまとめ　知識科目問題		
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる		
成績評価の方法	期末試験（70%）＋小テスト（20%）＋授業で課せられる課題の提出状況（10%）		
実務経験について	企業、個人への講習会講師		

授業科目	PCアプリケーション（A）	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう 【概要】事務系の職に就いても，プログラミングやPDF編集，データベースの仕事をする機会が増えてきている。 また，様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが，その習得には非常に時間がかかる。 そこで，この授業では，学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。 なお，ホームページ作成については，その仕組みを理解して欲しいため，専用のソフトではなくメモ帳を使用する。 【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション，ホームページ作成 第 2回　ホームページ作成 第 3回　ホームページ作成　第1回課題 第 4回　プログラミング 第 5回　プログラミング 第 6回　プログラミング　第2回課題 第 7回　動画編集 第 8回　動画編集 第 9回　動画編集　第3回課題 第10回　データベース 第11回　データベース 第12回　データベース　第4回課題 第13回　PDF編集 第14回　PDF編集 第15回　PDF編集　第5回課題		
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し，授業内容の復習をすること。		
成績評価の方法	5回の課題（80%）と期末レポート（20%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務，会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

授業科目	PCアプリケーション（B）	担当者	上野　祐子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	講義終了時，適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1単位　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう 【概要】事務系の職に就いても，プログラミングやPDF編集，データベースの仕事をする機会が増えてきている。 また，様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが，その習得には非常に時間がかかる。 そこで，この授業では，学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。 なお，ホームページ作成については，その仕組みを理解して欲しいため，専用のソフトではなくメモ帳を使用する。 【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　授業にて紹介する。		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション，ホームページ作成 第 2回　ホームページ作成 第 3回　ホームページ作成　第1回課題 第 4回　プログラミング 第 5回　プログラミング 第 6回　プログラミング　第2回課題 第 7回　動画編集 第 8回　動画編集 第 9回　動画編集　第3回課題 第10回　データベース 第11回　データベース 第12回　データベース　第4回課題 第13回　PDF編集 第14回　PDF編集 第15回　PDF編集　第5回課題		
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し，授業内容の復習をすること。		
成績評価の方法	5回の課題（80%）と期末レポート（20%）の総合評価		
実務経験について	システムエンジニアとして大企業で勤務，会計事務員として中小企業で勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。		

<table>
<tr><td rowspan="3">授業科目</td><td colspan="2">日本経済論</td><td>担当者</td><td>船津　潤</td></tr>
<tr><td>〔履修年次〕　1年，2年，3年いずれでも履修可</td><td>授業外対応</td><td>講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください)</td></tr>
<tr><td colspan="4">〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義</td></tr>
<tr><td>テーマ及び概要</td><td colspan="4">【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること
【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について，特に産業政策，そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また，過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに，石油危機，プラザ合意，日米構造協議，そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。
【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し，説明できるようになること
②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて，日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</td></tr>
<tr><td>(1)テキスト
(2)参考文献</td><td colspan="4">(1)　なし
(2)　三和良一『概説日本経済史　近現代 (第3版)』東京大学出版会
内閣府『年次経済財政報告　各年度版』</td></tr>
<tr><td>授業スケジュール</td><td colspan="4">第 1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明
第 2回　日本の産業政策の歴史　戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等
第 3回　日本の産業政策の歴史　戦前(2)：明治維新の意義，その後の産業構造の変化等
第 4回　敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況，傾斜生産方式，1950年代前半の産業政策等
第 5回　高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等
第 6回　行政指導：勧告操短，企業の反発等
第 7回　開放経済体制への移行：IMF8条国への移行，産業再編等
第 8回　1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック，構造不況業種への対応，知識集約化・高付加価値化への動き等
第 9回　企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴，グループ内の結び付き，現在の状況等
第10回　1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦，日米構造協議等
第11回　現在の産業政策：産業競争力強化法，現在の産業政策の特徴等
第12回　グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調，バブル崩壊後の動向等
第13回　構造改革：構造改革の特徴・本質等
第14回　構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴，アベノミクスとの比較等
第15回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等</td></tr>
<tr><td>授業外学習(予習・復習)</td><td colspan="4">普段から日本経済関連のニュース（できれば外国のメディアを含む複数）に注目すること，特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ，検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="4">筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</td></tr>
</table>

授業科目	**財政学**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　1年，2年，3年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論，日本の財政の基礎的な制度について，内容，実態，特徴，課題に関する理解を深めること 【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で，それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは，財政民主主義という財政制度の根幹，経済における公共部門と民間部門の関係，歴史的推移，そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで，経済学等で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政府の政策に活用されているのかも理解できると思います。また，財政は，政治と経済の「つなぎ目」の役割を担っていますので，他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができるはずです。 【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し，説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解できるようになること ④財政の影響を踏まえて，経済・社会の動向を的確に把握できるようになること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005 年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016 年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019 年) 小宮敦史編著『図説　日本の財政　各年度版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第 2回　財政(1)：財政の定義，財政学の特徴，政府に対する評価の揺れ等 第 3回　財政(2)：市場の失敗，財政民主主義と制度化に必要な原則等 第 4回　予算(1)：定義，役割，政府と議会の役割，予算原則等 第 5回　予算(2)：予算の種類，特別会計と「埋蔵金」，改革の方向等 第 6回　経費(1)：定義，主要な分類，経費膨張の法則，転位効果等 第 7回　経費(2)：小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 8回　租税(1)：定義，租税の根拠，代表的な租税原則等 第 9回　租税(2)：公平の基準，望ましい税制とは等 第 10 回　公債(1)：定義，民間債務・租税との対比，公債の種類等 第 11 回　公債(2)：日本の国債発行における原則，制度，「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 12 回　財政投融資：定義，運用対象，批判，2001 年度の改革，今後の展望等 第 13 回　財政の国際化：国際公共財，グローバル化と国際的財政移転等 第 14 回　財政改革を考える：社会の変化と財政，財政危機とは，財政改革で求められる視点等 第 15 回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べ，検討すること，普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数，加えて日本関連だけでなく，諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**農業経済論**	担当者	岡田　登
	〔履修年次〕　1，2，3年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】表面化している食料・農業・農村の問題の背景を理解する。 【概要】世界農業の形成過程及び日本農業の発展過程を把握した上で、生産、組織、流通等の仕組みを学び、現在起こっている農業経済現象とその原因を理解する。 【到達目標】食料・農業・農村の問題の背景を理解し、日本農業の今後の展望と農業のあり方を説明できる能力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回　はじめに：講義の目標、食料・農業・農村の問題提起、鹿児島の農村景観 第 2回　農業の基礎：基本知識 第 3回　世界農業の形成過程：農業の起源、農業形態の発展、雑草対策、植民地政策、大規模穀物生産 第 4回　日本農業の発展過程（1）：稲作の普及、近郊農業、明治期から戦前までの展開 第 5回　日本農業の発展過程（2）：経済成長期、農業基本法と産地形成、食糧管理法と農地法 第 6回　日本農業の発展過程（3）食糧管理法から食糧法、米の生産調整、農地法改正、食料・農業・農村基本法への転換 第 7回　農業保護政策：国内市場、農産物貿易 第 8回　農業のグローバル化：フードレジーム、日本における農産物自由化 第 9回　農産物流通の仕組み：農業協同組合、市場流通 第10回　農業と関連産業：フードチェーン、フードシステム、食品関連産業 第11回　農業法人の設立：農地法改正と農業法人化、農業基盤強化促進法 第12回　農産物の高付加価値化とブランド化：有機農産物、伝統野菜、地理的表示、食の安全性、六次産業化、農商工連携 第13回　農村空間の商品化：観光農園、農産物直売所、地産地消 第14回　都市の農村化：都市農業市民農園、体験農園、自家菜園、マルシェ 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	**金融論**	担当者	岩上　敏秀
	〔履修年次〕　1年、2年、3年	授業外対応	いつでも対応します。メール連絡してください。
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】私たちの生活や仕事に金融が与えている影響を理解するために、金融の仕組みを学びます。 【概要】金融は私たちの生活や仕事に深く入り込み、経済や社会に大きな影響を与えています。本講義では、金融の役割や金融機関が果たしている機能から、金融業界が直面している課題、フィンテックなど新しい金融の仕組みまで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融リテラシーの基礎を身につけます。 【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　岡村秀夫・田中敦・野間敏克・播磨谷浩三・藤原賢哉著、『金融の仕組みと働き』、有斐閣ブックス		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：　講義の目的・進め方　序論：金融の仕組みと役割、貨幣 第 2回　資金循環：　戦後日本の部門別資金過不足の推移、現在の日本の資金循環 第 3回　金融取引の特徴と課題：　不確実性、情報の非対称性、契約の不完備性 第 4回　金融取引と金利：　貨幣の時間価値と金利、期間構造、金利の計算 第 5回　家計の貯蓄と金融資産選択：　貯蓄行動、金融資産のリスクとリターン 第 6回　企業の投資と資金調達：　企業の活動と資金需要、資金調達の方法 第 7回　銀行の役割：　銀行の業務、信用創造、銀行経営の現状と課題 第 8回　金融市場：　金融市場の役割、取引所 第 9回　地域金融機関の役割：　取り巻く環境と課題、求められる役割 第10回　証券会社の役割：　証券会社の業務、株式と債券 第11回　株式市場：　株式市場の役割、株価の決定メカニズム 第12回　日本銀行と金融政策：　日本銀行の役割、金融政策の手段と効果 第13回　金融危機と規制：　金融危機の背景、プルーデンス政策の手段と課題 第14回　金融の新しい仕組み：　証券化・流動化、フィンテック 第15回　まとめ：　講義の振り返り、期末試験に関する質疑応答、講義評価アンケート実施		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。		

授業科目	経済学史	担当者	西原　誠司
	〔履修年次〕　1，2，3年	授業外対応	メール・Line で連絡
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】時代の中で生き、時代をこえて生きる経済学・経済学史を学ぶ 【概要】ある時期に一世を風靡した学説が、次の時代には顧みられなくなることもある。なぜ、ある時代にはある経済学が脚光を浴び、次の時代には、また別の経済学が登場し、注目されるようになるのか。時代の中に経済学・経済学史を置きなおすことを通じて、そのことの意味を考える。とりわけ、この数十年間にわたって経済学の主流に君臨した「新自由主義」＝市場原理主義の学説は、その表面的な装いとは全く違って（一見するとアダム・スミスの再来であるかのように見える）、「国家が強力に介入する自由主義」＝イデオロギーであって、そのようなイデオロギーを越えていくことが大切であることを、経済学・経済学説史の歴史をたどって明らかにしたいとおもっている。 【到達目標】経済学・経済学説史を通して、現代起こっている経済現象の分析ができるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリントを配布する。 (2)　上野俊樹著作集１『経済学とイデオロギー』（文理閣、2003 年）		
授業スケジュール	第 1回　はじめに――経済学・経済学史とイデオロギー 第 2回　ミルトン・フリードマンとショックドクトリン――新自由主義とは何であったのか 第 3回　アダム・スミスの『国富論』とその時代 第 4回　マルクスの『資本論』を読む――マルクスが生きた時代 第 5回　マルクスの『資本論』を読む――史的唯物論と経済学・経済学史 第 6回　マルクスの『資本論』を読む――商品と貨幣 第 7回　マルクスの『資本論』を読む――剰余価値とはなにか 第 8回　マルクスの『資本論』を読む――資本蓄積 第 9回　マルクスの『資本論』を読む――資本の原始的蓄積 第 10 回　レーニン『帝国主義論』を読む――２１世紀の資本主義 第 11 回　レーニン『帝国主義論』を読む――資本主義の「最後の段階」と戦争 第 12 回　ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』を読む 第 13 回　ケインズ「平和の経済的帰結」を読む 第 14 回　現代資本主義を読み解く――経済に関する諸学説とその意味 第 15 回　おわりに――Ｌｏｖｅ＆Ｐｅａｃｅの経済学をめざして		
授業外学習(予習・復習)	予習は時事問題に関心を寄せて新聞・ニュースをみること。配布プリントをみて復習をする。		
成績評価の方法	毎回の講義で見せる映像資料の感想 **(50%)** と筆記試験 **(50%)** の両方で評価。		

授業科目	経済学特講	担当者	山口　祐司
	〔履修年次〕　1、2、3年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。 【概要】 アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第１回）。19 世紀から 20 世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第２～３回）。1929 年に始まる大恐慌の原因と結果（第４～６回）。1950～70 年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第７～９回）。1980 年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第１０～１２回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第１３～１４回）。 経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。 【到達目標】 アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　講義時に提示		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第 2回　アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第 3回　アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第 4回　大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の 1920 年代 第 5回　大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第 6回　大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第 7回　ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第 8回　ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第 9回　ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第 10 回　新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第 11 回　新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第 12 回　新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第 13 回　新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第 14 回　新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	期末レポート（60%）、授業ごとの小論文（40%）		

授業科目	**国際経済論**	担当者	西原　誠司
	〔履修年次〕　1，2，3年	授業外対応	メール・Line で連絡。
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】Love　&　Peace　の経済学――国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える 【概要】ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、５００万人のユダヤ人を含む６０００万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起こらなかったのか。このことの理由を、グローバル化した経済に求め、９．１１以後多発するテロをなくす条件を考える。 【到達目標】グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)　朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、２０１５年） 西原誠司『グローバライゼーションと現代の恐慌』（文理閣、２０００年）		
授業スケジュール	第　1回　はじめに――アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために 第　2回　資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争――１９世紀資本主義と２０世紀資本主義の違い 第　3回　資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化 第　4回　資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場 第　5回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　①　戦争の原因となった資源の共同管理 第　6回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　②　関税同盟・市場統合・通貨統合 第　7回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　③　新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機 第　8回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　④　人間と環境にやさしい新しい社会をめざして 第　9回　グローバル化する経済とＥＵの新しい実験　⑤　多文化主義・多言語主義とＥＵ統合 第10回　最後の帝国主義アメリカ　①――ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立 第11回　最後の帝国主義アメリカ　②――多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北 第12回　最後の帝国主義アメリカ　③――米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」 第13回　動揺する西欧世界とイスラム世界――モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩 第14回　台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割 第15回　おわりに――杉原千畝の生き方に学ぶ		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。		
成績評価の方法	授業態度（**50%**）積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験。（**50%**）		

授業科目	**アジア経済論**	担当者	山本　一哉
	〔履修年次〕　1，2，3年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ 【概要】本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展や構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係（貿易・投資）の深化、また日本とアジア諸国との経済関係（域内分業と相互依存）などについて解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。 【到達目標】アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない。講義の際にレジュメ・資料を配付する。 (2)　レジュメに記載する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンスー本講義の概要と進め方について 第　2回　日本の経済発展ー戦後の高度経済成長 第　3回　東アジア諸国の経済発展と課題ー韓国と台湾 第　4回　東アジア諸国の経済発展と課題ー香港とシンガポール 第　5回　東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ータイ・マレーシア 第　6回　東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーフィリピン・インドネシア 第　7回　東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展 第　8回　アジア通貨危機（東南アジア・韓国）ー要因と対応 第　9回　中国の「改革開放」路線への転換と経済発展 第10回　中国の経済発展と経済格差の拡大ー地域発展戦略の転換 第11回　中国人民元改革ー為替レート制度改革・人民元国際化・資本取引の自由化 第12回　中国の貿易・直接投資の拡大ー一帯一路戦略・米国との通商摩擦 第13回　南アジア諸国の経済発展ーインド・パキスタン・バングラデシュ 第14回　日本とアジア諸国の貿易と投資ー域内分業と相互依存の進展 第15回　まとめーアジア諸国の抱える諸課題（高齢化問題・環境問題・格差問題など）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**国際関係論**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に，国家以外の行為体についての理解を深める。 【概要】本講義では，国際関係の史的展開を概説したうえで，現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では，第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし，国際システムの歴史的変遷をたどる。 【到達目標】国際社会の現在的諸問題を把握し，その背景についての理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない (2)　多賀秀敏編『平和学から世界を見る』(成文堂、2020 年)		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目的、方法 第 2回　国際関係論の基礎１：国内社会と国際社会は何が違うのか 第 3回　国際関係論の基礎２：行為体と争点の多様化 第 4回　国際関係のなりたち１：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦 第 5回　国際関係のなりたち２：アジアにおける冷戦の拡大１ 第 6回　国際関係のなりたち３：アジアにおける冷戦の拡大２ 第 7回　国際関係のなりたち４：朝鮮戦争とベトナム戦争 第 8回　国際関係のなりたち５：大国の支配とナショナリズム 第 9回　国際関係のなりたち６：冷戦後の世界秩序 第 10 回　国際社会における諸問題１：グローバリゼーションと貧困問題 第 11 回　国際社会における諸問題２：貧困と開発 第 12 回　国際社会における諸問題３：国境を越える諸問題 第 13 回　国際社会における諸問題４：グローバルガバナンス（１） 第 14 回　国際社会における諸問題５：グローバルガバナンス（２） 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験（100%）によって評価する。		

授業科目	**アジア事情**	担当者	福田　忠弘
	〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】東アジア，東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。 【概要】アジアは，地理，歴史，言語，文化，宗教，民族など，すべての面において多様である。本講義では，「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも，脱植民地化，国民国家建設など「共通性」について焦点をあてる。 【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　使用しない (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目的と方法 第 2回　「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか 第 3回　歴史的形成１：植民地以前のアジア 第 4回　歴史的形成２：植民地のようす 第 5回　歴史的形成３：植民地からの独立 第 6回　歴史的形成４：脱植民地化、国民国家建設、開発 第 7回　歴史的形成５：冷戦下のアジア 第 8回　東南アジア１：インドシナ三国 第 9回　東南アジア２： ベトナム戦争の影響 第 10 回　東南アジア３：タイ、ミャンマー、マレーシア 第 11 回　東南アジア４：メコン河流域開発 第 12 回　東南アジアの地域協力体制：ASEAN の形成 第 13 回　アジアにおける協力体制１：ASEAN を中心とする協力１ 第 14 回　アジアにおける協力体制２：ASEAN を中心とする協力２ 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	レポート（100%）によって評価する。		

授業科目	**ヨーロッパ経済事情（隔年開講）**	担当者	大重　康雄
	〔履修年次〕　1年、2年	授業外対応	メール等で適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ（EU）がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する 【概要】ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に英国の EU 離脱やコロナウイルス感染が深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し　考える。 【到達目標】ヨーロッパ地域統合（ＥＵ）の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済　第5版』有斐閣アルマ　および講師作成プリント (2)　遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか		
授業スケジュール	第 1回　現在ヨーロッパで何が起こっているか 第 2回　ヨーロッパ統合前史 第 3回　ヨーロッパ統合の歴史 第 4回　統一通貨ユーロとは 第 5回　コロナ危機とＥＵ財政諸問題 第 6回　ＥＵ社会が抱える課題 第 7回　BREXT とイギリスの将来 第 8回　フランスとＥＵ経済 第 9回　ドイツとＥＵ経済 第10回　その他諸国とＥＵ経済 第11回　中・東欧諸国と EU 経済 第12回　ＥＵと対外通商関係 第13回　欧州通貨と国際金融システム 第14回　ヨーロッパ社会と EU の将来 第15回　講義のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習をしてくること。また復習し次回質問すべきことをまとめておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験（80%）＋授業での発言内容（20%）		
実務経験について	地域金融機関での外国為替業務等の知識・経験を活かし、国際金融市場動向や地域経済を意識した実践的な授業を目指す。		

授業科目	**地域経済論**	担当者	岡田　登
	〔履修年次〕　1，2，3年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】地域経済構造及び理論を理解する。 【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。この講義では、地域経済構造と基本的な理論を学び、地域の発展に向けた対応策について検討する。 【到達目標】地域経済構造と理論を正確に理解することで、地域の特徴を分析する能力を身につけ、その発展に向けて考察できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回　はじめに：講義の目標、地域とは何か、等質地域と機能地域からみた地域経済 第 2回　都市地域論（1）：都市と農村、都市化の概念、都市の発展段階 第 3回　都市地域論（2）：都市の内部構造とメカニズム、都市システム 第 4回　産業地域論：産業構造の変化、都市の機能、都市の分類、地域経済基盤分析 第 5回　中心地理論：商業形態の発展と変化、第３次産業地域論 第 6回　工業地域論：工業立地の変動、工業立地論、工業立地の分散 第 7回　農業地域論：農業立地論、農業地域区分、技術の地域的拡散 第 8回　漁業林業地域論：漁業地域の資源管理とコモンズ論、林業地域の資源管理とガバナンス 第 9回　地域経済分析：地域経済計算、地域成長の経済分析、地域間格差 第10回　内発的発展論：定義、事例紹介 第11回　都市計画とまちづくり：仕組み、中心市街地と郊外、景観と緑地 第12回　コンパクトシティ：経緯と概念、都市空間の形成、公共交通ネットワーク 第13回　地域連携（1）：地域内連携、地域間連携 第14回　地域連携（2）：異業種間連携 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	**地域産業政策**	担当者	岡田　登
	〔履修年次〕　1，2，3年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】地域間格差の実態を理解し、地域づくりの方策を探る。 【概要】経済のグローバル化が進行し、国内においても地域間格差が拡大する中で、地域的な特徴を見極めて経済の再建と発展を図ることが求められる。地域経済論では地域経済構造と基本的な理論を学ぶが、この講義では地域間格差の現状と顕在化する問題点を理解し、これからの地域づくりの方策を探る。 【到達目標】地域間格差の現状と問題点を正確に理解し、具体的な取り組みの実態を学び、地域のあり方を考えて発想できるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回　はじめに：講義の目標 第 2回　政策的要因（1）：国土総合開発法、全国総合開発計画 第 3回　政策的要因（2）：新全国総合開発計画、第三次全国総合開発計画 第 4回　政策的要因（3）：第四次全国総合開発計画、２１世紀の国土のグランドデザイン 第 5回　地域間格差の現状（1）： ライフコースと人口移動 第 6回　地域間格差の現状（2）：社会、生活 第 7回　地域間格差の是正（1）：過疎化対策、地方分権、広域的市町村合併 第 8回　地域間格差の是正（2）：国土形成計画法、地域再生法、地方創生 第 9回　地域づくりの事例（1）：大都市地域 第10回　地域づくりの事例（2）：都市地域 第11回　地域づくりの事例（3）：工業地域 第12回　地域づくりの事例（4）：農村地域 第13回　地域づくりの事例（5）：観光業地域 第14回　地域のあり方を考える：鹿児島を事例に 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をして次回の講義を受けること		
成績評価の方法	授業時に実施するレポート（40%）＋期末試験（60%）		
実務経験について	自治体の元職員		

授業科目	**地方自治論（隔年開講）**	担当者	船津　潤
	〔履修年次〕　1年，2年，3年いずれでも履修可	授業外対応	講義前後，それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが，遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】地方自治，地方行財政に関する基本的な概念や理論，日本の制度の内容，実態，特徴，課題に関する理解を深めること 【概要】地方自治とは何か，日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて，地方自治や地方行財政に関する基本的な概念や理論，制度について講義するとともに，参考になると思われる海外の事例も取り上げます。また，グローバル化の地方自治に与える影響等についても講義します。 【到達目標】①日本の地方自治・地方行財政制度について理解し，説明できるようになること ②地方自治体の活動について主体的に考察し，判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し，その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　なし (2)　総務省編『地方財政白書　各年版』日経印刷		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：講義の目標，評価基準等の説明 第 2回　地方自治(1)：定義，地方政府の本質的特徴，地方分権が求められる背景等 第 3回　地方自治(2)：グローバル化の影響等 第 4回　地方自治体の意思決定(1)：首長・役所・議会の関係，国と地方公共団体の関係等 第 5回　地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度，長の強い権限等 第 6回　地方自治体の財源(1)：歳入の自治と三位一体の改革，地方債等 第 7回　地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法，地方債改革との関係等 第 8回　地方財政健全化法(2)：法律成立の背景，地方自治への影響等 第 9回　地方自治体の財源(2)：地方交付税，国庫支出金，問題点等 第10回　法定外税(1)：法定外税の定義，地方分権一括法での変更点，現在の傾向等 第11回　法定外税(2)：受益・原因と負担の関係，利点と問題点等 第12回　市町村合併：「平成の大合併」とその背景，望ましい合併とは，現在の状況等 第13回　市民参加・参画：歴史，求められている背景，参考事例の紹介等 第14回　住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について 第15回　まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明，試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ，検討すること，普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも非常に有用です)。そして，講義内容に直接関係しなくても，聞きたいことが出てきたら，遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%)，小テスト(20%)を基本とし，アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については１回目の講義(ガイダンス)で説明します。		

授業科目	**高齢者福祉（隔年開講）**	担当者	田口康明
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールで連絡、随時対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000 年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。また学生諸君が親の介護に向き合うようになる前に基礎的な知識を身につけることを目的とする。 【概要】本科目は，本科目は，専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。 【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につきる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　小竹雅子『総介護社会――介護保険から問い直す（岩波新書)』 (2)　授業内で随時紹介する。		
授業スケジュール	第1回　ガイダンス　この授業のすすめ方 第2回（講義）福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策 第3回（講義）資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義 第4回（発表）テキスト「序章：介護問題の社会化」 第5回（発表）テキスト「第１章：介護保険を利用する人たち」その１ 第6回（発表）テキスト「第１章：介護保険を利用する人たち」その２ 第7回（発表）テキスト「第２章：介護現場で働く人たち」その１ 第8回（発表）テキスト「第２章：介護現場で働く人たち」その２ 第9回（発表）テキスト「第３章　介護保険のしくみ」その１ 第１０回（発表）テキスト「第３章　介護保険のしくみ」その２ 第１１回（発表）テキスト「第４章　介護保険の使い方」 第１２回（発表）テキスト「第５章　介護保険にかかる金」 第１３回（発表）テキスト「第６章　なぜ、サービスは使いづらいのか」 第１４回（発表）テキスト「第７章　介護保険を問い直すガイダンス　」 第１５回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	テキストの各回の箇所を十分読むこと／各回のテキストの指定部分を事前に熟読する		
成績評価の方法	授業中の発表　60%，授業中の発言 20%　ファイナルレポート 20%		

授業科目	**労働法**	担当者	疋田　京子
	〔履修年次〕　1年，2年，3年	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】ディーセント・ワーク（人間らしい働き方）実現のための基礎知識 ２０１９年４月からの「働き方改革関連法」の施行によって、日本社会はどのように変わるのだろうか。 【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また顕著になってきた正規と非正規の格差の拡大。こうした日本企業に根強い労働慣行は、どのような法制度の中で起こったのか。改革を目指す法整備と共に考える。 【到達目標】働くときに知っておくべき労働者の権利と、使用者が守るべき義務とは何かを理解する。 権利を主張するための法的根拠は何かを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　授業時に紹介する。		
授業スケジュール	第　1回　ガイダンス：「マタハラ」って何？ 第　2回　労働法の全体像：憲法・民法と労働法との関係 第　3回　労働契約の成立：労働者の募集・採用と内定取り消し 第　4回　労働法上の「労働者」「使用者」の概念：家事･介護労働者は「労働者」じゃないの？ 第　5回　労働契約の内容はどうやって決まる？：労働契約と就業規則と労働協約の関係 第　6回　労働法の基本原則：労働契約で定めてはいけないことがある 第　7回　賃金についてのルール：賃金支払いのルール 第　8回　労働時間の基本的ルール（1）：所定労働時間と法定労働時間 第　9回　労働時間の基本的ルール（2）：罰則があるのになぜ日本は長時間労働なのか？ 第10回　労働時間と賃金（1）：時間外労働・深夜労働・休日労働とは？__ 第11回　労働時間と賃金（2）：変形労働時間制の時間外割増の計算をしてみよう 第12回　労働時間制の多様化：フレックスタイム制・裁量労働制とは？ 第13回　年次有給休暇：パートタイム労働者には年休権がない？ 第14回　ワークライフバランスの実現に向けて：産前・産後休業／育児・介護休業と均等法 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとしてください		
成績評価の方法	2回のレポート（中間レポートと最終レポート）の提出（80%） 授業ごとのミニレポート（20%）		

授業科目	**国際経済特講（隔年開講）**	担当者	村田　秀博
	〔履修年次〕　1・2・3年生	授業外対応	授業終了後 E メールにて
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】日本経済・地域経済のグローバル化と、鹿児島県内中小企業の海外進出、それに伴う貿易取引について 【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で、企業活動を海外へ拡大させ、現在の苦境を改善しようとしたり、さらなる企業拡大の契機をつかもうという動きが顕著になってきている。鹿児島県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、方法論を考え国際感性を磨く。またその基礎となる貿易知識も習得する。 【到達目標】日本国内特に県内での様々なグローバル化の現状を認識し、対応できる方法論・基礎知識を身につける。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　レジュメ、プリント資料、映像 (2)　必要に応じて、随時資料を追加配布する		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・外国人労働力受け入れ） 第 2回　鹿児島県内中小企業の国際化の現状 第 3回　進出国の情勢比較（中国） 第 4回　進出国の情勢比較（中国） 第 5回　海外知的財産権の保護、県内大学生の海外展開 第 6回　外国人労働力の受け入れ、メディカルツアーの誘致 第 7回　進出国の情勢比較（台湾・タイ・ベトナム） 第 8回　進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール） 第 9回　進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシア他） 第10回　貿易実務（自由貿易協定。TPP・FTA 他） 第11回　貿易実務（外国為替・為替相場・先物為替予約） 第12回　貿易実務（外貨預金・外貨貸付） 第13回　貿易実務（輸入） 第14回　貿易実務（輸出） 第15回　まとめ、試験		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	筆記試験５０％＋レポート５０％		

授業科目	**地域研究特講**	担当者	山本　晃正
	〔履修年次〕　1年，2年，3年	授業外対応	講義終了後
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　2　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 消費者をめぐる法律問題の諸相 【概要】 様々な手口の悪徳商法や詐欺的商法の手口とその規制，危険な製品による被害の賠償，危険な投機的取引の規制，サラ金の規制，公正な競争や表示の規制など，われわれ消費者に係わる取引を取り巻く様々な法律問題を，消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として，最新の法律改正も交えながら，できるだけ具体的事例を取り上げながら考えていく。 【到達目標】 消費者がどのような状態にあり，どのような問題を抱えているのかを具体的かつ多面的に理解し，その上で，消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは［第３版］』法律文化社　及び　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　消費者と契約：契約とは何か，契約の拘束力からの離脱 第 2回　消費者と契約：消費者契約法（目的，対象，取消権） 第 3回　消費者と契約：消費者契約法（不当条項の無効，適格消費者団体による差止請求権），電子消費者契約法 第 4回　消費者と契約：特定商取引法（規制対象，訪問販売・電話勧誘販売の諸規制） 第 5回　消費者と契約：特定商取引法（訪問販売・電話勧誘販売での民事救済制度，クーリングオフの意味と制度概要） 第 6回　消費者と契約：特定商取引法（通信販売・特定継続的役務提供・業務提供誘引販売取引・連鎖販売取引＝マルチ） 第 7回　消費者と契約：特定商取引法（送り付け商法），無限連鎖講防止法，復習のための第１回模擬演習テスト 第 8回　消費者と安全：製造物責任法（目的，製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由） 第 9回　消費者と信用取引：貸金業法とグレーゾーン金利など 第10回　消費者と信用取引：割賦販売法（割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん） 第11回　消費者と金融商品取引：金融商品取引法（投資家＝消費者保護規制）と金融商品販売法 第12回　消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（競争政策の意味，カルテル禁止と灯油裁判，共同の取引拒絶など） 第13回　消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（差別対価，不当廉売，抱合せ販売，再販売価格の拘束） 第14回　消費者と不当表示・景品提供：不当景品類及び不当表示防止法（景品表示法…改正法） 第15回　まとめ：消費者基本法，消費者の諸権利，復習のための第２回模擬演習テスト		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当ページを読み，配付資料も利用して，予習と復習を行って下さい。		
成績評価の方法	筆記試験（100%）		

授業科目	**地方自治法**	担当者	山本　敬生
	〔履修年次〕　1,2,3 年履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】住民自治，団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で，地方公共団体の種類及び事務，住民の権利義務，条例と規則，議会，執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し，地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。 【概要】地方自治法は，国と地方自治公共団体の役割分担，機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設，普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与，国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では，地方自治法をわかりやすく解説することで，地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。 【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し，国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　佐伯仁志他編，『ポケット六法（令和 3 年度版）』，有斐閣		
授業スケジュール	第 1 回　地方自治の意義　・住民自治，団体自治，伝来説，固有権説，地方自治の本旨について 第 2 回　地方公共団体の種類　・地方公共団体の構成要素（住民，区域，法人格），都道府県，市町村について 第 3 回　地方公共団体の区域・事務　・区域，機関委任事務，法手受託事務について 第 4 回　住民の権利義務(1)　・住民，条例の制定改廃の請求，事務監査の請求について 第 5 回　住民の権利義務(2)　・議会の解散請求，議員，長及び特定職員の解職請求，住民監査請求について 第 6 回　条例と規則(1)　・条例制定権の範囲と限界，法令先占論，条例の効力について 第 7 回　条例と規則(2)　・条例制定手続，条例と罰則，行政罰，規則の制定事項について 第 8 回　議会(1)　・議会の地位，町村総会，議会の組織，議会の権限，調査権について 第 9 回　議会(2)　・定例会，臨時会，議会の運営，会議公開の原則，会期不継続の原則について 第 10 回　執行機関(1)　・長の地位，長の権限，長の職務の代理，地方公共団体の事務所について 第 11 回　執行機関(2)　・行政委員会の意義，長と行政委員会との関係，監査委員，教育委員会について 第 12 回　国等の地方公共団体への関与　・国の関与の原則，法定受託事務の処理基準，国地方係争処理委員会について 第 13 回　長と議会との関係(1)　・議会の監視，再議制度，一般的拒否権，特別的拒否権について 第 14 回　長と議会との関係(2)　・専決処分，長に対する不信任議決，議会の解散，再度の不信任議決について 第 15 回　予算　・予算事前議決の原則，予算公開の原則，会計年度独立の原則について		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋授業での発言内容（10%）を基準にして評価する。		

授業科目	**簿記論Ⅱ**	担当者	岡村　雄輝
	〔履修年次〕　1，2，3	授業外対応	〔履修年次〕
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】商業簿記の基礎Ⅱ 【概要】本講義は，簿記論Ⅰをふまえて，諸取引の処理と決算について学習します。 【到達目標】財務諸表（貸借対照表・損益計算書）を作成できるようになる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記講義 3 級 商業簿記』（平成 31 年版），中央経済社。 渡部裕亘，片山覚，北村敬子（編）『新検定 簿記ワークブック 3 級 商業簿記』（平成 31 年版），中央経済社。 (2)　神戸大学会計学研究室『会計学基礎論』（第 5 版補訂版），同文舘出版。		
授業スケジュール	第 1 回　ガイダンス：履修登録の確認，講義概要の説明 第 2 回　簿記論Ⅰのおさらい（1）：仕訳・転記・決算 第 3 回　簿記論Ⅰのおさらい（2）：現金と預金，商品売買 第 4 回　債権・債務（1）：テキスト第 7，8 章 第 5 回　債権・債務（2）：テキスト第 9 章 第 6 回　固定資産：テキスト第 10，11 章 第 7 回　貸倒損失と貸倒引当金：テキスト第 12 章： 第 8 回　資本金と引出金：テキスト第 13 章 第 9 回　収益と費用：テキスト第 14 章 第 10 回　伝票：テキスト第 15 章 第 11 回　決算と財務諸表（1）：テキスト第 16 章 第 12 回　決算と財務諸表（2）：テキスト第 16 章 第 13 回　決算と財務諸表（3）：テキスト第 16 章 第 14 回　決算と財務諸表（4）：テキスト第 16 章 第 15 回　まとめ	会計科目の履修順序（初学者向け） 2 年前期：会計学総論 簿記論Ⅰ 2 年後期：**簿記論Ⅱ** 財務会計論 3 年前期：原価計算 会計情報論 3 年後期：管理会計論	
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	**経営管理論**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1、2、3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。 【概要】２人以上の個人が集団として活動する場合，そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり，その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは，財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。 したがって経営管理とは，経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり，このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では，彼らが，目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や，組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中，対処している方法について講義していきます。 【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門的用語を知る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に配布するプリント (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1回　講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。 第 2回　経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。 第 3回　組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。 第 4回　組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。 第 5回　組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。 第 6回　組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。 第 7回　他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのか考える。 第 8回　人的資源管理（1）：企業での人的資源管理の基本的な仕組みについて説明する。 第 9回　人的資源管理（2）：採用管理、配置や転属について説明する。 第 10 回　人的資源管理（3）：人材育成、人事評価、退職管理について説明する。 第 11 回　人的資源管理（4）：これからの人的資源管理の課題について考える。 第 12 回　組織構造を知る：組織の構造が企業や人の管理にどのような影響を与えているのか考える。 第 13 回　リーダーの役割とは何か（1）：リーダー（上司）の役割について考える。 第 14 回　リーダーの役割とは何か（2）：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを知る。 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。		

授業科目	**経営組織論（隔年開講）**	担当者	近間　由幸
	〔履修年次〕　1年、2年、3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 経営組織論における個人と組織の関係性について 【概要】経営組織に関わる理論を紹介し、これらの理論がどのような企業組織を念頭に置いて議論されてきたものなのかを解説する。また、現代社会において求められている組織や個人のあり方について、適宜事例を交えながら解説を行う。 【到達目標】「組織」、「リーダーシップ」、「モチベーション」という言葉でイメージされる人物像や組織のモデルが、授業で扱うもののうちどれに近いのかを、経験に照らし合わせて考えていけることを到達目標としている。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　金井壽宏『経営組織』日経文庫 (2)　高尾義明『はじめての経営組織論』有斐閣ストゥディア		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション―いろいろな組織の捉え方 第 2回　組織論における人間モデル 第 3回　ワーク・モチベーションとその理論 第 4回　個人と組織のかかわり合い―モチベーション、コミットメント、キャリア 第 5回　集団の機能と組織 第 6回　組織におけるリーダーシップ 第 7回　組織文化 第 8回　経営組織の設計 第 9回　官僚制組織とネットワーク組織 第 10 回　経営組織の動態化と組織変革 第 11 回　変動する環境における組織 第 12 回　戦略と組織学習 第 13 回　イノベーションと組織 第 14 回　ダイバーシティ・マネジメント 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	復習として各授業で取扱った基本概念や語句の理解について配布された資料や参考文献を手がかりに、指示された論題のレポート作成を行う。		
成績評価の方法	レポート 100%（受講生の到達目標に対応して、基本概念や語句の理解を前提に、モチベーション、リーダーシップ、経営組織などに関するレポートを 2～3 回行う。レポートの構成や論理性を重点的に評価する。）		

授業科目	**労務管理論**	担当者	近間　由幸
	〔履修年次〕　1年、2年、3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について 【概要】授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。 【到達目標】歴史的、国際的な視点から、企業の働かせ方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　澤田幹・平澤克彦・守屋貴司編『明日を生きる人的資源管理入門』ミネルヴァ書房 (2)　白井泰四郎『現代日本の労務管理〈第2版〉』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション―講義の概要と労務管理を学ぶ意義について 第 2回　労務管理とはなにか 第 3回　雇用管理制度のしくみ 第 4回　組織構造と職務内容 第 5回　キャリア開発のしくみ 第 6回　賃金管理制度のしくみ 第 7回　人事評価制度のしくみ 第 8回　労働時間管理のしくみ 第 9回　福利厚生制度のしくみ 第10回　日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理 第11回　ダイバーシティ・マネジメント 第12回　労務管理と労働組合 第13回　労務管理の国際比較（1）―アメリカ― 第14回　労務管理の国際比較（2）―ドイツ― 第15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習として教科書ならびに参考文献の該当箇所については読んでおくことが望ましい。初回授業時に該当範囲を提示する。		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%） 筆記試験（70%）		

授業科目	**管理会計論**	担当者	北村　浩一
	〔履修年次〕　1,2,3年いずれでも可	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 管理会計とは一体何かを管理会計技法の学習を通じて修得する 【概　要】 管理会計についてはさまざまに定義されており、受講者それぞれが管理会計の定義を理解する。また、管理会計技法の分析を通じて、関連する経営・管理といった概念についても修得する。 【到達目標】 企業経営者・管理者にとって管理会計は重要な管理手法として位置づけられており、本講義では管理会計を概念的に、そして体系的に捉えることを目標としている。		
（1）テキスト （2）参考文献	（1）西村明・大下丈平編『ベーシック管理会計』(2007)中央経済社 （2）特になし		
授業スケジュール	第1回　講義ガイダンス・講義の進め方や評価について 第2回　予算管理（1） 第3回　予算管理（2） 第4回　利益管理（1） 第5回　利益管理（2） 第6回　CVP 分析（1） 第7回　CVP 分析（2） 第8回　管理会計とは 第9回　分権的組織の管理会計（1） 第10回　分権的組織の管理会計（2） 第11回　原価概念 第12回　原価計算と原価管理 第13回　標準原価管理 第14回　原価企画と ABC 原価計算 第15回　講義のまとめ （＊　講義の進度によって予定を変更する場合があります）		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	小テスト(複数回，50%）と期末定期試験（50%）の総計で評価します。		

授業科目	**国際経営論**	担当者	松本　俊哉
	〔履修年次〕　1，2，3 年いずれでも履修可	授業外対応	授業終了時および随時メールで対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】多国籍企業のグローバル価値連鎖 【概要】国際生産をおこなう主要多国籍企業の「グローバル価値連鎖」（事業活動の世界的な分散と統合）に注目しながら経営戦略の現状と課題について考察する。 【到達目標】現代の多国籍企業の経営戦略が作り出す競争優位を具体的な事例をもとに理解する。また、そうした国際経営のあり方が国民経済や労働者、環境などに及ぼす影響について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定（資料を配付する予定） (2)　猪俣哲史『グローバル・バリューチェーン』日本経済新聞社、瀬藤澄彦『多国籍企業のグローバル価値連鎖』中央経済社、井上博（監訳）『多国籍企業と国際生産』同文館出版		
授業スケジュール	第 1回　オリエンテーション（講義の目的、進め方、成績評価の方法など） 第 2回　多国籍企業の経営（1）直接投資とプロダクトライフサイクル 第 3回　多国籍企業の経営（2）内部化と企業内貿易、外部化とアライアンス 第 4回　自動車産業のグローバル価値連鎖（1） 第 5回　自動車産業のグローバル価値連鎖（2） 第 6回　自動車産業のグローバル価値連鎖（3） 第 7回　電機・電子産業のグローバル価値連鎖（1） 第 8回　電機・電子産業のグローバル価値連鎖（2） 第 9回　電機・電子産業のグローバル価値連鎖（3） 第 10 回　アパレル産業のグローバル価値連鎖（1） 第 11 回　アパレル産業のグローバル価値連鎖（2） 第 12 回　アパレル産業のグローバル価値連鎖（3） 第 13 回　国際経営と人権 第 14 回　国際経営と環境 第 15 回　全体のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	配付資料の予習、レポートの作成を適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験（50%）、小レポート（20%）、その他の課題提出物（30%）		

授業科目	**比較経営論（隔年開講）**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　1～3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜指示（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】経営システムの多様性を知る 【概要】この講義では，様々な国の経営システムを比較します。まず，日本の経営（日本的経営）について解説した後に，アメリカや欧州諸国，アジア諸国などの経営の特徴を見ていきます。各国の経営システムを説明する際に，それらを生じさせた歴史的背景についても触れますので，歴史の話を苦にしない学生さんの受講を望みます。 【到達目標】歴史，政治，経済，地理などの諸条件の相違が，経営システムの相違を生み出すことを理解する。また，経営システムの多様性や経路依存性について理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2回　株式会社制度とコーポレート・ガバナンス：経営システムを比較するための基本事項を説明する。 第 3回　日本の経営（1）：戦後以降の歴史を振り返りながら，日本的経営の要点を確認する。 第 4回　日本の経営（2）：日本的経営におけるコーポレート・ガバナンスの変容について考える。 第 5回　日本の経営（3）：日本的生産システムを知る。 第 6回　日本の経営（4）：日本的経営における組織・人的資源管理および経営戦略の特徴を解説する。 第 7回　日本の経営（5）：日本における中小企業について講義する。 第 8回　アメリカの経営（1）：アメリカ企業のコーポレート・ガバナンスを説明する。 第 9回　アメリカの経営（2）：アメリカ企業の組織・人的資源仮や経営戦略の特徴を解説する。 第 10 回　欧州諸国の経営（1）：イギリスの経営について講義する。 第 11 回　欧州諸国の経営（2）：フランスの経営について講義する。 第 12 回　欧州諸国の経営（3）：ドイツの経営について講義する。 第 13 回　アジア諸国の経営（1）：中国の経営について講義する。 第 14 回　アジア諸国の経営（2）：その他アジア諸国の経営を解説する。 第 15 回　まとめ：「比較」，「多様性」，「経路依存性」などをキーワードとして，これまでの講義内容を振り返る。		
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）		

授業科目	**会計情報論**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕　2，3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】会計情報の作成方法，伝達方法，利用方法を知る 【概要】会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について，その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。 各種分析手法（成長性，収益性，安全性）について学習し，個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際，『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：ＥＤＩＮＥＴ（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。 【到達目標】会計情報の作成，伝達，利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定。講義初回に指示します。また，必要に応じて，講義資料を配布します。 (2)　成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：履修登録確認，講義計画に関する説明 第 2回　会計情報の利用者：利害関係者，会計情報の入手方法（EDINET の使い方，アニュアルレポートの入手等） 第 3回　有価証券報告書：全体像，記載内容の確認，分析対象企業の絞り込み 第 4回　会計学と財務情報・非財務情報について 第 5回　財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA，ROE など） 第 6回　財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など） 第 7回　財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など） 第 8回　財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など） 第 9回　財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点，長期的視点など） 第 10 回　財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①） 第 11 回　財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②） 第 12 回　時系列分析（２社以上） 第 13 回　同業他社比較分析（２社以上） 第 14 回　学生による分析報告とディスカッション 第 15 回　まとめ：レポート試験の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施		
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回，宿題を課します。		
成績評価の方法	中間レポート（40%），期末レポート（60%）		

＊受講生の学習進捗状況，従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

授業科目	**企業行動科学（隔年開講）**	担当者	竹中　啓之
	〔履修年次〕　1、2、3 年いずれでも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2 単位　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える。 【概要】行動科学とは，個人や集団の形で人間が行う行動に関して，その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し，説明し，分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく，心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。 この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として，企業における意思決定過程の分析を試みることにする。企業目的を達成するために，一つの企業行動として意思決定を調整する方法について説明する。またそのほかに、リーダーシップ論やヒトの動機づけ理論についても取り上げる。 【到達目標】組織における意思決定プロセスを理解する。リーダーシップの主要な理論を知る。主要な動機づけ理論を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　授業中に配布するプリント (2)　講義中に指示する		
授業スケジュール	第 1回　講義概要の説明：講義の概略を説明する 第 2回　意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する 第 3回　組織の意思決定：組織の意思決定について説明する 第 4回　集団での意思決定は優れているのか：集団での意思決定が優れているかどうか考える 第 5回　組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える 第 6回　意思決定のスピードと組織構造：意思決定のスピードと組織構造の関係を考える 第 7回　映画「12 人の怒れる男たち」について：集団的意思決定の例を映画を通して考える 第 8回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（1）：動機づけ理論について説明する 第 9回　インセンティブシステム（動機づけ理論）（2）：動機づけ理論の問題点ついて説明する 第 10 回　リーダーシップとは何か（1）：リーダーシップ論について説明する 第 11 回　リーダーシップとは何か（2）：リーダーシップ論の問題点について説明する 第 12 回　上司と部下の関係を考える（1）：上司と部下の関係について説明する 第 13 回　上司と部下の関係を考える（2）：問題のある上司に当たったときの対処法を考える 第 14 回　卒業式は自由な人生の終わりか：大学での学びについて考える 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定）　詳細は１回目の講義で説明します。		

授業科目	**経営戦略論**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　1～3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜指示（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する 【概要】経営戦略とは，外部環境の変化に対応しながら長期的な存続・発展を図るための，企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも，企業全体の戦略である「企業戦略」，および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに，最近の企業の動向を紹介しながら，現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。 【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに，各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また，講義を通じて獲得した知識を基に，企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになることを目標にする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1 回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2 回　経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。 第 3 回　経営理念とドメイン：経営戦略およびドメイン（事業領域）について解説する。 第 4 回　規模の経済と範囲の経済，垂直統合と水平統合：規模の経済等の基本タームを説明する。 第 5 回　多角化戦略：関連型多角化非関連型多角化の違いを中心に，企業の多角化戦略について考える。 第 6 回　M&A と戦略的提携（1）：M&A と戦略的提携について，それぞれの特徴や相違点を見ていく。 第 7 回　M&A と戦略的提携（2）：M&A と戦略的提携について，それぞれの特徴や相違点を見ていく。 第 8 回　経験曲線と PLC：PPM の基礎になる，経験曲線と PLC について解説する。 第 9 回　PPM：全社的視点から，経営資源の配分について考える。 第 10 回　経営戦略の実際：実際の企業を事例として，経営戦略の重要性を再確認する。 第 11 回　競争戦略とは何か：競争戦略の概要や競争戦略論における 2 つのアプローチを説明する。 第 12 回　ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に，ポジショニング・アプローチについて講義する。 第 13 回　資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら，資源ベース・アプローチを説明する。 第 14 回　企業の社会的責任と経営戦略：CSR 戦略を中心に，企業の社会的責任について考える。 第 15 回　経営戦略と現代社会：これまでの講義内容を振り返りながら，現代社会における経営戦略のあり方を解説する。		
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験（90%）＋リアクション・ペーパーや授業に臨む姿勢等（10%）		

授業科目	**経営工学（隔年開講）**	担当者	倉重　賢治
	〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化 【概要】 現在の企業活動においては，情報技術を有効に活用した情報収集，さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず，取引先も含めた情報も共有化されることで，より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では，企業活動において頻繁に行われる意思決定，例えば，生産スケジュールの立案や在庫管理など，その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。 【到達目標】 企業活動における，ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　圓川隆夫・伊藤謙治，『生産マネジメントの手法』，朝倉書店		
授業スケジュール	第 1 回　序論：経営工学とは 第 2 回　生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか 第 3 回　生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか 第 4 回　工程編成：均等に作業を割り当てるには 第 5 回　プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第 6 回　設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第 7 回　生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか 第 8 回　作業分析：作業者の動作を分析する 第 9 回　投資計画 1：お金の現在価値と将来価値 第 10 回　投資計画 2：プロジェクトの価値 第 11 回　在庫問題：在庫コストを少なくする 第 12 回　評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第 13 回　最短経路：一番近い道を探す 第 14 回　配送計画：配達順序を決める 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（100%）		

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重　賢治
	〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 リレーショナルデータベースの概念と基本操作 【概要】 実務でのコンピュータ利用において，データベース処理ソフトは，非常に重要な役割を果たしている。この演習では，まず，リレーショナルデータベースの基本的な概念を論じる。次に，代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を修得し，データベース設計に関する問題に取り組んでいく。 【到達目標】 データベースソフトの Access を利用して，簡単なシステム開発を行う		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　特になし		
授業スケジュール	第 1 回　序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回　Access の操作：Access とは 第 3 回　Access の操作：レコードの並べ替え 第 4 回　Access の操作：レコードの追加 第 5 回　Access の操作：フォームの作成 第 6 回　Access の操作：選択クエリの作成 第 7 回　Access の操作：さまざまなクエリ 第 8 回　Access の操作：アクションクエリ 第 9 回　Access の操作：データベースの設計 第 10 回　Access の操作：リレーションシップの作成 第 11 回　Access の操作：リレーションシップされたクエリの計算 第 12 回　Access の操作：レポートの作成 第 13 回　Access の操作：レポートのアレンジ 第 14 回　Access の操作：マクロの利用 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%）		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重　賢治
	〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】 VBA（Visual Basic for Application）を用いたプログラミング 【概要】 プログラミングとは，コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では，プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて，論理的な思考を身につけることはもちろんのこと，VBA の利用により，さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。 【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　未定 (2)　特になし		
授業スケジュール	第 1 回　序論：プログラミングの概念 第 2 回　VBA の利用：関数と変数 第 3 回　VBA の利用：条件分岐 第 4 回　VBA の利用：オブジェクトの基本 第 5 回　VBA の利用：繰り返し操作 第 6 回　VBA の利用：マクロの登録と自作関数 第 7 回　VBA の利用：マクロの記録 第 8 回　VBA の利用：文字列と日付関数 第 9 回　VBA の利用：変数の型宣言と配列 第 10 回　VBA の利用：プロシージャとオブジェクト 第 11 回　VBA の利用：セル操作の詳細 第 12 回　VBA の利用：イベントプロシージャ 第 13 回　VBA の利用：ユーザーフォーム 1 第 14 回　VBA の利用：ユーザーフォーム 2 第 15 回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	講義中の小テスト（50%）＋期末試験（50%）		

授業科目	**財務会計論**	担当者	宗田　健一
	〔履修年次〕　1，2，3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】財務諸表の作成原理や会計制度の概要について理解する 【概要】本講義は，企業が営む主要な活動に焦点をあてて，その結果が会計情報へと集約される過程，すなわち，財務諸表の作成プロセスとそれを規制する社会的なルールについて学習します。また，近年，重要性を増している企業のグローバル化や企業集団に関わる財務会計についても解説します。 【到達目標】財務諸表を作成する能力を養い，会計の社会的な役割を理解する		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　成川正晃編著『ビジネスセンスが身につく会計学』中央経済社。 (2)　未定。各回の講義時に，必要に応じて，資料を配布します。		
授業スケジュール	第 1回　ガイダンス：履修登録の確認，講義計画の説明等，会計とは何か?，会計の歴史 第 2回　情報の非対称性と会計制度，会計情報の仕組み，貸借対照表，損益計算書の構成要素 第 3回　流動・固定の区分，構成要素の認識・測定，資産評価と費用計上 第 4回　貸借対照表の構成要素−資産，現金預金，営業債権の種類等 第 5回　有価証券の種類，期末評価，商品の取得原価，商品払出価額の計算等 第 6回　製品の製造原価，仕掛品，製品の期末評価 第 7回　有形固定資産の種類・取得原価，減価償却・期末評価 第 8回　貸借対照表の構成要素−負債・純資産，買掛金と未払金等 第 9回　賞与引当金と退職給付引当金，社債と長期借入金 第 10回　資本金，資本剰余金と利益剰余金，自己株式 第 11回　損益計算書の構成要素，理解したい損益計算書とその区分 第 12回　収益・費用の認識基準， 第 13回　収益・費用の測定基準 第 14回　連結財務諸表の目的，連結の範囲 第 15回　まとめ：試験範囲の提示，成績評価方法の説明，質疑応答，授業評価アンケートの実施		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	期末試験（筆記試験）（80%），授業中に課すレポート作成（20%）		

＊受講生の学習進捗状況，従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。
簿記論Ⅰ，Ⅱ，会計学総論を受講後が望ましい。もしくは，日商3級レベルの簿記を学習済みであることが望ましい。

授業科目	**情報論特講**	担当者	岡村 俊彦
	〔履修年次〕　1,2,3 年いずれも可（注）	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】ICT（情報通信技術）について実用的，応用的な学習をおこなう。 【概要】ハードウェア，ソフトウェア，ネットワークといった ICT を学び，日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。更に表計算ソフト（エクセル）の実用的な使用方法について学習を行う。 【到達目標】実社会において，自ら ICT 業務に携わり，効果的，効率的な活用ができるようにする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　FOM 出版「日商 PC 検定試験 知識科目 2 級対策問題集」，プリント (2)　特になし		
授業スケジュール	第 1回　概要説明：授業概要と評価方法の説明 第 2回　ハードとソフト：PC 等の ICT 機器のハードウェア，ソフトウェアの解説 第 3回　コンピュータの内部部品１：CPU とメモリの解説 第 4回　コンピュータの内部部品２：ストレージと光学ドライブの解説 第 5回　インターネットとネットワーク：TCP/IP の意味と設定方法 第 6回　ブロードバンドルータ：ルータの役割と設定方法，Wi-Fi の解説 第 7回　様々なウェブサービスとリモートアクセス：ウェブサービスの使用例 第 8回　表計算ソフトの活用１：ネット上のデータの取り込み(Web クエリ)，ヒストグラム 第 9回　表計算ソフトの活用２：グラフの種類と選択方法，Ｚチャート 第 10回　表計算ソフトの活用３：散布図と相関係数，回帰分析 第 11回　表計算ソフトの活用４：パレート図による ABC 分析 第 12回　表計算ソフトの活用５：フィルターとピボットテーブル 第 13回　表計算ソフトの活用６：統計機能による有意差検定 第 14回　表計算ソフトの活用７：データツールと差し込み印刷 第 15回　まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート(50%)＋授業中の課題（50%）		

（注）「情報科学概論」（担当：岡村俊）を履修済み，もしくは同等以上の学習が終了している中級者，上級者を対象とする。

授業科目	**マーケティング論**	担当者	瀬口　毅士
	〔履修年次〕　1～3 年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ 【概要】マーケティングとは，企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりを意味します。現代の企業にとって，マーケティングはますます重要になっています。本講義では，マーケティング論の基本事項を説明した後，現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば，グループ・ワークを適宜取り入れることで，より理解を深めていきます。 【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し，消費者としてあるいはマーケターとしての視点を養うことを目標とする。すなわち，今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しようとしているのかを理解することで「賢い」消費者になると同時に，顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2回　マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第 3回　グループ・ワーク①：商品とマーケティングについて考えよう。 第 4回　標的市場の選択：STP について解説する。 第 5回　消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ることで，消費者の購買行動について理解を深める。 第 6回　競争分析：「ポジショニング」の概念を中心に，企業間競争の構造分析の方法を知る。 第 7回　グループ・ワーク②：市場・顧客分析をしてみよう。 第 8回　製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。 第 9回　価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第 10 回　流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。 第 11 回　流通戦略（2）：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。 第 12 回　プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスなどを講義する。 第 13 回　ブランド戦略：これまでの内容を基に，ブランド構築やブランド管理について考える。 第 14 回　企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。 第 15 回　グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。		
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験（80%）＋リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど（20%）		

18　商経学科の演習・実習科目

第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

（経済専攻・経営情報専攻とも）

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備　　考
基礎演習	1 年	前期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
演　習　Ⅰ	1 年	後期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
演　習　Ⅱ	2 年	前期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2 年	後期	2	必 修	詳細は学科で指示する。

第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備　　考
基礎演習	1 年	前期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
演　習　Ⅰ	2 年	後期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
演　習　Ⅱ	3 年	前期	2	必 修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3 年	後期	2	必 修	詳細は学科で指示する。

授業科目	（第一部・第二部） 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	各年度で指定する教員

①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目

社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは（1）司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で，講義科目と異なり，参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また，担当教員と所属学生で構成する演習は，工場見学や研究のための合宿，国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして，（2）対話型であるために，参加学生各自の自発性が重要で，他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し，応用してゆく場です。そのため，（3）どの担当教員の演習に参加するかということが，その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので，加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して，受講登録に臨むようにして下さい。

②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか？

商経学科の「演習」系授業科目は，（1）すべて必修科目で，（2）これを順番に受講することで，社会学科的なものの考え方から出発して，自分自身の問題関心に基づいて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。

③「演習」系科目の受講の流れ

（第一部）

1年生前期「基礎演習」

全員が基礎演習に所属し，ゼミナールの基本的な部分（運営・議論など）について，学びます。

1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」

1年生後期から始まる演習は，卒業までの期間，自らが選択した教員と学んでいくことになります。

演習ごとの特色のあるテーマについて，教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。

2年後期に卒業論文を仕上げることによって，物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。

（第二部）

1年生前期「基礎演習」

全員が基礎演習に所属し，ゼミナールの基本的な部分（運営・議論など）について，学びます。

2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」，

2年生後期から始まる演習は，卒業までの期間，自らが選択した教員と学んでいくことになります。

演習ごとの特色のあるテーマについて，教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。

3年生後期に卒業論文を仕上げることによって，物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。

④演習のテーマ及び概要・スケジュール

各演習には，担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして，「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし，最終的には，演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。

⑤成績評価の方法

演習ごとに異なりますが，個人の報告や出席状況，グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。

⑥受講登録上の注意

原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って，「演習Ⅰ」の選択が重要となります。

授業科目	**社会活動**	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕年次指定なし　　〔学期〕通年 〔単位〕２単位　　〔必修／選択〕選択　　〔授業形態〕実習		
テーマ及び概要	【テーマ】「社会活動」は，非営利組織を中心とした研修先において，実際の現場での体験を得ることにより，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概　要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて，社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
（1）テキスト （2）参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	事前指導：主に前期を中心に研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研修：　主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

授業科目	**企業研修**	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕１年（第一部），２年（第二部）　　〔学期〕通年 〔単位〕２単位　　〔必修／選択〕選択　　〔授業形態〕実習		
テーマ及び概要	【テーマ】この科目は，一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は，民間企業を中心に県庁，病院などの研修先において，現場で就業体験を行い，将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概　要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて，社会人としての課題，企業運営，職務遂行に必要な知識・技術を理解し，働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先，及び研修内容等は多様であり，毎年４月末から６月頃に掲示され，募集が行われる。 【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる，研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる，自立的に考え行動できるようになる，など。		
（1）テキスト （2）参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義，研修先の決定，各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研修：　主に夏期休暇期間に，実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は，研修日誌の作成・提出，研修レポートの作成，研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

19　教職に関する科目

授業科目名： **教職入門**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：田口　康明 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業の到達目標及びテーマ：

【テーマ】日本における今日の学校教育や教職の社会的意義。戦前戦後、諸外国の教職観の変遷を踏まえ、専門職としての教員に求められる役割や資質能力。変化の激しい社会において学校に求められる役割を果たすための多様な職員・専門家の連携・分担。

【到達目標】教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等、学校における少数職種について理解する。また、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

授業の概要

今日の教育現場の現実と向きあって教育とは何かを問い、教科指導だけではない具体的な教師の仕事を紹介する。また、「教職」は教員（教諭）だけで担われるわけでないことを理解し、学校にいる「少数職種」といわれる職について理解をすすめる。また、地域にある教職的な諸職業についても理解を深める。

授業計画

第１回：進路選択の対象としての教員
第２回：教育の理念と思想①大正自由教育期の教員像
第３回：　同上　②「授業名人」といわれた人たち
第４回：教職観の変遷①古代ギリシャからルネサンス期
第５回：　同上　②明治期と戦後の教員像
第６回：　同上　③現代日本の学校と教員
第７回：教員の職務内容と服務①学校内外の職務と研修
第８回：　同上　②教員の服務上・身分上の義務と身分保障
第９回：チーム学校への対応①
　中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の理解
第１０回：　同上　②校内の多様な専門職（少数職種の意義と役割）
第１１回：諸外国の教職員
第１２回：教育方法と教員の役割①ITCと教員
第１３回：　同上　②アクティブ・ラーニングへの対応
第１４回：中学生と教職員の諸関係
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説　総則編
教職員ハンドブック 第3次改訂版　東京都教職員研修センター（監修）　都政新報社

学生に対する評価：３回程度の小レポート（３０%）・定期試験（７０%）

授業科目名： **教育原理**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：田口　康明 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業の到達目標及びテーマ：
【テーマ】教育の本質、教育の目的、教育の実際の理解
【到達目標】教育学の基本概念、教育の歴史に関する基礎、代表的な教育思想の理解、学校・家庭・地域の協働関係。これらの理解。

授業の概要
「教育」については、誰もが何らかの形で経験するものである。必ずしも専門家である教職員のみが関与するわけではない。また受講生自らも経験してきている。こうした「固定」概念を相対化し、「教育とは何か」について問い続けていくために必要な原理的知識を，思想や歴史，社会的な諸関係について多角的な観点から講義する。

授業計画
第1回：教育学の諸概念①　日本の近代以前と近代以降の教育概念
第2回：　同上　②　諸外国の教育概念
第3回：日本における教育的諸関係①子どもと保護者の関係論
第4回：　同上　②地域における教育と教育的関係
第5回：教育に関する歴史①近代以前の教育と教育思想（ギリシャ・ローマなど）
第6回：　同上　②近代の教育と教育思想（近世・啓蒙期）
第7回：　同上　③コメニウス・ロック・ルソーの教育思想
第8回：　同上　④日本の明治期以降の教育思想
第9回：　同上　⑤戦後日本の教育の変遷
第１０回：近代公教育の原理
第１１回：世界の教育改革
第１２回：学力の要素と学力政策
第１３回：幼児期の教育
第１４回：思春期の教育
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説　総則編
思春期の子どもと向き合うために 文部科学省著　ぎょうせい

学生に対する評価：３回程度の小レポート（３０%）・定期試験（７０%）

授業科目名： **教育心理学**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：田中　真理 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・教育対象である幼児児童生徒に関する心身の発達の特徴，学習，個性（パーソナリティ）に関する理論や概念を習得する。

・各発達段階の特性に応じた教育や指導の基盤となる考え方を理解することができる。

【テーマ】

幼児児童生徒の心身の発達，学習過程，個性について理解し，それらをふまえた教育や指導方法について考える。

授業の概要

　教育活動とは，教育対象に対して教育や指導といった働きかけを行うことで，対象がよりよい方向に変化する過程である。学校教育では，教育対象である幼児児童生徒に関わる発達的特徴と個人特性，さらには教育や指導に不可欠な学習の過程に関して理解することが不可欠である。教育心理学は，こうした教育活動をより効果的に行うための心理学の知識や技術を提供する学問領域といえる。

　授業では，発達（幼児児童生徒の身体，心理，社会性の発達や発達に関する理論），学習（学習過程とそのプロセスに関する基礎的知識），教育実践と評価（学習法・教授法，教育評価，知能やパーソナリティ）について取り上げる。さらには，これらの理解に基づいた教育や指導のあり方についても考えていく。適宜，ワークやディスカッションも交えながら体験的に理解を深めていく。

授業計画

第１回：発達①　発達に関する基礎的な概念
第２回：発達②　発達の規定要因（内的・外的要因），初期経験の重要性
第３回：発達③　身体発達とそれに伴う心理特性，言語発達，認知発達に関する理論
第４回：発達④　愛着，遊び，友人関係や仲間関係などの社会性の発達
第５回：発達⑤　代表的な発達理論と各発達段階，発達課題
第６回：発達⑥　発達と教育，各発達段階に応じた指導のあり方
第７回：学習①　代表的な学習理論，条件づけ，観察学習，問題解決学習
第８回：学習②　記憶プロセスやその種類，記憶の方略と忘却，記憶と教育の関係
第９回：学習③　動機づけ，欲求，学習意欲
第１０回：実践･評価①　教授法，学習方法と教科との関連，ATI
第１１回：実践･評価②　教育評価機能と方法，評価情報の収集方法
第１２回：実践･評価③　知能観，代表的な知能理論，知能検査と指導への活用
第１３回：実践･評価④　パーソナリティ理論（類型論・特性論）
第１４回：実践･評価⑤　パーソナリティ検査と心理検査に関する諸概念
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト

　毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

　田瓜宏二　編著『教育心理学（よくわかる教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房，2018年
服部　環・ 外山 美樹編『スタンダード教育心理学』サイエンス社，2013年
櫻井 茂男・佐藤有耕 編『スタンダード発達心理学』サイエンス社，2013年

学生に対する評価

　定期試験（70%）＋小テスト（20%）+リアクションペーパー（10%）

授業科目名： **特別支援教育概論**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：田中　真理 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・特別支援教育の制度と仕組みについて理解する。

・特別支援教育対象の幼児児童生徒の障害特性と発達の特徴を理解し，組織的な対応や支援の方法について理解する。

・個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒の把握や支援方法について理解する。

【テーマ】

特別な支援あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒に対して組織的に対応するために必要な基礎知識と支援方法について理解する。

授業の概要

　平成19年の学校教育法の改正により特別支援教育が本格的に開始され，従来の視覚障害や聴覚障害，知的障害といった従来の特殊教育の対象に加え，通常学級に在籍している発達障害や個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒もその支援対象に含まれるようになった。本講義ではこうした特別な支援を必要とする，あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒を支援するために，特別支援教育の制度や仕組み，各障害の特性と個別の教育的ニーズへの理解，さらには組織的な対応のための支援や関係機関との連携方法について学ぶ。

授業計画

第１回：インクルーシブ教育，特別支援の理念，関連する制度

第２回：「通級による指導」及び「自立活動」

第３回：指導計画及び教育支援計画の作成

第４回：障害のある児童生徒（視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱等）の理解

第５回：学習障害，注意欠陥多動性障害，高機能自閉症等の発達障害の特性と理解

第６回：発達障害、軽度知的害児への支援

第７回：貧困世帯、被虐待児等の特別な教育的ニーズの理解と組織的支援のあり方

第８回：特別支援コーディネーターや専門家，保護者（家庭）など学内外の関係者・関係機関との連携と支援体制の構築

定期試験

テキスト　　毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

　石橋裕子・林幸範　編著『特別支援教育（よくわかる教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房，2019年

　柘植雅義・渡部匡隆『はじめての特別支援教育―教職を目指す大学生のために 改訂版』有斐閣，2014年

学生に対する評価　　定期試験（100%）

授業科目名： **教育行政学概論**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　康明 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）

授業の到達目標及びテーマ：
【テーマ】教育行政及び教育行政学の基本的事項について扱い、学校経営のしくみ、「社会に開かれた教育課程」、学校と地域との連携、安全教育及び学校安全への対応について扱う。
【到達目標】現代の学校教育に関する制度及び学校経営について基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。さらに、「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校と地域との連携に関する理解。また安全教育を含めた学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

授業の概要
　教育行政は公教育（公権力によって管理運営される教育）を支える重要な執行機関であり、広義には教育法規や教育裁判も含む。他方で、学校内部のマネジメントである学校経営も含まれる。さらには、学校の存立基盤である地域社会との連携も今日急速に進んでいる。またここでは近年の「防災」意識の高まりから「学校安全」についても扱う。

授業計画
第１回：公教育の原理及び理念
第２回：現代日本の教育法規と教育行政のしくみ
第３回：現代日本の教育制度と教育改革
第４回：学校経営①校務分掌と各部署の役割
第５回：　同上　②学級経営のしくみ
第６回：学校と地域の連携①学校と地域の関係
第７回：　　同上　　②社会に開かれた教育課程と開かれた学校づくり
第８回：学校安全への対応

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説　総則編
　教職員ハンドブック 第3次改訂版　東京都教職員研修センター（監修）　都政新報社

学生に対する評価：３回程度の小レポート（３０％）・定期試験（７０％）

授業科目名： **教育課程論**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：森田　司郎 担当形態：単独

科　目	教育の基礎的理解に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）

授業の到達目標及びテーマ

＜授業のテーマ＞これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、各学校が創意工夫をして魅力ある教育課程を編成することが必須である。この授業では、学習指導要領を基準として編成される教育課程の意義と役割、学習指導要領の変遷と社会的背景、各学校の実情に応じて教育課程を編成するための基本原理、具体的な授業における指導計画の作成に必要な視点、そしてカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの考え方について学修を行っていく。この授業は、教員として魅力的な教育課程を編成するために必要となる諸資質を育成することを主なねらいとする。

＜到達目標＞

(1)社会における学校教育と教育課程の意義と役割について理解する。

(2)学習指導要領の内容および改訂の変遷について、その社会的背景とともに理解する。

(3)各学校の実情に即して教育課程を編成する際の基本原理について理解する。

(4)開かれた教育課程を実現するためにカリキュラム・マネジメントが果たす役割と意義、そしてその方法について理解する。

授業の概要

授業は、主に講義形式で行われる。前半では主に教育課程に関する基本原理について、日本の学校教育制度と学習指導要領の内容について検討しながら理解していく。後半では実際の教育現場においてどのような手続きで教育課程が編成されているのか、教科・領域を横断した教育課程や教科外活動の教育課程の編成事例等を検討しながら理解していく。最後に、これからの学校教育に必須となるカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの意義と役割、そしてその実施に必要な視点について学んでいく。

授業計画

第１回：オリエンテーション：学校とは何を学ぶためのところか？　社会における学校教育と教育課程の意義と役割

第２回：日本の学校教育と教育課程：諸外国と比較して日本の学校教育にはどのような特徴があるのか？　教育制度・教育内容・教育方法・教員養成

第３回：教育課程の基本原理(1)：学校で教える内容(教育課程)はどのようにして決定されるのか？　カリキュラムと教育課程の概念整理

第４回：教育課程の基本原理(2)：教育課程はどのようにして編成され、実施されるのか？　法令、教科書・教材・学習環境

第５回：教育課程の基本原理(3)：学習指導要領とは何か？　学習指導要領の意義と役割、改訂の仕組み

第６回：教育課程の基本原理(4)：戦後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？　学習指導要領の変遷(戦後～1968年版の内容と社会的背景)

第７回：教育課程の基本原理(5)：高度経済成長期後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？　学習指導要領の変遷(1977年～1989年版の内容と社会的背景)

第８回：教育課程の基本原理(6)：近年の日本の学校ではどのような教育が行われてきたのか？　学習指導要領の変遷(1998年～2008年版の内容と社会的背景)

第９回：教育課程の基本原理(7)：今後の日本の学校ではどのような教育が行われていくのか？　新学習指導要領の内容と今後の改革の方向性

第10回：教育課程編成の基本原理(1)：学校での教育内容はどのようにして決められているのか？　各学校における教育課程編成の仕組みと方法、カリキュラム・マネジメントの意義と方法

第11回：教育課程編成の基本原理(2)：実際の授業の内容はどのようにして決められているのか？　各教科における教育課程編成の仕組みと方法、教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法

第12回：教育課程編成の基本原理(3)：教科外活動の内容はどのようにして決められているのか？　開かれた教育課程の意義と編成方法

第13回：カリキュラム評価とカリキュラム・マネジメント：子どもたちが身につけた資質・能力をどのように確認すればよいか？　カリキュラム評価の意義と方法、PDCAサイクルの実際

第14回：今後の教育課程の在り方：現代社会の課題に対応して生きる力を育成するためにはどのような教育課程が必要となるのか？　主体的・対話的で深い学びを実現する教育課程編成の事例、開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの事例

第15回：まとめ：授業全体の要点整理と理解の確認

定期試験：試験と全体のまとめ

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領』(2017)、『中学校学習指導要領』(2017)

*『高等学校学習指導要領』(2018) が発行された場合には、その内容についても適宜扱っていく。

参考書・参考資料等

必要になる参考書・資料等については、授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

・試験(70%)、課題等の提出物(20%)、授業への積極的参加と貢献(10%)

授業科目名： **国語科教育法Ⅰ**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：竹本　寛秋 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し，授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また，模擬授業により，実践的な授業の能力を身につける。

授業の概要

中学校学習指導要領を読み解き，現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で，授業を計画し，指導案を作成し，授業を実施する流れを修得する。そのために，指導案を作成し，模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業，および模擬授業の振り返りを行うことで，授業を客観的にとらえる能力を修得し，授業研究の意義を理解する。

授業計画

第１回：ガイダンス：中学校国語科の目標と内容
第２回：中学校学習指導要領について
第３回：「知識及び技能」に関する事項について
第４回：「思考力，判断力，表現力」に関する事項について
第５回：教材研究の方法（１）：教材研究の観点
第６回：教材研究の方法（２）：事例研究
第７回：学習指導案の作成（１）：教材観，生徒観，指導観
第８回：学習指導案の作成（２）：目標の設定，授業内容の設定，評価の観点
第９回：模擬授業の意義
第１０回：模擬授業（１）：文学的文章
第１１回：模擬授業（２）：説明的文章
第１２回：模擬授業（３）：古典
第１３回：模擬授業の振り返り：方法と実践
第１４回：教育実習について
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説　国語編』プリント。

参考書・参考資料等：授業中，適宜紹介する。

学生に対する評価：　学習指導案の作成（50%），模擬授業についてのレポート（50%）

授業科目名： **国語科教育法Ⅱ**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：竹本　寛秋 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　国語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し，授業の実施に必要な技能や方法を修得する。国語科教育を取り巻く現状について理解し、情報機器を活用した授業、様々な指導理論を踏まえた授業を行う能力を身につける。

国語科教育の現状、様々な指導理論・方法を理解し説明できる。多様な機器，方法を利用した授業を計画・実践できる。

授業の概要

国語教育の現状，様々な学習指導理論・方法について理解する。様々な指導理論を踏まえた指導を踏まえた学習指導計画を立て，実践する能力を身につける。情報機器やネットワーク，学習支援ソフトウェアなどを活用した学習指導計画を立て，実践する能力を身につける。国語科教育の課題と展望を理解し，新たな教育理論・実践を授業に取り入れる方法を理解する。

第1回：ガイダンス：国語科教育の現状
第2回：様々な学習指導理論と国語科教育の方法
第3回：アクティブラーニングによる国語科の授業（1）：読みの場の創造
第4回：アクティブラーニングによる国語科の授業（2）：対話の場の創造
第5回：ICTを利用した授業（1）：電子黒板，タブレット端末
第6回：ICTを利用した授業（2）：ネットワークの活用，学習支援ソフトウェアの活用
第7回：これからの国語科教育の展望と課題
第8回：まとめ
定期試験

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領』『中学校学習指導要領解説　国語編』，プリント。

参考書・参考資料等

授業中，適宜紹介する。

学生に対する評価

授業での課題（50%），期末レポート（50%）

授業科目名： **英語科教育法Ⅰ**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：土持　かおり 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校　英語)
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・英語教師に求められる英語科教育の基本となる知識を身につける。

・小学校及び中学校の学習指導要領に掲げられている外国語教育の目標と内容を理解する。

・4技能5領域の到達目標達成に必要な指導法を理解し、指導技術を身につける。

【テーマ]未来の英語教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深めるとともに、指導法に必要な実践力を身につける。

授業の概要

外国語（英語）教育の指針となる小学校及び中学校の学習指導要領を理解するとともに、3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の学習到達目標とそれを達成するための指導法及び言語活動について学び、実践的コミュニケーション能力を育成するめの指導技術を身につける。さらに、グループによるディスカッション（随時）を通し、主体的に英語科教育について考えていく。

授業計画

第1回：(1) 英語科教育の目的：英語教師を目指す者にとって習得すべきことは何かについて考える。
(2) 異文化理解：国際共通語としての英語の役割、英語の多様性について認識し、理解を深める。

第2回： 第二言語習得と学習者要因：第二言語習得理論を理解するとともに、言語適性、認知要因、情意要因、学習方略などの学習者要因と第二言語習得との関係について理解し、生徒の英語習得が効果的に行われるために必要な指導について学ぶ。

第3回：コミュニケーション能力：「コミュニケーション能力」(Communicative Competence)とは何か、どのような構成要素から成り立っているかについて学び、授業での養成について考える。

第4回： 外国語教授法：各教授法の歴史と理論的背景を概観し、それぞれの指導法の特徴及び活用法について学び、問題点について検討することで教室の現場にあったものを取捨選択できる知識と技能を身につける。さらに教師の実演による主な教授法の授業を生徒の立場で体験する。

第5回：学習指導要領：中学校学習指導要領について学ぶとともに、外国語（英語）及び領域別の到達目標と内容について「3つの資質・能力」の観点から理解する。さらに、旧・現・次期中学校学習指導要領を比較しながら改訂のポイントについて理解する。

第6回：小学校での英語教育：小学校の外国語活動及び教科としての外国語（2020年度より）の学習指導要領、授業活動及び教材例について理解するとともに小・中連携の英語教育の在り方について考える。

第7回：教科書の理解：中学校検定教科書の意義、種類、構成及び内容を理解するとともに、様々な情報が掲載されたページも含め教科書の活用方法について学ぶ。

第8回：「聞くこと」の指導：(1) 学習指導要領における「聞くこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) リスニングのプロセスを理解し、生徒に英語を聞く力を身につけさせるための指導法のバリエーションをしり、それぞれの特質について学ぶ。

第9回：「話すこと［やり取り・発表］」の指導：(1) 学習指導要領における、「話すこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) コミュニケーション能力の育成の観点から、生徒に英語で話すこと（やり取り・発表）の力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。

第１０回：「読むこと」の指導：(1) 学習指導要領における「読むこと」の「目標」及び「言語活動」を理解する。(2) 生徒に英語を読む力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。

第１１回：「書くこと」の指導及び文字の指導：(1) 学習指導要領における「書くこと」の「目標」及び「言語活動」を理解し、生徒に英語を書く力を身に付けさせるための指導法のバリエーションを知り、それぞれの特質について学ぶ。(2) 文字の指導について理解し、特に英語の音声と文字の結び付きを身につけさせるための指導法とその特質を学ぶ。

第１２回：文法の指導（1）：文法事項の導入法（2つのアプローチの仕方とオーラル・イントロダクション等）や定着のための練習活動、コミュニケーション場面を意識した言語活動を中心に文法の指導について学ぶ。さらにオーラル・イントロダクションによる導入、展開での言語活動についてビデオ映像視聴を通して理解するとともに指導技術を身につける。

第１３回：文法の指導（2）：文法事項の導入法（2つのアプローチの仕方とオーラル・イントロダクション等）や定着のための練習活動、コミュニケーション場面を意識した言語活動を中心に文法の指導について学ぶ。さらにオーラル・イントロダクションによる導入、展開での言語活動についてビデオ映像視聴を通して理解するとともに指導技術を身につける。

第１４回：音声の指導及び語彙・表現の指導：(1) 英語の音声的な特徴に関する指導について理解するとともに，プロソディーを身につけさせるための効果的な指導法を学ぶ。(2) 語彙・表現の指導において、「意味」の理解とともにその「使い方」を身に付けさせるための指導技術や導入・定着のための活動について学ぶ。

第１５回：模擬授業（2）：オーラル・イントロダクションによる導入を個人で作成・実演する。

テキスト

『新・グローバル時代の英語教育』(岡秀夫編著、成美堂)

『中学校学習指導要領解説　外国語編』（文部科学省、開隆堂）

『小学校学習指導要領解説　外国語編』（文部科学省、東洋館出版社）

参考書・参考資料等；『中学校学習指導要領』（文部科学省、東山出版）

学生に対する評価：毎回の振返りシート（40%）課題のレポート（30%）模擬授業レポート等（30%）

授業科目名： **英語科教育法Ⅱ**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：土持　かおり 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校　英語）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・英語教師に求められる実際の授業で応用できる知識・技能を身につける。

・教材研究、授業の組み立て方を理解し、学習指導案を作成できる力を養う。

・教育実習で実際に授業を行えるよう作成した指導案に基づき模擬授業を行う。

【テーマ】未来の英語教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深めるとともに、指導法に必要な実践力を身につける。

授業の概要

英語科教育の基本となる言語習得理論、生徒論、評価論、教材論(ICT機器を含む)について学び、実際の授業で応用できる知識を身につける。また、実際の授業をビデオ映像の視聴により体験し、具体的指導技術を身につける。さらに、教材研究の方法、授業の組み立て方、学習指導案の作成について学び、「コミュニケーション能力の育成」という視点で指導案を作成し、それに基づき模擬授業を行う。

授業計画

第１回：英語でのインタラクション：英語で授業を行う際に必要な、クラスルーム・イングリッシュ、ティーチャー・トーク、文法事項や題材のオーラル・イントロダクションなどについて学ぶとともに、生徒とのやりとりを設定し、実演により指導技術を身につける。

第２回：生徒論：主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育を充実するための個に応じた指導方法や指導体制の工夫を学ぶ。さらに、生徒の特性や多様性を知るとともに特性や習熟度の把握の仕方及びそれに応じた効果的な指導方法，実際の具体例について学ぶ。

第３回：評価：(1) 言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等）：言語テストの適切さの規準（妥当性、信頼性、実効可能性、波及効果）について理解し、パフォーマンス評価を含む主な言語テストの種類と目的について学ぶ。　(2) 観点別評価：観点別学習状況に基づく評価基準の設定、実際の評価、評定への総括について、その理念と方法について学ぶとともに、実際の授業での評価基準の設定例なども理解する。

第４回：教科書と教材研究：教科書を実際の授業で効果的に活用するための教材研究の方法と活用の仕方について、実際の教科書も使用しながら実践的に学ぶ。

第５回：教材研究及びICT機器等の活用：言語活動のための効果的な補助教材（ワークシート、フラッシュカード等）の作成・活用の仕方について学ぶ。さらに、PC、映像、デジタル教科書、電子黒板、タブレットなど授業で活用できる様々なICT機器の種類及びその効果的活用法を学ぶとともに、実際の授業で利用する際の留意点や課題についても考える。

第６回：学習到達目標と授業の組み立て：学習指導要領及び学習到達目標に基づく年間指導計画、単元計画について理解する。さらに各時間の指導計画及び授業の組立について理解し、実際の指導に生かすことができるよう授業での指導手順について学ぶ。

第７回：学習指導案：学習指導案の目的・基本的構成について理解するとともに、略案、細案の書き方について具体例を基に、それぞれの作成の仕方を学ぶ。さらに、実際の指導案を参考にしながら書式のバリエーションについて知る。

第８回：学習指導案と授業：学習指導案に基づき授業が実際どのように行われているかを、授業のビデオ映像の視聴を通し理解し、指導技術を身につける。

第９回：教育実習（1）：教育実習報告会

第１０回：教育実習（2）：教育実習の趣旨・内容・心構えについて理解する。さらに、ビデオ映像教材を視聴し、教育実習生の生徒との交流、教材研究及び実際の授業展開について考察する。

第１１回：領域統合型の言語活動の指導（1）：5領域の単独の指導法の理解のもと、複数領域を統合した言語活動の指導について学ぶ。また、複数の領域を組み合わせた効果的なコミュニケーション活動の作成について具体例を参考に学ぶ。

第１２回：領域統合型の言語活動の指導（2）：ALTとのティーム･ティーチング

第１３回：模擬授業（1）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する。

第１４回：模擬授業（2）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する。

第１５回：模擬授業（3）各自作成した指導案に基づき模擬授業を行う。さらに、ディスカッションでの問題提起、学生からの授業評価カードにおける評価・コメントを基に改善案を作成する

テキスト

『新・グローバル時代の英語教育』（岡秀夫編著、成美堂）

『中学校学習指導要領解説　外国語編』（文部科学省、開隆堂）

参考書・参考資料等：『中学校学習指導要領』（文部科学省、東山書房）

学生に対する評価

毎回の振返りシート（40%）、学習指導案（20%）、模擬授業（20%）、模擬授業レポート（20%）

授業科目名： **家庭科教育法Ⅰ**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：冨山　裕子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解し，授業計画及び学習指導案の作成ができる。・学家庭科教育の意義を理解でき，適切な教材研究に基づいた授業計画及び学習指導案の作成ができる。・立案した学習指導案の考察をとおして，具体的かつ適切な評価の考え方を理解できる。

【テーマ】 家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。

授業の概要

中学校における家庭科教育に求められていることを理解し，学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案を作成する能力の習得を目指す。

授業計画

第１回：第１回：家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力
第２回：家庭科教育への理解
第３回：家庭科教育のあゆみと今日的課題
第４回：教科教育としての家庭科教育の理念と特徴
第５回：家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題
第６回：小・中・高等学校の指導目標と内容1
第７回：小・中・高等学校の指導目標と内容2
第８回：家庭科教育の学習指導
第９回：家庭科教育の学習指導計画
第１０回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標と内容
第１１回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導及び目標と評価
第１２回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の年間指導計画と学習指導案
第１３回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と教材研究
第１４回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案（本時案）の作成（第一次）
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版

参考書・参考資料等

文部科学省「中学校学習指導要領　技術・家庭編」
文部科学省「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」

学生に対する評価

筆記試験（８０％）と提出物（学習指導案２０％）で評価する。

授業科目名： **家庭科教育法Ⅱ**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：冨山　裕子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】　・「家庭科教育法Ⅰ」で立案した学習指導案の検証をとおして，学習指導要領への理解を深める。・立案した学習指導案によった教材研究の実践と考察をとおして，様々な方法を習得する。・立案した学習指導案によった模擬授業の実践と考察をとおして，適切な評価の考え方を理解できる。

【テーマ】　「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた演習等をとおし，家庭科教育に携わる教育実践力を確実なものにすることで，家庭科教師として求められる望ましい資質・能力を身に付ける。

授業の概要

「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえ，情報機器等を利用した効果的な指導法の模索を試みる等の教材研究演習や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。

授業計画

第１回：学習指導案の読み合わせ及び改訂学習指導要領との関連の確認
第２回：学習指導案による授業展開の実際について１　（板書計画，提供資料，学習形態等）
第３回：学習指導案による授業展開の実際について２（教材研究の方法）
第４回：学習指導案による授業展開の実際について３（実物提示及び視聴覚教材の種類と活用法）（鹿児島県総合教育センター提供の指導資料（教材研究，実践事例等）の収集の活用）
第５回：学習指導案による授業展開の実際について４（パワーポイント等情報活用教材作成の実際）
第６回：模擬授業1（指導案と実際の授業展開の検証）
第７回：模擬授業2（目標達成度の確認と評価方法）
第８回：まとめ
定期試験

テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版

参考書・参考資料等：文部科学省「中学校学習指導要領　技術・家庭編」
文部科学省「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」

学生に対する評価：筆記試験（７０％）と提出物（学習指導案等３０％）で評価する。

授業科目名： **道徳教育指導論**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　康明 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法

授業の到達目標及びテーマ：
【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科　道徳」の目標に関する理解。「特別の教科　道徳」の特性を踏まえた授業過程の理解（指導案の作成、学習評価規準の設定を含む）の理解。
【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。実際の授業過程の理解と模擬授業の実施とピア評価の実施。

授業の概要
　道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらを授業実践の場に応用できるように、知識・技術の習得に努める。

授業計画
第１回：人間存在と道徳（道徳とは何か）
第２回：各学校段階の道徳教育の目標と内容
第３回：中学校における道徳教育の指導計画
第４回：「特別の教科　道徳」の指導法①教科の特質の理解
第５回：　　同上　　②授業設計における留意事項
第６回：　　同上　　③指導案の作成
第７回：模擬授業とピア評価①第１班
第８回：模擬授業とピア評価②第２班

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳」編
思考力を育む道徳教育の理論と実践 － コールバーグからハーバーマスへ　浅沼茂著　黎明書房

学生に対する評価：模擬授業の評価（３０%）・定期試験（７０%）

授業科目名： **道徳教育の指導法**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　康明 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容

授業の到達目標及びテーマ：
【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科　道徳」の目標に関する理解。
【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。

授業の概要
　道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらについての理解を深める。

授業計画
第１回：人間存在と道徳（道徳とは何か）
第２回：道徳教育の歴史①戦前の修身科
第３回：　　同上　　①戦後の道徳教育
第４回：小学校と中学校の道徳教育の特質
第５回：幼稚園と高等学校における道徳教育の特質
第６回：小学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標
第７回：中学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標
第８回：まとめ

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：幼稚園教育要領／小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／高等学校学習指導要領
思考力を育む道徳教育の理論と実践 － コールバーグからハーバーマスへ　浅沼茂著　黎明書房

学生に対する評価：小レポート（３０%）・定期試験（７０%）

授業科目名： **総合的な学習の時間の指導法**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：松﨑　康弘 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法

授業の到達目標及びテーマ

総合的な学習の時間において、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

授業の概要

前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は指導計画の作成・討論・振り返りをとおして、総合的な学習の時間の単元を構成する力を高める。

授業計画

第1回：総合的な学習の時間の目標と意義～カリキュラム・マネジメントを踏まえ～
第2回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（1）（横断的・総合的な課題）
第３回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（２）（地域や学校の特色に応じた課題）
第4回：総合的な学習の時間の授業方法～体験活動やICT活用を事例に～
第5回：総合的な学習の時間における評価～探究的な学習の過程を踏まえ～
第6回：総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の事例
第7回：総合的な学習の時間の単元計画の作成
第8回：単元計画の発表と討論～総合的な学習の時間の在り方を考える～
定期試験

テキスト

中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編 平成２９年告示　文部科学省著　東山書房
小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（平成２９年６月　文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

レポート試験（８０％）、単元計画の発表内容（２０％）

授業科目名： **特別活動指導論**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　康明 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別活動の指導法

授業の到達目標及びテーマ：
【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。
【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。

授業の概要
　特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し
　「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画
第１回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等
第２回：　同上　②学校教育全体における位置づけ
第３回：　同上　③学級とその活動
第４回：　同上　④自治的諸活動の意義
第５回：　同上　⑤学校行事と地域社会
第６回：特別活動の指導計画①年間計画と地域の関係
第７回：　同上　②学活の指導案
第８回：まとめ

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別活動」編／学級・学校文化を創る特別活動　中学校編　文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著　東京書籍

学生に対する評価：指導案の作成（３０%）・定期試験（７０%）

授業科目名： **特別活動論**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　康明 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容

授業の到達目標及びテーマ：
【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、食育の指導に関する指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。
【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。

授業の概要
　特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し
　「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。

授業計画
第１回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等
第２回：　同上　②学校教育全体における位置づけ
第３回：　同上　③学級とその活動
第４回：　同上　④自治的諸活動の意義
第５回：　同上　⑤学校行事と地域社会
第６回：特別活動と食に関する指導①食に関する指導と学級活動
第７回：　同上　②給食の時間の活用
第８回：まとめ

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／小学校学習指導要領解説「特別活動」編／文科省HP「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育（平成29年3月）」

学生に対する評価：小レポート（３０%）・定期試験（７０%）

授業科目名： **教育方法学概論**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：元井　一郎 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談 等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

　これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。そのため、教育方法史、授業論、教育の技術、学力と教育評価をテーマとする。

授業の概要

　教育方法史（ソクラテス・コメニウスとペスタロッチの教授法の特質）、授業論（授業の構造と意義；学習指導案の意義と作成手順　ほか）、教育の技術（教育技術の特質；集団づくり）、学力と教育評価（学力、相対評価と絶対評価ほか）、情報機器の活用（効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用）に関する基礎的な能力を身に付ける。

授業計画

第1回　教育の方法・技術とは何か
第2回　教育方法の理論と歴史
第3回　カリキュラムと教育方法の関連（児童中心カリキュラム・学問中心プログラム）
第4回　学習指導の方法（学習指導の構造；学習指導の目標・内容・指導過程　ほか）
第5回　授業論（授業の構造と意義／教材論/学習指導案の意義と作成手順、教師の役割と指導技術）
第6回　教育メディアとその活用（授業改造と情報機器／ＩＣＴの活用）
第7回　アクティブ・ラーニングの理解（教授組織と学習組織／活動と表現）
第8回　教育評価（評価の諸相）

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説　総則編
教育の方法と技術　（改訂版）柴田 義松編著　学文社

学生に対する評価：３回程度の小レポート（３０％）・定期試験（７０％）

授業科目名： **生徒指導論**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：田中　真理 担当形態：単独

科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・学校教育における生徒指導の意義と原理について理解できる。

・児童生徒理解の必要性とその方法について理解できる。

・児童生徒への全体的な指導方法と個別の課題を抱える児童生徒への指導のあり方について理解できる。

【テーマ】

学校教育における生徒指導の意義と原理と児童生徒理解のための理論と知識を習得するとともに，組織的な生徒指導を進めるための基礎知識と指導のあり方について学ぶ。

授業の概要

生徒指導は，学習指導とならぶ，学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では，生徒指導の意義と原理，児童生徒理解，全体への指導，個別の指導といった観点から，生徒指導を進めるする上で求められる生徒指導に関する基礎知識や技能，児童生徒の不適応等に関する問題といった課題解決的な生徒指導について学ぶ。また各テーマに沿った実際の実践例や事例などについてディスカッションしながら，具体的・実践的な生徒指導・教育支援のあり方についても考える。

授業計画

第１回：生徒指導の定義，教育課程における位置付け
第２回：意義と原理①　教科指導や道徳教育，総合的な学習，特別活動などの教育活動における生徒指導の意義と重要性
第３回：意義と原理②　集団指導と個別指導に関する方法原理方法原理と生徒指導体制
第４回：児童生徒理解①　児童生徒理解のための児童期から青年期の心理的特徴
第５回：児童生徒理解②　アセスメントの方法論と資料収集の方法
第６回：児童生徒理解③　教師との関係やリーダーシップ，教師期待効果
第７回：全体への指導①　生徒指導の組織的取組と教師の役割
第８回：全体への指導②　基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成など日常的な生徒指導のあり方
第９回：全体への指導③　自己存在感の育成のための活動や取り組み（集団の人間関係作り）
第１０回：全体への指導④　構成的グループエンカウンターの理論と実際
第１１回：個別の指導①　不登校に関する基礎知識と対応
第１２回：個別の指導②　いじめに関する基礎知識と対応
第１３回：個別の指導③　生徒指導に関する法制度と非行に関する基礎知識と対応
第１４回：個別の指導④　インターネットや虐待等の今日的な生徒指導上の課題と関係機関との連携
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010年

参考書・参考資料等

安達未来・森田健宏　編著『生徒指導，進路指導（よくわかる教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房，2020年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋小テスト（20%）+リアクションペーパー（10%）

授業科目名： **進路指導論**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：田口　康明 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
施行規則に定める科目区分又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業の到達目標及びテーマ：

【到達目標】進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。

【テーマ】中学校生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程が進路指導であり、さらそれを包含し、,学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育むことを目的とする教育活動をキャリア教育とよぶ。本講義ではその内容について扱う。

授業の概要

　進路指導・キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じた活動であるので、まず教育課程上の位置づけについて理解する。その際、とりわけ特別活動や道徳、総合的な活動の時間との関連について理解する。また職場体験活動について理解を深め、その意義を理解する。そのために必要なカウンセリングのあり方について理解する。

授業計画

第１回＜イントロダクション＞ 授業計画と基本概念の理解
第２回＜進路指導からキャリア教育＞　キャリア教育の成立過程の概説
第３回＜日本における職業指導と進路指導＞ 戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史
第４回＜進路指導改革としてのキャリア教育＞1990年代前半の進路指導改革の動き
第５回＜学校におけるキャリア教育①＞職場体験・インターンシップなど特別活動との関連
第６回＜学校におけるキャリア教育②＞各教科・道徳教育・総合的な学習の時間との関連
第７回＜学校におけるキャリア教育③＞教育行政・学校経営との関連
第８回＜まとめ＞

テキスト：　特に定めない。資料を配付する。

参考書・参考資料等：

古橋和夫編『改訂教職入門』萌文書林／中学校学習指導要領／中学校キャリア教育の手引き（2011）文部科学省

学生に対する評価：小レポート（３０%）・定期試験（７０%）

授業科目名： **教育相談**	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：田中　真理 担当形態：単独

科　目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法

授業の到達目標及びテーマ

【到達目標】

・教育相談を実践するうえで必要となる知識を習得する。

・生徒の問題に応じた援助のあり方を実践的に理解する。

【テーマ】教育相談に関する知識や技術について実践的に学ぶ。

授業の概要

学校現場での教育相談とは，児童生徒それぞれの発達に即して好ましい人間関係を育て，生活によく適応させ，自己理解を深めさせ，人格の成長への援助を図る教育実践である。教育相談を進めるには，児童生徒の発達状況や個別的な課題を理解した上で，個々に応じた支援が求められる。本講義では，教育相談の意義と発達臨床心理学的な理論の理解，カウンセリングマインドを基礎とする実際的な教育相談の進め方や取り組みについて学ぶ。さらに事例を通じた学習による実践的な支援のあり方について考える。

授業計画

第１回：オリエンテーション，教育相談と生徒指導との関連性
第２回：意義と理論①　教育相談の意義と教育相談体制
第３回：意義と理論②　教育相談とカウンセリングとの関係
第４回：方法①　児童生徒の「問題」理解とその背景要因
第５回：方法②　児童生徒からのサインの理解とアセスメントの視点と方法論
第６回：方法③　教師に求められるカウンセリングマインドの必要性
第７回：方法④　カウンセリング技法
第８回：方法⑤　ロールプレイによる実習
第９回：展開①　児童生徒や保護者に対する教育相談の進め方
第１０回：展開②　開発的・予防的教育相談の方法
第１１回：展開③　不登校への理解と対応
第１２回：展開④　いじめへの理解と対応
第１３回：展開⑤　非行や虐待等への理解と対応
第１４回：展開⑥　教育相談での課題に応じた関係機関との連携
第１５回：まとめ
定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010年

参考書・参考資料等

①河村茂雄編著　『教育相談の理論と実際』　図書文化社　2012年
②大前玲子編著　『体験型ワークで学ぶ教育相談』　大阪大学出版会　2015年
③佐々木雄二，笠井仁編著　『図で解する生徒指導・教育相談』 福村出版　2010年
④一丸藤太郎・菅野信夫　『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋レポート課題（20%）+リアクションペーパー（10%）

授業科目	**教職実践演習（中）**	担当者	田口康明，田中真理，竹本寛秋，土持かおり，坂上ちえ子
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕2年　〔学期〕後期 〔単位〕2　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習		
テーマ及び概要	【テーマ】: 教職課程の授業科目の履修や，介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を，教師になるために必要な資質能力として，有機的に統合し定着させる。 【到達目標】: ①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち，常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり，他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて，抱える課題を理解し，規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており，子どもの状況に応じて，授業計画や学習形態等を工夫することができる。 【概要】: 短大の 2 年間で学んだ教職に関する知識と，教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際，教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するともに，社会性や対人関係能力，幼児児童生徒理解や学級経営力，教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し，教員として必要な資質能力を保持できるように，知識や技能等を補い，その定着を図る。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回 : [ガイダンス]プログラムの説明，資料の配布，課題の提示，各授業の到達目標の提示，学習計画の提示・説明，履修カルテの活用の説明を行う。 第2回 : [イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り，グループ討論，履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回 : [ロールプレイ(1)] 第4回 : [ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第5回 : [グループ討論（1）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導，特別支援教育の基本理念について，グループ討論を行う。 第6回 : [教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている，子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。 第7回 : [振り返り]講演についてのグループ討論，これまでの学修に関する小レポートの作成，履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回 : [グループ討論（2）]居場所づくりを意識した生徒理解，多様化に応じた学級づくりについて，グループ討論を行う。 第9回 : [学校見学]（11月中旬を予定。ただし，この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。）教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。 第10回 : [グループ討論（3）]学校見学についての省察 第11回 : [模擬授業（1）] 教科に関する科目担当教員による指導の下，教科に関する実践的な指導力を身につける（例 : 文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第12回 : [模擬授業（2）] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける（例 : 文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第13回 : [模擬授業（3）] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける（例 : 文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する）。 第14回 : [人権学習] 「人権教育」に関する講演会（県人権同和対策課派遣講師） 第15回 : [レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート，ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	**教職実践演習（栄養教諭）**	担当者	町田　和恵・中西　智美・田口　康明・田中　真理
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕2年　〔学期〕後期 〔単位〕2　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕演習		
テーマ及び概要	【テーマ】: 教職課程の授業科目の履修や，栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を，栄養教諭となるために必要な資質能力として，有機的に統合し定着させる。 【到達目標】: ①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち，常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり，他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて，抱える課題を理解し，学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて，児童生徒の状況に応じて，学習活動，体験活動等を工夫することができる。 【概要】　教員として必要な資質能力を保持できるように，知識や技能等を補い，その定着を図る。すべての回について，教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし，第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』，文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） (2)適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明，資料の配布，課題の提示，各授業の到達目標の提示，学習計画の提示・説明。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り，グループ討論，履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に，日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第5回：[グループ討論（1）]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導，特別支援教育の基本理念について，グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演]　教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎，生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし，時期は未定。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論，これまでの学修に関する小レポートの作成，履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論（2）]居場所づくりを意識した生徒理解，多様化に応じた学級づくりについて，グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論（3）]学校見学についての省察を行う。 第11回：[模擬授業（1）]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。 第12回：[模擬授業（2）] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。 第13回：[模擬授業（3）]　道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。 第14回：[人権学習]　「人権教育」に関する講演会（県人権同和対策課派遣講師） 第15回：[レポートの作成と発表]　テーマ「これからの栄養教諭に求められること」		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート，ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	**教育実習（事前・事後指導を含む。）**	担当者	田口　康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕２年　〔学期〕前期 〔単位〕5　〔必修／選択〕必修　〔授業形態〕実習・講義		
テーマ及び概要	【テーマ】中学校における教育実習 【概要】教育実習は，教員免許状を取得するための必修科目であり，単なる体験ではなく，大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用，実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は，「目の前」に生徒のいない学習であったが，実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や，先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい，という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ，教育への愛着，生徒たちとの相互理解があってこそ，はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では，教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し，実習に臨み，実習後は，実習体験から得られた多くの事柄を定着させ，社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。 【到達目標】事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し，実際に教育実習を行い，事後においては，実習において習得した知識技能を定着させる。		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)　視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし，適宜講義を加える。 第１回　教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性 第２回　教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。 第３回　模擬授業（１） 第４回　模擬授業（２） 第５回　模擬授業（３） 第６回　教育実習に関わる実務について 第７回　教育実習の反省と総括，採用試験に向けて 教育実習：中学校という教育現場の協力を得て３週間の実習活動を行う。		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	実習先の評価，実習日誌，事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上，遅刻，欠席は原則として一切認めない。		

授業科目	**栄養教育実習**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　２年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期集中　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修（注）　〔授業形態〕　実習		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。 【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく，指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために，栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として，実習の事前事後の指導を行う。 【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能，及び実習後の反省と総括，今後に向けての展望を持つことをねらいとする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント冊子『栄養教育実習ノート』 (2)　文部科学省：小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成28年２月）		
授業スケジュール	各施設により異なる １．　指導教諭等からの説明 ・学校経営 ・校務分掌の理解 ・服務　等 ２．　児童及び生徒への個別的相談，指導の実習 ・指導，相談の場の参観，補助　等 ３．　児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 ・学級活動及び給食の時間における指導の参観，補助 ・教科等における教科担任等と連携した指導の参観，補助 ・給食放送指導，配膳指導，後片付け指導の参観，補助 ・児童生徒会，委員会活動，クラブ活動における指導の参観，補助 ・指導計画案，指導案の立案作成，教材研究　等 ４．　食に関する指導の連携・調整の実習 ・校内における連携・調整（学級担任，研究授業の企画立案，校内研修等）の参観，補助 ・家庭・地域との連携・調整の参観，補助　等 ５．　学校給食の管理を一体的に担う方法		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	実習先評価（70%）＋実習ノート・実習への取り組み態度（30%）により評価する。		

（注）前期集中

授業科目	**栄養教育実習の事前事後の指導**	担当者	町田　和恵
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　前期　〔単位〕　1　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。 【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を単なる知識として終わらせるのではなく，指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために，栄養教育実習の教育効果を高め実践的指導力の充実がはかることを目的として，実習の事前事後の指導を行う。 【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能，及び実習後の反省と総括，今後に向けての展望を持つことをねらいとする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント冊子『栄養教育実習ノート』 (2)　文部科学省：小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」（平成28年2月）		
授業スケジュール	第　1回　栄養教育実習のオリエンテーション　意義や目的，心構えなど 第　2回　実習の評価の方法，実習後の提出物（実習ノート，学習指導案など），実習中の短大との連絡方法などの指導 第　3回　指導計画案，指導案の立案作成，教材研究 第　4回　模擬授業の実施（1） 第　5回　模擬授業の実施（2） 第　6回　栄養教育実習の報告・発表（1）　栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第　7回　栄養教育実習の報告・発表（2）　栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化 第　8回　相互評価，実習の反省，問題点の整理，今後の課題		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	発表・提出物（80%）＋取り組み態度（20%）により評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。		

※ 7.5回

２０　司書教諭に関する科目

授業科目	学校経営と学校図書館	担当者	岩下　雅子
	〔履修年次〕　1年	授業外対応	メールによる
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】従来の学校図書館から、さらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する 【概要】学校図書館はいつ頃、どのような歴史を経て現在の学校図書館へと移り変わってきたのだろう。現在の学校図書館が公共図書館、公共施設、地域と積極的に相互協力・連携するようになったのはなぜだろう。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します。 【到達目標】学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)		
授業スケジュール	第 1回　学校図書館の理念と教育的意義について学ぶ 第 2回　学校図書館法（学校図書館法と読書に関する法律について知識を深める） 第 3回　世界・日本の学校図書館史（ルソー、マン、デューイ、沢柳政太郎と図書館、読書の関わりについて学ぶ） 第 4回　鹿児島県の読書運動（「母と子の20分間運動」と椋鳩十について学ぶ） 第 5回　学校経営の中の学校図書館（校務分掌及び司書教諭、学校司書、教職員との連携、共通理解について学ぶ） 第 6回　学校経営の中の学校図書館（学校組織における学校図書館、館長としての校長、学校内外の協力体制づくり） 第 7回　学校図書館の運営①小学校の事例を中心に学ぶ 第 8回　学校図書館の運営②中学校の事例を中心に学ぶ 第 9回　学校図書館の運営③高等学校の事例を中心に学ぶ 第10回　読書感想文の取組みについてグループで考察する 第11回　読書感想画についてグループで考察する 第12回　特別支援教育と学校図書館についてグループ学習を通して理解する 第13回　学校図書館広報活動（広報活動、読書手法等について学ぶ） 第14回　映画「やさしい本泥棒」を通して読書が人間に果たす役割・意義について学ぶ（1） 第15回　映画「やさしい本泥棒」を通して読書人間にもたらす役割・意義について学ぶ（2）		
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること		
成績評価の方法	筆記試験（６０%）授業ごとに実施するレポート（３０%）発表（１０%）		
実務経験について	高等学校及び短期大学図書館司書（専門員)として37年間勤務		

授業科目	学習指導と学校図書館	担当者	岩下　雅子
	〔履修年次〕　1・2年	授業外対応	メールによる
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】学校図書館法(この法律の目的)第二条の「授業の展開に寄与する」とはどういうことだろう。学校図書館を担う司書教諭と学校司書が協働しながら支援する学校図書館の授業支援についてグループ討議を通して学びを深める。 【概要】常にアクティブラーニングを理解しながら授業を進める。多くの学校図書館が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に、学校図書館と授業（教科指導）にとどまらず「読書センター」「学習センター」「情報センター」の大きな流れの中の学校図書館を理解する。司書教諭としての職責や職務内容についての理解を深めるとともに学校図書館と全教科の授業支援の具体的な事例(全国)を参考に、学校司書との協働についてもグループ等で討議する。 【到達目標】 学習指導（授業支援）と学校図書館をうまくコーディネイトするために、司書教諭が果たす役割を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　プリント (2)　林容子『「総合的な学習」に司書教諭はどう関わるか』全国ＳＬＡ　2005年 三上久代『学校図書館における新聞の活用』全国ＳＬＡ2006年 稲井達也『資質・能力を育てる学校図書館活用デザイン』学事出版　2017年		
授業スケジュール	第 1回　学校図書館利用指導（学校図書館オリエンテーションについてグループで討議する） 第 2回　小学校の図書館教育①（国語の教科書では図書館利用、読書指導がどのように体系化されているか考察する） 第 3回　小学校の図書館教育②（学習指導要領を踏まえて図書館利用とメディア活用についてグループで討議する） 第 4回　中学校の図書館教育①（国語の教科書では図書館利用、読書指導がどのように体系化されているか考察する） 第 5回　中学校の図書館教育②（学習指導要領を踏まえて図書館利用とメディア活用についてグループで討議する） 第 6回　高校の図書館教育①（図書館の授業支援事例を参考に、読書手法を用いた授業支援について考察する） 第 7回　レファレンス等の情報サービスについてグループで事例研究し発表することでスキルを培う） 第 8回　教科学習に活用する学校図書館①（グループで教科に関連したブックトークを構築する） 第 9回　教科学習に活用する学校図書館②（グループで構築したブックトークを発表する） 第10回　教科学習に活用する学校図書館③（ブックトークで取り上げた図書を参考にパスファインダーを作成する） 第11回　教科学習に活用する学校図書館④（パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる(1) 第12回　教科学習に活用する学校図書館⑤（パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる(2)。 第13回　教科学習に活用する学校図書館⑥（新聞を活用した授業（NIE）をグループで構築する） 第14回　教科学習に活用する学校図書館⑦（新聞を活用した授業（NIE）のグループ発表を通して、学びを深める） 第15回　授業の連携を通してこれからの司書教諭の役割・課題・展望についてグループで討議する。		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示、事前に配付された資料は読んでくること		
成績評価の方法	筆記試験（６０%）授業ごとに実施するレポート（３０%）発表（１０%）		
実務経験について	高等学校及び短期大学図書館司書（専門員)として37年間勤務		

授業科目	**読書と豊かな人間性**	担当者	木戸　裕子
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　選択（注）　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。 【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。 【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトークなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　立田　慶裕編著『読書教育の方法―学校図書館の活用に向けて―』学文社 (2)　「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる 25 の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニマシオン」全国学校図書館協議会、		
授業スケジュール	第 1回　読書教育とは何か：発達に応じた読書 第 2回　読書教育の担い手：学校図書館を支える人々 第 3回　学校図書館の歴史：制度としての学校図書館 第 4回　読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携 第 5回　読書教育の方法１：就学前・学校全体 第 6回　読書教育の方法２：教科と読書教育 第 7回　小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ 第 8回　中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的天球の融合 第 9回　公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション 第10回　発達を支える読書：特別支援教育との関係 第11回　読書活動１：読書案内、ブックトーク、ブックリスト 第12回　読書活動２：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング 第13回　読書活動３：パネルシアター、紙芝居 第14回　実演１：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど 第15回　実演２：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど		
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。		
成績評価の方法	課題提出（50%）と、授業第14回、15回での実演（50%）		

授業科目	**情報メディアの活用**	担当者	竹本　寛秋
	〔履修年次〕　2年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	〔学期〕　後期　〔単位〕　2　〔必修／選択〕　必修　〔授業形態〕　講義		
テーマ及び概要	【テーマ】 高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。 【概要】 テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。 【到達目標】 現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。 学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1)　山本順一 監修『情報メディアの活用 第二版』学文社、適宜プリントを配布する。 (2)　なし		
授業スケジュール	第 1回　高度情報化社会と人間　：情報化社会と司書教諭の役割 第 2回　情報メディアの歴史的変遷 第 3回　学校教育と情報メディア 第 4回　情報メディアの種類と特性 第 5回　情報メディアの選択　：状況に応じた選択の必要と留意点 第 6回　視聴覚メディアの活用 第 7回　情報メディアの活用１：コンピュータの活用と運用 第 8回　教育メディアの活用２：教育用ソフトウェアの活用 第 9回　情報メディアの活用３：データベースと情報検索 第10回　情報メディアの活用４：インターネットと情報検索 第11回　情報メディアの活用５：インターネットによる情報発信 第12回　情報セキュリティ 第13回　ネットワーク環境と学校教育 第14回　学校図書館メディアと著作権 第15回　まとめ：情報メディア活用の課題と将来		
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読，授業で課す課題の調査など。		
成績評価の方法	授業での課題（30%）、期末試験（70%）		